

▶ 平成 23 年度 ◀

# カリキュラム作成資料

## わくわく 算数

1 ~ 6 年

### Contents

はじめに	
小学校学習指導要領「算数科」改訂のポイント	1
「わくわく 算数」の編集基本方針と構成	2
平成 23 年度版「わくわく 算数」年間指導計画案	4
单元別学習内容一覧	
1 年	16
2 年	28
3 年	43
4 年	56
5 年	70
6 年	84
評価の観点と評価規準	
1 年	98
2 年	105
3 年	120
4 年	134
5 年	150
6 年	164
新学習指導要領における算数・数学内容系統一覧表	176

<http://www.shinko-keirin.co.jp/>

●このカリキュラム作成資料のデータは啓林館ホームページからダウンロードしてご利用いただけます。

理数教育の未来へ  
**啓林館**

## はじめに

この度は、小社発行の小学校算数教科書「わくわく 算数」をご採択いただき、ありがとうございます。

平成 18 年の教育基本法改正、平成 19 年の学校教育法の一部改正を経て、平成 20 年に新学習指導要領が告示されました。新学習指導要領には多くの指導内容が追加され、およそ 40 年ぶりに復活した内容も含まれています。また、言語力の育成・活用の観点から、単に答えを求めるのではなく、立式の根拠や問題解決の過程等に目を向けることが大切となります。

さらに、今回の教科書改訂にあたっては、教科書の改善・充実の視点から、「教科書に記述されている内容はすべて教えるものである」という従来の教科書観から、「個々の児童の理解の程度に応じた指導の充実に役立つ」「児童の学ぶ意欲の向上に役立つ」「児童が自学自習するのに役立つ」という新しい教科書観への転換が求められており、今後は教科書の使い方も変わっていくものと思われます。

それらを受けて、平成 23 年度版「わくわく 算数」では、新しい教科書観も踏まえながら、教科書に掲載する教材の充実を図り、児童が個に応じて効果的に学習が進められる等、多様な使いができるように工夫いたしました。

本冊子は、先生方が平成 23 年度以降の年間指導計画を立案される際の参考資料として作成いたしました。本冊子をご活用いただき、先生方の日々の授業の一助となれば幸いです。

株式会社新興出版社啓林館 編集部

# 小学校学習指導要領「算数科」改訂のポイント

文部科学省より

- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着のため、発達や学年の段階に応じた反復(スパイラル)による指導を充実(複数学年にわたり指導内容を一部重複させる等)。
- ・国際的な通用性、内容の系統性の確保や小・中学校の学習の円滑な接続等の観点から必要な指導内容を充実(図形(合同、対称等)や数量関係(文字式等)に関する指導の充実等)。
- ・知識・技能を活用する力を育成し、学ぶことの意義や有用性を実感できるよう、数量や図形についての知識・技能を実際の場面で活用する活動等の「算数的活動」を指導内容として学習指導要領に規定。

## (1) 学習内容の改善・充実

### ① 内容構成の見直し等

- ◎ 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域に加え、新たに〔算数的活動〕を指導内容として規定。
- ◎ 複数学年にわたり指導内容を一部重複させる等により、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着(例:第1学年で簡単な2位数の加減を導入的に扱い、第2学年で2位数の加減を本格的に指導。第4学年で整数の計算の定着と活用を指導)。

### ② 第1学年及び第2学年

- ◎ (1年) 絵や図を用いた数量の表現、量の大きさ(面積、体積等)の比較【H元年】等
- ◎ (2年) 簡単な2位数の乗法(1位数×2位数)、簡単な分数(1/2等)【S43年】等

### ③ 第3学年及び第4学年

- ◎ (3年) 3位数×2位数の乗法【H元年】、小数や分数の意味と表し方及び加・減【H元年】等
- ◎ (4年) 整数の計算の定着と活用、同分母分数の加・減【H元年】等

### ④ 第5学年及び第6学年

- ◎ (5年) 素数、台形の面積【H元年】、異分母分数の加・減【H元年】、図形の合同【H元年】等
- ◎ (6年) 小数や分数の計算の定着と活用、角柱や円柱の体積【H元年】、拡大図と縮図【H元年】、対称な図形(線対称、点対称)【H元年】、反比例【H元年】、文字を用いた式【H元年】等

## (2) 言語力の育成・活用の重視

- ◎ 新設の〔算数的活動〕において、「言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動」「目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動」等を規定。

### 【参考】年間標準授業時数

( ) 内は週当たりのコマ数

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
旧課程	114(3.4)	155(4.4)	150(4.3)	150(4.3)	150(4.3)	150(4.3)
新課程	136(4)	175(5)	175(5)	175(5)	175(5)	175(5)

※平成21・22年度の移行期間より先行実施されています。

# 「わくわく 算数」の編集基本方針と構成

## ■編集の基本方針

- 1 児童の主体的な活動を促す
- 2 基礎・基本が確実に身につく
- 3 学んだことを活用し、探究できる

## ■教科書の特徴

- ・教科書は前半の「本編」と後半の「算数のまど」の二部で構成しています。  
→「本編」では必修内容、「算数のまど」では児童が自ら取り組むことができる選択内容を取り上げています。  
→「本編」と「算数のまど」をリンクさせ、「算数のまど」をどの段階で扱うのかを明確に示しています。
- ・上巻の巻頭には「算数のとびら」を設けています。  
→「教科書の使い方」では、単元導入から単元の確かめまでの学習の流れと問題番号等の記号の意味を提示しており、教科書での学習活動が見えます。  
→「学習の進め方」では、1時間の学習の進め方を提示し、これを指標として、学習内容に応じて創意工夫をした学習を進めることができます。
- ・既習事項を活用する問題には「学びをいかそう」のマークをつけています。特に活用を意識したページは緑色を基調とし、通常のページの青色との見分けがつくようにしています。  
→学習したことを活用して、新たな問題に取り組んだり、身近な問題を解決することを通して、確実な理解が図れるようにしています。
- ・積極的に算数的活動を取り入れ、子どもたちが他者と関わりながら主体的に取り組めるようにしています。  
→自分の考え方や思考過程を他者に説明する活動を多く取り入れ、表現力を高めることはもちろん、他者と考えを共有したりしながらともに学び合う態度の育成を期待しています。  
→言葉、数、式、図、表、グラフ等を適切に用いて自分の考え方を説明したり、互いに考え方を伝えあったりする活動を通して、言語活動の充実を図れるようにしています。

## ■教科書での記号の意味と使い方

## 基礎・基本 (スパイラル) くりかえし確実に習得します

## 本文ページ

学習の展開が見渡せるように、1時間の指導内容を1ページ、または、2ページに表しました。□(一斉問題)→△(個々が取り組む問題)→○(練習問題)のステップを踏むことにより、子どもたちの理解をより確かなものにしています。

2年上  
P.89

## □ の問題

本時のテーマとなる問題です。自力で取り組んだ後、みんなで一緒に考えます。

4 65+78を ひっ算で して みましょう。

$$\begin{array}{r}
 & 6 & 5 \\
 + & 7 & 8 \\
 \hline
 \end{array}$$

一のくらいにも  
十のくらいにも  
くり上がりがあるな。



## △の問題

□の問題を少し発展させた問題です。自力で挑戦し、□の問題で習得した考えを拡張します。

## ○の問題

本時の学習の練習問題です。同類の問題をいくつか解くことで理解の定着を図ります。

□ と同型  
△ と同型

## 算数のまど

2年上  
P.134

①	$65$	$+88$	$\underline{+}$	②	$29$	$+92$	$\underline{+}$	③	$46$	$+89$	$\underline{+}$	④	$75$	$+36$	$\underline{+}$	⑤	$42$	$+68$	$\underline{+}$
△⑥	$25$	$-19$	$\underline{-}$	△⑦	$58$	$-37$	$\underline{-}$	△⑧	$62$	$-48$	$\underline{-}$	△⑨	$22$	$-16$	$\underline{-}$	△⑩	$3$	$-2$	$\underline{-}$

かんそう  
十のくらいに くり上がりの ある たし算も、一のくらいの くり上がりと  
同じように 考えると できるようになります。

もつとれんしゅう → 134ページ

89

88ページ (3)

①  $\begin{array}{r} 76 \\ +85 \\ \hline \end{array}$  ②  $\begin{array}{r} 89 \\ +43 \\ \hline \end{array}$  ③  $\begin{array}{r} 65 \\ +97 \\ \hline \end{array}$  ④  $\begin{array}{r} 87 \\ +26 \\ \hline \end{array}$  ⑤  $\begin{array}{r} 24 \\ +96 \\ \hline \end{array}$

⑥  $\begin{array}{r} 87 \\ +18 \\ \hline \end{array}$  ⑦  $\begin{array}{r} 39 \\ +62 \\ \hline \end{array}$  ⑧  $\begin{array}{r} 74 \\ +26 \\ \hline \end{array}$  ⑨  $\begin{array}{r} 96 \\ +7 \\ \hline \end{array}$  ⑩  $\begin{array}{r} 15 \\ +95 \\ \hline \end{array}$

89ページ (6)

☆① 53 20 +16	② 34 49 +82	③ 48 26 +73	④ 67 29 +85	⑤ 88 17 +59
➡90ページ (3)				
☆⑥ 900 2200 3600	☆⑦ 215dL 11,6L	☆⑧ 114 138 179 147 168	☆⑨ 113 118 106 102	☆⑩ 161 147 162 113 120 105 101

## まとめ練習

○の問題と同類の問題を巻末にも用意しています。欄外に答えがあり、自分で理解を確認することができます。

## 平成 23 年度版 「わくわくさんすう」 1 ねん 年間指導計画

2学期制	3学期制	大単元	配当時数	指導内容	【用語・記号】
4月 (10)	4月 (10)	0. オリエンテーション	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数へのいざない、集合数の意識づけ</li> <li>・1対1対応</li> </ul>	
		1. かずと すうじ	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5までの数の概念と命数法</li> <li>・5までの数字とかき方</li> <li>・5までの数の合成・分解</li> <li>・10までの数の概念と命数法</li> <li>・10までの数字とかき方</li> </ul>	
5月 (12)	5月 (12)	2. なんばんめ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上下、左右、前後の順序数</li> <li>・順序数と集合数</li> </ul>	
		* ふくしゅう	1	・既習内容の理解の確認と持続	
		3. いくつと いくつ	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6の合成・分解</li> <li>・7の合成・分解</li> <li>・8の合成・分解</li> <li>・9の合成・分解</li> <li>・10の合成・分解</li> <li>・0の概念と意味</li> </ul>	
		4. いろいろな かたち	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱などによる形づくり</li> <li>・形の弁別</li> <li>・立体の面を写した絵描き遊び・面の組み合わせによる絵描き遊び</li> </ul>	
6月 (16)	6月 (16)	* ふくしゅう	1	・既習内容の理解の確認と持続	
		5. ふえたり へったり	1	・増減の事象、たし算・ひき算の素地	
		6. たしざん(1)	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併の場面理解 【しき, +, たしざん】</li> <li>・合併の場面をたし算の式で表すこと</li> <li>・増加の場面理解</li> <li>・増加の場面をたし算の式で表すこと</li> <li>・たし算の作問 (おはなしづくり)</li> </ul>	
		7. ひきざん(1)	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求残の場面理解 【-, ひきざん】</li> <li>・求残の場面をひき算の式で表すこと</li> <li>・求部分の場面をひき算の式で表すこと</li> <li>・求差の場面理解</li> <li>・求差の場面をひき算の式で表すこと</li> <li>・ひき算の作問 (おはなしづくり)</li> </ul>	
		* ふくしゅう	1	・既習内容の理解の確認と持続	
1学期(3学期制)の時数 [標準時数: 46時間]		44時間 (予備時数2時間)			
8~9月 (12)	9月 (12)	8. 20までの かず	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20までの数の記数法</li> <li>・20までの数の系列、大小比較、2とび5とびの数の数え方</li> <li>・20までの数の計算</li> </ul>	
		● よみとるさんすう(1)	1	・長文などのよみとり	
	10月 (16)	9. おおきさくらべ(1)	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長さの直接比較、間接比較</li> <li>・任意単位による長さの測定</li> <li>・かさの直接比較、間接比較</li> <li>・任意単位によるかさの測定</li> <li>・何時、何時半の時刻をよむこと、表すこと 【○時, ○時半】</li> </ul>	
10月 (12)		10. 3つの かずの けいさん	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3口のたし算 (<math>a+b+c</math>)</li> <li>・3口のひき算 (<math>a-b-c</math>)</li> <li>・加減混合の3口の計算 (<math>a-b+c</math>, <math>a+b-c</math>)</li> </ul>	
前期(2学期制)の時数 [標準時数: 66時間]		61時間 (予備時数5時間)			

2学期制	3学期制	大単元	配当時数	指導内容 【用語・記号】
10月(12)	10月(16)	* ふくしゅう, じゅんびううんどう 11. たしざん(2)	1 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> <li>操作による繰り上がりのあるたし算の仕方の理解</li> <li>繰り上がりのあるたし算のイメージ化</li> <li>9+8などの被加数&gt;加数の計算の一般化</li> <li>4+8などの被加数&lt;加数の計算と被加数分解によるたし算</li> </ul>
11月(16)	11月(16)	12. かたちづくり * ふくしゅう, じゅんびううんどう 13. ひきざん(2)	5 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>色板による形の構成(面構成)</li> <li>棒による形の構成(線構成)</li> <li>点つなぎによる形の構成(点構成)</li> <li>色板や棒を使った動的な活動</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> <li>操作による繰り下がりのあるひき算の仕方の理解</li> <li>繰り下がりのあるひき算のイメージ化</li> <li>減数&gt;5の場合のひき算の一般化</li> <li>減数&gt;5の場合のひき算と減々法によるひき算</li> <li>□を使った式の素地</li> <li>8+6, 12-7になる問題づくり</li> </ul>
12月(12)	12月(12)	● たすのかな ひくのかな 14. 0の たしざんと ひきざん 15. ものと ひとの かず * ふくしゅう	1 2 2 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>加減の演算決定問題</li> <li>0の加減計算</li> <li>ものと人の数を対応させた加減計算</li> <li>順序数の問題</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続</li> </ul>
2学期(3学期制)の時数 [標準時数: 56時間]				50時間 (予備時数6時間)
1月(11)	1月(11)	16. 大きい かず	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>100までの数の概念, 10とび5とびの数え方の工夫</li> <li>100までの数の記数法 【一のくらい, 十のくらい】</li> <li>100までの数の数の構成</li> <li>100という数の概念</li> <li>100までの数の大小, 系列</li> <li>10を単位とする簡単な加減計算</li> <li>100を少し超える数の概念, 数系列</li> </ul>
2月(15)	2月(15)	● かえますか? かえませんか? 17. 100までの かずの けいさん * ふくしゅう 18. おなじ かずずつ 19. おおい ほう すぐない ほう ● ものの いち 20. 大きさくらべ(2)	1 2 1 2 1 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>見積もりの素地</li> <li>(何十)±(何十)の計算</li> <li>(何十何)±(何)の計算</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続</li> <li>かけ算,わり算の素地</li> <li>求大,求小の問題</li> <li>ものの位置の表し方</li> <li>広さの直接比較,間接比較による測定</li> <li>広さの任意単位による測定</li> <li>何時何分の時刻を読むこと, 表すこと 【○時○分】</li> </ul>
3月(8)	3月(8)	● よみとるさんすう(2) * もう すぐ 2ねんせい ★ けいさんの れんしゅう 3学期(3学期制)の時数 [標準時数: 34時間]	1 3 —	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵や絵グラフなどの資料のよみとり</li> <li>第1学年の総復習</li> <li>第1学年の計算練習</li> </ul>
後期(2学期制)の時数 [標準時数: 70時間]				30時間 (予備時数4時間)
年間総時数 [標準時数: 136時間]				124時間 (予備時数12時間)

注1: 月の欄の( )の数字は、月当たりの指導時数の目安を示しています。

注2: 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3: 【 】内の太字はその単元で学習する新しい用語・記号です。

# 平成 23 年度版 「わくわく算数」 2 年 年間指導計画

〈上巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容 【用語・記号】
4 月 (15)	4 月 (15)	1. ひょう・グラフと 時計	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>表とグラフのかき方 【ひょう, グラフ】</li> <li>時こくと時間の概念 【時こく, 時間】</li> <li>1時間=60分, 1日=24時間 【午前, 午後, 正午】</li> </ul>
		● みんなで 話しあいましょう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い活動の仕方</li> </ul>
		* ふくしゅう, じゅんびうんどう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		2. たし算と ひき算	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2位数)+(1位数)で何十になる暗算</li> <li>(2位数)+(1位数)で繰り上がりのある暗算, (2位数)+(何十)の暗算</li> <li>(何十)-(1位数)の暗算</li> <li>(2位数)-(1位数)で繰り下りのある暗算, (2位数)-(何十)の暗算</li> </ul>
5 月 (16)	5 月 (16)	3. 長さ	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さの概念</li> <li>長さの普遍単位「センチメートル」の理解と測定 【cm, センチメートル】</li> <li>普遍単位「ミリメートル」の理解, ものさしによる測定 【mm, ミリメートル, たんい】</li> <li>複名数と単名数の関係 【直線】</li> <li>直線の作図, 簡単な長さの加減計算</li> <li>10cmの量感, 長さの量感を用いた見積もり</li> </ul>
		* ふくしゅう, じゅんびうんどう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		4. たし算と ひき算の ひつ算(1)	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2位数)+(2位数)で答えが2位数になる筆算 【ひつ算】</li> <li>加法の交換法則と答えの確かめ</li> <li>(2位数)-(2位数)の筆算</li> <li>加法・減法の関係と減法の答えの確かめ</li> <li>加減の問題のテーブ図のかき方</li> </ul>
		◎ かくれた数は いくつ	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>減ったのはいくつかを考えて解く問題, 加法・減法の相互関係</li> <li>増えたのはいくつかを考えて解く問題</li> <li>はじめはいくつかを考えて解く問題</li> </ul>
6 月 (21)	6 月 (21)	● どんな 計算に なるのかな(1)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>加減の演算決定問題</li> </ul>
		* ふくしゅう, じゅんびうんどう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		5. 1000までの 数	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>1000未満の数の表し方 【百のくらい】</li> <li>10を単位とする数の相対的な見方</li> <li>1000という数の意味 【1000, 千】</li> <li>1000までの数の系列, 大小比較 【&gt;, &lt;】</li> <li>10, 100を単位とする簡単なたし算・ひき算</li> </ul>
		● 買えますか? 買えませんか?	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>見積もりの素地</li> </ul>
7 月 (17)	7 月 (12)	● よみとる算数(1)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>表・グラフなどの資料のよみとり</li> </ul>
		6. かさ	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>直接比較, 間接比較, 任意単位によるかさの測定</li> <li>かさの普遍単位【リットル, デシリットル, ミリリットル】の理解 【L, dL, mL】</li> <li>1Lの量感, かさの量感を用いた見積もり</li> </ul>
		* ふくしゅう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続</li> </ul>
		● 算数の じゅうけんきゅう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>せんろづくり</li> </ul>
1学期(3学期制)の時数 [標準時数: 64時間]			60時間 (予備時数4時間)	
8~9 月 (15)	9 月 (15)	* じゅんびうんどう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		7. たし算と ひき算の ひつ算(2)	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>(2位数)+(2位数)で答えが3位数の筆算</li> <li>3口の計算</li> <li>(3位数)-(2位数)で答えが2位数の筆算</li> <li>(3位数)±(2位数)の簡単な筆算</li> <li>文章, 図, 式の相互理解</li> </ul>
		◎ ふえたり へったり	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>増増の場面で, 順に考えたりまとめたりして解く問題</li> <li>増増, 増減の場面で, まとめて考えて解く問題</li> </ul>
		8. 計算の じゅんじょ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法の結合法則と( )の使い方</li> <li>等号, 不等号を使った式</li> </ul>
10 月 (15)	10 月 (20)	★ 算数の まど	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>補充(ステップ)と発展(ジャンプ)</li> <li>もっと学びをいかそう</li> <li>もっと練習</li> </ul>
		前期(2学期制)の時数 [標準時数: 89時間]	77時間 (予備時数12時間)	

〈下巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容 【用語・記号】
10 月 (15)	10 月 (20)	9. かけ算(1)	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準量のいくつ分という見方とかけ算の概念</li> <li>・かけ算の概念と式 【×, かけ算】</li> <li>・「倍」の意味, 1倍 【ばい】</li> <li>・5の段の九九の構成, 唱え方 【九九】</li> <li>・2の段の九九の構成, 唱え方</li> <li>・3の段の九九の構成, 唱え方</li> <li>・4の段の九九の構成, 唱え方</li> <li>・「かけられる数」と「かける数」の意味</li> <li>・かけ算の問題づくり</li> </ul>
11 月 (20)	11 月 (20)	* ふくしゅう 10. かけ算(2)	1 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続</li> <li>・6の段の九九の構成, 唱え方</li> <li>・7の段の九九の構成, 唱え方</li> <li>・8, 9の段の九九の構成, 唱え方</li> <li>・1の段の九九の構成, 唱え方</li> <li>・乗法と加法・減法の複合問題</li> </ul>
12 月 (15)	12 月 (15)	* ふくしゅう ● よみとる算数(2) 11. 三角形と 四角形	1 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続</li> <li>・長文などのよみとり</li> </ul>
		11. 三角形と 四角形	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形と四角形の概念 【三角形, 四角形】</li> <li>・三角形, 四角形の弁別, 作成 【辺, ちょう点】</li> <li>・直角の概念 【直角】</li> <li>・長方形, 正方形の概念 【長方形, 正方形】</li> <li>・直角三角形の概念 【直角三角形】</li> <li>・長方形, 正方形, 直角三角形の作図</li> <li>・長方形, 正方形, 直角三角形の敷き詰め</li> </ul>
		2学期(3学期制)の時数 [標準時数: 70時間]		63時間 (予備時数7時間)
1 月 (13)	1 月 (13)	* ふくしゅう, じゅんびうんどう 12. 九九の きまり	1 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> <li>・九九表づくり, 九九表の考察</li> <li>・乗法の交換法則</li> <li>・同じ答えになるかけ算</li> <li>・簡単な場合の(1位数)×(2位数), (2位数)×(1位数)の計算</li> </ul>
		13. 100cmを こえる 長さ	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長さの普遍単位mと測定 【m, メートル】</li> <li>・1mの量感, 長さの量感を用いた見積もり</li> <li>・コラム「昔の教科書」</li> </ul>
2 月 (18)	2 月 (18)	○ ちがいを みて ● どんな 計算に なるのかな(2) * ふくしゅう, じゅんびうんどう	2 1 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求大, 求小の逆思考の問題</li> <li>・乗法の演算決定問題</li> </ul>
		14. 10000までの 数	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> <li>・10000未満の数の表し方 【千のくらい】</li> <li>・100を単位とする数の相対的な見方</li> <li>・10000という数の概念 【10000, 一万】</li> <li>・10000までの数の系列, 大小</li> </ul>
		15. はこの 形	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱の面の写し取り, 箱の観察 【面】</li> <li>・厚紙, ひごを使った箱の形づくり</li> </ul>
3 月 (10)	3 月 (10)	○ 何番目 16. 分数	1 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序数と集合数の問題</li> <li>・具体物を半分にする活動</li> <li>・1/2, 1/4の分数の概念 【1/2, 1/4, 分数】</li> </ul>
		* もう すぐ 3年生 ★ 算数の まど	3 —	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2学年の総復習</li> <li>・補充(ステップ)と発展(ジャンプ)</li> <li>・もっと学びをいかそう</li> <li>・もっと練習</li> </ul>
		3学期(3学期制)の時数 [標準時数: 41時間]		37時間 (予備時数4時間)
		後期(2学期制)の時数 [標準時数: 86時間]		83時間 (予備時数3時間)
年間総時数 [標準時数: 175時間]		160時間 (予備時数15時間)		

注1: 月の欄の( )の数字は、月当たりの指導時数の目安を示しています。

注2: 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3: 【 】内の太字はその単元で学習する新しい用語・記号です。

# 平成 23 年度版 「わくわく算数」3年 年間指導計画

〈上巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容	【用語・記号】
4 月 (15)	4 月 (15)	1. 九九の表とかけ算	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗数と積の関係</li> <li><math>a \times 10, 10 \times a, a \times 0, 0 \times a</math> のかけ算</li> <li>乗法の交換法則</li> </ul>	
		2.わり算	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>除法の意味(等分除, 包含除)と答えの求め方 【<math>\div</math>, わり算】</li> <li>0のわり算</li> <li>わり算の問題づくり</li> <li>倍を求めるわり算</li> <li>除法と加法・減法の複合問題</li> <li>簡単な場合の(2位数) <math>\div</math> (1位数) = (2位数) の計算</li> </ul>	
5 月 (16)	5 月 (16)	● どんな計算になるのかな	1	乗除の演算決定問題	
		3.円と球	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>円の定義, 円の性質, 円の作図 【円, 中心, 半径】</li> <li>直径と中心の関係 【直径】</li> <li>コンパスの使い方</li> <li>球の概念と性質 【球】</li> </ul>	
		* ふく習	1	既習内容の理解の確認と持続	
		● みんなで話しあいましょう	1	話し合い活動の仕方	
		◎ かくれた数はいくつ(1)	2	乗法の逆思考, 除法の逆思考	
6 月 (21)	6 月 (21)	* じゅんび運動	1	次単元のレディネスチェック	
		4.たし算とひき算の筆算	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>(何百) + (何百) = (千何百), (千何百) - (何百) = (何百) の計算</li> <li>3桁の加法の筆算(和が3桁/和が4桁)</li> <li>3桁の減法の筆算(繰り下がり1回/繰り下がり2回)</li> <li>3桁の減法の筆算(2つ上の位から繰り下げる場合)</li> <li>(4桁) ± (4桁) の簡単な筆算</li> </ul>	
		● 買えますか? 買えませんか?	1	見積もりの素地	
		* ふく習, じゅんび運動	1	既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック	
		5.一億までの数	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>一万をこえる数のしくみ, 命数法・記数法 【一万の位】</li> <li>千万の位までの数のよみ方 【十万の位, 百万の位, 千万の位】</li> <li>一億の位までのしくみ, 相対的な大きさ 【一億】</li> <li>5桁の数の大小 【数直線】</li> <li>相対的な大きさに基づく大きな数の加減計算</li> <li>「10倍」「100倍」「10でわる」と位取り</li> </ul>	
		6.たし算とひき算	4	2桁の加法・減法の暗算	
		● 算数の自由研究	1	めい路づくり	
1学期(3学期制)の時数 [標準時数: 64時間]			60時間 (予備時数4時間)		
7 月 (17)	7 月 (12)	* ふく習, じゅんび運動	1	既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック	
		7.時間と長さ	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間, 時刻の求め方</li> <li>秒の概念, 1分 = 60秒 【秒】</li> <li>1mをこえる長さの測定</li> <li>長さの普遍単位「キロメートル」の理解, 1km = 1000m 【km, キロメートル】</li> <li>巻尺の使い方</li> <li>時間と長さの量感, 量感を用いた見積もり</li> </ul>	
8~9 月 (15)	9 月 (15)	じゅんび運動	1	次単元のレディネスチェック	
		8.あまりのあるわり算	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>余りのあるわり算の意味と式 【あまり, わり切れる, わり切れない】</li> <li>余りと除数の大小関係</li> <li>被除数, 除数, 商, 余りの関係と答えの確かめ</li> <li>余りの処理の問題</li> </ul>	
		◎ 何倍でしょう	2	$a \times b \times c$ と $a \times (b \times c)$ の具体的な場面と計算の仕方	
		9.計算のじゅんじょ	1	結合法則, $a \times b \times c = a \times (b \times c)$	
		● よみとる算数(1)	1	長文などのよみとり	
10 月 (15)	10 月 (20)	◎ 間の数	1	間の数に着目して解く問題	
		★ 算数のまど	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>補充(ステップ)と発展(ジャンプ)</li> <li>もっと学びをいかそう</li> <li>もっと練習</li> </ul>	
前期(2学期制)の時数 [標準時数: 89時間]			83時間 (予備時数6時間)		

〈下巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容 【用語・記号】	
10 月 (15)	10 月 (20)	10. 三角形	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストローやひごを使った三角形づくり</li> <li>三角形の分類と二等辺三角形、正三角形の定義 【二等辺三角形、正三角形】</li> <li>コンパスを使った二等辺三角形や正三角形の作図</li> <li>円や折り紙を使った二等辺三角形・正三角形づくり</li> <li>角の概念と大小比較 【角】</li> <li>正三角形、二等辺三角形の敷き詰め</li> </ul>	
		11. 1けたをかけるかけ算の筆算	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>(何十) × (1位数)、(何百) × (1位数)の計算</li> <li>(2位数) × (1位数)の筆算</li> <li>(3位数) × (1位数)の筆算</li> <li>簡単な(2位数) × (1位数)の暗算</li> </ul>	
11 月 (20)	11 月 (20)	* ふく習	1	既習内容の理解の確認と持続	
		12. 重さ	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>重さの概念、天秤による間接比較、任意単位による重さの測定</li> <li>重さの普遍単位「グラム」の理解、はかりによる重さの測定 【g、グラム】</li> <li>重さの普遍単位「キログラム」の理解、1kg=1000g、測定 【kg、キログラム】</li> <li>1kgの量感、量感を用いた見積もり、はかりの選択と重さの見当づけ</li> <li>簡単な重さの加減計算</li> <li>量の単位の関係、重さの普遍単位「トン」の理解、1t=1000kg 【t、トン】</li> </ul>	
12 月 (15)	12 月 (15)	13. 分数	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>はしたの大きさの表し方、分数の概念 【1/3, 2/3, 分数, 分母, 分子】</li> <li>数としての分数の意味、単位分数のいくつ分という見方</li> <li>分数の系列と大小、数直線上の分数 【等号, 不等号】</li> <li>同分母分数の加減計算</li> </ul>	
2学期(3学期制)の時数 [標準時数: 70時間]				62時間 (予備時数8時間)	
1 月 (13)	1 月 (13)	◎ べつべつに、いっしょに	3	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>a \times c + b \times c</math>をいろいろに考えて解く問題</li> <li><math>(a+b) \times c, (a-b) \times c</math>をまとめて考えて解く問題</li> </ul>	
		14. 計算のきまり	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>分配法則、<math>(a+b) \times c = a \times c + b \times c</math></li> </ul>	
		* ふく習、じゅんび運動	1	既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック	
		15. 表とグラフ	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の分類・整理、「正」の字で表し、表に整理する</li> <li>棒グラフの読み方 【ぼうグラフ】</li> <li>棒グラフのかき方</li> <li>簡単な2次元の表</li> <li>2つの棒グラフの比較</li> </ul>	
2 月 (18)	2 月 (18)	16. 小数	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数の概念と表し方 【0.1, 小数, 小数点, 1/10の位, 整数】</li> <li>小数の系列、大小比較、相対的な見方</li> <li>数直線などを使った小数と分数の大小比較</li> <li>小数の加減計算(小数第1位)</li> </ul>	
		* ふく習、じゅんび運動	1	既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック	
		17. 1けたをかけるかけ算の筆算	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>何十をかける計算</li> <li>(2位数) × (2位数)の筆算</li> <li>(3位数) × (2位数)の筆算</li> <li>コラム「昔の教科書」</li> </ul>	
		● よみとる算数(2)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>表・グラフなどの資料の読みとり</li> </ul>	
3 月 (10)	3 月 (10)	◎ かくれた数はいくつ(2)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>\square - a - b = c, a + b + \square = c</math>の□を求める問題</li> </ul>	
		18. □を使った式	3	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>\square + a = b, a - \square = b</math>の□を求める問題</li> <li><math>\square \times a = b, a \div \square = b</math>の□を求める問題</li> </ul>	
		19. そろばん	3	そろばんの仕組み、数の入れ方(おき方)とはらい方	
		* もうすぐ4年生	2	第3学年の総復習	
		★ 算数のまど	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>補充(ステップ)と発展(ジャンプ)</li> <li>もっと学びをいかそう</li> <li>もっと練習</li> </ul>	
3学期(3学期制)の時数 [標準時数: 41時間]				39時間 (予備時数2時間)	
後期(2学期制)の時数 [標準時数: 86時間]				78時間 (予備時数8時間)	
年間総時数 [標準時数: 175時間]				161時間 (予備時数14時間)	

注1: 月の欄の( )の数字は、月当たりの指導時数の目安を示しています。

注2: 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3: 【 】内の太字はその単元で学習する新しい用語・記号です。

# 平成 23 年度版 「わくわく算数」 4 年 年間指導計画

〈上巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容	【用語・記号】
4 月 (15)	4 月 (15)	1. 角とその大きさ	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角度の単位と測り方, 分度器の使い方, 直角=90° 【°, 度】</li> <li>・半回転=180度, 一回転=360度, 180° をこえる角度の測定</li> <li>・角度の量感</li> <li>・角の作図</li> <li>・三角定規の角と簡単な角度の計算</li> </ul>	
		* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>	
		2. 1けたでわるわり算の筆算	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(何十) ÷ (1桁), (何百何十) ÷ (1桁), (何百) ÷ (1桁)の計算</li> <li>・(2桁) ÷ (1桁) で商が2桁になる筆算, 答えの確かめ 【商】</li> <li>・(3桁) ÷ (1桁) で商が3桁になる筆算</li> <li>・(3桁) ÷ (1桁) で商が2桁になる筆算</li> <li>・(2桁) ÷ (1桁) で商が2桁になる暗算</li> </ul>	
		● みんなで話しあいましょう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの活動のしかた</li> </ul>	
		◎ 何倍でしょう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>a \times b \times c</math> の <math>a</math> をまとめて考えて求める問題</li> </ul>	
5 月 (16)	5 月 (16)	* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>	
		3. 一億をこえる数	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一億をこえる大きな数の命数法, 記数法</li> <li>・一兆をこえる数の命数法, 記数法 【一兆】</li> <li>・十進位取り記数法とそのしくみ</li> <li>・(3桁) × (3桁) の筆算 【積】</li> <li>・「100×100=万」や「万×万=億」を使った計算</li> </ul>	
		4. 式と計算の順じよ	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・( )を使った式と四則混合の式の計算の順序</li> <li>・四則に関して成り立つ計算のきまり (交換・結合・分配法則)</li> <li>・計算のきまりを使った計算のくふう</li> <li>・加法と減法, 乗法と除法の相互関係</li> <li>・計算のきまりに関する式のよみ</li> </ul>	
		5. 折れ線グラフ	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折れ線グラフのよみ方 【折れ線グラフ】</li> <li>・変わり方の大小とグラフの傾き</li> <li>・2つの折れ線グラフ</li> <li>・折れ線グラフのかき方</li> <li>・波線の使い方</li> </ul>	
		* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>	
6 月 (21)	6 月 (21)	6. 小数	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/1000の位までの小数の概念と表し方</li> <li>・小数の加法的構成と相対的な大きさ 【1/100の位, 1/1000の位, 小数第〇位】</li> <li>・10倍すること, 10でわることと位の関係</li> <li>・小数の加減の筆算</li> </ul>	
		* ふく習	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続</li> </ul>	
		● 算数の自由研究	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふしぎな輪</li> </ul>	
		1学期(3学期制)の時数 [標準時数: 64時間]		59時間 (予備時数 5時間)	
		7. 面積	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積の概念と普遍単位による測定 【面積】</li> <li>・面積の単位 【cm<sup>2</sup>, m<sup>2</sup>, km<sup>2</sup>, a, ha, 平方センチメートル, 平方メートル, 平方キロメートル, アール, ヘクタール】</li> <li>・長方形, 正方形の面積の求め方と公式, その活用</li> <li>・1m<sup>2</sup>の量感</li> </ul>	
8~9 月 (15)	9 月 (15)	* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>	
		8. 2けたでわるわり算の筆算	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(何十) ÷ (何十), (何百何十) ÷ (何十), (何百) ÷ (何十)の計算</li> <li>・(2桁) ÷ (2桁) で商が1桁になる筆算</li> <li>・(3桁) ÷ (2桁) で商が1桁になる筆算, 仮商の修正</li> <li>・(3桁) ÷ (2桁) で商が2桁になる筆算</li> <li>・(4桁) ÷ (2桁), (4桁) ÷ (3桁) の筆算</li> <li>・除法の性質と計算の工夫</li> </ul>	
		● よみとる算数(1)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表・グラフなどの資料のよみとり</li> </ul>	
		9. そろばん	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1/100の位までの小数の簡単な加減</li> </ul>	
		* ふく習	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続</li> </ul>	
10 月 (15)	10 月 (20)	★ 算数のまど	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補充(ステップ)と発展(ジャンプ)</li> <li>・もっと学びをいかそう</li> <li>・もっと練習</li> </ul>	
		前期(2学期制)の時数 [標準時数: 89時間]		84時間 (予備時数 5時間)	

〈下巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容 【用語・記号】	
10 月 (15)	10 月 (20)	10. がい数とその計算	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概数の概念 【がい数】</li> <li>・四捨五入の意味 【切り捨て, 切り上げ, 四捨五入】</li> <li>・ある位までの概数, 上から○桁の概数</li> <li>・概数の表す範囲 【以上, 未満, 以下】</li> <li>・和や差を概数で求める場合と, 概算の仕方 【和, 差】</li> <li>・積や商を概数で求める場合と, 概算の仕方</li> </ul>	
		● 見積もりを使って	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる見積もり</li> </ul>	
		● どんな計算になるのかな	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数の四則計算の演算決定問題</li> </ul>	
11 月 (20)	11 月 (20)	11. 整数の計算のまとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数の四則計算の定着と活用</li> </ul>	
		12. 垂直・平行と四角形	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2直線の関係と垂直・平行 【垂直, 平行】</li> <li>・垂直・平行の関係と性質 【平面】</li> <li>・垂直や平行な直線の作図</li> <li>・台形, 平行四辺形の概念と弁別 【台形, 平行四辺形】</li> <li>・平行四辺形の性質と作図</li> <li>・ひし形の概念と性質 【ひし形】</li> <li>・対角線の意味と性質 【対角線】</li> <li>・平行四辺形, 台形, ひし形のしきつめ</li> </ul>	
		* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>	
		13. 小数×整数, 小数÷整数	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数×整数の計算の意味とその仕方</li> <li>・(1/10の位の小数) × (1, 2位数) の筆算</li> <li>・小数÷整数の計算の意味とその仕方</li> <li>・(1/10の位の小数) ÷ (1, 2位数) の筆算</li> <li>・わり進む場合の筆算, 商を概数で表すこと</li> </ul>	
12 月 (15)	12 月 (15)	◎ もとの数はいくつ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>a \times b \times c</math> で <math>a</math> を求めるのに, まとめて考えること</li> </ul>	
		2学期(3学期制)の時数 [標準時数: 70時間]		66時間 (予備時数 4時間)	
		* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>	
1 月 (13)	1 月 (13)	14. 調べ方と整理のしかた	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を2つの観点で分類・整理し, 2次元の表にまとめること</li> <li>・表を使って問題を解決すること</li> </ul>	
		* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>	
		15. 分数	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の分類, 真分数, 仮分数, 帯分数の意味 【真分数, 仮分数, 帯分数】</li> <li>・同分母分数の加法・減法の立式と計算のしかた</li> <li>・帯分数の入った計算</li> <li>・等しい分数の理解</li> </ul>	
		* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック, コラム「昔の教科書」</li> </ul>	
2 月 (18)	2 月 (18)	16. 変わり方	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴って変わる2量の関係を表にかいて調べること</li> <li>・伴って変わる2量の関係を折れ線グラフにかいて調べること</li> <li>・折れ線グラフのよみ</li> </ul>	
		* ふく習, じゅんび運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック</li> </ul>	
		17. 直方体と立方体	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直方体や立方体の概念と性質 【直方体, 立方体】</li> <li>・直方体や立方体の見取図, 展開図 【見取図, てん開図】</li> <li>・面や辺の平行, 垂直関係</li> <li>・2次元座標, 3次元座標を使った位置の表し方</li> </ul>	
3 月 (10)	3 月 (10)	◎ だれでしょう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理を使って, 条件に合うものをみつける問題</li> </ul>	
		● よみとる算数(2)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長文などのよみとり</li> </ul>	
		* もうすぐ5年生	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4学年の総復習</li> </ul>	
		★ 算数のまど	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補充(ステップ)と発展(ジャンプ)</li> <li>・もっと学びをいかそう</li> <li>・もっと練習</li> </ul>	
		3学期(3学期制)の時数 [標準時数: 41時間]		39時間 (予備時数 2時間)	
後期(2学期制)の時数 [標準時数: 86時間]				80時間 (予備時数 6時間)	
年間総時数 [標準時数: 175時間]				164時間 (予備時数11時間)	

注1: 月の欄の( )の数字は、月当たりの指導時数の目安を示しています。

注2: 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3: 【 】内の太字はその単元で学習する新しい用語・記号です。

# 平成 23 年度版 「わくわく算数」 5 年 年間指導計画

〈上巻〉

2学期制	3学期制	大単元	配当時数	指導内容 【用語・記号】
4月 (15)	4月 (15)	1. 整数と小数	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整数、小数の十進位取り記数法の仕組みと小数点の移動</li> <li>・記数法の仕組みと10倍や100倍などの大きさの数</li> <li>・記数法の仕組みと10分の1や100分の1などの大きさの数</li> </ul>
		● みんなで話しあいましょう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの活動の仕方</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		2. 体積	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体積の概念とその表し方 【体積】</li> <li>・体積の普遍単位「立方センチメートル、立方メートル」 【<math>\text{cm}^3, \text{m}^3</math>】</li> <li>・直方体と立方体の体積の求め方と公式 【容積】</li> <li>・箱を組み合わせてつくるなど、いろいろな<math>1\text{m}^3</math>の体感</li> <li>・公式を使って、体積の変化を考察したり高さを求める 【比例する】</li> <li>・L字型やU字型の体積の求積</li> </ul>
5月 (16)	5月 (16)	* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		3. 小数×小数	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数をかけることの意味と立式</li> <li>・小数をかける計算と筆算の仕方</li> <li>・乗数と積の大小関係</li> <li>・辺の長さが小数値の場合の面積や体積の求積</li> <li>・小数倍の意味と適用</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		4. 小数÷小数	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数でわることの意味と立式</li> <li>・小数でわる計算と筆算の仕方</li> <li>・わり進む場合、商を概数で処理する場合の筆算の仕方</li> <li>・余りがある場合の小数点の位置、確かめの式</li> <li>・除数と商の大小関係</li> </ul>
6月 (21)	6月 (21)	* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続</li> </ul>
		5. 式と計算	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数についての計算のきまりや式のよみ方</li> <li>・計算のきまりに関する式のよみ方 (式の多様な見方)</li> <li>・式の形に着目して特徴をよみ、問題解決に活用すること</li> </ul>
		○ 同じものに目をつけて	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相殺や置換の考え方を用いて解く問題</li> </ul>
		6. 合同な図形	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同の意味、合同な図形の性質 【合同、対応する (頂点、辺、角)】</li> <li>・基本四角形を対角線で分けて合同の観点で考察すること</li> <li>・合同な三角形をかく要素の考察と、3通りの方法による三角形の作図</li> <li>・三角形分割による四角形の作図</li> <li>・三角形の内角の和を調べること、四角形・五角形の内角の和を調べること</li> </ul>
7月 (17)	7月 (12)	● どんな計算になるのかな	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の四則計算の演算決定問題</li> </ul>
		● 算数の自由研究	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字ならべ</li> </ul>
		* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、コラム「昔の教科書」</li> </ul>
		1学期(3学期制)の時数 [標準時数: 64時間]		59時間 (予備時数 5時間)
8~9月 (15)	9月 (15)	7. 整数	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偶数、奇数の意味 【偶数、奇数】</li> <li>・倍数の意味とみつけ方 【倍数】</li> <li>・公倍数、最小公倍数の意味と求め方の工夫 【公倍数、最小公倍数】</li> <li>・約数の意味 【約数】</li> <li>・公約数、最大公約数の意味と求め方の工夫 【公約数、最大公約数】</li> <li>・素数の意味 【素数】</li> </ul>
		* 準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		8. 分数	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の性質、等しい分数のつくり方</li> <li>・約分や通分の意味とその仕方 【約分する、通分する】</li> <li>・異分母分数の加法</li> <li>・異分母分数の減法</li> <li>・分数×整数や分数÷整数の立式の意味とその求め方</li> <li>・分数の第二義 (=商分数)、わり算と分数</li> <li>・分数と整数・小数の関係</li> </ul>
		前期(2学期制)の時数 [標準時数: 89時間]		87時間 (予備時数 2時間)
10月 (15)	10月 (20)	○ 人文字	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な植木算の問題</li> </ul>
		● よみとる算数(1)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長文などのよみとり</li> </ul>
		* 復習	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続</li> </ul>
		★ 算数のまど	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補充 (ステップ) と発展 (ジャンプ)</li> <li>・もっと学びをいかそう</li> <li>・もっと練習</li> </ul>

〈下巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容 【用語・記号】
11 月 (20)	11 月 (20)	9. 面積	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>直角三角形、鋭角三角形の面積を求める</li> <li>三角形の面積公式 【底辺、高さ】</li> <li>三角形分割による一般四角形の求積</li> <li>平行四辺形の面積を多様な考え方で求めることと面積公式</li> <li>高さがはみ出す三角形や平行四辺形の面積の求め方</li> <li>台形、ひし形の求積と面積公式 【上底、下底】</li> <li>三角形の求積公式を使っての関数的見方 (底辺と高さの関係)</li> <li>面積公式に関する式のよみ</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		10. 平均とその利用	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均の意味 【平均】</li> <li>平均を求め、問題解決に活用すること</li> <li>部分の平均から全体の平均を求める</li> <li>歩幅による概測と利用</li> <li>仮平均</li> <li>飛び離れた値についての処理</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		11. 単位量あたりの大きさ	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位量あたりの考え方とその意味 【人口みつ度】</li> </ul>
		● 見積もりを使って	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮平均による見積もり</li> <li>切り上げや切り捨てによる加法の見積もり</li> </ul>
		○ 順々に調べて	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>数量の少ない場合から順に調べ、きまりをみつけて解く問題</li> </ul>
		2学期(3学期制)の時数 [標準時数: 70時間]		63時間 (予備時数 7時間)
		* 準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		12. 割合	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>割合の意味、割合の求め方 【割合】</li> <li>割合、くらべる量、もとのする量を求める</li> <li>百分率の意味、歩合 【百分率、%, パーセント、割、分、厘】</li> <li>百分率を使った問題と小数倍の問題との関係の理解</li> <li>帯グラフ・円グラフのよみ方とかき方 【帯グラフ、円グラフ】</li> <li>百分率を使った第1~第3用法の作問と問題解決</li> <li>割合の和、積を考えて解く問題</li> <li>表やグラフを目的に応じて適切に選ぶ問題</li> </ul>
1 月 (13)	1 月 (13)	* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		13. 円と正多角形	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>折り紙作業による正多角形の学習の動機づけ 【正六角形、正八角形】</li> <li>正多角形の概念、中心角の等分割による正多角形の作図 【多角形、正多角形】</li> <li>円周の等分による正六角形の作図</li> <li>円周と直径の関係 (円周率を求める) 【円周、円周率】</li> <li>円周や直径を求める</li> <li>直径と円周の関数的関係、円周の実測活動</li> </ul>
		* 準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		14. 角柱と円柱	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>立体图形の弁別 【立体】</li> <li>角柱の概念、円柱の概念 【角柱、円柱、底面、側面、曲面】</li> <li>角柱や円柱の見取図、展開図</li> </ul>
		15. ○や△を使った式	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○や△を使って表される式になる事象</li> <li>式に表された2量が比例しているかどうかの判定、比例さがし</li> </ul>
2 月 (18)	2 月 (18)	○ 輪投げ	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋道を立てて順序良く推論する問題</li> </ul>
		● よみとる算数(2)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>表・グラフなどの資料のよみとり</li> </ul>
		* もうすぐ6年生	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>第5学年の総復習</li> </ul>
		★ 算数のまど	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>補充 (ステップ) と発展 (ジャンプ)</li> <li>もっと学びをいかそう</li> <li>もっと練習</li> </ul>
		3学期(3学期制)の時数 [標準時数: 41時間]		40時間 (予備時数 1時間)
		後期(2学期制)の時数 [標準時数: 86時間]		75時間 (予備時数11時間)
年間総時数 [標準時数: 175時間]		162時間 (予備時数13時間)		

注1: 月の欄の( )の数字は、月当たりの指導時数の目安を示しています。

注2: 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3: 【】内の太字はその単元で学習する新しい用語・記号です。

# 平成 23 年度版 「わくわく算数」 6 年 年間指導計画

〈上巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容 【用語・記号】
4 月 (15)	4 月 (15)	1. 対称な图形	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線対称な图形の意味、線対称な图形さがし 【線対称、対称の軸】</li> <li>・線対称な图形の性質、作図</li> <li>・点対称な图形の意味、点対称な图形さがし 【点対称、対称の中心】</li> <li>・点対称な图形の性質、作図</li> <li>・四角形や三角形、正多角形などの基本图形を対称性に着目して考察すること</li> </ul>
		● みんなで話しあいましょう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの活動の仕方</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		2. 分数×分数	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数をかけることの意味と計算の仕方</li> <li>・逆数の意味、分数・整数・小数の逆数の求め方 【逆数】</li> <li>・分数倍の意味と適用(第1、第2用法)</li> <li>・いろいろな量を表す分数(面積、時間)と適用</li> <li>・積の大きさ</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		3. 分数÷分数	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数でわることの意味と計算の仕方</li> <li>・分数倍を使った割合の第3用法</li> <li>・分数についての計算のきまり</li> <li>・商の大きさ</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		4. 文字と式	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量の関係を文字 <math>x, y</math> を用いて式に表し考察すること 【<math>x</math> の値、<math>y</math> の値】</li> <li>・文字 <math>x, y</math> を使った式で、<math>y</math> に対応する <math>x</math> の値を求めるこ</li> <li>・文字を用いた式から、具体的な事象を考えること (問題づくり)</li> <li>・文字を用いた式から、式の意味をいろいろ考察すること (式の多様な見方)</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		5. 比とその利用	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比を使った割合の表し方、比の意味 【比、:】</li> <li>・比の表し方の考察、比の値の意味 【比の値】</li> <li>・等しい比とその性質、等しい比をつくること</li> <li>・比を簡単にすること</li> <li>・比を使った割合の第2・第3用法の問題、全体を決まった比に分けること</li> </ul>
		* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		6. 図形の拡大と縮小	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の拡大や縮小の意味</li> <li>・拡大図や縮図の意味とその性質 【拡大図、縮図】</li> <li>・方眼紙を使った拡大図や縮図のかき方</li> <li>・拡大図や縮図の性質を使った三角形や四角形の作図、縮図の作図</li> <li>・1つの点を中心とした拡大図や縮図のかき方</li> <li>・縮図を利用した測定の工夫</li> </ul>
		● どんな計算になるのかな	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の四則計算の演算決定問題</li> </ul>
		◎ 場合をあげて調べて	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順序よく場合を調べ、条件に合った解答を求めて問題解決すること</li> <li>・ある条件のもとで全ての場合を順序よく調べ、適合する場合をみつけること</li> </ul>
		● 算数の自由研究	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カブレカ数</li> </ul>
1学期(3学期制)の時数 [標準時数: 64時間]			64時間 (予備時数 0時間)	
7 月 (17)	7 月 (12)	* 復習、準備運動	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック、コラム「昔の教科書」</li> </ul>
		7. 速さ	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・速さの概念、速さの公式と適用題 【時速、分速、秒速】</li> <li>・時速・分速・秒速の関係</li> </ul>
		◎ 変わり方を調べて(1)	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出会い算、追いつき算(2量の変わり方の和や差に着目して解く問題)</li> </ul>
		8. 比例と反比例	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例の意味と性質、比例する事象を判断すること</li> <li>・比例する事象を式に表して考察すること</li> <li>・比例のグラフのかき方、比例のグラフのよみ</li> <li>・実生活との関わりで比例する事象をみつけたり考察すること、比例さがし</li> <li>・表、式、グラフを使って比例かどうかを判断すること</li> </ul>
		前期(2学期制)の時数 [標準時数: 89時間]	85時間 (予備時数 4時間)	
10 月 (15)	10 月 (20)		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反比例の意味と性質、反比例する事象を判断すること 【反比例する】</li> <li>・反比例する事象を式に表して考察すること</li> <li>・反比例する事象をグラフに表して考察すること</li> </ul>
			1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の確認と持続、次単元のレディネスチェック</li> </ul>
		★ 算数のまど	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補充(ステップ)と発展(ジャンプ)</li> <li>・もっと学びをいかそう</li> <li>・もっと練習</li> </ul>

〈下巻〉

2学期 制	3学期 制	大単元	配当 時数	指導内容	【用語・記号】
10 月 (15)	10 月 (20)	9. 円の面積	4	・円の面積の検討づけ ・円の面積の求め方と公式	
11 月 (20)	11 月 (20)	10. 小数や分数の計算のまとめ	3	・小数や分数の四則計算の定着と活用	
		* 復習, 準備運動	1	・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック	
		11. 立体の体積	4	・角柱や円柱の体積の求め方と公式	
		12. およその形と大きさ	3	・図形の概形をとらえた, 面積や体積の概測	
		◎ 変わり方を調べて(2)	2	・整数解をみつける問題	
		13. 場合を順序よく整理して	9	・組み合わせ方を, 落ちや重なりがないように順序よく整理して調べること ・ならべ方を, 落ちや重なりがないように順序よく整理して調べること ・場合を挙げて調べ, 条件に合うものをみつける問題 ・いろいろな場合を, 仲間に分けて考える問題	
12 月 (15)	12 月 (15)	● 見積もりを使って	2	・切り上げや切り捨てによる乗法の見積もり ・見積もりの工夫	
		* 復習, 準備運動	1	・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック	
		14. 資料の調べ方	7	・資料を表(度数分布表)に整理すること ・資料を柱状グラフに表すこと 【柱状グラフ】 ・表や柱状グラフによる2つの集団の特徴の考察 ・人口のちらばりを工夫されたグラフでよみとること	
		● よみとる算数(1)	1	・表・グラフなどの資料のよみとり	
		2学期(3学期制)の時数 [標準時数: 70時間]		65時間 (予備時数 5時間)	
		* 復習, 準備運動	1	・既習内容の理解の確認と持続, 次単元のレディネスチェック	
1 月 (13)	1 月 (13)	15. 量の単位	5	・適切な計器や単位の選択 ・単位の接頭語の意味, 単位の間の関係 [kL, mg]	
		◎ 割合を使って	3	・全体を1とし, 部分の割合を考えて解く問題 ・全体を1とし, 部分の割合の和を考えて解く問題 ・割合の差や積を考えて解く問題	
		● よみとる算数(2)	1	・長文などのよみとり	
2 月 (18)	2 月 (18)	* 6年のまとめ (算数パスポート)	16	・数と量 ・計算と見積もり ・図形 ・数量の関係 ・問題の見方・考え方	
		* 地球と算数	—	・気温と二酸化炭素 ・海水温度の上昇 ・北極海の氷の溶解 ・上昇する海面 ・生活と二酸化炭素 ・森林のはたらき ・二酸化炭素排出量の削減計画 ・人と自然の共存のくふう ・中学校への旅立ち	
3 月 (10)	3 月 (10)	★ 算数のまど	—	・補充(ステップ)と発展(ジャンプ) ・もっと学びをいかそう ・もっと練習	
		3学期(3学期制)の時数 [標準時数: 41時間]		26時間 (予備時数15時間)	
		後期(2学期制)の時数 [標準時数: 86時間]		70時間 (予備時数16時間)	
年間総時数 [標準時数: 175時間]				155時間 (予備時数20時間)	

注1: 月の欄の( )の数字は、月当たりの指導時数の目安を示しています。

注2: 指導時数には復習の時間も含んでいます。復習を柔軟に扱うことで、予備時間はさらに増えます。

注3: 【 】内の太字はその単元で学習する新しい用語・記号です。

# 第1学年 単元別学習内容一覧

(オリエンテーション)			
目標			指導時数・時期
○ ものの集まりに着目し、1対1対応などにより数の多少が判断できる。 (関)・絵を見て、ものの数に関心をもつ。 (考)・数の多少を判断するには、カエルとスイレンなどを1対1に対応づけるとよいことに気づく。 (技)・カエルとスイレンなどの1対1対応により数の多少が判断できる。 (知)・数の多少の判断の仕方を理解している。			3時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬
小見出し			おもな評価規準
1～3 1 ・「かずとすうじ」への導入 4～5 2 ・1対1に対応づけ、数の多少を判断すること 3			(関)算数の学習への関心をもつ (考)(技)1対1に対応づけ、数の多少を比べることができる。

1 かずとすうじ			
目標			指導時数・時期
○ 具対物と半具対物(数図ブロック)とを対応させながら10までの数について、集合数(計量数)としての理解ができる。 ○ 5までの数について、よみ方やかき方を理解し、大小判断や合成・分解ができる。 ○ 10までの数のよみ方やかき方を理解し、大小判断ができる。 (関)・具体的な場面で、進んで数を使おうとする。 (考)・10までの数について、大小比較の仕方を考えることができる。 (技)・10までの数について、よんだり、かいたり大小を比べることができる。 (知)・5までの数の合成・分解や10までの数のよみ方、かき方、大小比較の仕方を理解している。			9時間 2学期制：4月中旬～5月上旬 3学期制：4月中旬～5月上旬
小見出し			おもな評価規準
5までの かず 6～7 1 ・5までの数の具体物と数図ブロック、数図との対応、数のよみ方 2 ・数系列、具体物—数図—数字の対応 8～9 3 ・5までの数のかき方 4 ・4・5の合成・分解			(技)(知)数図ブロックなどと対応づけながら、5までの数をよむことができる。 (技)(知)5までの数をかいたり、合成・分解ができる。
10までの かず 10～11 5 ・10までの数の具体物、数図ブロック、数図との対応、数のよみ方 6 ・前時の復習、数系列 12～13 7 ・6～10の数のかき方			(技)(知)数図ブロックなどと対応づけながら、10までの数をよむことができる。 (技)(知)6～10の数についてかくことができる。
かずあそび 14～16 8 ・絵グラフによる数の表現、大小比較 17 9 ・数字と数図ブロックの対応、数の大小比較、音の回数と数字の対応			(関)10までの数について、並べたり、比べたり、みつけたり、数えたりすることができます。(関)(考)(表) (技)数字、数図、ブロックを対応させたり、音などの回数を数で表すことができる。

2 なんばんめ			
目標			指導時数・時期
<input type="radio"/> 10までの数について、順序数としての意味を知り、集合数(計量数)と順序数の違いを理解できる。			2時間 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬
<input type="radio"/> 前後、左右、上下などのことばを正しく用いて、ものの位置を表すことができる。 (関) ・具体的な場面で、順序数で表すよさを感じ、数を使って表そうとする。 (考) ・前後、上下、左右などを用いて、位置の表し方を工夫したり、考えたりすることができます。 (技) ・集合数と順序数を使い分け、前後、上下、左右などを用いて位置を表すことができる。 (知) ・集合数と順序数の違い、前後、上下、左右などを使った位置の表し方について理解している。			
小見出し	ページ	時	学習内容
	18~19	1	・上下、左右、前後の順序数
	20	2	・順序数と集合数
おもな評価規準			
			(技)(知)順序数の役割を知り、上下、左右、前後を用いて、ものの位置を表すことができる。
			(考)順序数と集合数の違いを理解し、正しく使い分けることができる。

* ふくしゅう			
ページ	学習内容		指導時数・時期
21	・既習事項の確認と持続		1時間 2学期制：5月中旬 3学期制：5月中旬

3 いくつと いくつ			
目標			指導時数・時期
<input type="radio"/> 6, 7, 8, 9の合成・分解ができる。 <input type="radio"/> 10の合成・分解ができ、10の補数が理解できる。 <input type="radio"/> 数としての意味が理解できる。 (関) ・10までの数の合成・分解に進んで取り組もうとする。 (考) ・10までの数の合成・分解の仕方や10の補数について説明することができる。 (技) ・10までの数の合成・分解や10の補数を求めることができる。 (知) ・10までの数の合成・分解、及び0の意味を理解している。			7時間 2学期制：5月中旬～下旬 3学期制：5月中旬～下旬
小見出し	ページ	時	学習内容
	22~23	1	・6の合成・分解
	24	2	・7の合成・分解
	25	3	・8の合成・分解
	26	4	・9の合成・分解
	27	5	・10の合成・分解
	28	6	・10の補数
0というかず	29	7	・数としての0の意味
おもな評価規準			
			(技)(知)6の合成・分解ができる。
			(技)(知)7の合成・分解ができる。
			(技)(知)8の合成・分解ができる。
			(技)(知)9の合成・分解ができる。
			(技)(知)10の合成・分解ができる。
			(技)(知)10の補数を求めることができる。
			(考)(知)0という数の意味を理解している。

## 4 いろいろな かたち

目 標				指導時数・時期
○ 空き箱や空き缶、積み木などによる立体の組み立てを通して、ものの形を認めたり、形の特徴をとらえることができる。				3 時間 2 学期制：6月上旬 3 学期制：6月上旬
(関) ・身近にある立体に関心を持ち、その特徴に目を向けようとする。				
(考) ・身近にある立体の形の特徴に目を向けることができる。				
(技) ・まる、さんかく、しかくの形を使って、いろいろな絵を描くことができる。				
(知) ・身近にある立体の形を観察し、その特徴を理解している。				
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	30～31	1	・空き箱、空き缶などを使った立体の構成	(関)(技)空き箱や空き缶などを使っていろいろな立体をつくることができる。
	32	2	・立体図形の分類、弁別	(考)(技)立体の特徴をとらえ、弁別ができる。
	33	3	・立体の面の写し取りやそれを使った絵描き遊び	(関)(技)立体の面を写し取り、それを使っていろいろな絵をかくことができる。

## \* ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
34～35	・既習事項の確認と持続	1 時間 2 学期制：6月上旬 3 学期制：6月上旬

## 5 ふえたり へったり

目 標				指導時数・時期
○ 次々に変化していく数量に着目し、数の増減の意味をつかむ。				1 時間
(関) ・数量がふえたり、へったりする事象に関心をもち、変化の様子をとらえようとする。				2 学期制：6月上旬 3 学期制：6月上旬
(考) ・増減の意味を、具体的な事象や操作と関連づけて考えることができる。				
(技) ・数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」ということばを使って、ブロックを作作することができる。				
(知) ・数量が増減する事象について、操作的・体験的な活動を通して、その意味を理解している。				
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	36～37	1	・エレベータごっこを通じた、連続的な数の増減事象の体験	(考)(技) 次々に変化していく数量に着目し、活動を通して、その意味が理解できる。

## 6 たしざん(1)

目標				指導時数・時期
○ たし算が用いられる場面(合併・増加)を知り、たし算の記号や式の読み方、書き方を理解する。				7時間 2学期制：6月中旬～下旬 3学期制：6月中旬～下旬
○ (1桁)+(1桁)≤10のたし算ができる。 (関)・身近な場面において、たし算を用いて解決しようとする。 (考)・作業的・体験的な活動を通して、たし算の仕方について考えることができる。 (技)・たし算の式に表したり、式をよんだり、(1桁)+(1桁)≤10の計算が確実にできる。 (知)・たし算を適用する場面を理解し、計算の仕方を理解している。				
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
あわせて いくつ	38	1	・合併の場面の理解	(知)具体的な操作を通して、合併の場面を把握している。
	39	2	・合併の場面をたし算の式に表し、答えを求めること 【たしざん、しき、+】	(考)(知)合併の場面を式に表し、答えを求めることができる。
ふえると いくつ	40	3	・増加の場面の理解	(知)具体的な操作を通して、増加の場面を把握している。
	41	4	・増加の場面をたし算の式に表し、答えを求めること	(考)(知)増加の場面を式に表し、答えを求めることができる。
こうえん	42	5	・たし算の作問(お話づくり)	(関)(考)たし算の場面に関心をもち、いろいろ問題をつくる。
たしざんの かあど	43	6 ・ 7	・カードを使ったたし算の練習	(関)(技)カードを使って、進んでたし算の練習をする。

## 7 ひきざん(1)

目標				指導時数・時期
○ ひき算が用いられる場面(求残・求部分・求差)を知り、ひき算の記号や式の読み方、書き方を理解する。				9時間 2学期制：6月下旬～7月中旬 3学期制：6月下旬～7月中旬
○ (10以下の数)-(1桁)のひき算ができる。 (関)・作業的・体験的な活動の場面で、ひき算を用いて解決しようとする。 (考)・作業的・体験的な活動を通して、ひき算の仕方について考えることができる。 (技)・ひき算の式に表したり、式をよんだり、(10以下の数)-(1桁)の計算が確実にできる。 (知)・ひき算を適用する場面を理解し、計算の仕方を理解している。				
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
のこりは いくつ	44	1	・求残の場面の理解	(知)具体的な操作を通して、求残の場面を把握している。
	45	2	・求残の場面をひき算の式に表し、答えを求める 【ひきざん、-】	(考)(知)求残の場面を式に表し、答えを求めることができる。
	46	3	・求部分の場面をひき算の式に表し、答えを求める	(考)(知)求部分の場面を式に表し、答えを求めることができる。
ひきざんの かあど	47	4 ・ 5	・カードを使ったひき算の練習	(関)(技)カードを使って、進んでひき算の練習をする。
ちがいは いくつ	48	6	・求差の場面の理解	(知)具体的な操作を通して、求差の場面を把握している。
	49	7	・求差の場面をひき算の式に表し、答えを求める	(考)(知)求差の場面を式に表し、答えを求めることができる。
	50	8	・求残の場面で「ちがい」の意味の把握	(考)(知)「ちがい」の意味を理解し、それを使って表現することができる。
うみ	51	9	・ひき算の作問(お話づくり)	(関)(考)ひき算の場面に関心をもち、いろいろ問題をつくる。

## \* ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
52～53	・既習事項の確認と持続	1時間 2学期制：7月中旬 3学期制：7月中旬

8 20までの かず			
目 標			指導時数・時期
○ 具体に即して 20までの数の数え方、よみ方、かき方を理解する。 ○ 数を数直線上に表し、20までの数の系列・大小を理解する。 (関) ・具体的な場面を通して、20までの個数や順序を、数を用いて表したり、数直線で表そうとする。 (考) ・数にかかわる作業的・体験的な活動を通して、20までの数のよみ方、かき方、大小や順序について考えることができる。 (技) ・20までの数について、よんだり、かいたり、大小を比べたり、簡単な2位数の加減ができる。 (知) ・20までの数のよみ方、かき方、大小比較などを理解している。			7時間 2学期制：7月下旬～9月上旬 3学期制：9月上旬～中旬
小見出し	ページ	時	学習内容
54～56 ・ 2			・ 20までの数のよみ方とかき方 (技)(知)20までの数について、よみ方、かき方を理解し、よんだりかいたりすることができる。
57			・ 20までの数の大小 ・ 2とび、5とびで数えること (技)(知)20までの数の大小比較ができる。 (技)20までの数を2とびや5とびで数えることができる。
かずの ならびかた	58～59	4	・ 20までの数の系列 (知)20までの数の系列を理解している。
たしざん	60	5	・ 簡単な(2桁)+(1桁)のたし算 (技)10+4や12+4などの簡単な2位数のたし算ができる。
ひきざん	61	6	・ 簡単な(2桁)-(1桁)のひき算 (技)12-2や15-3などの簡単な2位数のひき算ができる。
たしかめ どうじょう	62～63	7	・ 4観点に基づく評価とふりかえり

● よみとるさんすう(1)			
目 標			指導時数・時期
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。 (考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。 (技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。			1時間 2学期制：9月中旬 3学期制：9月中旬
小単元	ページ	時	学習内容
64～65			・ 絵日記から適切に情報を選択して、問題を解決することができる。

## 9 おおきさくらべ(1)

目 標				指導時数・時期
○ 直接比較や間接比較により、長さやかさを比較することができる。 ○ 時刻について知り、時計で何時・何時半をよむことができる。 (関) ・身近にあるものの長さやかさに関心を持ち、比較しようとする。 また、時計に関心をもち、何時・何時半の時刻をよもうとする。 (考) ・身近にあるものの長さやかさを比べる方法を考えることができる。 また、何時・何時半の時刻のよみ方を理解できる。 (技) ・直接比較・間接比較や任意単位による測定によって、長さやかさを比較することができる。 また、時計で何時・何時半の時刻をよんだり、つくったりすることができる。 (知) ・直接比較・間接比較による長さやかさの比べ方を理解している。 また、何時・何時半の時刻のよみ方やつくり方を理解している。				5 時間 2 学期制：9月中旬～9月下旬 3 学期制：9月下旬～10月上旬
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
ながさくらべ	66～67		・長さの直接比較、間接比較	(考)(技)直接比較・間接比較により、長さを比べることができる。
	68		・任意単位による長さの測定	(考)(技)手幅や鉛筆などの任意単位により、長さの測定ができる。
かさくらべ	69		・かさの直接比較、間接比較	(考)(技)直接比較・間接比較により、かさを比べることができる。
	70～71		・かさの任意単位による測定	(考)(技)コップなどの任意単位により、かさの測定ができる。
とけい	72		・何時・何時半の時刻をよんだり、つくったりすること 【○時、○時半】	(技)(知)時計を使って、何時・何時半の時刻をよんだり、つくったりすることができる。

## 10 3つの かずの けいさん

目 標				指導時数・時期
○ 具体的操作に基づいて、3口の数の加減計算ができる。 (関) ・3口の加法・減法を用いて、身近な問題を解決しようとする。 (考) ・3口の計算の仕方を考えることができる。 (技) ・具体的な場面に即して、3口の計算ができる。 (知) ・3口の計算の仕方を理解している。				4 時間 2 学期制：9月下旬～10月上旬 3 学期制：10月上旬～中旬
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	73～75	1 ～ 4	・具体的な操作に基づく3つの数のたし算・ひき算	(技)具体的な操作に基づいて、3口の加減の場面を理解し、計算ができる。

## \* ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
76～77	・既習事項の確認と持続	1 時間 2 学期制：10月中旬 3 学期制：10月中旬

## 11 たしざん(2)

目 標				指導時数・時期
○ 繰り上がりのある(1桁)+(1桁)の計算の仕方を理解し、計算ができる。 (関)・繰り上がりのあるたし算の意味を理解し、身近な問題に用いようとする。 (考)・繰り上がりに着目して、計算の仕方を考えることができる。 (技)・繰り上がりのある(1桁)+(1桁)の計算ができる。 (知)・繰り上がりのある(1桁)+(1桁)の計算の仕方を理解している。				9時間 2 学期制：10月中旬～11月上旬 3 学期制：10月中旬～下旬
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
78～79 1 • 繰り上がりのある(1桁)+(1桁)たし算の仕方				(考)繰り上がりのある(1桁)+(1桁)のたし算の仕方を考えることができる。
80～81 2 • 繰り上がりのある(1桁)+(1桁)たし算の仕方を説明すること				(考)繰り上がりのある(1桁)+(1桁)のたし算の仕方を説明することができる。
82 3 • 加数分解による繰り上がりのあるたし算の仕方				(技)加数分解の考え方を使って、繰り上がりのある(1桁)+(1桁)の計算ができる。
83 4 • 加数分解と被加数分解の計算の仕方の比較				(考)加数分解と被加数分解の計算の仕方を比べ、それぞれの特徴を説明できる。
たしさんの かあど	84	5	• カードを使ったたし算の練習	(関)(技)カードを使って、進んでたし算の練習をする。
• 8				
たしかめどうじょう	85	9	• 4 観点に基づく評価とふりかえり	
ステップ・ジャンプ	86～87	—	本単元の補充・発展問題	

※ステップ・ジャンプは、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 12 かたちづくり

目 標				指導時数・時期
○ 色板や棒を並べたり、点をつないだりして、いろいろな形をつくり、図形を構成することができる。 (関)・色板や棒を並べたり、点を線でつないだりして、いろいろな形をつくろうとする。 (考)・色板や棒を回転・移動させて形を変形し、それらの関係をとらえることができる。 (技)・色板や棒を並べたり、点を線でつないで、いろいろな形をつくることができる。 (知)・色板や棒などを使って形を構成・分解する仕方を理解している。				5時間 2 学期制：11月上旬～中旬 3 学期制：11月上旬～中旬
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
88～89 1 • 色板を並べて、きめられた形をつくること				(関)(技)色板を並べて、きめられた形をつくることができる。
• 2				
90～91 3 • 棒を並べて、きめられた形をつくること				(関)(技)棒を並べてきめられた形をつくったり、点をつないでいろいろな形をつくることができる。
• 4 • 点をつないでいろいろな形をつくること				
92 5 • 色板や棒を回転・移動させて形を変えすること				(考)色板や棒を回転・移動させて変形させ、どんな形になるかを考察することができる。

## \* ふくしゅう・じゅんびうんどう

ページ	学習内容	指導時数・時期
93	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック	1時間 2 学期制：11月中旬 3 学期制：11月中旬

## 13 ひきざん(2)

目 標				指導時数・時期
○ 繰り下がりのある(十何)ー(1桁)の計算の仕方を理解し、計算ができる。 (関) ・繰り下がりのあるひき算の意味を理解し、身近な問題に用いようとする。 (考) ・繰り下がりに着目して、計算の仕方を考えることができる。 (技) ・繰り下がりのある(十何)ー(1桁)の計算ができる。 (知) ・繰り下がりのある(十何)ー(1桁)の計算の仕方を理解している。				11 時間 2 学期制：11 月中旬～12 月中旬 3 学期制：11 月中旬～12 月中旬
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
94～95 1 • (十何)ー(1桁)で繰り下がりのあるひき算の仕方				(考)繰り下がりのある(十何)ー(1桁)の計算の仕方を考えることができる。
96～97 2 • (十何)ー(1桁)で繰り下がりのあるひき算の説明する活動				(考)繰り下がりのある(十何)ー(1桁)の計算の仕方を説明することができる。
98 3 • 減加法による繰り下がりのある計算の仕方				(技)減加法の考え方を使って、繰り下がりのある(十何)ー(1桁)の計算ができる。
99 4 • 減加法と減減法の計算仕方の比較				(考)加数分解と被加数分解の計算の仕方を比べ、それぞれの特徴を説明できる。
たしさんの かあと	100 ～ 8	5	• カードを使ったひき算の練習	(関)(技)カードを使って、進んでひき算の練習をする。
かずあて げえむ	101	9	• カードを使ったたし算やひき算のゲーム	(関)(考)カードを使って、たし算やひき算の式をつくることができる。
けいさんの かみしばい	102	10	• 8+6 や 12-7 の式になる問題づくり	(考)(技)きめられた式になる問題をつくることができる。
たしかめどうじょう	103	11	• 4 観点に基づく評価とふりかえり	
ステップ、ジャンプ	104～105	—	本単元の補充・発展問題	

※ステップ・ジャンプは、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## ● たすのかな ひくのかな

目 標				指導時数・時期
○ 場面に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。 (関) ・問題をよみ、何算になるかの判断をしようとする。 (考) ・演算を決定した根拠を説明することができる。 (技) ・場面に即して適切に演算を決定し、計算することができる。 (知) ・加減の場面の違いを理解している。				1 時間 2 学期制：12 月中旬 3 学期制：12 月中旬
小単元	ページ	時	学習内容	
106～107 1 • 加減の場面で、適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。				

## 14 0 の たしざんと ひきざん

目 標				指導時数・時期
○ 0を含むたし算、ひき算の意味を理解し、計算ができる。 (関) ・具体的な場面で、0を含む計算に取り組もうとする。 (考) ・具体的・体験的な活動を通して、0を含む計算の意味を考えることができる。 (技) ・0を含むたし算、ひき算ができる。 (知) ・0を含むたし算、ひき算の意味と計算の仕方を理解している。				2 時間 2 学期制：12 月中旬 3 学期制：12 月中旬
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
108～109 1 • 玉入れ遊びによる0を含む加減計算の意味と計算の仕方				(考)(知)0を含む加減計算の意味を理解し、計算ができる。
• 2				

15 ものと ひとの かず				
目標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> ある数量を他の数量に対応させて解くことができる。 <input type="radio"/> 順序数についても理解を深める。 (関) ・異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算をしようとする。 (考) ・1対1対応により、異種の量の加減計算ができる考えることができる。 (技) ・操作活動を通じて、異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算ができる。 (知) ・異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算の仕方を理解している。			2時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬	
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	110	1	・ものと人の数を対応させて解く加減計算	(考)(技)ものの数と人の数を対応させて考えることができる。
	111	2	・順序数と集合数の混合計算	(考)(技)順序数と集合数の役割を理解し、問題を解決することができる。

* ふくしゅう			
ページ	学習内容		指導時数・時期
112~113	・既習事項の確認と持続		1時間 2学期制：12月下旬 3学期制：12月下旬

16 大きい かず				
目標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> 100までの数についてよみ方やかき方を知り、大小・系列を理解する。 <input type="radio"/> 100を少しこえる数について知る。 (関) ・100までの数について進んで調べようとする。 (考) ・100までの数について、位取りの考えを知り、かき方を考えることができる。 (技) ・100までの数について、よんだり、かいたり、大小を比べたり、数の構成に基づく(2桁)+(1桁)のたし算とその逆のひき算ができる。 (知) ・100までの数について、よみ方、かき方、大小・系列を理解している。				13時間 2学期制：1月中旬～2月上旬 3学期制：1月中旬～2月上旬
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
かずの かぞえかた	114~115	1	・じゃんけんゲームによる100までの数の数え方、よみ方(命数法) ・10とび5とびの数え方の工夫	(考)(知)100までの数を、10のまとまりをつくって、数えることができる。
かずの かきかた	116~117	2 ・ 3	・2位数のかき方(記数法)と構成 【一のくらい、十のくらい】	(考)(知)位取りの考えを知り、2位数のかき方を理解する。
100までの かず	118~119	4 ・ 5	・具体物による100という数の理解 ・100までの数の具体物と数表の対応	(知)具体物を数えることを通して、100という数を理解する。 (考)具体物の絵と数表とを対応させながら、100までの数を理解する。
	120~121	6 ～ 8	・100までの数の大小・系列 ・すくろくあそび	(技)(知)100までの数について、大小を判断したり、系列を考えることができる。
おかね	122	9	・数の構成に基づく加減計算	(技)数の構成に基づく(2桁)+(1桁)のたし算とその逆のひき算ができる。
さがして みよう	123	10	・身の回りから100までの数をさがすこと	(関)100までの数に 관심をもち、身の回りから探そうとする。
100を こえる か づ	124~125	11 ・ 12	・100といくつという見方による、120程度までの数の考察	(考)(知)100を少しこえる数について、100といくつという見方を通して理解できる。
たしかめどうじょう	126~127	13	・4観点に基づく評価とふりかえり	
ステップ、ジャンプ	128~129	－	本単元の補充・発展問題	

※ステップ・ジャンプは、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

● かえますか？ かえませんか？			
目 標			指導時数・時期
○ 買えるか買えないかを判断し、その理由を根拠をあげて説明することができる。 (関) ・買えるか買えないかを判断しようとする。 (考) ・買えるか買えないかの理由を、根拠をあげて説明することができる。 (技) ・場面に応じて、買えるか買えないかを判断することができる。 (知) ・買えるか買えないかを判断する仕方を理解している。			1 時間 2 学期制：2月上旬 3 学期制：2月上旬
小単元	ページ	時	学習内容
	130～131	1	・買えるか買えないかを判断し、その理由を根拠をあげて説明する。

17 100までの かずの けいさん			
目 標			指導時数・時期
○ 100までの数の簡単なたし算、ひき算 (関) ・簡単な2位数のたし算やひき算を進んでしようとする。 (考) ・数構成に基づいて、簡単な2位数のたし算やひき算の仕方を考えることができる。 (技) ・簡単な2位数についてのたし算やひき算ができる。 (知) ・簡単な2位数についてのたし算やひき算の仕方を理解している。			2 時間 2 学期制：2月中旬 3 学期制：2月中旬
小見出し	ページ	時	学習内容
	132	1	・10を単位とした(何十)±(何十)の加減計算
	133～134	2	・繰り上がり、繰り下がりのない(2桁)±(1桁)の加減計算 [発展] 繰り上がり、繰り下がりのない(2桁)±(何十)の加減計算
			おもな評価規準 (考)(技)10がいくつと考えて、(何十)±(何十)の加減計算ができる。 (考)(技)繰り上がり、繰り下がりのない(2桁)±(1桁)の加減計算ができる。

* ふくしゅう			
ページ	学習内容		指導時数・時期
135	・既習事項の確認と持続		1 時間 2 学期制：2月中旬 3 学期制：2月中旬

18 おなじ かずずつ			
目 標			指導時数・時期
○ 具体物をまとめて数えたり、等分したりして、整理して表すことができる。 (関) ・数を数える際、ブロックを操作したり、絵や式に表そうとする。 (考) ・数を数えるのにブロックの操作、絵や式に表す考え方ができる。 (技) ・数を数える際、ブロックを操作したり、絵や式に表すことができる。 (知) ・数を数える際、ブロックを操作したり、絵や式に表す仕方を理解している。			2 時間 2 学期制：2月中旬 3 学期制：2月中旬
小見出し	ページ	時	学習内容
	136～137	1 ・ 2	・具体物をまとめて数えたり、等分したりして、整理して表すこと
			おもな評価規準 (考)(技)同じ数ずつ数えたり、同じ数に分けるなどの操作を通して、かけ算やわり算の素地的な見方ができる。

19 おおい ほう すくない ほう				
目 標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> 2つの量について、小さい方の数量と差を知って、大きい方の数量を求めることができる。(求大) <input type="radio"/> 2つの量について、大きい方の数量と差を知って、小さい方の数量を求めることができる。(求小) (関) ・一方の数量と差がわかったときの他方の数量を求めようとする。 (考) ・数量の大小関係を正しくとらえ、演算決定の根拠を考えることができる。 (技) ・一方の数量と差を知って、他方の数量を求めることができる。 (知) ・一方の数量と差を知って、他方の数量を求める仕方を理解している。			2時間 2学期制：2月下旬 3学期制：2月下旬	
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	138~139	1 ・ 2	・求大・求小の問題	(考)(技) 一方の数量と差を知って、他方の数量を求めることができる。

● ものの いち				
目 標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> 前後、左右、上下などの用語を用いて、ものの位置を表すことができる。 (関) ・具体的な場面で、ものの位置をことばで表そうとする。 (考) ・ものの位置の表し方をことばで表す仕方を考えることができる。 (技) ・ものの位置を、前後、左右、上下などの用語を用いて表すことができる。 (知) ・前後、左右、上下などの用語を使った位置の表し方を理解している。			2時間 2学期制：2月下旬 3学期制：2月下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	140~141	1 ・ 2	・前後、左右、上下などを使ってものの位置を表すこと	

20 大きさくらべ(2)				
目 標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> 直接比較や間接比較により、広さ・かさを比較することができる。 <input type="radio"/> 時計で何時何分をよむことができる。 (関) ・身近にあるものの広さ・かさに関心を持ち、比較しようとする。 また、時計で何時何分の時刻をよもうとする。 (考) ・身近にあるものの広さ・かさを比べる方法を考えることができる。 また、時計で何時何分の時刻の読み方を理解できる。 (技) ・直接比較・間接比較や任意単位による測定によって、広さを比較することができる。 また、時計で何時何分の時刻をよんだり、つくったりすることができる。 (知) ・直接比較・間接比較による広さ・かさの比べ方を理解している。 また、時計で何時何分の時刻の読み方やつくり方を理解している。			4時間 2学期制：2月下旬～3月上旬 3学期制：2月下旬～3月上旬	
小見出し	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	142	1	・広さ・かさの直接比較、間接比較	(考)(技)直接比較・間接比較により、広さ・かさを比べることができる。
	143	2	・任意単位による広さの測定	(考)(技)任意単位により、広さの測定ができる。
とけい	144~145	3 ・ 4	・何時何分の時刻をよんだり、つくったりすること 【〇時〇分】	(技)(知)時計を使って、何時何分の時刻をよんだり、つくったりすることができる。

● よみとるさんすう(2)			
目 標			指導時数・時期
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。			1 時間
(関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。			2 学期制：3月上旬
(考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。			3 学期制：3月上旬
(技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。			
(知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。			
小単元	ページ	時	学習内容
	146～147	1	・牧場の場面から適切に情報を選択して、問題を解決することができる。

* もう すぐ 2ねんせい (1年のふく習)			
ページ	学習内容		指導時数・時期
148～152	・1年生の既習事項の確認と持続		3 時間 2 学期制：3月中旬 3 学期制：3月中旬

※巻末にある「けいさんのれんしゅう」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 第2学年 単元別学習内容一覧

### 上巻

1 ひょう・グラフと 時計				
目標			指導時数・時期	
○ 簡単な事項を整理して、表やグラフの形に表したり、よんだりできる。 ○ 何時何分までの時刻をよむことができる。 (関) ・事象を調べて分類・整理し、表やグラフに表そうとする。 ・時刻・時間に関心を持ち、生活と関連付けながら、時刻・時間について考えようとする。 (考) ・算数的活動を通して、分類・整理するなど数理的な処理の仕方について考えることができる。 (技) ・時刻と時間の関係を理解し、時間やある時間だけ前後の時刻の求め方を見いだすことができる。 ・簡単な事象について、分類・整理し、表や●のグラフで表すことができる。 (知) ・表やグラフの形について、よみ方、かき方を理解している。			6時間 2学期制：4月上旬～中旬 3学期制：4月上旬～中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	6～8	1	・遊び調べによる表やグラフへの動機づけ	(関)顔の絵を上手に分類し、わかりやすく貼ろうとする。
①あそびしらべ	9	2	・表とグラフによる遊び調べ 【ひょう、グラフ】	(考)分類・整理することのよさがわかる。 (技)表や●のグラフのよみ方・かき方を理解している。
②1日の生活	10～11	3	・時刻と時間の意味を理解する。	(技)時刻と時間の区別を理解し、使い分けることができる。
		4	・1時間=60分の関係を理解する。 【時こく、時間】	(知)1時間=60分の関係を理解している。
たしかめ道場	12	5	・1日=24時間の関係を理解する。 【午前、正午、午後】	(知)午前、正午、午後の意味を理解している。 (知)1日=24時間の関係を理解している。
	13	6	・4観点に基づく評価とふりかえり	

● みんなで 話しあいましょう				
目標			指導時数・時期	
○ 並べたブロックの数を求める式を考え、話し合いを通して、友だちに伝えたり、友だちの考えを理解する。 (関) ・話し合い活動に関心をもち、参加しようとする。 (考) ・話し合いで大切なことを考えることができる。 (技) ・自分の考えを説明したり、相手に質問したり意見を述べたりすることができる。 (知) ・話し合いのねらいや進め方を理解している。			1時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	14～15	1	・並べたブロックの数を求める式を考え、みんなで話し合い、まとめる。	

* ふくしゅう・じゅんびうんどう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
16～17	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬

2 たし算とひき算				
目標				指導時数・時期
<p>○ (2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の基礎計算が暗算でできる。            (関) 基本的な計算を暗算で処理しようとする。            (考) (2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算の仕方を考えることができる。            (技) (2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算が暗算でできる。            (知) (2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算について、暗算の仕方を理解している。</p>				5時間 2学期制：4月中旬～下旬 3学期制：4月中旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	18	1	・(1桁)+(1桁)の計算による(2桁)+(1桁)の暗算への動機づけ	(関)(2桁)+(1桁)の計算をしようとする。 (技)(知)(2桁)+(1桁)で何十になる計算の仕方を理解し、暗算でできる。
①たし算	19		・(2桁)+(1桁)で何十になる暗算	(考)(2桁)+(1桁)で何十になる場合に基づいて、(2桁)+(1桁)の計算の仕方を考えることができる。 (技)(知)(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)の計算の仕方を理解し、暗算でできる。
	20～21	2	・(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)の暗算	(考)(2桁)+(1桁)で何十になる場合に基づいて、(2桁)+(1桁)の計算の仕方を考えることができる。 (技)(知)(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)の計算の仕方を理解し、暗算でできる。
②ひき算	22～23	3	・(何十)−(1桁)の暗算	(技)(知)(何十)−(1桁)の計算の仕方を理解し、暗算でできる。
	24～25	4	・(2桁)−(1桁), (2桁)−(何十)の暗算	(考)(何十)−(1桁)に基づいて、(2桁)−(1桁)の計算の仕方を考えることができる。 (技)(知)(2桁)+(1桁), (2桁)−(何十)の計算の仕方を理解し、暗算でできる。
たしかめ道場	26～27	5	・4観点に基づく評価とふりかえり	

3 長さ				
目標				指導時数・時期
<p>○ 長さの普遍単位 cm, mm について理解し、ものさしを使って長さを測ったり、直線をかいたりすることができる。            (関) 長さの測定に興味をもち、進んでいろいろなものの長さを測定しようとする。            (考) 普遍単位の必要性や測定の仕方について考えることができる。            (技) 身近なものの長さを cm や mm を単位として測定したり、計算したりできる。            (知) 長さについての感覚を身につけ、長さの単位と測定の意味を理解している。</p>				9時間 2学期制：4月下旬～5月上旬 3学期制：4月下旬～5月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	28～29	1	・任意単位の測定による普遍単位の必要性と長さの学習への動機づけ	(関)ものの長さに興味をもち、進んで長さを調べようとする。 (考)普遍単位の必要性に気づき、それを説明することができる。
	30～31	2	・長さの普遍単位 cm の理解 ・cm による長さの測定 【cm, センチメートル】	(技)(知)長さの普遍単位 cm を理解し、cm 単位で長さを測定することができる。
	32	3	・長さの普遍単位 mm の理解 ・ものさしを使った長さの測定 【mm, ミリメートル, たんい】	(技)(知)長さの普遍単位 mm を理解し、ものさしを使って長さを測定することができる。
	33	4	・長さの複名数表示 【直線】	(知)長さを複名数で現すことができる。
	34	5	・ものさしを使った直線の作図	(技)ものさしを使って直線をかくことができる。
	35	6	・長さの加減計算	(技)長さに関する加減計算ができる。
	36	7	・10cm の長さづくり(量感), 10cm の長さ探し	(関)(技)10cm の量感を身につけ、進んでそれをつくろうとする。
	37	8	・身の回りのものの長さを予想し、測って確かめる。	(関)(技)長さを適切に予想し、それを測って確かめることができる。
たしかめ道場	38	9	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* ふくしゅう・じゅんびううんどう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
39	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2 学期制：5月中旬 3 学期制：5月中旬

4 たし算とひき算のひつ算(1)				
目標			指導時数・時期	
○ (2桁)+(2桁)<100, (2桁)-(2桁)の筆算の仕方を理解し、計算することができる。 ○ 加法の交換法則、加法と減法の相互関係を理解することができる。 (関) ・加減の筆算について関心を持ち、身近な問題解決に生かそうとする。 (考) ・(2桁)+(2桁)<100 や(2桁)-(2桁)の筆算の仕方を、十進位取り記数法に基づいて考えることができる。 (技) ・(2桁)+(2桁)<100 や(2桁)-(2桁)の筆算と答えの確かめができる。 (知) ・(2桁)+(2桁)<100 や(2桁)-(2桁)の筆算と答えの確かめの仕方を理解している。			10時間 2 学期制：5月中旬～6月上旬 3 学期制：5月中旬～6月上旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	40	1	・たし算の筆算への動機づけ	
①たし算	41		・(2位数)+(2位数)で繰り上がりのない 筆算 【ひつ算】	(技)(知)(2位数)+(2位数)で繰り上がりのない筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	42	2	・(2位数)+(2位数)で一の位が繰り上がる 筆算	(技)(知)(2位数)+(2位数)で一の位が繰り上がる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	43	3	・加法の交換法則を用いたたし算の筆算 の答えの確かめ	(考)加法の交換法則を知り、たし算の確かめに適用できる。
	44	4	・練習	
②ひき算	45	5	・(2位数)-(2位数)で繰り下がりのない 筆算	(技)(知)(2位数)-(2位数)で繰り下がりのない筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	46	6	・(2位数)-(2位数)で十の位が繰り下がる 筆算	(技)(知)(2位数)-(2位数)で十の位が繰り下がる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	47	7	・加法と減法の相互関係を用いたひき算 の筆算の答えの確かめ	(考)加法と減法の相互関係を知り、ひき算の答えの確かめに適用できる。
	48～49	8	・加減の問題のテープ図のかき方	(考)(技)テープ図を理解し、数量の関係をとらえて、テープ図にかくことができる。
	50	9	・練習	
たしかめ道場	51	10	・4観点に基づく評価とふりかえり	

◎ かくれた 数は いくつ				
目標			指導時数・時期	
○ 加減の逆思考の問題をテープ図を利用して解決する。 (関) ・加減の逆思考の問題を取り組もうとする。 (考) ・加減の逆思考の問題を、具体的な操作やテープ図を利用して考えることができる。 (技) ・加減の逆思考の問題を、具体的な操作や問題文と整合したテープ図を使って解決できる。 (知) ・加法と減法の相互関係を理解している。			4 時間 2 学期制：6月上旬～中旬 3 学期制：6月上旬～中旬	
小単元 ページ 時 学習内容 おもな評価規準				
	52	1	・減った数を考える逆思考の問題 ( $a - \square = b$ )	(考)減法逆の減法の問題について考えることができる。 (技)正しくテープ図をかくことができる。
	53	2	・増えた数を考える逆思考の問題 ( $a + \square = b$ )	(考)加法逆の減法の問題について考えることができる。 (技)正しくテープ図をかくことができる。
	54	3	・はじめの数を考える逆思考の問題 ( $\square + a = b$ )	(考)加法逆の減法の問題について考えることができる。 (技)正しくテープ図をかくことができる。
	55	4	・はじめの数を考える逆思考の問題 ( $\square - a = b$ )	(考)減法逆の加法の問題について考えることができる。 (技)正しくテープ図をかくことができる。

● どんな 計算に なるのかな(1)				
目標			指導時数・時期	
○ 場面に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。 (関) ・問題をよみ、何算になるかの判断をしようとする。 (考) ・演算を決定した根拠を説明することができる。 (技) ・場面に即して適切に演算を決定し、計算することができる。 (知) ・加減の場面の違いを理解している。			1 時間 2 学期制：6月中旬 3 学期制：6月中旬	
小単元 ページ 時 学習内容				
			56～57 1 ・折り紙の場面で、適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。	

* ふくしゅう・じゅんびうんどう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
58～59	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：6月中旬 3 学期制：6月中旬

5 1000までの数				
目標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> 1000までの数のしくみを理解し、よんだりかいたりできる。 <input type="radio"/> 10や100を単位とする数の相対的な見方に基づく加減計算ができる。 (関) ・ものの個数を10や100のまとまりにして数え、よんだりかいたりしようとする。 ・10や100の個数に着目して計算しようとする。 (考) ・十進位取り記数法を理解し、1000までの数の構成をとらえることができる。 ・10や100を単位とする数の相対的な見方ができる。 (技) ・1000までの数のしくみを理解し、よんだりかいたりできる。また、数の大小を>、<を使って表すことができる。 ・数の相対的な見方に基づく加減計算ができる。 (知) ・1000までの数の構成、系列、及び>、<を使った大小の表し方を理解している。 ・数の相対的な見方に基づく加減計算の仕方を理解している。	11時間 2学期制：6月中旬～7月上旬 3学期制：6月中旬～7月上旬			
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	60～62	1	・まとめて数える操作による100までの数への動機づけ	(関)100をこえる数について、調べようとする。
①100をこえる数	63～64	2	・3桁の数の表し方 【百のくらい】	(技)(知)1000までの数について、よんだりかいたりできる。
	65	4	・10を単位とする数の相対的な見方	(考)10を単位とする数の相対的な見方ができる。
	66～67	5	・1000という数の意味 ・数直線、1000までの数の系列 【1000, 千】	(知)1000という数の意味を知り、数直線上に表すことができる。
	68	7	・数の大小比較 【>, <】	(考)位取り記数法に基づいて、1000までの数の大小が判断できる。 (技)数の大小関係を>や<を使って表すことができる。
	69	8	・練習	
②たし算とひき算	70～71	9	・10や100を単位とする相対的な数の見方による簡単な加減計算	(考)(技)10を単位とする数の相対的な見方に基づいて加減計算ができる。
たしかめ道場	72	11	・4観点に基づく評価とふりかえり	

● 買えますか？ 買えませんか？				
目標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> 買えるか買えないかを判断し、その理由を根拠をあげて説明することができる。 (関) ・買えるか買えないかを判断しようとする。 (考) ・買えるか買えないかの理由を、根拠をあげて説明することができる。 (技) ・場面に応じて、買えるか買えないかを判断することができる。 (知) ・買えるか買えないかを判断する仕方を理解している。	1時間 2学期制：7月上旬 3学期制：7月上旬			
小単元	ページ	時	学習内容	
	73	1	・買えるか買えないかを判断し、その理由を根拠をあげて説明する。	

● よみとる算数(1)				
目標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。 (考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。 (技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。	1時間 2学期制：7月上旬 3学期制：7月上旬			
小単元	ページ	時	学習内容	
	74～75	1	・ゲーム大会の場面で、適切に情報を選択して、問題を解決したり、問題をつくつたりすることができる。	

## 6 か さ

目 標				指導時数・時期
○ かさの普遍単位 L, dL, mL について理解し、これらを使ってかさを測ることができる。				6 時間 2 学期制：7 月上旬～中旬 3 学期制：7 月上旬～中旬
(関) ・入れ物のかさに関心をもち、進んで身のまわりのもののかさを測定しようとする。				
(考) ・異なる容器で測ったときの不自然さから、かさの普遍単位の必要性を考えることができる。				
(技) ・かさの普遍単位 L, dL, mL を知り、それを使って測定することができる。				
(知) ・かさの普遍単位 L, dL, mL について理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	76	1	・かさの比較による普遍単位の必要性と かさの学習への動機づけ	(関)もののかさに興味をもち、進んでかさを調べようとする。
	77		・かさの普遍単位 L の理解 【L, リットル】	(考)普遍単位の必要性に気づき、それを説明することができる。 (技)(知)かさの普遍単位 L を理解し、かさを測定することができる。
	78～79	2	・かさの普遍単位 dL, mL の理解	(技)(知)かさの普遍単位 dL, mL を理解し、それを使ってかさを測定することができる。
		3	・かさの簡単な加減計算 【dL, デシリットル, mL, ミリリットル】	(知)かさの簡単な加減計算ができる。
	80	4	・1L のかさづくり(量感)	(技)1L の量感を身につけている。
	81	5	・入れ物にはいる水のかさの測定	(関)(技)いろいろな入れ物のにはいる水のかさを適切に予想して、測ろうとする。
たしかめ道場	82	6	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

## \* ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
83	・既習事項の確認と持続	2 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬

## ● 算数の じゅうけんきゅう

目 標				指導時数・時期
○ 線路のつながり方に着目して、いろいろな線路を構成することができる。				1 時間
(関) ・線路づくりに興味をもち、進んで取り組もうとする。				2 学期制：7 月中旬
(考) ・線路のつながり方に着目して、図形が構成できるきまりを考えることができる。				3 学期制：7 月中旬
(技) ・線路のつながり方に着目して、適切な線路の模様をつくることができる。				
(知) ・線路をつないで図形が構成できるきまりを理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	
	84～85	1	・線路のかかれたカードを組み合わせて、つながった線路をつくる。	

## \* じゅんびうんどう

ページ	学習内容	指導時数・時期
86	・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：7 月下旬 3 学期制：9 月上旬

## 7 たし算とひき算のひつ算(2)

目標				指導時数・時期
<p>○ <math>(2 \text{ 桁}) + (2 \text{ 桁}) \geq 100</math> の加法とその逆の減法について、筆算の仕方を理解し、計算ができる。また、<math>(3 \text{ 桁}) \pm (2 \text{ 桁})</math>の簡単な筆算の仕方を考えることができる。</p> <p>(関) ・筆算のよさがわかり、進んで筆算をしようとする。</p> <p>(考) ・<math>(2 \text{ 桁}) + (2 \text{ 桁}) \geq 100</math> の加法とその逆の減法、<math>(3 \text{ 桁}) \pm (2 \text{ 桁})</math>の簡単な筆算の仕方を、既習事項を基にして考えることができる。</p> <p>(技) ・<math>(2 \text{ 桁}) + (2 \text{ 桁}) \geq 100</math> の加法とその逆の減法の筆算ができる。</p> <p>(知) ・<math>(2 \text{ 桁}) + (2 \text{ 桁}) \geq 100</math> の加法とその逆の減法の筆算の仕方を理解している。</p>				11 時間 2 学期制：7 月下旬～9 月中旬 3 学期制：9 月上旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①たし算	87～88	1	・答えが 3 桁になる筆算への動機づけ ・ $(2 \text{ 桁}) + (2 \text{ 桁})$ で十の位が繰り上がる筆算	(関)既習事項に基づき、答えが 3 桁になる筆算の仕方を考えようとする。 (技)(知) $(2 \text{ 桁}) + (2 \text{ 桁})$ で十の位が繰り上がる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	89	2	・ $(2 \text{ 桁}) + (2 \text{ 桁})$ で一の位と十の位が繰り上がる筆算	(技)(知) $(2 \text{ 桁}) + (2 \text{ 桁})$ で一の位と十の位が繰り上がる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	90	3	・3 口のたし算	(技)3 口のたし算の筆算ができる。
	91	4	・練習	
②ひき算	92	5	・ $(百何十何) - (2 \text{ 桁})$ で百の位が繰り下がる筆算	(技)(知) $(百何十何) - (2 \text{ 桁})$ で百の位が繰り下がる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	93	6	・ $(百何十何) - (2 \text{ 桁})$ で十の位と百の位が繰り下がる筆算	(技)(知) $(百何十何) - (2 \text{ 桁})$ で十の位と百の位が繰り下がる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	94	7	・ $(百何) - (2 \text{ 桁})$ で繰り下がりが 2 桁に及ぶ筆算	(技)(知) $(百何) - (2 \text{ 桁})$ で繰り下がりが 2 桁に及ぶ筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	95	8	・練習	
③3 けたの数のひつ算	96～97	9	・ $(3 \text{ 桁}) \pm (2 \text{ 桁})$ の簡単な筆算	(考)既習事項に基づいて、 $(3 \text{ 桁}) \pm (2 \text{ 桁})$ の簡単な筆算の仕方を考えることができる。
④文と図としき	98～99	10	・文、図、式を関連づけてみること	(考)(技)文、図、式を関連づけて考えることができる。
たしかめ道場	100	11	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

## ◎ ふえたり へったり

目標				指導時数・時期
<p>○ 増えたり減ったりする事象について、オペレーター(変量)に着目して考え、問題を解決することができる。</p> <p>(関) ・増えたり減ったりする事象について、オペレーターに着目して考えようとする。</p> <p>(考) ・増えたり減ったりする事象について、オペレーターに着目するよさがわかる。</p> <p>(技) ・増えたり減ったりする事象を図などに表し、オペレーターに着目して、問題を解決することができる。</p> <p>(知) ・増えたり減ったりする事象について、オペレーターに着目する仕方を理解している。</p>				3 時間 2 学期制：9 月下旬 3 学期制：9 月下旬～10 月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	101	1	・3 要素 2 段階の増増の場面で、順に考えたり、まとめて考えたりする問題	(考)増えたり減ったりする事象について、順に考えたり、まとめて考えたりすることができる。
	102～103	2 ・ 3	・3 要素 2 段階の増増、増減の場面で、まとめて考える問題	(考)増えたり減ったりする事象について、オペレーターに着目し、まとめて考えることができる。

## 8 計算の じゅんじょ

目 標				指導時数・時期
○ 加法の結合法則と( )の意味を理解し, ( )を含む式の計算ができる。また, 記号>, <, =の意味を理解し, これらを使って式に表すことができる。 (関) ① ( )を使った式で表される場面をみつけようとする。 (考) ② ( )を使う場面を説明することができる。 (技) ③ ( )を含む式を正しく計算したり, >, <, =を使って式に表したりすることができる。 (知) ④ 加法の結合法則, 及び( )や>, <, =の意味と使い方を理解している。				2時間 2学期制: 9月下旬 3学期制: 10月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	104~105	1	・加法の結合法則, ( )の意味とその使い方	(知) 加法の結合法則, ( )の意味とその使い方を理解している。
	106	2	・記号>, <, =の意味とそれらを使った式の表し方	(技) (知) 記号>, <, =の意味を理解し, それらを使って式に表すことができる。

## ★ 算数のまど

ページ	学習内容	指導時数
107~135	・各単元の補充・発展問題など	時間配当なし

※巻末にある「算数のまど」は, 少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 下巻

9 かけ算(1)				
目 標			指導時数・時期	
○ 具体的な事項に即して、かけ算の意味を理解できる。 ○ 5,2,3,4 の段の九九を構成して唱えたり、それを適用することができる。 (関) ・5,2,3,4 の段の九九づくりに関心をもち、進んで取り組もうとする。 (考) ・かけ算が用いられる場面を具体物、ことば、式を用いて表すことができる。 (技) ・いくつずつ増えるかに着目して、5,2,3,4 の段の九九を構成し、それらを唱えることができる。 (知) ・かけ算の意味や式の表し方、倍の意味を理解している。 ・5,2,3,4 の段の九九の唱え方を理解している。			17 時間 2 学期制：10 月上旬～11 月上旬 3 学期制：10 月上旬～11 月上旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	2～4	1	・均等と不均等の比較によるかけ算の学習への動機づけ	(関)均等に置かれた場面で、基準量のいくつ分という見方で数えようとする。
①かけ算の しき	5	2	・かけ算の意味式の読み方、書き方 【×、かけ算】	(考)(知)かけ算の意味とその式の表し方理解できる。
	6	3	・累加によるかけ算の答えの求め方	(技)累加の見方でかけ算の答えを求めることができる。
	7	4	・倍の意味とその見方 【ばい】	(知)倍の意味を理解することができる。
②かけ算の 九九	8～10	5 ～ 7	・5 の段の九九の構成と唱え方 【九九】	(技)(知)答えがいくつずつ増えていくかに着目して、5 の段の九九を構成し、唱えることができる。
	11～12	8 ～ 9	・2 の段の九九の構成と唱え方	(技)(知)答えがいくつずつ増えていくかに着目して、2 の段の九九を構成し、唱えることができる。
	13～14	10 ～ 11	・3 の段の九九の構成と唱え方	(技)(知)答えがいくつずつ増えていくかに着目して、3 の段の九九を構成し、唱えることができる。
	15～16	12 ～ 13	・4 の段の九九の構成と唱え方	(技)(知)答えがいくつずつ増えていくかに着目して、4 の段の九九を構成し、唱えることができる。
	17	14	・かけられる数とかける数の意味	(考)被乗数と乗数の意味を理解し、正しく立式することができる。
	18	15	・かけ算の問題づくり	(関)(考)生活場面から、かけ算の問題をいろいろつくることができる。
	19	16	・練習	
たしかめ道場	20	17	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

* ふくしゅう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
21	・既習事項の確認と持続	1 時間 2 学期制：11 月上旬 3 学期制：11 月上旬

## 10かけ算(2)

目 標				指導時数・時期
○ 6,7,8,9,1 の段の九九を構成して唱えたり、それを適用することができる。 (関) ・6,7,8,9,1 の段の九九づくりに関心をもち、進んで取り組もうとする。 (考) ・かけ算の意味を正しく理解し、かけ算と具体的な場面を結びつけることができる。 (技) ・アレイ図を使って、6,7,8,9,1 の段の九九を構成し、それらを唱えることができる。 (知) ・6,7,8,9,1 の段の九九の唱え方を理解している。				14 時間 2 学期制：11 月上旬～下旬 3 学期制：11 月上旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	22	1	・アレイ図を使った 6,7,8,9,1 の段の九九への動機づけ	(関) 6,7,8,9,1 の段の九九づくりに関心をもち、進んで取り組もうとする。
①九九づくり	23～24	2	・6 の段の九九の構成と唱え方	(技)(知)アレイ図を使って 6 の段の九九を構成し、唱えることができる。
	25～26	4	・7 の段の九九の構成と唱え方	(技)(知)アレイ図を使って 7 の段の九九を構成し、唱えることができる。
	27	6	・8, 9 の段の九九の構成	(技)(知)アレイ図を使って 8, 9 の段の九九を構成することができる。
	28～29	7 ( 9	・8, 9 の段の九九の唱え方	(技)(知)8, 9 の段の九九を唱えることができる。
	30	10	・1 の段の九九の構成と唱え方	(技)(知)1 の段の九九を構成し、唱えることができる。
	31	11	・練習	
②かけ算をつかつたもんだい	32	12	・かけ算とたし算、ひき算の複合問題	(考)数量の関係を的確にとらえ、かけ算とたし算、ひき算の複合問題を解決することができる。
③さがしてみよう	33	13	・身の回りからかけ算で表される場面をみつけること	(関)(考)かけ算の意味を正しくとらえ、身の回りからかけ算で表される場面をみつけることができる。
たしかめ道場	34	14	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

## \* ふくしゅう

ページ	学習内容	指導時数・時期
35	・既習事項の確認と持続	1 時間 2 学期制：11 月下旬 3 学期制：11 月下旬

## ● よみとる算数(2)

目 標				指導時数・時期
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。 (考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。 (技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。				1 時間 2 学期制：12 月上旬 3 学期制：12 月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	指導時数・時期
	36～37	1	・絵日記を読んで適切に情報を選択し、問題を解決することができる。	

11 三角形と 四角形				
目標				指導時数・時期
○ 三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形について理解し、それらをつくったり性質を調べたりすることができる。 (関)・三角形や四角形に関心をもち、それらの性質を進んで調べようとする。 (考)・長方形、正方形、直角三角形について、根拠をもってそれらを弁別することができる。 (技)・紙を折って直角をつくったり、長方形、正方形、直角三角形を作図したりすることができる。 (知)・三角形、四角形、及び直角、長方形、正方形、直角三角形について理解している。				12時間 2学期制：12月上旬～下旬 3学期制：12月上旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	38～39	1	・線で囲んだ図形の仲間分けによる三角形・四角形の学習への動機づけ  【三角形、四角形】	(関)動物を線で囲み、できた図形を仲間分けしようとする。 (知)三角形、四角形の意味を理解する。
①三角形と 四角形	40	2	・三角形、四角形の弁別と構成	(考)(知)三角形や四角形を弁別し、その理由をいうことができる。
	41	3	・三角形や四角形を2つに切ってできる図形の考察  【辺、ちょう点】	(考)三角形や四角形を2つに切ってできる形を、根拠をもって考えることができる。
	42	4	・身の回りからの三角形、四角形さがし	(関)身の回りから、三角形や四角形の形をみつけようとする。
②長方形と 正方形	43	5	・紙を折る操作を通して直角を理解すること  【直角】	(技)(知)直角について知り、本やノートの角の形を確かめることができる。 (関)身の回りから直角をみつけようとする。
	44～46	6 7 8	・折り紙の作業を通した長方形、正方形、直角三角形の理解  【長方形、正方形、直角三角形】	(知)長方形、正方形、直角三角形について理解している。 (関)身の回りから、長方形や正方形の形をみつけようとする。
	47	9	・方眼紙を使った長方形、正方形、直角三角形の作図	(技)方眼紙を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。
	48～49	10 11	・長方形、正方形、直角三角形の色紙による図形の構成 ・長方形、正方形、直角三角形の敷き詰め	(考)(技)色紙を2枚並べて長方形、正方形、直角三角形をつくり、その理由を説明できる。
たしかめ道場	50	12	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* ふくしゅう・じゅんびうんどう		
ページ	学習内容	指導時数・時期
51	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬

12 九九の きまり				
目 標			指導時数・時期	
○ 九九表を使って、かけ算に関して成り立つ性質を理解する。 (関)・九九表のおもしろさに気づき、進んでかけ算のきまりをみつけようとする。 (考)・九九表からかけ算のきまりをみつけ、それを説明することができる。 (技)・かけ算のきまりを使って、簡単な2位数のかけ算の答えを求めることができる。 (知)・乗数が1増えるときの答えの増え方や交換法則など、かけ算のきまりについて理解している。			8時間 2学期制：1月中旬～下旬 3学期制：1月中旬～下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	52	1	・九九表づくりによるかけ算のきまりの学習への動機づけ	(関)九九表づくりを通して、かけ算のきまりをみつけようとする。
①九九の ひょうと きまり	53		・九九表を見て、かけ算のきまりをみつけること	(考)九九表を見て、かけ算に関して成り立つ性質をみつけることができる。
	54	2	・乗数が1増えると答えは被乗数だけ増えること	(知)かけ算では、乗数が1増えると答えは被乗数だけ増えることを理解している。
	55	3	・乗法の交換法則	(知)かけ算では、被乗数と乗数を入れ替えても答えは変わらないことを理解している。
	56	4	・同じ答えになるかけ算をみつけること	(考)答えが同じになるかけ算を、根拠をもってみつけることができる。
	57	5	・aの段とbの段をたすと、答えは(a+b)の段と同じになること	(技)aの段とbの段をたすと答えは(a+b)の段と同じになることをみつけることができる。
②九九を 広げて	58～59	6 ・ 7	・簡単な2位数のかけ算(4×12, 12×4)の答えを求めるこ	(技)かけ算のきまりを使って、簡単な2位数のかけ算の答えを求めることができる。
たしかめ道場	60	8	・4観点に基づく評価とふりかえり	

13 100cm を こえる 長さ				
目 標			指導時数・時期	
○ 長さの普遍単位mについて理解し、長さを測ったり量感を深めることができる。 (関)・長さの普遍単位mに関心をもち、いろいろな長さを測定しようとする。 (考)・長さの普遍単位mの必要性を理解し、既習事項に基づいて、100cmをこえる長さの表し方を考えることができる。 (技)・対象の長さや目的に応じて適切に単位を選択し、長さを測定することができる。 (知)・長さの普遍単位mについて理解している。			6時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	61～62	1	・両手を広げた長さの測定による学習への動機づけ	(関)両手を広げた長さの測り方を進んで考えようとする。 (考)両手を広げた長さの測定を通して普遍単位mの必要性に気づく。
	63	2	・長さの普遍単位mの理解 【m, メートル】	(知)長さの普遍単位mについて理解している。
	64～65	3 ・ 4	・1mの長さをつくったり、身の回りからみつけたりすること	(技)1mの量感を身につけている。
	66～67	5	・身の回りのものの長さを予想してから測る	(関)(技)身の回りのものの長さを適切に予想し、進んで測ろうとする。
たしかめ道場	68～69	6	・4観点に基づく評価とふりかえり	

◎ ちがいをみて				
目標			指導時数・時期	
○ 求大・求小の逆思考の問題を解くことができる。 (関)・求大、求小の逆思考の問題に進んで取り組もうとする。 (考)・問題場面をとらえてテープ図に表し、根拠をもって立式することができる。 (技)・求大、求小の逆思考の場面で、適切に演算を決定することができる。 (知)・加法と減法の相互関係を使って立式できること理解している。			2時間 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	70	1	・求大の逆思考の問題	
	71	2	・求小の逆思考の問題	
おもな評価規準				
			(考)求大の逆思考の問題を考えることができる。 (考)求小の逆思考の問題を考えることができる。	

● どんな計算になるのかな(2)				
目標			指導時数・時期	
○ 場面に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。 (関)・問題をよみ、何算になるかの判断をしようとする。 (考)・演算を決定した根拠を説明することができる。 (技)・場面に即して適切に演算を決定し、計算することができる。 (知)・乗法の用いられる場面を理解している。			1時間 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
			72～73 1 ・遊びの場面で、適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。	

* ふくしゅう・じゅんびうんどう				
ページ	学習内容			指導時数・時期
74～75	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック			1時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬

14 10000までの数				
目標			指導時数・時期	
○ 10000までの数について、よんだりかいたりできる。 ○ 100や1000を単位として数を相対的にみることができる。 (関)・10000までの数について、100や1000のまとまりにして数えようとする。 (考)・桁数の少ない場合を基にして、10000までの数を十進位取り記数法に即してとらえることができる。 (技)・10000までの数をよんだりかいたり、100や1000を単位として相対的にみたりすることができる。 (知)・10000までの数のよみ方やかき方、系列・大小について理解している。			7時間 2学期制：2月中旬～下旬 3学期制：2月中旬～下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
(課題設定)	76～77	1	・1000をこえる数の数え方と学習の動機づけ	
	78	2	・4桁の数の表し方 【千のくらい】	
	79	3	・100や1000を単位とする数の相対的な見方	
	80～81	4 5	・10000という数の理解 ・10000までの数の系列・大小 【10000, 一万】	
	82	6	・練習	
たしかめ道場	83	7	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## 15 はこの形

目標				指導時数・時期
<p>○ 箱の観察や製作を通して、面、辺、頂点に着目し、立体の構成要素について理解する。</p> <p>(関)・工作用紙やひごなどを使って、進んで箱づくりに取り組もうとする。</p> <p>(考)・箱の観察や製作を通して、構成要素(頂点、辺、面)の形や数に着目することができる。</p> <p>(技)・工作用紙やひごなどを適切に選んで、箱をつくることができる。</p> <p>(知)・箱の形について、頂点、辺、面などの形や数について理解している。</p>				4時間 2学期制：2月下旬～3月上旬 3学期制：2月下旬～3月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	84	1	・箱の観察による学習の動機づけ 【面】	(関)箱の観察を通して、構成要素に着目しようとする。
①はこの形	85		・箱の構成要素を調べること	(知)面、辺、頂点などの構成要素の形や数について理解する。
②はこづくり	86	2	・工作用紙を使って、箱の形をつくること	(考)(技)長方形や正方形をつなぎ合わせて箱の形をつくり、それぞれの形が何枚必要かを説明できる。
	87	3	・ひごと粘土玉を使って、箱の形をつくること	(考)(技)ひごと粘土玉を使って箱の形をつくり、それぞれがいくつ必要かを説明できる。
たしかめ道場	88	4	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## ◎ 何番目

目標				指導時数・時期
<p>○ 順序数と集合数のちがいを理解し、それらを使って位置や人数などを表すことができる。</p> <p>(関)・具体的な場面で、順序数や集合数を使って、位置や人数などを表そうとする。</p> <p>(考)・順序数と集合数の違いを理解し、適切に図などに表すことができる。</p> <p>(技)・順序数と集合数の違いを理解し、正確に数量の関係をとらえることができる。</p> <p>(知)・集合数と順序数の違いについて理解している。</p>				1時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	89	1	・順序数と集合数の複合問題	(考)(技)順序数と集合数の違いを理解し、正確に数量の関係をとらえることができる。

## 16 分 数

目標				指導時数・時期
○ 等分してできる大きさの表し方を知り、簡単な分数について理解する。				3時間
(関) ・日常の生活で用いられる「半分」や「半分の半分」の大きさに関心をもち、具体的な操作活動に取り組もうとする。				2学期制：3月上旬～中旬 3学期制：3月上旬～中旬
(考) ・二等分、四等分の大きさの表し方を知り、八等分などの表し方を考えることができる。				
(技) ・二等分、四等分の大きさを分数で表すことができる。				
(知) ・分数を使うと二等分、四等分などの大きさを表せることを理解している				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	90	1	・具体物を二等分、四等分することによる簡単な分数の学習への動機づけ	(関)リンゴやケーキを二等分、四等分した経験から等分した大きさの表し方に関心をもつ。
	91		・いろいろな紙を折って、半分の大きさをつくること	(技)いろいろな紙を折って半分の大きさをつくることができる。
	92	2	・テープを半分に折った大きさの考察 【二分の一、 $\frac{1}{2}$ 】	(技)(知)テープを折って半分の大きさをつくり、その表し方を考えることができる。
	93	3	・半分のテープをさらに半分に折った大きさの考察 【四分の一、 $\frac{1}{4}$ 、分数】	(技)(知)テープを折って半分の半分の大きさをつくり、その表し方を考えることができる。 (考)二等分、四等分の表し方に基づいて、八等分の表し方を考えることができる。

## \* もうすぐ 3年生 (2年のふく習)

ページ	学習内容	指導時数・時期
94～98	・2年生の既習事項の確認と持続	3時間 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬

## ★ 算数のまど

ページ	学習内容	指導時数
99～123	・各単元の補充・発展問題など	時間配当なし

※巻末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

# 第3学年 単元別学習内容一覧

## 上巻

1 九九の表とかけ算				
目標				指導時数・時期
○ 乗数が1ずつ増減するときの積の変化、10や0のかけ算について理解する。 (関)・九九表に関心を持ち、進んできまりや10や0のかけ算に取り組もうとする。 (考)・乗数が増減するときの積の変化を、九九を基にして考えることができる。 (技)・乗数の増減に伴う積の変化について理解し、10や0のかけ算ができる。 (知)・乗数の増減に伴う積の変化の様子や10や0のかけ算の意味を理解している。				6時間 2学期制：4月上旬～中旬 3学期制：4月上旬～中旬
小単元				おもな評価規準
(課題設定)				(関)九九の表を見て、進んでかけ算のきまりを見つけようとする。
				(考)(知)乗数が1ずつ増減するときの積の変化を考察し、理解することができる。
				(技)(知)10や0のかけ算の仕方を考え、答えを求めることができる。
				(考)(知) $a \times \square = b$ や $\square \times a = b$ の□にあてはまる数を見つけること(わり算の素地)
				(考)(知)あてはまる数は、いずれもaの段の九九を使って求められることを理解している。
たしかめ道場	11～12	6	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

2 わり算				
目標				指導時数・時期
○ わり算の意味と計算の仕方を理解する。 ○ わり算とたし算、ひき算を組み合わせた問題を解くことができる。 (関)・ものを分ける活動を通して、等分除と包含除の意味をとらえようとする。 (考)・わり算の意味や計算の仕方について、かけ算を基にして考えることができる。 (技)・わり算の意味を理解し、九九を使って確実に答えを求めることができる。 (知)・等分除、包含除の違いを知り、わり算の意味を理解している。				12時間 2学期制：4月中旬～5月中旬 3学期制：4月中旬～5月中旬
小単元				おもな評価規準
(課題設定)				(関)あめを等分する活動を通して、わり算に関心をもつ。
①分け方とわり算				(知)等分除の意味を理解している。
				(13～16)・あめを分ける場面によるわり算の学習への動機づけ ・わり算(等分除)の意味 【÷, わり算】
				(考)(技)等分除の答えの求め方を考えることができる。
				(17)・わり算(等分除)の計算の仕方
				(知)包含除の意味を理解している。 (考)(技)包含除の答えの求め方を考えることができる。
				(18～19)・わり算(包含除)の意味と計算の仕方
				(考)等分除も包含除も同じ式に表せ、いずれも九九を使って答えが求められることを理解する。
				(20)・等分除と包含除の統合
				(知)0のわり算の意味と計算の仕方を理解している。
				(21)・0のわり算
				(22)・練習
②わり算を使って				(関)(知)身の回りからわり算の場面を探し、いろいろ問題をつくろうとする。
				(23)・わり算の作問
				(技)(知)倍を求めるときもわり算が使えることを知り、答えを求めることができる。
				(24)・倍を求めるわり算
				(技)数量の関係を的確にとらえ、わり算とたし算、ひき算の複合問題を解決することができる。
③答えが九九にないわり算				(25)・わり算とたし算、ひき算の複合問題
				(考)既習事項を基に、簡単な商が2桁になるわり算( $80 \div 4$ , $36 \div 3$ など)
たしかめ道場	26～27	10 ・ 11	・簡単な商が2桁になるわり算( $80 \div 4$ , $36 \div 3$ など)	(考)既習事項を基に、簡単な商が2桁になるわり算の計算の仕方を考えることができる。
たしかめ道場	28～29	12	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

● どんな計算になるのかな			
目標			指導時数・時期
○ 場面に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。 (関) ・問題をよみ、何算になるかの判断をしようとする。 (考) ・演算を決定した根拠を説明することができる。 (技) ・場面に即して適切に演算を決定し、計算することができる。 (知) ・除法の用いられる場面を理解している。			1 時間 2 学期制：5月中旬 3 学期制：5月中旬
小単元	ページ	時	学習内容
	30～31	1	・ピクニックの場面で、適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。

2 円と球			
目標			指導時数・時期
○ 円や球についての基本的な事項を理解する。 ○ コンパスを使って円をかいたり、長さを写し取ったりすることができる。 (関) ・円や球に関心をもち、それらについて調べようとする。 (考) ・円を使った模様のかき方や球の直径の測り方を考えることができる。 (技) ・円や円を使った模様をかいたり、球の直径を測ったりすることができる。 (知) ・円や球についての基本的な事項を理解している。			7 時間 2 学期制：5月中旬～下旬 3 学期制：5月中旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容
(課題設定)	32	1	・こまづくりによる学習への動機づけ
	33～34	2	・円の概念と性質、作図
		3	・直径と中心の関係 【円、中心、半径、直径】
	35	4	・コンパスを使ったもようづくり
	36	5	・コンパスのディバイダーとしての使い方
	37	6	・球の概念と性質 【球】
たしかめ道場	38	7	・4 観点に基づく評価とふりかえり

* ふく習			
ページ	学習内容		指導時数・時期
39	・既習事項の確認と持続		1 時間 2 学期制：5月下旬 3 学期制：5月下旬

● みんなで 話しあいましょう			
目標			指導時数・時期
○ ボールのはいった箱の縦の長さの求め方を考え、話し合いを通して、友だちに伝えたり、友だちの考えを理解する。 (関) ・話し合い活動に関心をもち、参加しようとする。 (考) ・話し合いで大切なことを考えることができる。 (技) ・自分の考えを説明したり、相手に質問したり意見を述べたりすることができる。 (知) ・話し合いのねらいや進め方を理解している。			1 時間 2 学期制：5月下旬 3 学期制：5月下旬
小単元	ページ	時	学習内容
	40～41	1	・ボールのはいった箱の縦の長さの求め方を考え、みんなで話し合い、まとめる。

## ◎ かくれた数はいくつ(1)

目標				指導時数・時期
○ 乗法や除法の逆思考の問題を解くことができる。 (関) ・問題解決の際、乗法や除法に関する知識や技能を用いようとする。 (考) ・乗法や除法の逆思考の問題で、数量の関係を線分図や関係図に表し、乗除の関係を見抜くことができる。 (技) ・乗法や除法の逆思考の問題を、線分図や関係図をかいて解くことができる。 (知) ・乗法と除法の相互関係を理解している。				2時間 2学期制：5月下旬～6月上旬 3学期制：5月下旬～6月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	42～43	1	・乗法の逆思考の問題 ( $\square \times a = b$ )	(考) 乗法逆の除法の問題について考えることができる。 (技) 数量の関係を線分図や関係図にかくことができる。
	44	2	・除法の逆思考の問題 ( $\square \div a = b$ )	(考) 除法逆の乗法の問題について考えることができる。 (技) 数量の関係を線分図や関係図にかくことができる。

## \* じゅんび運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
45	・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬

## 4 たし算とひき算の筆算

目標				指導時数・時期
○ 桁数の少ない場合を基にして、3桁の加減の筆算の仕方を考えることができる。 (関) ・(3桁)±(3桁)の計算の仕方を進んで考えようとする。 (考) ・桁数の少ない場合を基にして、(3桁)±(3桁)の筆算の仕方を考えることができる。 (技) ・正しく(3桁)±(3桁)の筆算をして、答えを求めることができる。 (知) ・(3桁)±(3桁)の筆算の仕方を理解している。				12時間 2学期制：6月上旬～中旬 3学期制：6月上旬～中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	46	1	・文房具の買い物の場面での3桁の数の計算の学習への動機づけ	(関)文房具の買い物場面を通して、3桁の数の計算に関心を持つ
①何百のたし算とひき算	47		・100を単位とした数の相対的な見方に基づく(何百)+(何百)とその逆のひき算	(考)(技)100を単位とする数の相対的な見方に基づいて加減計算ができる。
②たし算の筆算	48	2	・(3位数)+(3位数)で一の位が繰り上がる筆算	(技)(知)(3桁)+(3桁)で一の位が繰り上がる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	49	3	・(3桁)+(3桁)で一の位と十の位が繰り上がる筆算	(考)(技)(3桁)+(3桁)で一の位と十の位が繰り上がる筆算の仕方を考えることができる。
	50	4	・(3桁)+(3桁)で百の位が繰り上がる筆算	(考)(技)(3桁)+(3桁)で百の位が繰り上がる筆算の仕方を考えることができる。
③ひき算の筆算	51	5	・練習	
	52	6	・(3桁)−(3桁)で十の位が繰り下がる筆算	(技)(知)(3桁)−(3桁)で十の位が繰り下がる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	53	7	・(3桁)−(3桁)で百の位が繰り下がる筆算	(考)(技)(3桁)−(3桁)で百の位が繰り下がる筆算の仕方を考えることができる。
	54	8	・(3桁)−(3桁)で十の位と百の位が繰り下がる筆算	(考)(技)(3桁)−(3桁)で十の位と百の位が繰り下がる筆算の仕方を考えることができる。
	55	9	・(何百何)−(3桁)で繰り下がりが2桁に及ぶ筆算	(考)(技)(何百何)−(3桁)で繰り下がりが2桁に及ぶ筆算の仕方を考えることができる。
④4けたの数の筆算	56	10	・練習	
	57	11	・(4桁)±(4桁)の加減の筆算	(考)桁数の少ない場合を基にして、(4桁)±(4桁)の筆算の仕方を考えることができる。
たしかめ道場	58	12	・4観点に基づく評価とふりかえり	

● 買えますか？ 買えませんか？			
目 標			指導時数・時期
<input type="radio"/> 買えるか買えないかを判断し、その理由を根拠をあげて説明することができる。 (関) ・買えるか買えないかを判断しようとする。 (考) ・買えるか買えないかの理由を、根拠をあげて説明することができる。 (技) ・場面に応じて、買えるか買えないかを判断することができる。 (知) ・買えるか買えないかを判断する仕方を理解している。			1 時間 2 学期制：6 月下旬 3 学期制：6 月下旬
小単元	ページ	時	学習内容
	59	1	・買えるか買えないかを判断し、その理由を根拠をあげて説明する。

* ふく習・じゅんび運動			
ページ	学習内容		指導時数・時期
60~61	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック		1 時間 2 学期制：6 月下旬 3 学期制：6 月下旬

5 一億までの数			
目 標			指導時数・時期
<input type="radio"/> 一億までの数のしくみ、よみ方、かき方を理解する。 <input type="radio"/> 10 倍、100 倍や 10 でわった数の位の変化を理解する。 (関) ・生活の中にある大きな数に関心を持ち、そのしくみを調べようとする。 (考) ・十進位取り記数法に基づいて、一億までの数のしくみを考えることができる。 (技) ・一億までの数について、よんだり、かいたり、大小を判断することができる。 (知) ・一億までの数のしくみ、よみ方、かき方を理解している。			10 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月中旬 3 学期制：6 月下旬～7 月中旬
小単元	ページ	時	学習内容
(課題設定) ①万の位	62~64	1	・サッカーの場面による学習の動機づけ ・一万をこえる数の表し方 <b>【一万の位】</b>
	65	2	・千万の位までの数の表し方 <b>【十万の位、百万の位、千万の位】</b>
	66~67	3	・一億という数の理解 ・一億までの数の系列・大小 <b>【一億、数直線】</b>
	68	5	・10000 を単位とした数の相対的な見方 に基づく加減計算
②10 倍した数、10 でわった数	69~70	6	・10 倍、100 倍した数と位の変化 ・
	71	8	・10 でわった数と位の変化
	72	9	・練習
たしかめ道場	73	10	・4 観点に基づく評価とふりかえり

6 たし算とひき算				
目標			指導時数・時期	
○ 簡単な(2桁)±(2桁), 100-(2桁)の暗算ができる。 (関) ・簡単な(2桁)±(2桁), 100-(2桁)の計算を暗算で行おうとする。 (考) ・(2桁)±(2桁), 100-(2桁)の暗算の仕方を考えることができる。 (技) ・(2桁)±(2桁), 100-(2桁)の計算が暗算でできる。 (知) ・(2桁)±(2桁), 100-(2桁)の暗算の仕方を理解している。			4 時間 2 学期制 : 7 月中旬 3 学期制 : 7 月中旬	
小単元			学習内容	
	74	1 ・ 2	• (2桁)+(2桁)の暗算	
			(技) (2桁)+(2桁)の計算が暗算でできる。	
	75	3 ・ 4	• (2桁)-(2桁), 100-(2桁)の暗算	
			(技) (2桁)-(2桁), 100-(2桁)の計算が暗算でできる。	

● 算数の自由研究				
目標			指導時数・時期	
○ 路のつながり方に着目して, いろいろな迷路を構成することができる。 (関) ・迷路づくりに興味をもち, 進んで取り組もうとする。 (考) ・路のつながり方に着目して, 迷路が構成できるきまりを考えることができる。 (技) ・路のつながり方に着目して, 適切な迷路をつくることができる。 (知) ・路をつないで迷路が構成できるきまりを理解している。			1 時間 2 学期制 : 7 月中旬 3 学期制 : 7 月中旬	
小単元			学習内容	
			76~77 1 • 路のつながり方に着目して, いろいろな迷路をつくる。	

* ふく習・じゅんび運動				
ページ	学習内容		指導時数・時期	
78~79	• 既習事項の確認と持続 • 次単元のレディネスチェック		1 時間 2 学期制 : 7 月下旬 3 学期制 : 9 月上旬	

7 時間と長さ				
目標			指導時数・時期	
○ 分と秒の関係について知り, 必要な時刻や時間を求めること。 ○ 長さの単位 km について知り, 長さの計算ができる。 (関) ・進んで日常生活で必要な時刻や時間を求めようとする。 ・進んで道のりの見当をつけたり, 長さを巻き尺で測ろうとする。 (考) ・時, 分, 秒が60進法に基づいていることを使って, 時間や時刻の求め方を考えることができる。 ・長さの量感を身につけ, それを根拠にいろいろな長さを予想できる。 (技) ・ストップウォッチを使って時間を測定したり, 時刻や時間の計算ができる。 ・巻き尺を使って身の回りの長さを測定したり, 簡単な長さの計算ができる。 (知) ・時間の単位 秒 を知り, 分と秒の関係, 時刻や時間の求め方を理解している。 ・長さの単位 km を知り, 長さを巻き尺で測定する方法を理解している。			9 時間 2 学期制 : 7 月下旬~9 月中旬 3 学期制 : 9 月上旬~下旬	
小単元			学習内容	
(課題設定)	80	1	• 学校の回りの探検による時刻と時間, 長さの学習への動機づけ	
			(関)学校の回りの探検を通して, 時刻と時間, 長さに関心をもつ。	
①時こくと時間	81		• 時刻や時間の求め方	
			(考)(技)時間が 60 進法に基づいていることを使って, 時刻や時間を求めることができる。	
	82	2	• 一定時間経過前後の時刻の求め方	
	83	3	(考)(技)時間が 60 進法に基づいていることを使って, 一定時間経過前後の時刻を求めることができる。 • 時間の単位 秒 の理解, 1 分 = 60 秒 【秒】 (知)時間の単位 秒 について知り, 分と秒の関係を理解している。	

②長さしらべ	84	4	・長さの単位 km の理解, 1km=1000m 【km, キロメートル】	(関)長い長さの表し方に関心を持つ。 (知)長さの単位 km を知り, m と km の関係を理解している。
	85	5	・長さの加減計算	(技)簡単な長さの加減計算ができる。
	86	6	・巻尺の使い方	(技)巻き尺を使って身の回りの長さを測定することができる。
	87	7	・10 秒間に歩いた道のり, 100m を歩いた時間の測定	(考)(技)10 秒間に歩く道のりや 100m 歩く時間について妥当な予想ができる。
	88	8	・長さの見当づけと実測 (長さの量感)	(考)(技)身近な長さを予想できる量感を身につけている。
たしかめ道場	89~90	9	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

* じゅんび運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
91	・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制 : 9 月中旬 3 学期制 : 9 月下旬

8 あまりのあるわり算				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	92	1	・あめを分ける場面での余りのあるわり算への動機づけ	(関)あめを分ける場面を通して、余りがあるわり算について考えようとする。
①あまりのあるわり算のしかた	93		・余りのあるわり算の意味と計算の仕方 【あまり、わり切れる、わり切れない】	(技)(知)わり算の余りの意味を理解し、正しく計算ができる。
	94~95	2 ・ 3	・除数と余りの大小関係	(考)余りは除数よりも常に小さくなることを理解し、その理由を説明できる。
	96	4	・余りのあるわり算の答えの確かめ	(技)(知)かけ算を使って、余りのあるわり算の確かめをすることができる。
	97	5	・練習	
②あまりを考えて	98	6	・余りを処理する問題	(考)(技)状況に応じて余りを切り上げるか、切り捨てるかを判断することができる。
たしかめ道場	99	7	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

◎ 何倍でしょう				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	100	1	・3 要素 2 段階の問題を、順に考えたり、まとめて考えて解決すること	(考)順に考えたり、まとめて考えて問題を解決することができる。
	101	2	・オペレーターに着目し、何倍になるかを考えて、3 要素 2 段階の問題を解決すること	(考)オペレーターに着目する考え方によさに気づき、何倍になるかを考えて問題を解決することができる。 (技)数量の関係を関係図に表すことができる。

9 計算のじゅんじょ				
目 標			指導時数・時期	
○ 乗法の結合法則について理解する。 (関) ・乗法の結合法則を使って問題を解決しようとする。 (考) ・多くの数をかけるときの計算方法を考えることができる。 (技) ・乗法の結合法則を使って、問題を解決することができる。 (知) ・乗法の結合法則について理解している。			1 時間 2 学期制：10月上旬 3 学期制：10月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	102～103	1	・乗法の結合法則	(考)(知)多くの数をかけるとき、どこから先に計算しても答えは同じになることを理解している。

● よみとる算数(1)				
目 標			指導時数・時期	
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。 (考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。 (技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。			1 時間 2 学期制：10月上旬 3 学期制：10月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	104～105	1	・公園の地図づくりの場面で、適切に情報を選択して、問題を解決したり、その理由を説明したりすることができる。	

◎ 間の数				
目 標			指導時数・時期	
○ 順序数と集合数の混じった問題を図などに表して解くことができる。 (関) ・順序数と集合数の混じった事象に興味をもち、進んで取り組もうとする。 (考) ・順序数と集合数を選別し、的確にそれらの関係をとらえることができる。 (技) ・順序数と集合数の混じった事象を図などに表して解決することができる。 (知) ・順序数と集合数の混じった事象を図などに表す仕方を理解している。			1 時間 2 学期制：10月中旬 3 学期制：10月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	106	1	・順序数と集合数の混じった問題 ・植木算の問題	(考) 順序数と集合数の違いを理解し、問題を解決することができる。 (技) 数量の関係を図などに表すことができる。

★ 算数のまど		
ページ	学習内容	指導時数
107～137	・各単元の補充・発展問題など	時間配当なし

※巻末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 下巻

### 10 三角形

目 標				指導時数・時期
○ ・二等辺三角形、正三角形について理解し、それらをかくことができる。 (関) ・二等辺三角形や正三角形に関心をもち、それらの性質を調べようとする。 (考) ・いろいろな三角形から二等辺三角形や正三角形を弁別することができる。 (技) ・コンパスを使って、二等辺三角形や正三角形を作図することができる。 (知) ・二等辺三角形や正三角形の定義・性質について理解している。				7 時間 2 学期制：10 月中旬～下旬 3 学期制：10 月中旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①二等辺三角形と正三角形	2～4	1	・ストローやひごでつくった三角形の分類による三角形の学習への動機づけ <b>【二等辺三角形、正三角形】</b>	(関)三角形を辺の長さに目をつけて分類しようとする。
	5	2	・コンパスを使った二等辺三角形、正三角形のかき方	(考)(技)二等辺三角形の性質を使って、かき方を考えることができる。
	6	3	・円や色紙を使った三角形づくり	(考)円の中にかいた三角形が二等辺三角形であることを、性質を根拠に説明することができる。
②角	7	4	・角についての理解、角の大きさ比べ <b>【角】</b>	(技)(知)角について理解し、角の大小を判断することができる。
	8～9	5	・二等辺三角形と正三角形の角	(知)二等辺三角形と正三角形の角についての性質を理解している。
	10～11	6	・二等辺三角形や正三角形による敷き詰め	(技)二等辺三角形や正三角形を敷き詰め、いろいろな形を見出すことができる。
たしかめ道場	12	7	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

### 11 1 けたをかけるかけ算の筆算

目 標				指導時数・時期
○ (2,3 桁)×(1 桁)の筆算の仕方を理解し、計算ができる。 (関) ・(2,3 桁)×(1 桁)の筆算に関心をもち、計算の仕方を考えようとする。 (考) ・十進位取り記数法を基にして、(2,3 桁)×(1 桁)の筆算の仕方を考えることができる。 (技) ・(2,3 桁)×(1 桁)の筆算ができる。また、簡単な(2 桁)×(1 桁)の暗算ができる。 (知) ・(2,3 桁)×(1 桁)の筆算の仕方を理解している。				13 時間 2 学期制：10 月下旬～11 月中旬 3 学期制：10 月下旬～11 月中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①何十・何百のかけ算	13～14	1	・買い物の場面による(2,3 桁)×(1 桁)の計算の学習への動機づけ	(関)買い物場面を通して、何十や何百に 1 桁の数をかける計算に関心を持つ。 (技)10 や 100 を単位とした数の相対的な見方で、(何十,何百)×(1 桁)の計算ができる。
②(2 けた)×(1 けた)の筆算	15	2	・(2 桁)×(1 桁)の計算を位毎に分けて考えること	(考)(2 桁)×(1 桁)の計算を位毎に分けて考えることができる。
	16～17	3 ・ 4	・(2 桁)×(1 桁)の筆算 (積が 100 未満)	(技)(2 桁)×(1 桁)の筆算(積が 100 未満)の仕方を理解し、繰り上がりに気をつけて計算ができる。
	18～19	5 ・ 6	・(2 桁)×(1 桁)の筆算 (積が 100 以上)	(技)(2 桁)×(1 桁)の筆算(積が 100 以上)の仕方を理解し、繰り上がりに気をつけて計算ができる。
	20	7	・練習	
③(3 けた)×(1 けた)の筆算	21～22	8 ・ 9	・(3 桁)×(1 桁)の筆算	(技) (3 桁)×(1 桁)の筆算の仕方を理解し、繰り上がりに気をつけて計算ができる。
	23	10	・(3 桁)×(1 桁)の筆算 (十の位が空位)	(技) (3 桁)×(1 桁)の筆算(十の位が空位)の仕方を理解し、計算ができる。
	24	11	・練習	
④暗算	25	12	・簡単な(2 桁)×(1 桁)の暗算	(技)簡単な(2 桁)×(1 桁)の計算が暗算でできる。
たしかめ道場	26	13	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

* ふく習		
ページ	学習内容	指導時数・時期
27	・既習事項の確認と持続	1時間 2 学期制：11 月下旬 3 学期制：11 月下旬

12 重 さ				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	28~29	1	・天秤を使った重さの間接比較, 1円玉(任意単位)を使った測定による重さへの動機づけ	(関)天秤を使って重さの間接比較をしたり, 1円玉を使って重さを測定しようとする。
	30~31	2 ・ 3	・重さの普遍単位 $g$ , $kg$ の理解と測定 【 $g$ , グラム, $kg$ , キログラム】	(技)(知)重さの普遍単位 $g$ , $kg$ を理解し, 測定することができる。
	32	4	・1kg の量感の感得	(知)1kg の量感を身につけている。
	33	5	・物の重さの予想と計器の選択	(考)(技)物の重さの見当をつけ, 適切に計器を選んで測定することができる。
	34~35	6	・重さの加減計算	(技)重さの加減計算ができる。
	36~37	7	・重さの普遍単位 $g$ , $kg$ , $t$ の間の関係 【 $t$ , トン】	(知)重さの普遍単位 $t$ を知り, $g$ , $kg$ , $t$ の単位間の関係を理解している。
たしかめ道場	38	8	・4観点に基づく評価とふりかえり	

13 分 数				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	39~40	1	・端数部分の表し方による分数の学習への動機づけ 【 $\frac{1}{2}$ , 2分の1, $\frac{1}{3}$ , 3分の1】	(関)端数部分を表すのに分数を用いようとする。 (知)はしたの量を表すのに分数を用いることを理解している。
	41	2	・端数部分の表し方 (単位分数のいくつ分) 【 $\frac{2}{3}$ , 3分の2, 分数, 分母, 分子】	(考)(技)単位分数以外の分数は, 単位分数のいくつ分で表せることに気づく。 (知)分母, 分子の用語を知っている。

	42	3	・液量の分数表示、10等分した大きさ 【 $\frac{1}{10}$ 】	(知)液量も分数で表せることを理解している。
	43	4	・数としての分数、 $\frac{5}{5} = 1$	(知)分数は数の仲間であるとを理解している。 (考)分母と分子が同じ分数は1に等しいことを分数の意味に基づいて考えることができる。
	44	5	・分数を数直線上に表すこと	(技)分数を数直線上に表すことができる。
	45	6	・同分母分数の大小 【等号、不等号】	(考)(技)分数の意味に基づいて、分数の大小を判断することができる。
	46	7	・同分母分数の加減計算	(考)(技)分数の意味に基づいて、分数の加減計算の仕方を考えることができる。
	47	8	・「分数ものさし」づくり	(関)(技)床の木目などを使って、分数目盛りのものさしをつくり、いろいろな長さを測ることができる。
	48~49	9	・練習	
たしかめ道場		50	10	・4観点に基づく評価とふりかえり

◎ べつべつに、いつしょに				
目標			指導時数・時期	
○ 加減と乗法の混じった問題について、まとまりを考えて解決することができる。 (関)・加減と乗法の混じった問題に進んで取り組もうとする。 (考)・加減と乗法の混じった問題で、まとめてかける方法のよさを気づくことができる。 (技)・加減と乗法の混じった問題について、まとまりを考えて解くことができる。 (知)・加減と乗法の混じった計算では、別々に考えても、組にして考えても答えは同じになることを理解している。			3時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	51	1	・加法と乗法の混じった問題を、別々に考えたり、まとまりを考えて解決すること	(考)加法と乗法の混じった問題を、別々に考えたり、まとまりを考えて解決することができる。
	52~53	2 ・ 3	・加減と乗法の混じった問題を、まとまりを考えて解決すること	(考)加減と乗法の混じった問題を、まとまりを考えて解決することができる。

14 計算のきまり				
目標			指導時数・時期	
○ 分配法則について理解し、正しく計算ができる。 (関)・分配法則に関心を持ち、進んで計算しようとする。 (考)・分配法則を理解し、そのことを説明することができる。 (技)・分配法則を理解し、正しく計算することができる。 (知)・分配法則の意味と計算の順序について理解している。			1時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	54~55	1	・分配法則 $a \times c + b \times c = (a+b) \times c$	(技)(知)分配法則について理解し、正しく計算ができる。

* ふく習・じゅんび運動				
ページ	学習内容			指導時数・時期
56~57	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック			1時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬

## 15 表とグラフ

目標				指導時数・時期
○ 資料を分類・整理し、目的に応じて観点をきめ、表にまとめることができる。 ○ 棒グラフについて理解し、よんだりかいたりできる。 (関)・身近な事象について、目的に応じて表にまとめたり、よんだりしようとする。 (考)・落ちや重なりがないように、資料を分類・整理する方法を考えることができる。 (技)・資料を分類・整理して表にまとめ、棒グラフに表すことができる。 (知)・資料を分類・整理して表にまとめたり、棒グラフに表す方法を理解している。				8時間 2学期制：1月中旬～2月上旬 3学期制：1月中旬～2月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	58	1	・スポーツ調べによる表や棒グラフの学習への動機づけ	(関)スポーツ調べを通して、資料を手際よく分類・整理する方法を考えようとする。
①表づくり	59		・資料を分類・整理して表にまとめること（正の字を使った方法）	(考)資料を落ちや重なりがないように分類・整理する方法を考えることができる。
②ぼうグラフ	60～61 ・ 3	2	・棒グラフの見方、よみ方 【ぼうグラフ】	(技)(知)棒グラフについて見方・よみ方を理解する。
	62～64 ・ 5	4	・棒グラフのかき方	(技)(知)棒グラフのかき方を理解し、実際にかくことができる。
③くふうした表	65	6	・簡単な2次元の表	(考)同一項目の場合は、1つの表にまとめると便利であることに気づく。
	66	7	・2つの棒グラフの比較	(考)2つの棒グラフを見て、特徴をよみとり、それを説明することができる。
たしかめ道場	67	8	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## 16 小 数

目標				指導時数・時期
○ 端数部分の表し方として小数があることを知り、その意味や表し方を理解する。 ○ $\frac{1}{10}$ の位までの小数の加減計算ができる。 (関)・分数とは別の端数部分の表し方について関心を持つ。 (考)・小数の大小・系列、加減計算を小数の意味に基づいて考えることができる。 (技)・ $1/10$ の位までの小数の加減計算ができる。 (知)・小数の大小・系列、加減計算の仕方を理解している。				8時間 2学期制：2月上旬～中旬 3学期制：2月上旬～中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	68	1 ・ 2	・ $\frac{1}{10}$ による端数部分の表し方による小数の学習への動機づけ	(関) $\frac{1}{10}$ による端数部分の表し方の別の表し方に関心をもつ。
①はしたの大きさと小数	69～70		・小数の表し方、小数表記と複名数表記【0.1、小数、小数点、 $\frac{1}{10}$ の位、整数】	(知)小数について理解し、よんだり、かいたりすることができます。
②小数の大きさ	71	3	・小数の構成、数直線上への表記、大小・系列	(知)小数の構成を理解し、数直線上に表したり、大小比較ができる。
	72	4	・数直線上での小数と分数の関係	(考)数直線を使って、小数と分母が10の分数の関係を考えることができます。
③小数のたし算・ひき算	73	5	・0.1のいくつ分という見方による加減計算	(技)0.1のいくつ分という見方で、簡単な小数の加減計算が暗算でできる。
	74	6	・ $\frac{1}{10}$ の位までの小数の加減の筆算	(技)(知) $\frac{1}{10}$ の位までの小数の加減の筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	75	7	・練習	
たしかめ道場	76	8	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## \* ふく習・じゅんび運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
77	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬

## 17 2けたをかけるかけ算の筆算

目 標				指導時数・時期
○ (2,3桁)×(2桁)の筆算の仕方を理解し、計算ができる。 (関)・(2,3桁)×(2桁)の筆算に関心をもち、計算の仕方を考えようとする。 (考)・十進位取り記数法を基にして、(2,3桁)×(2桁)の筆算の仕方を考えることができる。 (技)・(2,3桁)×(2桁)の筆算ができる。 (知)・(2,3桁)×(2桁)の筆算の仕方を理解している。				6時間 2学期制：2月中旬～下旬 3学期制：2月中旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	78	1	・1桁をかける計算を基にした、何十をかける計算への動機づけ	(関)みかん3個の値段と30個の値段を比べることから、何十をかける計算の仕方を考えようとする。
①何十をかけるかけ算	79	2	・(2桁)×(何十)の計算の仕方を考えること	(考)30個の値段は3個の値段の10倍であることを基に、何十をかける計算の仕方を考えることができる。
②(2けた)×(2けた)の筆算	80～81	2 ・ 3	・(2桁)×(2桁)の筆算	(考)(技)(2桁)×(1桁)を基にして、(2桁)×(2桁)の筆算の仕方を考え、答えを求めることができる。
③(3けた)×(2けた)の筆算	82	4	・(3桁)×(2桁)の筆算	(考)(技)(2桁)×(1桁)を基にして、(2桁)×(2桁)の筆算の仕方を考え、答えを求めることができる。
	83	5	・練習	
たしかめ道場	84～85	6	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## ● よみとる算数(2)

目 標				指導時数・時期
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (関)・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。 (考)・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。 (技)・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (知)・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。				1時間 2学期制：2月下旬 3学期制：2月下旬
小単元	ページ	時	学習内容	指導時数・時期
	86～87	1	・リサイクル活動の場面で、適切に情報を選択して、問題を解決したり、その理由を説明したりすることができる。	

## ◎ かくれた数はいくつ(2)

目 標				指導時数・時期
○ 3要素2段階の順思考と逆思考の複合問題を解決することができる。 (関)・筋道立てて考えるよさに気づき、進んで取り組もうとする。 (考)・数量の関係を適切にとらえ、筋道立てて考えることができる。 (技)・順思考と逆思考の複合問題を線分図などに表して、解決することができる。 (知)・順思考と逆思考の複合問題の解き方を理解している。				2時間 2学期制：2月下旬～3月上旬 3学期制：2月下旬～3月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	88～89	1 ・ 2	・3要素2段階の順思考と逆思考の複合問題	(考)数量の関係を適切にとらえ、筋道立てて問題を解決することができる。 (技)数量の関係を線分図などに表すことができる。

18 □を使った式				
目標			指導時数・時期	
○ 未知の値を含む数量を□を使った式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。			3時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬	
(関) ・□を使った式の□にあてはまる数の求め方を考えようとする。				
(考) ・□を使った式の□にあてはまる数の求め方を考えることができる。				
(技) ・未知の値を含む数量を□を使った式に表したり、□にあてはまる数を求めたりすることができる。				
(知) ・□を使った式の表し方や□にあてはまる数の求め方を理解している。				
小単元 ページ 時 学習内容 おもな評価規準				
(課題設定)	90	1	・袋にはいっているあめの個数を□として式に表すことによる□を使った式の学習への動機づけ	(関)袋にはいっているあめの数を□とおいて式に表そうとする。
			・□を使った式の□にあてはまる数を求めること(加法、減法)	(考)(技)未知の数を□として、たし算や引き算の式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。
	92～93	2 ・ 3	・□を使った式の□にあてはまる数を求めること(乗法、除法)	(考)(技)未知の数を□として、かけ算やわり算の式に表し、□にあてはまる数を求めることができる。

19 そろばん				
目標			指導時数・時期	
○ 算盤の構造、部分の名称などを知り、算盤を正しく使用できる。			3時間	
○ 算盤による加減計算の仕方を理解し、珠算の基本的な技能を身につける。			2学期制：3月上旬～中旬	
(関) ・そろばんによる簡単な加法や減法の仕方を進んで身につけようとする。			3学期制：3月上旬～中旬	
(考) ・繰り上がり・繰り下がりを伴う珠の動かし方を考えることができる。				
(技) ・そろばんを使って簡単な加法、減法の計算ができる。				
(知) ・そろばんによる簡単な加法、減法の計算の仕方を理解している。				
小単元 ページ 時 学習内容 おもな評価規準				
	94	1	・そろばんの仕組み、数の入れ方(おき方)とはらい方	(知)そろばんの仕組みや名称を知り、数の入れ方を理解する。
			・6+2, 3+6, 4-3, 8-6の珠の動かし方	(技)6+2, 3+6, 4-3, 8-6がそろばんを使って計算できる。
	95	2	・4+1, 4+2, 5-1, 6-2の珠の動かし方	(技)4+1, 4+2, 5-1, 6-2がそろばんを使って計算できる。
			・9+3, 7+6, 11-3, 13-7の珠の動かし方	(技)9+3, 7+6, 11-3, 13-7がそろばんを使って計算できる。
	98	3	・大きな数や小数の計算	(技)そろばんを使って大きな数や小数の計算ができる。

* もうすぐ4年生(3年のふく習)		
ページ	学習内容	指導時数・時期
99～102	・3年生の既習事項の確認と持続	2時間 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬

★ 算数のまど		
ページ	学習内容	指導時数
103～128	・各単元の補充・発展問題など	時間配当なし

※巻末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 第4学年 単元別学習内容一覧

### 上巻

1 角とその大きさ				
目標			指導時数・時期	
○ 角の大きさを回転の大きさとしてとらえることができる。 ○ 角の大きさを測定したり、目的の大きさの角を作図することができる。 (関)・角の大きさに関心をもち、身近にある図形の角度を進んで測ろうとする。 (考)・角の大きさを回転の大きさととらえ、その測り方を説明することができる。 (技)・角度を測ったり、目的の大きさの角をかくことができる。 (知)・角度の単位を知り、その測り方を理解している。			9時間	
			2学期制：4月上旬～中旬	
			3学期制：4月上旬～中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	6～7	1	・おうぎ形づくりによる、角(回転角)の学習への動機づけ	(関)おうぎ形づくりを通して、回転角に関心をもち、角について調べようとする。
①角のはかり方とかき方	8～9	2	・角度の普遍単位 $^{\circ}$ とその測定 【 $^{\circ}$ ，度】	(知)角度の普遍単位 $^{\circ}$ と分度器のしくみを理解する。 (技)分度器を使って角度の測定ができる。
	10～11	3 4	・半回転、一回転の角 ・ $180^{\circ}$ をこえる角度の測定、角度の量感	(知)半回転や一回転の角の大きさについて理解し、角度の量感を感得する。 (考) $180^{\circ}$ をこえる角の大きさの測り方を考えることができる。
	12	5	・角のかき方	(技)目的の大きさの角をかくことができる。
	13	6	・かたむき分度器づくり	(関)(技)かたむき分度器をつくって、いろいろなところの角度を測ろうとする。
②三角形の角	14	7	・正三角形や二等辺三角形の角の考察	(知)正三角形や二等辺三角形の角の大きさについて理解している。
③三角じょうぎの角	15	8	・三角定規の角と簡単な角度の加減計算	(知)三角定規の角について知る。 (技)簡単な角度の加減計算ができる。
たしかめ道場	16～18	9	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* ふく習・じゅんび運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
19	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬

2 1けたでわるわり算の筆算				
目標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> (2,3 桁)÷(1 桁)のわり算の筆算の仕方を理解し、計算ができる。 <input type="radio"/> 簡単な(2 桁)÷(1 桁)の計算が暗算ができる。 (関) ・操作活動を通して、(2,3 桁)÷(1 桁)の筆算の仕方を考えようとする。 (考) ・操作活動と既習の計算を関連づけながら、筆算の仕方を考えることができる。 (技) ・(2,3 桁)÷(1 桁)の筆算、および答えの確かめができる。 (知) ・(2,3 桁)÷(1 桁)の筆算の仕方、および答えの確かめ方を理解している。			11 時間 2 学期制：4 月下旬～5 月中旬 3 学期制：4 月下旬～5 月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	20	1	・色紙を分ける操作によるわり算の学習の動機づけ	(関)色紙を分ける操作を通して、わり算の学習に関心をもつ。
①答えが何十・何百になる計算	21		・10 や 100 の個数に着目したわり算	(考)(技)10 や 100 の個数に着目して、(何十)÷(1 桁)や(何百)÷(1 桁)の計算ができる。
②(2 けた)÷(1 けた)の筆算	22	2	・色紙を等分する具体的な操作	(技)具体的な操作を通して、(2 桁)÷(1 桁)のわり算の答えを求めることができる。
	23	3	・(2 桁)÷(1 桁)で商が 2 桁になる筆算(余りなし) 【商】	(技)(知)(2 桁)÷(1 桁)で商が 2 桁になる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	24～25	4	・(2 桁)÷(1 桁)で商が 2 桁になる筆算(余りあり)	(技)(知)(2 桁)÷(1 桁)で商が 2 桁になる筆算の仕方を理解し、計算ができる。
		5	・答えの確かめと確かめの式(わる数)×(商)+(余り)=(わられる数)	(考)(技)被除数、除数、商、余りの関係を理解し、答えを確かめることができる。
③(3 けた)÷(1 けた)の筆算	26	6	・練習	
	27	7	・(3 桁)÷(1 桁)で商が 3 桁になる筆算	(考)(技)桁数の少ない場合を基に、(3 桁)÷(1 桁)で商が 3 桁になる筆算の仕方を考えることができる。
	28	8	・(3 桁)÷(1 桁)で商が 2 桁になる筆算	(考)はじめの位に商が立たない場合の筆算の仕方を考えることができる。
	29	9	・練習	
④暗算	30	10	・(2 桁)÷(1 桁)の暗算	(技)(2 桁)÷(1 桁)の計算が暗算ができる。
たしかめ道場	31	11	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

● みんなで話しあいましょう				
目標			指導時数・時期	
<input type="radio"/> かけ算の筆算の工夫の仕方を考え、話し合いを通して、友だちに伝えたり、友だちの考えを理解する。 (関) ・話し合い活動に関心をもち、参加しようとする。 (考) ・話し合いで大切なことを考えることができる。 (技) ・自分の考えを説明したり、相手に質問したり意見を述べたりすることができる。 (知) ・話し合いのねらいや進め方を理解している。			1 時間 2 学期制：5 月中旬 3 学期制：5 月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	32～33	1	・かけ算の筆算の工夫の仕方を考え、みんなで話し合い、まとめる。	

◎ 何倍でしょう				
目標			指導時数・時期	
○ オペレーター(変量)に着目し、何倍になるかを考えて、3要素2段階の逆思考の問題を解決することができる。 (関)・オペレーターに着目した考えを使って、問題を解決しようとする。 (考)・オペレーターに着目する考えのよさに気づくことができる。 (技)・オペレーターに着目して問題を解決することができる。 (知)・a倍のb倍が(a×b)倍になることを理解している。			2時間	
			2学期制：5月中旬	
			3学期制：5月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	34	1	・3要素2段階の逆思考の問題を、順に戻したり、まとめて考えて解決すること	(考)順に戻したり、まとめて考えて問題を解決することができる。
	35	2	・オペレーターに着目し、何倍になるかを考えて、3要素2段階の逆思考の問題を解決すること	(考)オペレーターに着目する考えのよさに気づき、何倍になるかを考えて問題を解決することができる。 (技)数量の関係を関係図に表すことができる。

* ふく習・じゅんび運動			
ページ	学習内容		指導時数・時期
36~37	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック		1時間 2学期制：5月下旬 3学期制：5月下旬

3 一億をこえる数				
目標			指導時数・時期	
○ 一億をこえる数のしくみや表し方について理解する。 (関)・一億をこえる数のしくみを既習の数と関連づけて調べようとする。 (考)・一億をこえる数のしくみを十進位取り記数法に基づいて考えることができる。 (技)・一億をこえる数をよんだり、かいたりすることができる。 (知)・億や兆の単位と数が十進位取り記数法に基づいていることを理解している。			8時間	
			2学期制：5月下旬~6月上旬	
			3学期制：5月下旬~6月上旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①億と兆	38~40	1	・世界の人口による、一億をこえる大きな数への動機づけ ・一億をこえる数のしくみ	(関)世界の人口を通して、一億をこえる数について関心をもつ。 (知)一億をこえる数のしくみについて理解している。
	41	2	・一兆をこえる数のしくみ 【一兆】	(知)一兆をこえる数のしくみについて理解している。
	42	3	・大きな数の構成	(知)大きな数の加法的・乗法的構成について理解している。
	43	4	・10倍したり、10でわったりした数と位の関係	(技)10倍したり、10でわったりしたときの位の変化について理解している。
②大きな数のかけ算	44	5	・(3桁)×(3桁)の筆算 【積】	(考)(技)桁数の少ない場合に基づいて、(3桁)×(3桁)の筆算の仕方を考えることができる。
	45	6	・相対的な見方による大きな数のかけ算 ・末尾に0のあるかけ算の筆算	(考)(技)100×100=一万、一万×一万=一億の関係を使って計算したり、末尾に0のあるかけ算を筆算で工夫してできる。
	46	7	・練習	
たしかめ道場	47	8	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## 4 式と計算の順じよ

目標				指導時数・時期
○ ( )を含む式や四則混合式について計算の順序を知り、計算のきまりを理解する。 ○ 式を見て具体的な場面を想起したり、問題をつくることができる。 (関)・四則計算に関する計算のきまりに関心を持ち、これを用いて計算しようとする。 (考)・計算のきまりを用いて、効率的な計算方法を考えることができる。 (技)・計算のきまりを用いて、工夫して計算することができる。 (知)・( )の使い方や乗除先行をはじめ、分配法則等の計算のきまりを理解している。				9時間 2学期制：6月上旬～中旬 3学期制：6月上旬～中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	48	1	・総合式と分解式の比較による式に関する学習への動機づけ	(関)おつりを求める式を考えることを通して、式のきまりに関心をもつ。
①式とその計算の順じよ	49	2 ・ 3	・( )を使って式に表すこと	(知)( )の使い方と計算の順序についてのきまりを知り、( )を使った式に表すことができる。
			・四則混合式の計算の順序ときまりのまとめ	(技)(知)( )の使い方や乗除先行など計算の順序に関するきまりを理解し、正しく計算ができる。
②計算のきまり	52～53	4	・分配法則など計算のきまりのまとめ	(知)分配法則などの計算法則を知り、それを確かめることができる。
	54～55	5	・計算のきまりを使った計算の工夫	(考)(技)計算のきまりを使って、複雑な計算の答えを工夫して求め、それを説明することができる。
③計算の間の関係	56	6	・乗法と除法、加法と減法の相互関係	(考)(知)乗法と除法、加法と減法の相互関係を理解し、□にあてはまる数を逆算で求める方法を知る。
④式のよみ方	57	7	・式から具体的な場面をよみとること	(考)(技)式を見て、具体的な場面を想起したり、どのように考えたかを説明することができる。
	58	8	・練習	
たしかめ道場	59	9	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## 5 折れ線グラフ

目標				指導時数・時期
○ 折れ線グラフのよみ方やかき方を理解する。 (関)・折れ線グラフに特徴をとらえ、変化の様子をよみとろうとする。 (考)・折れ線グラフをよんだり、かいたりすることができます。 (技)・表にまとめられた数値などをよみとり、折れ線グラフにかくことができる。 (知)・折れ線グラフから変化の特徴をよみとる仕方を理解している。				6時間 2学期制：6月下旬 3学期制：6月下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	60	1	・1日の気温変化の考察による折れ線グラフの学習への動機づけ	(関)1日の気温の変化の考察を通して、進んで変化の様子を調べようとする。
①変わり方を表すグラフ	61	2 ・ 3	・折れ線グラフのよみと変化の様子のとらえ方  【折れ線グラフ】	(技)(知)折れ線グラフを見て、変化の様子をよみとることができる。 (技)線の傾きから変化の増減をとらえることができる。
			・線の傾き具合と変化の大小	(考)(技)線の傾き具合から変化の大きさをよみとることができる。
②折れ線グラフのかき方	64～65	4	・折れ線グラフのかき方	(技)折れ線グラフのかき方を理解し、実際にかくことができる。
			・縮尺の変更と波線の使い方	(考)(知)変化が小さい場合、目盛りの縮尺を変え、波線を使ってわかりやすくグラフをかき直せることを理解している。
たしかめ道場	68	6	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* ふく習・じゅんび運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
69	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2 学期制：6 月下旬 3 学期制：6 月下旬

6 小 数			
小単元	ページ	時	学習内容
(課題設定)	70	1	・0.1 に満たない端数部分の表し方による小数の学習への動機づけ
①小数の表し方	71		・ $\frac{1}{100}$ の位までの小数の表し方
	72	2	・ $\frac{1}{1000}$ の位の小数の表し方
②小数のしきみ	73	3	・1, 0.1, 0.01, 0.001 の相互の関係
	74	4	・小数の加法的・乗法的構成 【 $\frac{1}{100}$ の位, $\frac{1}{1000}$ の位, 小数第1位, 小数第2位, 小数第3位】
	75	5	・10倍, 10 でわったときの位の変わり方
③小数のたし算・ひき算	76～77	6 ・ 7	・ $\frac{1}{100}$ の位までの小数の加減計算
たしかめ道場	78	8	・4 観点に基づく評価とふりかえり

* ふく習		
ページ	学習内容	指導時数・時期
79	・既習事項の確認と持続	1時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬

● 算数の自由研究			
小単元	ページ	時	学習内容
	80～81	1	・輪を 2 つ以上つないで切ったときにできる形を調べることができる。
			(関) ・不思議な輪に興味をもち, 進んで取り組もうとする。 (考) ・輪のつなぎ方に着目して, 切ったときにできる形を予想することができる。 (技) ・輪のつなぎ方を変えて, いろんな形をつくることができる。 (知) ・不思議な輪のつくり方を理解している。

## 7 面 積

目 標				指導時数・時期
○ 面積の概念について理解し、面積の普遍単位 $\text{cm}^2$ , $\text{m}^2$ , $\text{km}^2$ , $a$ , $\text{ha}$ を知る。 ○ 長方形、正方形の面積の公式を知り、面積を求めることができる。 (関) ・面積について関心をもち、長方形、正方形の面積を求めようとする。 (考) ・単位正方形の個数に着目して、長方形や正方形の面積の公式を考えることができる。 (技) ・長方形や正方形の面積の公式を用いて、いろいろな図形の面積を求めることができる。 (知) ・長方形や正方形の面積の求め方知り、面積の公式を理解している。				10 時間 2 学期制：7 月中旬～9 月上旬 3 学期制：9 月上旬～中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	82～83	1	・花壇の広さ比べによる面積の学習への動機づけ	(関)花壇の広さの比べ方をいろいろ考えようとする。
①面積	84～85	2	・面積の普遍単位 $\text{cm}^2$ 【面積, $\text{cm}^2$ , 平方センチメートル】	(技)(知)面積の普遍単位 $\text{cm}^2$ を知り、面積を求めることができる。
	86～87	3	・長方形、正方形の面積の公式とその利用	(考)(知)面積は単位正方形の個数で表すことを知り、長方形や正方形の面積の公式を理解することができる。
	88～89	4 ・ 5	・面積の普遍単位 $\text{m}^2$ 【 $\text{m}^2$ , 平方メートル】	(技)(知)面積の普遍単位 $\text{m}^2$ を知り、面積を求めることができる。
	90	6	・ $1\text{m}^2$ の面積づくりと面積探し（量感）	(技)(知) $1\text{m}^2$ の面積づくりを通して、量感を感得している。
②面積の求め方のくふう	91	7	・L 字型の図形の面積のいろいろな求め方	(考)(技)L 字型の図形の面積をいろいろに考えて求め、それを説明することができる。
③大きな面積	92	8	・面積の普遍単位 $\text{km}^2$ の理解 【 $\text{km}^2$ , 平方キロメートル】	(技)(知)面積の普遍単位 $\text{m}^2$ を知り、面積を求めることができる。
	93	9	・面積の普遍単位 $a$ , $\text{ha}$ と面積の単位間の関係 【 $a$ , アール, $\text{ha}$ , ヘクタール】	(技)(知)面積の普遍単位 $a$ , $\text{ha}$ を知り、面積を求めることができる。 (知)面積の単位間の関係を理解している。
たしかめ道場	94～95	10	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

## \* ふく習・じゅんび運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
96	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：9 月中旬 3 学期制：9 月下旬

## 8 2 けたでわるわり算の筆算

目 標				指導時数・時期
○ 2 術でわるわり算の筆算の仕方を理解し、計算ができる。 (関) ・操作活動を通して、2 術でわるわり算の仕方を考えようとする。 (考) ・既習の計算を基にして、2 術でわるわり算の筆算の仕方を考えることができる。 (技) ・2 術でわるわり算の筆算をすることができる。 (知) ・2 術でわるわり算の筆算の仕方を理解している。				11 時間 2 学期制：9 月中旬～10 月上旬 3 学期制：9 月下旬～10 月中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①何十でわるわり算	97～98	1	・あめが買える個数を考えることによる 2 術でわるわり算の学習の動機づけ ・10 の個数に着目した(何十)÷(何十)のわり算	(関)あめが買える個数を考えることを通して、わり算の学習に関心をもつ。 (考)(技)10 の個数に着目して、(何十)÷(何十)のわり算ができる。
	99	2	・10 の個数に着目した、(何百何十)÷(何十), (何百)÷(何十)のわり算	(技)10 の個数に着目して、(何百何十)÷(何十)や(何百)÷(何十)の計算ができる。

②商が1けたになる筆算	100～101	3	・(2桁)÷(2桁)の筆算	(技)(知) (2桁)÷(2桁)の筆算の仕方を理解し、計算ができる。
	102	4	・(3桁)÷(2桁)の筆算 (仮商の修正なし)	(技)(知) (3桁)÷(2桁)の筆算(仮商の修正なし)の仕方を理解し、計算ができる。
	103	5	・(3桁)÷(2桁)の筆算 (仮商の修正あり)	(技)(知) (3桁)÷(2桁)の筆算で、仮商の修正の仕方を理解し、正しく商を求めることができる。
③商が2けた、3けたになるわり算	104～105	6 ・ 7	・(3桁)÷(2桁)や(4桁)÷(2桁)の筆算	(考)(技)桁数の少ない場合を基に、(3桁)÷(2桁)や(4桁)÷(2桁)の筆算の仕方を考えることができる。
	106	8	・練習	
④わり算のせいしつ	107	9	・わり算の性質(被除数と除数の両方に同じ数を乗除しても商は変わらないこと)の理解	(知)わり算では、被除数と除数の両方に同じ数を乗除しても商は変わらないことを理解している。
	108	10	・わり算の性質を使った計算の工夫	(考)(技)わり算の性質を使って、計算の工夫ができる。
たしかめ道場	109	11	・4観点に基づく評価とふりかえり	

● よみとる算数(1)			
小単元	ページ	時	学習内容
			○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。 (考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。 (技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。
	110～111	1	・水の節約に関する資料から適切に情報を選択して、問題を解決したり、その理由を説明したりすることができる。

9 そろばん			
小単元	ページ	時	学習内容
			○ そろばんでの小数や大きな数の加減計算の仕方を理解し、基本的技能を身につける。 (関) ・そろばんによる小数や大きな数の加法や減法の仕方を進んで身につけようとする。 (考) ・繰り上がり・繰り下がりを伴う珠の動かし方を考えることができる。 (技) ・そろばんを使って、小数や大きな数の加法、減法の計算ができる。 (知) ・そろばんによる小数や大きな数の加法、減法の計算の仕方を理解している。
	112～113		・そろばんを使った小数や大きな数の計算

* ふく習			
ページ	学習内容		指導時数・時期
114	・既習事項の確認と持続		1時間 2学期制：10月上旬 3学期制：10月中旬

★ 算数のまど			
ページ	学習内容		指導時数
115～139	・各単元の補充・発展問題など		時間配当なし

※卷末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 下巻

10 がい数とその計算				
目 標			指導時数・時期	
○ 概数の意味を理解し、四捨五入によって概数を求めることができる。 (関) ・概数に関心を持ち、身の回りで概数を見つけようとする。 (考) ・数直線などを用いて、概数や概数の表す範囲を考えることができる。 (技) ・大きな数量を四捨五入によって概数処理し、棒グラフに表すことができる。 (知) ・概数の意味と四捨五入の仕方を理解している。			8 時間 2 学期制：10 月中旬～下旬 3 学期制：10 月中旬～下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
(課題設定) ①がい数の表し方	2～4	1	・野球場の入場者数調べによる概数の学習への動機づけ ・四捨五入による概数のとり方 <b>【がい数、切り捨て、切り上げ、四捨五入】</b>	
	5	2	・概数のとり方（ある位までの概数、上から○桁の概数）	
	6	3	・概数の表す範囲 <b>【以上、未満、以下】</b>	
	7	4	・概数を使って折れ線グラフに表すこと	
②がい数の計算	8～9	5	・和や差を概数で求めること <b>【和、差】</b>	
	10～11	6	・積や商を概数で求めること ・	
	7			
たしかめ道場	12～13	8	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

● 見積もりを使って				
目 標			指導時数・時期	
○ 100 や 1000 などのまとまりをつくって合計を見積もることができる。 (関) ・100 や 1000 などのまとまりをつくって、合計を見積もろうとする。 (考) ・およその答えがわかれればよい場面において、見積もりの有用性を理解できる。 (技) ・100 や 1000 などのまとまりをつくって、合計を見積もることができる。 (知) ・100 や 1000 などのまとまりをつくる見積もりの仕方を理解している。			1 時間 2 学期制：10 月下旬 3 学期制：10 月下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	14～15	1	・見積もりの有用性を理解し、細かい計算をしないで、100 や 1000 のまとまりをつけて合計を見積もる仕方について考える。	

● どんな計算になるのかな				
目 標			指導時数・時期	
○ 場面に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。 (関) ・問題をよみ、何算になるかの判断をしようとする。 (考) ・演算を決定した根拠を説明することができる。 (技) ・場面に即して適切に演算を決定し、計算することができる。 (知) ・四則演算の用いられる場面を理解している。			1 時間 2 学期制：10 月下旬 3 学期制：10 月下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	16～17	1	・ケーキを買う場面で、適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。	

## 11 整数の計算のまとめ

目標				指導時数・時期
○ 整数に関する四則演算について振り返り、理解を深める。 (関) ・整数の計算を振り返り、計算の力を身につけ、伸ばそうとする。 (考) ・整数は、十進位取り記数法に基づいて、単位のいくつ分と考えたり、位毎に分けたりして四則計算ができると説明できる。 (技) ・整数の四則計算について理解し、確実に計算ができる。 (知) ・整数の四則計算の仕方を確実に理解している。				2時間 2学期制：11月上旬 3学期制：11月上旬
小単元				おもな評価規準
(課題設定) 18~19 1 ・加法・減法計算のまとめと活用 20~21 2 ・乗法・除法計算のまとめと活用				(考)(技)整数の加法・減法が確実にでき、その仕方を説明できる。 (考)(技)整数の乗法・除法が確実にでき、その仕方を説明できる。

## 12 垂直・平行と四角形

目標				指導時数・時期
○ 平面上の2直線の垂直や平行の関係について知り、垂直や平行な直線をかくことができる。 ○ 台形、平行四辺形、ひし形とそれらの辺や角、対角線の性質について理解する。 (関) ・直線の交わり方に関心をもち、垂直や平行を見つけようとする。 ・四角形に関心をもち、身の回りから台形、平行四辺形、ひし形を見つけようとする。 (考) ・直線の交わり方に着目し、垂直や平行になっている理由を説明できる。 ・向かい合った辺の関係や対角線の交わり方に着目して、根拠をもって四角形を弁別することができる。 (技) ・垂直や平行な直線をかくことができる。 ・四角形を弁別し、平行四辺形を作図することができる。 (知) ・直線についての垂直や平行の意味を理解している。 ・台形、平行四辺形、ひし形の性質を理解している。				13時間 2学期制：11月上旬～下旬 3学期制：11月上旬～下旬
小単元				おもな評価規準
(課題設定) ①垂直と平行 22~23 1 ・2直線の関係の考察と学習の動機づけ ・2直線の関係と垂直 <b>【垂直】</b> 24 2 ・2直線の関係と平行 <b>【平行】</b> 25 3 ・平行と垂直の関係、平行線の性質				(関)地図の考察を通して直線の交わり方に関心をもつ。 (知)2直線の垂直の関係を理解している。 (知)2直線の平行の関係を理解している。 (技)(知)垂直や平行な直線の性質を理解し、それらの関係を見つけることができる。
②垂直や平行な直線のかき方 26~27 4 ・垂直や平行な直線の作図 ・長方形の作図 28 5 ・方眼紙上での平行・垂直関係のよみ取りと作図				(技)三角定規を使って、垂直、平行な直線をかくことができる。 (技)方眼を使って、垂直、平行な直線を見つけたり、かいたりすることができます。
③四角形 29~30 6 ・台形と平行四辺形の弁別 <b>【台形、平行四辺形】</b> 31 7 ・平行四辺形の性質 32 8 ・平行四辺形の作図 33 9 ・ひし形の性質、ひし形の作図 <b>【ひし形】</b> 34 10 ・対角線の性質 <b>【対角線】</b> 35 11 ・四角形の三角形分割と構成による考察 36~37 12 ・平行四辺形、台形、ひし形の敷き詰め				(技)(知)台形、平行四辺形について知り、それらを弁別することができる。 (技)(知)平行四辺形の辺や角に関する性質を理解し、角度などを求めることができます。 (考)(技)平行線の性質を利用して、平行四辺形をかき、かき方を説明できる。 (考)ひし形について知り、その性質を理解している。 (考)ひし形のかき方を説明できる。 (知)対角線を知り、平行四辺形やひし形の対角線の性質を理解している。 (考)合同な三角形を組み合わせて平行四辺形やひし形をつくり、そのわけを説明できる。 (考)(技)平行四辺形、ひし形、台形を敷き詰めたものから、四角形を見いだすことができる。
たしかめ道場	38	13	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* ふく習・じゅんび運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
39	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：11月下旬 3学期制：11月下旬

13 小数×整数, 小数÷整数				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	40	1	・液量を考えることによる, (小数)×(整数)の学習への動機づけ	(関)液量を考えることを通して, (小数)×(整数)の計算の仕方を考えようとする。
①小数のかけ算	41		・(純小数)×(整数)の意味と計算の仕方	(考)(技)0.1 がいくつと考えて, (純小数)×(整数)の答えを求めることができる。
	42～43	2 ・ 3	・(小数)×(整数)の筆算	(考)(技)整数のときと同様に考えて, (小数)×(整数)の筆算の仕方を理解し, 計算ができる。
	44	4	・練習	
②小数のわり算	45～46	5 ・ 6	・(小数)÷(整数)の意味と計算の仕方	(考)(技)0.1 や 0.01 がいくつと考えて, (小数)÷(整数)の答えを求めることができる。
	47～49	7 ～ 9	・(小数)÷(整数)の筆算	(考)(技)整数のときと同様に考えて, (小数)÷(整数)の筆算の仕方を理解し, 計算ができる。
	50	10	・わり進みのある筆算	(技)(知)わり進む場合の筆算の仕方を理解し, 計算ができる。
	51	11	・商を概数で表すこと	(技)わり切れない場合に, 適当な位で商を四捨五入して答えを求めることができる。
	52	12	・練習	
たしかめ道場	53	13	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

◎ もとの数はいくつ				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	54～55	1 ・ 2	・3要素2段階の問題を, 順にもどして考えて解決することができる。	(考)(技)要素間の関係を的確にとらえ, 順にもどして考えることができる。

* ふく習・じゅんび運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
56	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：1月上旬 3学期制：1月上旬

14 調べ方と整理のしかた				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	57～59	1	・けがの調査による、2つの観点について調べることについての動機づけ	(関)資料を1つの観点で調べることを通して、2つの観点で調べることに関心をもつ。
	60～61	2	・2つの観点について調べ、二次元の表にまとめる	(考)(技)身近な資料を2つの観点で調べ、二次元の表にまとめることができる。
	62～63	3	・仲間に分けて考え、問題を解決すること	(考)(技)二次元の表に整理して場合を分類し、問題を解決することができる。
たしかめ道場	64	5	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* ふく習・じゅんび運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
65	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬

15 分 数				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	66～67	1	・両手を広げた長さを表すことによる1より大きい分数への動機づけ	(関)両手を広げた長さがいろいろな単位分数のいくつ分になるかを考え、1より大きい分数に関心をもつ。
①1より大きい分数の表し方	68	2	・分数の分類と真分数と仮分数の理解 【真分数、仮分数】	(考)(知)分数を1との大小によって3つに分類し真分数や仮分数を理解する。
	69	3	・帶分数の理解、仮分数と帶分数の関係 【帶分数】	(考)(知)帶分数について知り、仮分数と帶分数の関係を理解する。
②分数のたし算とひき算	70	4	・同分母分数の加減計算	(技)同分母分数の加減計算ができる。
	71	5	・帶分数を含む計算	(技)帶分数を含む同分母分数の加減計算ができる。
③等しい分数	72	6	・等しい分数の理解	(考)(技)分数には表記が違っても大きさの等しい分数があることを知り、それらを見つけることができる。
たしかめ道場	73	7	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* ふく習・じゅんび運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
74~75	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック ・コラム「昔の教科書」	1時間 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬

16 変わり方				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	76~77	1	・18本の棒でつくった長方形の縦と横の本数の変化の様子を表にかいて調べること	(考)伴って変わる2つの数量を取り出し、それらの関係に着目することができる。 (技)数量の関係を表にかくことができる。
	78~79	2 ・ 3	・2量の変化の様子を表にかいて調べ、それらの関係を□, △を使って式に表すこと	(考)(技)2量の変化の様子を表にかいて調べ、それらの関係を□, △を使って式に表すことができる。
	80	4	・2量の変化の様子を折れ線グラフにかいて調べること	(技)2量の変化の様子を折れ線グラフにかいて調べることができる。
	81	5	・2量の変化の様子を表にかいて調べ、きまりを見つけて問題を解決すること	(考)(技)2量の変化の様子を表にかいて調べ、きまりを見つけて問題を解決することができる。
たしかめ道場	82	6	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* ふく習・じゅんび運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
83	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬

## 17 直方体と立方体

目 標				指導時数・時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 直方体、立方体について理解し、見取図や展開図をかいたり、つくったりすることができる。また、面や辺の関係がわかる。</li> <li>○ 平面や空間の位置の表し方を理解する。</li> </ul> <p>(関) ・直方体や立方体に関心をもち、その特徴をとらえようとする。</p> <p>(考) ・面や辺の平行・垂直関係の観点から直方体や立方体の特徴をとらえ、説明することができる。</p> <p>(技) ・直方体や立方体の見取図や展開図をかくことができる。 ・横、縦、高さを用いて、平面や空間の位置を表すことができる。</p> <p>(知) ・直方体、立方体の見取図や展開図のかき方、面や辺の関係を理解している ・平面や空間の位置の表し方を理解している。</p>				11 時間 2 学期制：2 月中旬～3 月上旬 3 学期制：2 月中旬～3 月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①直方体と立方体	84～86	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱の形の分類による学習の動機づけ</li> <li>・直方体、立方体の面の考察</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【直方体、立方体】</b></p>	(関)箱の形の分類を通して、直方体、立方体の学習に関心をもつ。 (技)(知)直方体、立方体の面を考察し、それらの特徴を理解する。
	87	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直方体、立方体の見取図の見方とかき方</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【見取図】</b></p>	(技)(知)見取図について知り、直方体、立方体の見取図がかける。
	88～89 ・ 4	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直方体、立方体の展開図と製作</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【てん開図】</b></p>	(技)(知)展開図について知り、直方体、立方体の見取図をかいて組み立てることができる。
②面や辺の平行と垂直	90	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面と面の平行・垂直</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【平面】</b></p>	(考)(知)直方体、立方体の面と面の垂直・平行関係を理解する。
	91	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辺と辺の平行・垂直</li> </ul>	(考)(知)直方体、立方体の辺と辺の垂直・平行関係を理解する。
	92	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面と辺の平行・垂直</li> </ul>	(考)(知)直方体、立方体の面と辺の垂直・平行関係を理解する。
	93	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習</li> </ul>	
③位置の表し方	94～95	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面上の位置の表し方</li> </ul>	(考)(技)平面上の点の位置を横、縦を使って表すことができる。
	96	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間上の位置の表し方</li> </ul>	(考)(技)平面上の点の位置を横、縦、高さを使って表すことができる。
たしかめ道場	97	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 観点に基づく評価とふりかえり</li> </ul>	

## ◎ だれでしょう

目 標				指導時数・時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報を取捨選択し、論理的に考えて正しい結論を導くことができる。</li> </ul> <p>(関) ・論理の問題に関心をもち、筋道立てて考えようとする。</p> <p>(考) ・二次元表を使って問題を解決し、考え方を筋道立てて説明することができる。</p> <p>(技) ・二次元表のあてはまるものには○、あてはまらないものには×をつけ、効率よく処理することができる。</p> <p>(知) ・二次元表を使って情報を整理していくべきことを理解している。</p>				1 時間 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	98～99	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的な推論により正しい結論を導くこと</li> </ul>	(考)(技)情報を取捨選択して、論理的に考えることができる。

● 上みどる算数(2)			
目 標		指導時数・時期	
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。		1 時間	
(関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。		2 学期制：3月上旬	
(考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。		3 学期制：3月上旬	
(技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。			
(知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。			
小単元	ページ	時	学習内容
	100～101	1	・工場見学の絵日記から適切に情報を選択して、問題を解決したり、その理由を説明したりすることができる。

* もうすぐ5年生(4年のふく習)		
ページ	学習内容	指導時数・時期
102～106	・4年生の既習事項の確認と持続	4時間 2学期制：3月中旬 3学期制：3月中旬

★ 算数のまど		
ページ	学習内容	指導時数
107～129	・各単元の補充・発展問題など	時間配当なし

※巻末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 第5学年 単元別学習内容一覧

### 上巻

1 整数と小数			
目標			指導時数・時期
○ 整数と小数が十進位取り記数法に基づいていることを理解する。 (関) ・整数と小数のしくみに関心をもち、進んで調べようとする。 (考) ・十進位取り記数法に即して、整数と小数を統一的に理解することができる。 (技) ・十進位取り記数法に従って、小数の10倍、100倍、10分の1、100分の1などの大きさの数をつくることができる。 (知) ・小数も整数と同様、十進位取り記数法に従っていることを理解している。			4時間 2学期制：4月上旬 3学期制：4月上旬
小単元			おもな評価規準
(課題設定) 6～7 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線の車両の長さを考えることによる小数のしくみの学習への動機づけ</li> <li>・小数の十進位取り記数法の仕組みと小数点の移動</li> </ul>			(関)新幹線の車両の長さを考えることで、小数のしくみに関心をもつ。 (考)位が上がったり下がったりすることを小数点の移動という観点でみることができる。
8 2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記数法のしくみと10倍や100倍などの大きさの数</li> </ul>			(知)整数や小数を10倍、100倍、1000倍すると、小数点がどのように移動するかを理解している。
9 3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記数法のしくみと10分の1や100分の1などの大きさの数</li> </ul>			(知)整数や小数を10分の1、100分の1、1000分の1にすると、小数点がどのように移動するかを理解している。
たしかめ道場 10～11 4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4観点に基づく評価とふりかえり</li> </ul>			

● みんなで話しあいましょう			
目標			指導時数・時期
○ 正三角形の個数の数え方を考え、話し合いを通して、友だちに伝えたり、友だちの考えを理解する。 (関) ・話し合い活動に関心をもち、参加しようとする。 (考) ・話し合いで大切なことを考えることができる。 (技) ・自分の考えを説明したり、相手に質問したり意見を述べたりすることができる。 (知) ・話し合いのねらいや進め方を理解している。			1時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬
小単元			学習内容
12～13 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・正三角形の個数の数え方を考え、みんなで話し合い、まとめる。</li> </ul>			

* 復習・準備運動			
ページ	学習内容		指導時数・時期
14～15	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック		1時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬

## 2 体 積

目 標				指導時数・時期
○ 体積の普遍単位 $\text{cm}^3$ , $\text{m}^3$ を知り, 直方体や立方体の体積を求めることができる。 (関) ・面積と同様, 体積を数で表す方法を考えようとする。 (考) ・面積を基にして, 単位立方体の個数により, 直方体や立方体の体積を数値化できることに気づくことができる。 (技) ・体積の普遍単位 $\text{cm}^3$ , $\text{m}^3$ を知り, それを使って直方体や立方体の体積を求めることができる。 ・直方体の高さの変化に伴う体積の変化を調べ, 比例について理解できる。 (知) ・直方体や立方体の体積を求めるのに必要な要素について理解している。 ・伴って変わる 2 量について, 一方の値が 2 倍, 3 倍, …になると, 他方の値も 2 倍, 3 倍, …になると, 比例の関係にあることを理解している。				10 時間 2 学期制 : 4 月中旬～5 月上旬 3 学期制 : 4 月中旬～5 月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	16	1	・直方体の重ね合わせ (思考実験) による体積の学習への動機づけ	(関)直方体の体積を比べるのに, 面積と同様に, 重ね合わせてみようとする。
①直方体・立方体の体積	17		・体積の概念とその表し方 【体積, $\text{cm}^3$ , 立方センチメートル】	(技)(知)体積の普遍単位 $\text{cm}^3$ を知り, 単位立方体の個数を調べて, 直方体や立方体の体積を求めることができる。
	18～19	2	・直方体と立方体の体積の求め方と体積の公式	(技)(知)直方体や立方体の体積の公式を導き, 体積を求めることができる。
	20	3	・ $1000\text{cm}^3$ になる入れものづくり	(考)縦, 横, 高さに着目して, 体積が $1000\text{cm}^3$ になるかどうかを考えることができる。
②大きな体積	21	4	・大きな体積の単位 【 $\text{m}^3$ , 立方メートル】	(技)(知)体積の普遍単位 $\text{m}^3$ を知り, 計算で体積を求めることができる。
	22	5	・ $\text{m}^3$ と $\text{cm}^3$ の関係 【容積】	(考)(知) $\text{m}^3$ と $\text{cm}^3$ の関係について考え, 理解する。
	23	6	・いろいろな $1\text{m}^3$ づくり, $1\text{m}^3$ の量感	(知)体積が $1\text{m}^3$ になるものをいろいろつくり, 量感を感得する。
	24	7	・練習	
③体積と比例	25	8	・直方体の高さと体積の関係を調べることによる比例の理解 【比例する】	(考)(知)直方体の高さの変化に伴う体積の変化を調べ, 比例について理解する。
④体積の求め方のくふう	26	9	・L字型やU字型の体積の求積	(考)(技)直方体を組み合わせた立体の体積の求め方をいろいろ考えることができる。
たしかめ道場	27	10	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

## \* 復習・準備運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
28～29	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制 : 5 月中旬 3 学期制 : 5 月中旬

3 小数×小数				
目標				指導時数・時期
○ 小数をかけることの意味とその計算の仕方を理解し、筆算で計算できる。 (関) ・小数をかける計算に関心をもち、計算の仕方を考えようとする。 (考) ・小数をかける計算の仕方を、整数のときと同じように考えることができる。 (技) ・小数をかけることの意味とその計算の仕方を理解し、筆算で計算できる。 (知) ・小数をかけることの意味や計算の仕方、小数倍について理解している。				11 時間 2 学期制：5 月中旬～下旬 3 学期制：5 月中旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①小数をかける計算	30～32	1 ・ 2	・リボンを買う場面による小数をかける計算への動機づけ ・(整数)×(小数)の立式と計算の仕方	(関)整数をかける場合から類推し、小数をかける計算の仕方を考えようとする。 (考)小数をかけることの意味を考え、立式ができる。
	33	3	・(小数)×(小数)の立式と計算の仕方	(関)(知)(小数)×(小数)の計算の仕方を理解し、それを説明できる。
	34～35	4 ・ 5	・(小数)×(小数)の筆算の仕方 ・小数点の位置と答えの確かめ	(技)(知)小数をかける計算の筆算の仕方を考え、計算ができる。 (考)小数点の位置を見て、答えの確かめができる。
	36	6	・乗数と積の大小関係	(技)(知)乗数と 1 との大小により、積と被乗数との大小を判断できる。
	37	7	・練習	
②小数のかけ算を使って	38～39	8 ・ 9	・辺の長さが小数値の場合の面積や体積の求積	(考)(技)辺の長さが小数値になっても、面積や体積の公式が使えることを理解し、計算で求めることができる。
	40	10	・小数倍の意味とその計算 (第 1 用法、第 2 用法)	(技)(知)小数倍の意味を知り、何倍かを求めたり、何倍かした数を求めたりすることができます。
たしかめ道場	41	11	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

* 復習・準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
42～43	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：5 月下旬 3 学期制：5 月下旬

4 小数÷小数				
目標				指導時数・時期
○ 小数でわることの意味とその計算の仕方を理解し、筆算で計算できる。 (関) ・小数でわる計算に関心をもち、計算の仕方を考えようとする。 (考) ・小数でわる計算の仕方を、整数のときと同じように考えることができる。 (技) ・小数でわることの意味とその計算の仕方を理解し、筆算で計算できる。 (知) ・小数でわることの意味や計算の仕方を理解している。				10 時間 2 学期制：6 月上旬～中旬 3 学期制：6 月上旬～中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	44	1 ・ 2	・ひもを買う場面による小数でわる計算への動機づけ ・(整数)÷(小数)の立式と計算の仕方	(関)整数でわる場合から類推し、小数でわる計算の仕方を考えようとする。 (考)小数でわることの意味を考え、立式ができる。
	45～46	3	・(小数)÷(小数)の立式と計算の仕方	(関)(知)(小数)÷(小数)の計算の仕方を理解し、それを説明できる。
	47	4 ・ 5	・(小数)÷(小数)の筆算の仕方 ・小数点の位置と答えの確かめ	(技)(知)小数でわる計算の筆算の仕方を考え、計算ができる。 (考)小数点の位置を見て、答えの確かめができる。
	48～49			

	50	6	・商を概数で処理する場合の筆算の仕方	(技)わり切れない場合には、整数の場合と同様にわり進み、商を概数で求めることができる。
	51	7	・被除数、除数、商、余りの関係と余りの小数点の位置	(知)被除数、除数、商、余りの関係を理解している。 (考)余りの小数点の位置について考えることができる。
	52	8	・除数と商の大小関係	(技)(知)除数と1との大小により、商と被除数との大小を判断できる。
	53	9	・練習	
たしかめ道場	54	11	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* 復習			
ページ	学習内容		指導時数・時期
55	・既習事項の確認と持続		1時間 2学期制：6月中旬 3学期制：6月中旬

5 式と計算				
目標			指導時数・時期	
○ 交換、結合、分配などの計算法則が、小数になっても成り立つことを理解する。 ○ 式から具体的な場面をよむ。 (関) ・計算のきまりに関心をもち、小数を含む場合について調べようとする。 (考) ・式から具体的な場面を想起することができる。 (技) ・計算のきまりに従って小数の計算ができる。 (知) ・小数を含めた計算法則を理解している。			3時間 2学期制：6月中旬～下旬 3学期制：6月中旬～下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	56～57	1	・小数に関する計算のきまりや式のよみ方	(技)(知)整数のときに成り立った計算のきまりが小数の場合にも成り立つかどうかを確かめる。
	58～59	2 ・ 3	・式から具体的な場面をよんだり、立式の意図をくみ取ったりすること	(考)式をみて立式の意図を理解し、それを説明することができる。

◎ 同じものに目をつけて				
目標			指導時数・時期	
○ 四則のやや複雑な問題を相殺や置換の考え方を使って解くことができる。 (関) ・相殺、置換の考え方を使って問題を解決しようとする。 (考) ・同じものに目をつけることで問題を単純化できることに気づくことができる。 (技) ・相殺や置換の考え方を使って問題を解決することができる。 (知) ・相殺や置換の考え方を理解している。			2時間 2学期制：6月下旬 3学期制：6月下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	60～61	1 ・ 2	・相殺、置換により単純な問題に帰着させて考える問題	(考)(技)相殺、置換の考え方を使って問題を単純化し、解決することができる。

## 6 合同な図形

目 標				指導時数・時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合同な図形の性質について理解し、合同な図形をかくことができる。</li> <li>○ 三角形や四角形の内角の和について理解する。</li> </ul> <p>(関) ・合同な図形について、その性質を調べようとする。 ・三角形や四角形の内角の和について調べようとする。</p> <p>(考) ・頂点、辺、角に着目して、合同な図形のかき方を考えることができる。 ・多角形の内角の和は三角形に分割すれば求められることに気づくことができる。</p> <p>(技) ・合同な図形の性質を理解し、合同な図形の作図ができる。 ・多角形の内角の和を求めることができる。</p> <p>(知) ・合同な図形の性質や対応する頂点、辺、角について理解している。 ・三角形、四角形の内角の和について理解している。</p>				11 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月中旬 3 学期制：6 月下旬～7 月中旬
小単元				おもな評価規準
(課題設定)	62～63	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船の帆の形を比べることによる合同な図形の学習への動機づけ</li> <li>・合同の意味</li> </ul> <p style="text-align: right;">【合同】</p>	
①合同な図形	64～65	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同な図形の性質</li> <li>・方眼を使った合同な図形の作図</li> </ul> <p>【対応する頂点、対応する辺、対応する角】</p>	
	66	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な四角形を対角線で分けたときの形を合同の観点で考察すること</li> </ul>	
②合同な図形のかき方	67	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形を決定する要素の考察</li> </ul>	
	68～69	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3通りの方法による三角形の作図</li> </ul>	
	70～71	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の作図法を使った四角形の作図</li> </ul>	
	72	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習</li> </ul>	
③三角形・四角形の角	73～74	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の内角の和</li> </ul>	
	75	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の内角の和を使って角度を求める</li> </ul>	
	76～77	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四角形、五角形の内角の和</li> </ul>	
たしかめ道場	78～79	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4観点に基づく評価とふりかえり</li> </ul>	

## ● どんな計算になるのかな

目 標				指導時数・時期
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。</li> </ul> <p>(関) ・問題をよみ、何算になるかの判断をしようとする。</p> <p>(考) ・演算を決定した根拠を説明することができる。</p> <p>(技) ・場面に即して適切に演算を決定し、計算することができる。</p> <p>(知) ・小数の乗除の用いられる場面を理解している。</p>				1 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬
小単元				学習内容
				80～81 1 ・飛行機について考える場面で、適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。

● 算数の自由研究			
目標			指導時数・時期
○ 三角形に並んだ 6 つの○の中に数字を入れ、どの辺の合計も等しくなるようにすることができる。 (関) ・数字ならべに关心をもち、進んで取り組もうとする。 (考) ・重複して数える部分に目をつけ、合計が同じになるきまりを見つけることができる。 (技) ・どの辺の合計も同じになるように、○に入れる数字をみつけることができる。 (知) ・数の加法に関するきまりを理解している。			1 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬
小単元	ページ	時	学習内容
	82~83	1	・三角形に並んだ 6 つの○の中に数字を入れ、どの辺の合計も等しくなるようにする。

復 習			
ページ	学習内容		指導時数・時期
84~85	・既習事項の確認と持続 ・コラム「昔の教科書」		1 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬

7 整 数			
目標			指導時数・時期
○ 偶数と奇数の意味を知り、整数が偶数と奇数に分類できることを理解する。 ○ 倍数や約数の意味を知り、それらを求めたり、それらを使って問題解決ができる。 (関) ・偶数、奇数、倍数、約数などを知り、それらについて調べようとする。 (考) ・整数を偶数と奇数の観点で類別することができる。 (技) ・整数を偶数と奇数に分類したり、倍数、約数などを使って問題を解決することができる。 (知) ・偶数、奇数、倍数、約数などを使って問題を解決する仕方を理解している。			12 時間 2 学期制：7 月中旬～9 月上旬 3 学期制：9 月上旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容
(課題設定)	86	1	・紅白の組分けによる偶数・奇数への動機づけ
①偶数・奇数	87		・偶数、奇数の意味 【偶数、奇数】
②倍数と公倍数	88~89	2 ・ 3	・倍数、公倍数、最小公倍数の意味 【倍数、公倍数、最小公倍数】
	90	4	・公倍数の求め方の工夫 ・3 つの数の公倍数
	91	5	・倍数のもようづくり
	92	6	・公倍数を使って問題を解決すること
③約数と公約数	93~94	7 ・ 8	・約数、公約数、最大公約数の意味 【約数、公約数、最大公約数】
	95	9	・公約数の求め方の工夫
	96	10	・公約数を使って問題を解決すること
	97	11	・素数の意味 【素数】
たしかめ道場	98	12	・4 観点に基づく評価とふりかえり

* 準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
99	・次単元のレディネスチェック	1時間 2 学期制：9月上旬 3 学期制：9月下旬

8 分 数				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①等しい分数	100～102	1	・分数のカードを使った大小比較による学習の動機づけ ・分子と分母に同じ数を乗除しても大きさが変わらないこと	(関)異分母分数の大小の比べ方を考えようとする。 (知)分子と分母に同じ数を乗除しても分数の大きさは変わらない性質を理解している。
	103	2	・約分の意味とその仕方 【約分する】	(技)(知)約分の意味を理解し、約分することができる。
	104～105 ・ 4	3	・通分の意味とその仕方 【通分する】	(技)(知)通分の意味を理解し、通分することができる。
②分数のたし算・ひき算	106～107 ・ 6	5	・異分母分数の加減計算	(考)(技)異分母分数の加減計算の仕方を考え、通分して計算ができる。
	108	7	・帯分数を含む異分母分数の加減計算	(考)(技)帯分数を含む異分母分数の加減計算の仕方を考え、計算ができる。
	109	8	・練習	
③分数のかけ算・わり算	110～111	9	・(分数)×(整数)の意味と計算の仕方	(技)(知)(分数)×(整数)の意味を知り、計算ができる。
	112	10	・(分数)÷(整数)の意味と計算の仕方	(技)(知)(分数)÷(整数)の意味を知り、計算ができる。
	113	11	・練習	
④分数と小数・整数の関係	114	12	・分数の第二義	(考)(知)分数の第二義を知り、わり算を分数で表すことができる。
	115～116 ・ 14	13	・分数と整数・小数の関係	(技)(知)分数と整数・小数の関係を理解し、分数を小数に直したり、整数や小数を分数に直すことができる。
たしかめ道場	117	15	・4観点に基づく評価とふりかえり	

◎ 人文字			
目標			指導時数・時期
○ きめられた長さに 1m の間隔で人が並ぶのに必要な人数を求めることができる。 (関) ・単純な形をもとに複雑な形のきまりを見つけることに関心をもつ。 (考) ・複雑な形を単純な形に直しても、答えは変わらないことに気づくことができる。 (技) ・人文字全体の長さと間の数の関係に目をつけて、人数を求めることができる。 (知) ・人文字全体の長さと間の数の関係に目をつければよいことを理解している。			2 時間 2 学期制：10 月中旬 3 学期制：10 月下旬
小単元	ページ	時	学習内容
	118～119	1 ・ 2	・きめられた長さに 1m の間隔で人が並ぶのに必要な人数を求めること。
			おもな評価規準
			(考)(技)人文字全体の長さと間の数の関係に目をつけて問題を解くことができる。

● 上みとる算数(1)			
目標			指導時数・時期
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。 (考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。 (技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。			1 時間 2 学期制：10 月下旬 3 学期制：10 月下旬
小単元	ページ	時	学習内容
	120～121	1	・自動車工場見学の資料から適切に情報を選択して、問題を解決したり、その理由を説明したりすることができる。

* 復 習			
ページ	学習内容		指導時数・時期
122	・既習事項の確認と持続		1 時間 2 学期制：10 月下旬 3 学期制：10 月下旬

★ 算数のまど			
ページ	学習内容		指導時数
123～145	・各単元の補充・発展問題など		時間配当なし

※巻末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。  
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 下巻

9 面 積					
目 標			指導時数・時期		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三角形や平行四辺形の面積の公式を理解し、面積を求めることができる。</li> <li>○ 三角形の高さと面積などの関係を調べ、比例していることを確かめる。</li> </ul> <p>(関)・三角形や四角形の面積の求め方をいろいろ考えようとする。</p> <p>(考)・長方形の面積を基にして、三角形や四角形の面積の公式を導くことができる。</p> <p>(技)・公式を適用して、三角形や四角形の面積を求めることができる。</p> <p>(知)・三角形や四角形の面積の意味とその求め方を理解している。</p>			13 時間 2 学期制：11 月上旬～下旬 3 学期制：11 月上旬～下旬		
小単元	ページ	時	学習内容		おもな評価規準
(課題設定) ①三角形の面積	2～4	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形や四角形の面積の学習への動機づけ</li> <li>・直角三角形の面積</li> </ul>		(関)直角三角形の面積に関心をもち、求め方を考えようとする。 (考)直角三角形の面積の求め方を考えることができる。
	5	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鋭角三角形の面積</li> </ul>		(考)三角形の面積の求め方をいろいろ考えることができる。
	6	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の面積の公式 【底辺、高さ】</li> </ul>		(考)(知)三角形の面積の公式を導き、公式を使って面積を求めることができる。
	7	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形分割による一般四角形の求積</li> </ul>		(考)(技)四角形の面積を 2 つの三角形に分割して求めることができる。
②平行四辺形の面積	8～9	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形の面積</li> </ul>		(考)平行四辺形の面積の求め方をいろいろ考えることができる。
	10	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平行四辺形の面積の公式</li> </ul>		(考)(知)平行四辺形の面積の公式を導き、公式を使って面積を求めることができる。
③いろいろな三角形・四角形の面積	11	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さが内部に取れない場合の三角形や平行四辺形の面積</li> </ul>		(考)(知)高さが内部に取れない場合の三角形や平行四辺形にも面積の公式が使えることを確かめ、公式を使って面積を求めることができる。
	12～13	8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台形、ひし形の面積の公式 【上底、下底】</li> </ul>		(考)(知)台形やひし形の面積の公式を導くことができる。 (技)公式を使って台形やひし形の面積を求めることができる。
	14	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習</li> </ul>		
	15	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の高さと面積の比例関係</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の高さや底辺と面積の関係がわかる。(考)(表)</li> <li>・式を見てどう考えたかがわかる。(考)(表)</li> </ul>
④面積の問題	16～17	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積の公式に関する式のよみ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形の高さや底辺と面積の関係がわかる。(考)(表)</li> <li>・式を見てどう考えたかがわかる。(考)(表)</li> </ul>
	18	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4 観点に基づく評価とふりかえり</li> </ul>		

* 復習・準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項の確認と持続</li> <li>・次単元のレディネスチェック</li> </ul>	1 時間 2 学期制：11 月下旬 3 学期制：11 月下旬

10 平均とその利用					
目 標			指導時数・時期		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平均の意味を理解し、いろいろな平均を求めることができる。</li> <li>○ 平均を使って、長さなどの概測ができる。</li> </ul> <p>(関) ・身近な事柄について、進んで平均の考えを用いようとする。</p> <p>(考) ・平均の考えを使って身近な事柄について考えたり、表現したりできる。</p> <p>(技) ・平均を求めたり、平均を使って概則をしたりすることができる。</p> <p>(知) ・平均の意味や平均の求め方を理解している。</p>			8時間 2学期制：11月下旬～12月上旬 3学期制：11月下旬～12月上旬		
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準	
(課題設定) ①平均	20～21	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュースをしぶる場面での平均の学習への動機づけ</li> <li>・平均の意味とその計算</li> </ul> <p style="text-align: right;">【平均】</p>	(関)ジュースづくりを通して、平均の学習に関心をもつ。 (技)(知)平均の意味を理解し、平均を求めたり、平均から全体の数を求めたりすることができる。	
	22～23	2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0を含む平均</li> <li>・部分の平均から全体の平均を求めること</li> </ul>	(知)0を含む場合の平均について知る。 (考)(技)部分の平均から全体の平均を推測することができる。	
②平均を使って	24～25	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩幅を使った距離などの概測</li> <li>・歩幅の測定とその活用</li> </ul>	(考)(技)平均を使って歩幅や距離を測定することができる。	
	26～27	6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮平均の考え</li> <li>・外れ値の処理</li> </ul>	(考)(技)仮平均の考えを使って、平均を求めることができる。 (考)(技)外れ値の処理の仕方を知り、適切に平均を求めることができる。	
たしかめ道場	28	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4観点に基づく評価とふりかえり</li> </ul>		

* 復習・準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
29	・既習事項の確認と持続	1時間 2学期制：12月上旬 3学期制：12月上旬

11 単位量あたりの大きさ					
目 標			指導時数・時期		
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単位量あたりの考えを用いて、燃費や密度などを求めることができる。</li> </ul> <p>(関) ・単位量あたりの考えに関心を持ち、身近な事象を単位量あたりの考えで比べようとする。</p> <p>(考) ・異種の2つの量の割合を考える際、どちらを基準にすればよいかを適切に判断できる。</p> <p>(技) ・単位量あたりの考えを用いて、燃費や密度などを求めることができる。</p> <p>(知) ・異種の2つの量の割合について、その意味と表し方を理解している。</p>			4時間 2学期制：12月上旬～中旬 3学期制：12月上旬～中旬		
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準	
(課題設定)	30～32	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋割りの場面での学習の動機づけ</li> </ul>	(関)部屋わりを通して、単位量あたりの考えに関心をもつ。	
	33	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの観点から単位量あたりの大きさを比べること</li> </ul>	(技)(知)単位量あたりの考えを理解し、それを使って数量を比べることができる。	
	34	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位量あたりを使って日常事象を比べること</li> </ul> <p style="text-align: right;">【人口みつ度】</p>	(技)単位量あたりの考えを使って日常の事象を比べることができる。	
たしかめ道場	35	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4観点に基づく評価とふりかえり</li> </ul>		

● 見積もりを使って			
目標			指導時数・時期
○ 仮平均の考え方や切り上げ、切り捨ての考え方を使って見積もりができる。			2時間
(関) ・特定の金額で買えるか買えないかを見積もりを使って判断しようとする。			2学期制：12月中旬
(考) ・特定の金額で買えるか買えないかを判断するのに、見積もりが有効であることを理解している。			3学期制：12月中旬
(技) ・仮平均や切り上げ・切り捨ての考え方を使って、代金を見積もることができる。			
(知) ・仮平均や切り上げ・切り捨ての考え方を使った見積もりの仕方を理解している。			
小単元	ページ	時	学習内容
	36	1	・仮平均との差を考え、相殺して判断する見積もり
	37	2	・切り上げや切り捨ての方法による見積もり

◎ 順々に調べて		指導時数・時期			
目標	小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
○ 伴って変わる2量の関係を表にかき、きまりを見つけて問題を解決する。 (関) 伴って変わる2量の関係に関心をもち、表にかいて調べようとする。 (考) 伴って変わる2量の関係を表す表からきまりを考えることができる。 (技) 伴って変わる2量の関係を表にかいて、問題を解決することができる。 (知) 伴って変わる2量の関係の調べ方を理解している。					2時間 2学期制：12月下旬 3学期制：12月下旬
		38～39	1 ・ 2	・伴って変わる2量の関係を表に表し、 変わり方のきまりをみつけて問題を解 決すること	(考)(技) 伴って変わる2量の関係を表に かき、きまりを見つけて問題を解決する ことができる。

* 準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
40	・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：1 月中旬 3 学期制：1 月中旬

## 12 割合

目標				指導時数・時期
○ 割合の意味について理解し、小数や百分率を用いて問題を解決することができる。 ○ 割合を帶グラフや円グラフにかいたり、よんだりすることができる。 (関)・割合を考えるよさに気づき、様々な場面で用いようとする。 (考)・割合を考えるのが適切な事象を判断することができる。 (技)・割合、比べる量、もとにする量を求めることができる。 (知)・割合の意味、および割合、比べる量、もとにする量を求める仕方を理解している。				15時間 2学期制：1月中旬～2月上旬 3学期制：1月中旬～2月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①割合	41～42	1	・体験学習の希望調査による割合の学習への動機づけ ・割合の意味（第1用法） 【割合】	(関)体験学習の場面により、割合の学習に関心をもつ。 (技)(知)割合の意味を理解し、割合を求めることができる。
	43	2	・全体と部分の割合、部分と部分の割合	(技)全体と部分や部分と部分の割合を考え、求めることができる。
	44	3	・比べる量を求める（第2用法）	(技)(知)もとにする量と割合から比べる量を求めることができる。
	45	4	・もとにする量を求める（第3用法）	(技)(知)比べる量と割合からもとにする量を求めることができる。
②百分率	46～47	5	・百分率の意味 ・割合を表す小数と百分率の関係	(技)(知)百分率の意味を理解し、割合を表す小数に直すことができる。
		6	【百分率、%，パーセント、割、分、厘】	(技)割合を百分率で求めることができる。
	48	7	・百分率を使った作問	(技)百分率に関する問題をいろいろとくことができる。
③割合のグラフ	49	8	・練習	
	50～51	9	・帶グラフ、円グラフのよみ方 【帶グラフ、円グラフ】	(技)(知)帶グラフや円グラフについて知り、そのよみ方を理解する。
④割合を使って	52～53	10	・帶グラフ、円グラフのかき方	(技)帶グラフや円グラフをかくことができる。
	54	11	・割合の和や差を考えて解決すること	(考)割合の和や差を考えて問題を解決できる。
	55	12	・割合の積を考えて解決すること	(考)割合の積を考えて問題を解決できる。
⑤グラフづくり	56～57	13	・棒グラフや円グラフをよんで問題を解決すること。	(考)(技)棒グラフや円グラフから適切な情報を取り出して問題を解決すること。
	58	14	・目的に応じて適切にグラフを選ぶこと	(考)目的に応じて適切にグラフを選び、その理由を説明できる。
たしかめ道場	59	15	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## \* 復習・準備運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
60～61	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬

13 円と正多角形					
目標				指導時数・時期	
○ 円の直径と円周の関係、円周率の意味を理解し、円周や直径を求めることができる。 (関) ・正多角形や円に関心をもち、円の直径を測ったり、円周の長さを測定したりする活動を通して、円の学習に関心をもつ。 (考) ・円の直径と円周の長さの関係を考えることができる。 (技) ・円の直径の値から円周を求めたり、円周の値から直径を求めたりすることができる。 (知) ・円周率の意味や円周、直径、円周率の関係を理解している。				7時間	
				2学期制：2月上旬～中旬	
				3学期制：2月上旬～中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準	
(課題設定)	62～63	1	・折り紙作業による正多角形の学習の動機づけ  【正六角形、正八角形】	(関)折り紙の作業を通して、正多角形の学習に関心をもつ。	
①正多角形	64～65	2	・正多角形の概念 ・中心角の等分割による正多角形の作図  【多角形、正多角形】	(考)(技)円の中心角を等分割して、正多角形をかくことができる。	
	66	3	・円周の等分による正六角形の作図	(考)(技)円周を半径の長さで切って、正六角形をかくことができる。	
②円周と直径	67～69	4	・円周と直径の関係  【円周、円周率】	(技)(知)円周率の意味を理解し、公式を使って円周を求めることができる。	
	70	5	・円周や直径を求める	(技)直径から円周を求めたり、円周から直径を求める	
	71	6	・直径と円周の関数関係	(考)直径と円周の関係に着目し、比例関係にあることを見いだすことができる。	
たしかめ道場	72	7	・4観点に基づく評価とふりかえり		

* 準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
73	・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬

14 角柱と円柱						
目標				指導時数・時期		
○ 立体の分類を通して角柱や円柱を理解し、見取図や展開図をかくことができる。 (関) ・角柱や円柱を観察したり分類したりしてその特徴をとらえようとする。 (考) ・観点をきめて、立体を弁別することができる。 (技) ・角柱や円柱の見取図や展開図をかいたり、つくったりすることができる。 (知) ・角柱や円柱の特徴、及びその見取図や展開図のかき方を理解している。				6時間		
				2学期制：2月下旬		
				3学期制：2月下旬		
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準		
(課題設定)	74～75	1	・立体の弁別による角柱、円柱の学習への動機づけ  【立体、角柱、円柱】	(関)立体の分類を通して、角柱、円柱の学習に関心をもつ。 (技)(知)角柱、円柱について理解し、それらを弁別することができる。		
①角柱と円柱	76～77	2	・角柱、円柱の特徴  【底面、側面、曲面】	(考)(知)角柱と円柱について、面の形や位置関係、面と頂点と辺の数などを調べ、理解している。		
	78	3	・角柱、円柱の見取図	(技)角柱、円柱の見取図のかき方を理解し、かくことができる。		
②見取図とてん開図		4	・角柱、円柱の展開図	(技)角柱、円柱の展開図のかき方を理解し、かくことができる。		
		5				
たしかめ道場	81	6	・4観点に基づく評価とふりかえり			

## 15 ○や△を使った式

目 標				指導時数・時期
○ 伴って変わる2つの数量の関係を○や△を使って式に表し、変化の様子を表にかいて調べることができる。				3時間 2学期制：3月上旬 3学期制：3月上旬
(関) ・○や△を使って式に表された2量の変わり方を、表にかいて調べようとする。				
(考) ・○や△を使って式に表された2量が比例しているか調べ方を理解している。				
(技) ・2量の関係を○や△を使って式に表し、変わり方を表で調べることができる。				
(知) ・2量の関係を○や△を使って式に表したり、表にかいて変わり方を調べる仕方を理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	82～83	1	・△=○+7の式になる事象の考察 ・△=○×5の式になる事象の考察	(考)○や△を使って表された2量について、表にかいて変わり方を調べることができる。
	84	2	・△=100×○+50の式になる事象の考察	(考)一次関数の関係にある2量の変わり方を調べることができる。
	85	3	・式に表された2量が比例しているかどうかを確かめること	(考)○や△を使って式に表された2量が比例しているかどうかを調べ、その理由を説明することができる。

## ◎ 輪投げ

目 標				指導時数・時期
○ 情報を取捨選択し、論理的に考えて正しい結論を導くことができる。				1時間
(関) ・論理の問題に関心をもち、筋道立てて考えようとする。				2学期制：3月上旬
(考) ・「仮に～だったら」と考えて、あてはまらない場合を消去していくことに気づき、それを説明することができる。				3学期制：3月上旬
(技) ・表を使って、効率よく処理することができる。				
(知) ・表を使って情報を整理していくべきことを理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	86～87	1	・論理的な推論により正しい結論を導くこと	(考)(技)情報を取捨選択して、論理的に考えることができる。

## ● 上みとる算数(2)

目 標				指導時数・時期
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。				1時間
(関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。				2学期制：3月上旬
(考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。				3学期制：3月上旬
(技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。				
(知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	
	88～89	1	・日本の貿易の資料から適切に情報を選択して、問題を解決したり、その理由を説明したりすることができる。	

## \* もうすぐ6年生(5年の復習)

ページ	学習内容	指導時数・時期
90～94	・5年生の既習事項の確認と持続	4時間、2、3学期制：3月中旬

## ★ 算数のまど

ページ	学習内容	指導時数
95～115	・各单元の補充・発展問題など	時間配当なし

※巻末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

# 第6学年 単元別学習内容一覧

## 上巻

1 対称な図形				
目標			指導時数・時期	
○ 線対称・点対称について理解し、それらの図形の性質を調べたり、かいたりできる。 (関)・対称図形について調べたり、つくったりしようとする。 (考)・対称図形を折ったり、180°回転させたときに重なる点や直線について考え、説明 (技) することができる。 (知)・対称図形の性質に基づいて、対称図形をかくことができる。 ・対称図形について知り、その性質を理解している。			10時間 2学期制：4月上旬～中旬 3学期制：4月上旬～中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	6～7	1	・身近な形の対称性の観点での弁別による図形の学習への動機づけ	(関)身近な形を対称性に着目して弁別することを通して、対称図形に関心をもつ
①線対称	8～9	2	・線対称な図形の意味 【線対称、対称の軸】	(技)(知)線対称の意味を理解し、対称の軸をみつけることができる。
	10	3	・線対称な図形の性質	(考)(知)線対称な図形の性質を調べることができる。
	11	4	・線対称な図形の作図	(技)線対称の性質に基づき、線対称な図形をかくことができる。
②点対称	12～13	5	・点対称な図形の意味 【点対称、対称の中心】	(技)(知)点対称の意味を理解し、対称の中心をみつけることができる。
	14	6	・点対称な図形の性質	(考)(知)点対称な図形の性質を調べることができる。
	15～17	7	・点対称な図形の作図	(技)点対称の性質に基づき、点対称な図形をかくことができる。
③鏡を使って	18～19	8	・鏡を使った線対称な図形の考察	(関)(技)鏡を使って線対称な図形をいろいろつくることができる。
④正多角形と対称な図形	20～21	9	・四角形、三角形、正多角形などの基本図形を対称性に着目して考察すること	(考)正多角形を、対称の観点で調べ、その性質を見つけることができる。
たしかめ道場	22～23	10	・4観点に基づく評価とふりかえり	

● みんなで話しあいましょう				
目標			指導時数・時期	
○ 3個のトイレットペーパーをひもで縛ったときのひもの長さの求め方を考え、話し合いを通して、友だちに伝えたり、友だちの考えを理解する。 (関)・話し合い活動に関心をもち、参加しようとする。 (考)・話し合いで大切なことを考えることができる。 (技)・自分の考えを説明したり、相手に質問したり意見を述べたりすることができる。 (知)・話し合いのねらいや進め方を理解している。			1時間 2学期制：4月下旬 3学期制：4月下旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	24～25	1	・3個のトイレットペーパーをひもで縛ったときのひもの長さの求め方を考え、みんなで話し合い、まとめる。	

* 復習・準備運動			
ページ	学習内容		指導時数・時期
26	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック		1時間 2学期制：4月下旬 3学期制：4月下旬

## 2 分数×分数

目標				指導時数・時期
○ 分数をかけることの意味を理解し、分数の乗法の計算ができる。 (関)・分数をかける計算に関心をもち、計算の仕方を考えようとする。 (考)・分数をかける計算の仕方を、整数や小数の計算を基にして考えることができる。 (技)・分数をかけることの意味を理解し、計算することができる。 (知)・分数をかけることの意味や計算の仕方を理解している。				11 時間 2 学期制：4 月下旬～5 月中旬 3 学期制：4 月下旬～5 月中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①分数をかける計算	27～28	1	・ペンキ塗りによる分数をかける計算の動機づけ ・(整数)×(分数)の意味と計算の仕方	(関)(考)ペンキ塗りを通して、分数をかける計算に関心をもち、その意味を理解する。 (技)(知)(整数)×(分数)の意味を知り、計算ができる。
	29	2	・(分数)×(分数)の意味と計算の仕方	(技)(知)(分数)×(分数)の意味を知り、計算ができる。
	30	3	・分数の乗法(整数、帯分数を含む)	(技)整数を分母が 1 の分数とみたり、帯分数を仮分数に直して、分数のかけ算ができる。
	31	4	・分数の乗法(約分有)	(技)約分のある分数のかけ算では、約分ができる。
	32	5	・逆数の意味と求め方 【逆数】	(技)(知)逆数について知り、分数、整数、小数の逆数を求めることができる。
	33	6	・練習	
②分数のかけ算を使って	34	7	・分数倍の意味とその計算 (第 1 用法、第 2 用法)	(技)(知)分数倍の意味を理解し、分数倍を使って計算ができる。
	35～36	8	・長さが分数の長方形・正方形の面積 ・分数で表された時間の計算	(考)(技)長さが分数の場合の面積や分数で表された時間について考え、計算ができる。
		9		
	37	10	・乗数と積の大小関係	(技)(知)乗数と 1 との大小により、積と被乗数との大小を判断できる。
たしかめ道場	38～39	11	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

## \* 復習・準備運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
40	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：5 月中旬 3 学期制：5 月中旬

3 分数÷分数				
目標			指導時数・時期	
○ 分数でわることの意味を理解し、分数の乗法の計算ができる。 (関) ・分数でわる計算に関心をもち、計算の仕方を考えようとする。 (考) ・分数でわる計算の仕方を、整数や小数の計算を基にして考えることができる。 (技) ・分数でわることの意味を理解し、計算することができる。 (知) ・分数でわることの意味や計算の仕方を理解している。			9時間 2学期制：5月中旬～6月上旬 3学期制：5月中旬～6月上旬	
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①分数でわる計算	41～42	1	・ペンキ塗りによる分数でわる計算の動機づけ ・(整数)÷(分数)の意味と計算の仕方	(関)(考)ペンキ塗りを通して、分数でわる計算に関心をもち、その意味を理解する。 (技)(知)(整数)÷(分数)の意味を知り、計算ができる。
	43	2	・(分数)÷(分数)の意味と計算の仕方	(技)(知)(分数)÷(分数)の意味を知り、計算ができる。
	44	3	・分数の除法(帯分数、整数を含む)	(技)帯分数を仮分数に直したり、整数を分子が1の分数とみて、分数のわり算ができる。
	45	4	・練習	
②分数のわり算を使って	46	5	・分数倍の計算(第3用法) ・分数で表わされた時間の計算	(技)(知)分数倍や分数で表わされた時間を使って計算ができる。
	47	6	・小数や整数を含む乗除混合計算を分数の形にまとめること	(考)(技)小数や整数を含む乗除混合計算を1つの分数の形にまとめることができる。
	48	7	・分数に関する計算のきまり	(考)(知)交換法則、結合法則、分配法則が分数についても成り立つことを確かめ、理解する。
	49	8	・除数と商の大小関係	(技)(知)除数と1との大小により、商と被除数との大小を判断できる。
たしかめ道場	50	9	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* 復習・準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
51	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：6月上旬 3学期制：6月上旬

## 4 文字と式

目標				指導時数・時期
○ 文字のよさを理解し、文字を使って数量の関係を式に表したり、式をよんだりできる。 (関) 文字を使って、数量の関係を式に表そうとする。 (考) 文字の役割を理解し、文字を使って式に表すことのよさがわかる。 (技) 文字を使って、数量の関係を式に表すことができる。 (知) 文字を使って、数量の関係を式に表す仕方を理解している。				6時間 2学期制：6月上旬～中旬 3学期制：6月上旬～中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	52	1	・文字を使うことの意味と学習の動機づけ	(関)文房具を買う場面から、文字を使った式に関心をもつ。
①文字を使った式	53		・数量の関係を $x, y$ を使って式に表し、数をあてはめて調べること 【 $x$ の値, $y$ の値】	(考)(技)数量の関係を $x, y$ を使って式に表し、数をあてはめて調べることができる。
	54～55	2 ・ 3	・ $x, y$ を使った式で、 $x$ の値に対応する $y$ の値や $y$ の値に対する $x$ の値を求める こと	(技) $x, y$ を使った式で、 $x$ の値に対応する $y$ の値や $y$ の値に対する $x$ の値を求める ことができる。
②式のよみ方	56	4	・文字を使った式をみて、具体的な事象を考 えること	(考)式を見て具体的な場面を想起し、説明 することができる。
	57	5	・文字を使った式の意味をいろいろ考 すこと	(考)式をいろいろな視点で考察し、どう考 えたかを説明することができる。
たしかめ道場	58～59	6	・4観点に基づく評価とふりかえり	

## \* 復習・準備運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
60	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：6月中旬 3学期制：6月中旬

## 5 比とその利用

目標				指導時数・時期
○ 比の意味を理解し、それを用いて2量の割合を表すことができる。また、等しい比について知る。 (関) 比について関心をもち、いろいろ調べたり、使ったりしようとする。 (考) 比を割合と関連づけてとらえることができる。 (技) 数量の関係を比に表したり、比を使って問題を解決することができる。 (知) 数量の関係を比に表したり、問題解決に利用する仕方を理解している。				8時間 2学期制：6月中旬～下旬 3学期制：6月中旬～下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①比と比の値	61～62	1	・ドレッシングづくりによる比の学習への動機づけ ・比の意味とその表し方 【 $:\text{, 比}$ 】	(関)ドレッシングづくりを通して、2量の割合の表し方に関心をもつ。 (知)比の意味とその表し方を理解する。
	63	2	・比の値の意味、小数・分数の比 【比の値】	(技)(知)比の値について知り、比と比の値の関係を理解する。 (技)小数や分数を含む比について考 えることができる。
②等しい比	64～65	3	・比が等しいことの意味と比の性質	(考)(知)比が等しいことの意味を知り、そ の性質を調べることができる。
	66	4	・比を簡単にすること	(技)比の両項に同じ数を乗除して、等しい 比をつくることができる。
	67	5	・練習	
③比を使った問題	68	6	・比の一方の値をもとめること	(考)(技)比と一方の値を知って、他方の値 を求めることができる。
	69	7	・全体をきまったく比に分けること	(考)(技)比を使って全体をきまったく比に分 けることができる。
たしかめ道場	70	8	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* 復習・準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
71	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2 学期制：6月下旬 3 学期制：6月下旬

6 図形の拡大と縮小				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	72~73	1	・ヨットの図の比較による拡大・縮小の学習への動機づけ ・拡大・縮小の意味  【拡大する、縮小する】	(関)ヨットの図の比較を通して、拡大・縮小の学習に関心を持つ。 (知)拡大・縮小の意味を理解している。
①拡大図と縮図	74~75	2	・拡大図、縮図の意味とその性質  【拡大図、縮図】	(考)(知)拡大図・縮図について知り、それらの性質を調べることができる。
②拡大図と縮図のかき方	76~77	3	・方眼紙を使った拡大図、縮図のかき方	(技)拡大・縮小の性質を使って、方眼紙に拡大図や縮図をかくことができる。
	78~79	4	・方眼紙を使わずに、三角形、四角形の拡大図・縮図のかき方を考えること	(考)(技)方眼紙を使わない三角形や四角形の拡大図・縮図のかき方を考えることができる。
	80~81	5	・1つの点を中心とした拡大図、縮図のかき方	(考)(技)1点を中心とした拡大図や縮図のかき方を考えることができる。
	82	6	・練習	
③縮図の利用	83~84	7	・縮図を利用した距離や高さの測定	(技)(知)縮図を見て実際の距離を求めたり、縮図をかいて木の高さを求めたりすることができる。
たしかめ道場	85	8	・4観点に基づく評価とふりかえり	

● どんな計算になるのかな				
小単元	ページ	時	学習内容	指導時数・時期
○ 場面に即して適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。	86~87	1	・水について考える場面で、適切に演算を決定し、立式の根拠を説明する。	1時間 2 学期制：7月中旬 3 学期制：7月中旬

◎ 場合をあげて調べて				
目標			指導時数・時期	
○ 数量を表にかいて順序よく調べ、条件に合う場合を見つけることができる。 (関) ・表を使って順序よく調べ、条件に合う場合を見つけようとする。 (考) ・表を使って順序よく調べ、条件に合う場合について説明することができる。 (技) ・表を使って順序よく調べ、条件に合う場合を見つけることができる。 (知) ・順序よく調べていくのに適切な表のかき方を理解している。			2 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	88~89	1 ・ 2	・数量を表にかいて順序よく調べ、条件に合う場合を見つけること。	
			(考)(技)数量を表にかいて順序よく調べ、条件に合う場合を見つけることができる。	

● 算数の自由研究				
目標			指導時数・時期	
○ 不思議なひき算について調べ、きまりを見つけることができる。 (関) ・不思議なひき算に関心をもち、いくつかの数で調べようとする。 (考) ・不思議なひき算の性質を考えることができる。 (技) ・3 枝と 4 枝の不思議なひき算を調べることができる。 (知) ・不思議なひき算の計算の手順を理解している。			1 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
	90~91	1	・三角形に並んだ 6 つの○の中に数字を入れ、どの辺の合計も等しくなるようにする。	

＊ 復習・準備運動				
ページ	学習内容			指導時数・時期
92~95	・コラム「昔の教科書」 ・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック		1 時間 2 学期制：7 月下旬 3 学期制：9 月上旬	

7 速さ				
目標			指導時数・時期	
○ 速さの意味を知って速さ、道のり、時間を求めることができ、それらの関係を理解する。 (関) ・速さについて関心をもち、問題解決に生かそうとする。 (考) ・速さの意味を理解し、道のりや時間との関係を考えることができる。 (技) ・速さの意味や表し方を知り、速さ、道のり、時間を求めることができる。 (知) ・速さの意味や表し方、速さに関する計算の仕方を理解している。			7 時間 2 学期制：7 月下旬～9 月上旬 3 学期制：9 月上旬～中旬	
小単元	ページ	時	学習内容	
(課題設定)	96~97	1	・50m 競走による速さの学習への動機づけ ・基準量を変えて、1 通りで考えること	
	98	2	・速さの意味と求め方 【時速、分速、秒速】	
	99	3	・道のりの求め方	
	100	4	・時間の求め方	
	101	5	・時速・分速・秒速の関係	
	102	6	・練習	
たしかめ道場	103	7	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

◎ 変わり方を調べて(1)

目標				指導時数・時期
○ 2つの量の関係を表にかき、変わり方のきまりを見つけて、問題を解決することができる。				2時間 2学期制：9月上旬 3学期制：9月中旬
(関)・2人が何分後に出会ったり追いついたりするかについて考えようとする。				
(考)・2人の間の距離や速さを考えて、変わり方のきまりを見つけることができる。				
(技)・2人が何分後に出会ったり追いついたりするかを表にかいて求めることができる。				
(知)・表を使ったきまりの見つけ方について理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	104～105	1 ・ 2	・出会い算、追いつき算の問題	(考)(技)2つの量の関係を表にかいて変わり方のきまりを的確にとらえ、問題を解決することができる。

8 比例と反比例

目標				指導時数・時期
○ 伴って変わる2つの数量の関係を表にかいて調べ、比例や反比例の関係を使って問題解決ができる。				17時間 2学期制：9月中旬～10月下旬 3学期制：9月下旬～10月下旬
(関)・伴って変わる2つの数量について関係を調べようとする。				
(考)・伴って変わる2つの数量の関係を調べる観点を考えることができる。				
(技)・伴って変わる2つの数量を表にし、比例や反比例の関係を見いだすことができる。				
(知)・伴って変わる数量の関係を表した表の見方を理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	106～107	1	・伴って変わる2つの数量の考察による比例・反比例への動機づけ	(関)伴って変わる2つの数量を調べ、関数的な見方をしようとする。
①比例	108～109	2	・比例の性質	(技)(知)比例する2つの数量の関係について調べ、変化の関係や対応関係を理解する。
	110	3	・比例の判断の仕方	(考)(技)表を縦に見たり横に見たりして、2つの数量が比例しているかどうかを判断することができる。
	111	4	・比例の式表示	(考)(技)表から2つの数量の関係を見いだし、比例の式に表すことができる。
	112～113	5	・比例のグラフのかき方と考察	(技)(知)表から比例のグラフをかき、原点を通る直線になることを確かめることができる。
	114	6	・比例のグラフが原点を通る直線になることをを使ったグラフのかき方	(考)(技)比例のグラフが原点を通る直線になることを使ってグラフをかくことができる。
	115	7	・身の回りから比例関係を見つけること	(関)(技)身の回りから比例している事象を見つけることができる。
	116～117	8	・表、式、グラフを使った比例していることの説明	(考)表、式、グラフを使って、比例していることを説明することができる。
	118	9	・比例のグラフの読み方	(考)比例のグラフを見て、わかったことを説明することができる。
②比例を使って	119	10	・練習	
	120～121	11	・比例関係に着目した板の枚数やくぎの本数などの求め方	(考)比例の関係を使って測定の工夫をし、その測り方を説明することができる。
③反比例	122～123	12	・反比例の意味と性質 【反比例する】	(技)(知)反比例について知り、その性質を調べることができる。
	124	13	・反比例の判断の仕方	(考)(技)表を縦に見たり横に見たりして、2つの数量が反比例しているかどうかを判断することができる。
	125	14	・反比例の式表示	(考)(技)表から2つの数量の関係を見出し、反比例の式に表すことができる。
	126～127	15	・反比例のグラフのかき方と考察	(技)(知)表から点をとり、反比例のグラフが直線にならないことを確認できる。
	128	16	・練習	
たしかめ道場	129	17	・4観点に基づく評価とふりかえり	

* 復習・準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
130	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：10 月下旬 3 学期制：10 月下旬

★ 算数のまど		
ページ	学習内容	指導時数
131～157	・各単元の補充・発展問題など	時間配当なし

※巻末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 下巻

### 9 円の面積

目 標				指導時数・時期
○ 見当づけや操作活動を通して円の面積の公式を導き、円の面積を計算で求めることができる。 (関)・円の面積に关心をもち、進んで求めようとする。 (考)・円の面積の求め方をいろいろ考えることができる。 (技)・公式を使って円の面積を求めることができる。 (知)・円の面積の求め方及び公式について理解している。				4 時間 2 学期制：10 月下旬 3 学期制：10 月下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	2~3	1	・既習の図形との対比による円の求積への動機づけ ・円の面積を見当づけること	(関)既習の図形との対比を通して、円の面積の求め方を調べようとする。 (考)円の内接正方形と外接正方形を考え、面積の見当をつけることができる。
	4~5	2	・方眼を使った円の面積の概測	(技)方眼紙に円をかき、マス目を数えておよその面積を求めることができる。
	6~8	3	・円の面積の求め方と公式	(考)円をいくつかのおうぎ形に分割して並べ替え、円の面積の公式を導くことができる。
たしかめ道場	9	4	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

### 10 小数や分数の計算のまとめ

目 標				指導時数・時期
○ 小数や分数に関する四則演算について振り返り、理解を深める。 (関)・小数や分数の計算を振り返り、計算の力を身につけ、伸ばそうとする。 (考)・小数や分数でも四則計算ができると説明できる。 (技)・小数や分数の四則計算について理解し、確実に計算ができる。 (知)・小数や分数の四則計算の仕方を確実に理解している。				3 時間 2 学期制：11 月上旬 3 学期制：11 月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	10	1	・加法・減法計算のまとめと活用	(考)(技)小数や分数加法・減法が確実にでき、その仕方を説明できる。
	11~12	2 ・ 3	・乗法・除法計算のまとめと活用	(考)(技)小数や分数の乗法・除法が確実にでき、その仕方を説明できる。

### \* 復習・準備運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
13	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1 時間 2 学期制：11 月上旬 3 学期制：11 月上旬

## 11 立体の体積

目 標				指導時数・時期
○ 体積の普遍単位 $\text{cm}^3$ , $\text{m}^3$ を知り, それらを使って直方体や立方体の体積を求めることができる。				4 時間 2 学期制 : 11 月上旬 3 学期制 : 11 月上旬
(関) ・角柱や円柱の体積の求め方を考えようとする。 (考) ・角柱や円柱の体積の求め方を説明することができる。 (技) ・角柱や円柱の体積を求めることができる。 (知) ・角柱や円柱の体積の求め方を理解している。				
小単元 ページ 時 学習内容				おもな評価規準
(課題設定) 14~15 1				(関)いろいろな立体の考察を通して, 体積について関心をもつ。 (考)(技)直方体や三角柱の体積の求め方を考え, 底面積×高さという考え方気に気づく。
16 2				(考)(技)角柱の体積を底面積×高さと考えて, 求めることができる。
17 3				(考)(技)円柱の体積を底面積×高さと考えて, 求めることができる。
たしかめ道場 18 4				

## 12 およその形と大きさ

目 標				指導時数・時期
○ ものの概形をとらえて既習の形と関連づけ, およその面積や体積を求めることができる。				3 時間 2 学期制 : 11 月中旬 3 学期制 : 11 月中旬
(関) ・概形をとらえて面積や体積を求めようとする。 (考) ・概形をとらえて面積や体積を求める方法を説明することができる。 (技) ・概形をとらえて面積や体積を求めることができる。 (知) ・概形をとらえた面積や体積の求め方を理解している。				
小単元 ページ 時 学習内容				おもな評価規準
19 1				(技)概形をとらえ, 既習の図形と関連づけて面積を概測することができる。
20~21 2 ・ 3				(技)概形をとらえ, 既習の図形と関連づけて面積を概測することができる。

## ◎ 変わり方を調べて(2)

目 標				指導時数・時期
○ 2つの数量を変化させ, その和や差に着目して問題を解決することができる。				2 時間 2 学期制 : 11 月中旬 3 学期制 : 11 月中旬
(関) ・2つの数量の変化の様子を表に表して, きまりを見つけようとする。 (考) ・表から変化の様子をよみとり, 変化のきまりを考えることができる。 (技) ・2つの数量を変化させて, 和や差に着目し, きまりを見つけて問題を解決することができる。 (知) ・表に示された2つの数量の和や差の意味を理解している。				
小単元 ページ 時 学習内容				おもな評価規準
104~105 1 ・ 2				(考)(技)2つの量について, 変化の様子を的確にとらえ, きまりを見つけて, 問題を解決することができる。

### 13 場合を順序よく整理して

目 標				指導時数・時期
○ 具体的な事柄について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができ る。				9時間 2 学期制：11月下旬～12月上旬 3 学期制：11月下旬～12月上旬
(関) ・図や表を使って、場合を順序よく整理して調べようとする。				
(考) ・落ちや重なりがない方法を考えることができる。				
(技) ・場合を順序よく整理して、落ちや重なりがないように調べることができる。				
(知) ・場合の数を調べるための図や表の使い方を理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定) ①場合の数の調べ方	24～25	1	・場合を順序よく整理することへの学習の動機づけ ・選び方の数を求める	(関)チームの組み合わせを考えることを通して、場合の数の求め方に関心をもつ。 (考)(技)図や表を使って、選び方の数を求めることができる。
	26	2	・補集合の考えを使う選び方の数	(考)(技)補集合の考えを使って、選び方の数を求めることができる。
	27	3	・全体の並べ方の数を考えること	(考)(技)全体の並べ方の数を考えることができる。
	28	4	・部分の並べ方の数を考えること	(考)(技)部分の並べ方の数を考えることができる。
	29	5	・練習	
②いろいろな場合を 考えて	30～31	6 ・ 7	・場合を挙げて調べ、条件にあうものを 見つける問題	(考)(技)全部の場合を調べ、あてはまる場合を見つけることができる。
	32	8	・いろいろな場合を、なかまに分けて考 えること	(考)(技)いろいろな場合について、仲間に 分けて考えることができる。
たしかめ道場	33	9	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

### ● 見積もりを使って

目 標				指導時数・時期
○ 目的に応じて、適切な見積もりを工夫することができる。				2時間
(関) ・見積もりのよさを生かして、問題を解決しようとする。				2 学期制：12月上旬
(考) ・目的に応じた見積もりの工夫を考えることができる。				3 学期制：12月上旬
(技) ・目的に応じた見積もりの使い方を工夫することができる。				
(知) ・目的に応じた見積もりの使い方を理解している。				
小単元	ページ	時	学習内容	
	34	1	・切り上げや切り捨てによる乗法の見積もり	
	35	2	・見積もりの工夫 (special number)	

### \* 復習・準備運動

ページ	学習内容	指導時数・時期
36～37	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2 学期制：12月上旬 3 学期制：12月上旬

14 資料の調べ方					
目標			指導時数・時期		
<p>○ 資料のちらばり具合を、表やグラフに表して整理し、特徴をよみとる。</p> <p>(関) ・資料の整理の仕方に関心をもち、表や柱状グラフを生かそうとする。</p> <p>(考) ・資料の整理をするには表や柱状グラフへどのように表せばよいかを考えることができる。</p> <p>(技) ・表や柱状グラフを使って資料の整理ができる。</p> <p>(知) ・表や柱状グラフを使った資料の整理の仕方を理解している。</p>			7時間 2学期制：12月中旬～下旬 3学期制：12月中旬～下旬		
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準	
(課題設定)	38～39	1	・資料のちらばりの考察と学習の動機づけ	(関)(考)ソフトボール投げを通して、資料の散らばり具合に関心をもち、調べようとする。	
①資料の整理	40	2	・資料を度数分布表に整理すること	(技)資料を度数分布表に整理することができる。	
	41	3	・資料を柱状グラフに表すこと 【柱状グラフ】	(技)資料を柱状グラフに整理することができる。	
	42	4	・表や柱状グラフによる2つの集団の特徴の比較	(考)同じ方眼紙に示された2つの集団のヒストグラムからそれぞれの特徴をよみとることができる。	
	43	5	・区間を変えてグラフをかくこと	(技)区間を変えて、ヒストグラムをわかりやすくすることができる。	
②くふうされたグラフ	44	6	・工夫されたグラフから人口のちらばりをよみとること	(考)工夫されたグラフを見て、人口などの特徴をよみとることができる。	
たしかめ道場	45	7	・4観点に基づく評価とふりかえり		

● よみとる算数					
目標			指導時数・時期		
<p>○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。</p> <p>(関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。</p> <p>(考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。</p> <p>(技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。</p> <p>(知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。</p>			1時間 2学期制：12月下旬 3学期制：12月下旬		
小単元	ページ	時	学習内容		
	46～47	1	・日本の米の収穫量や消費量に関する資料から適切に情報を選択して、問題を解決したり、その理由を説明したりすることができる。		

* 復習・準備運動		
ページ	学習内容	指導時数・時期
48～49	・既習事項の確認と持続 ・次単元のレディネスチェック	1時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬

## 15 量の単位

目 標				指導時数・時期
○ メートル法の単位のしくみについて調べ、いろいろな量の関係を理解する。 (関) ・いろいろな単位の関係について調べようとする。 (考) ・接頭語の意味に基づいて単位の関係を考えることができる。 (技) ・いろいろな単位の関係を理解し、単位の換算ができる。 (知) ・いろいろな量の関係を理解している。				5時間 2学期制：1月中旬 3学期制：1月中旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
(課題設定)	50～51	1	・適切な計器の選択による単位の選択と学習の動機づけ	(関)計器の選択を通して、単位の関係について調べようとする。
	52～53	2	・単位の接頭語の意味	(知)単位の接頭語の意味を知り、何倍、何分の一の関係を理解する。
	54	3	・体積の単位 kL ・kL と $m^3$ の関係 【kL】	(知)体積の単位 kL を知り、kL と $m^3$ の関係を理解する。
	55	4	・重さの単位 mg ・重さと体積の単位の関係 【mg】	(知)重さの単位 mg を知り、重さと体積の関係を理解する。
たしかめ道場	56	5	・4 観点に基づく評価とふりかえり	

## ◎ 割合を使って

目 標				指導時数・時期
○ 全体を 1 と考え、割合の和を考えて解くことができる。 割合の積を考え、何倍にあたるかを考えて解くことができる。 (関) ・割合のよさがわかり、割合を用いて問題を解決しようとする。 (考) ・全体を 1 として、それぞれの部分がどう表されるかを考えることができる。 (技) ・全体を 1 として、割合の和や積を考えて問題を解決することができる。 (知) ・全体を 1 として、割合の和や積を考えることの意味を理解している。				3時間 2学期制：1月下旬 3学期制：1月下旬
小単元	ページ	時	学習内容	おもな評価規準
	57～58	1 ・ 2	・全体を 1 と考え、割合の和を考えて解く問題	(考)(技)全体を 1 と考え、割合の和を考えて問題を解決することができる。
	59	3	・割合の積を考え、何倍にあたるかを考えて解く問題	(考)(技)割合の積を考え、何倍にあたるかを考えて問題を解決することができる。

## ● よみとる算数

目 標				指導時数・時期
○ 身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (関) ・身近な問題について、算数の既習事項を用いて解決しようとする。 (考) ・情報を適切に選択し、問題解決に有効な数理的処理を考えることができる。 (技) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決することができる。 (知) ・身近な問題について、適切に情報を選択し、問題を解決する仕方を理解している。				1時間 2学期制：2月上旬 3学期制：2月上旬
小単元	ページ	時	学習内容	
	60～61	1	・動物園に関する資料から適切に情報を選択して、問題を解決したり、その理由を説明したりすることができる。	

### \* 6年のまとめ (算数パスポート)

ページ	学習内容	指導時数・時期
62~82	1 数と量 2 計算と見積もり 3 図形 4 数量の関係 5 問題の見方・考え方	16 時間 2 学期制：2月上旬～3月中旬 3 学期制：2月上旬～3月中旬

### \* 地球と算数

ページ	学習内容	指導時数
83~104	1 気温と二酸化炭素 2 海水温度の上昇 3 北極海の溶解 4 上昇する海面 5 生活と二酸化炭素 6 森林のはたらき 7 二酸化炭素排出量の削減計画 8 人と自然の共存のくふう 9 中学校への旅立ち ○ 中学校で学ぶ「数学」のじょうかい	時間配当なし

※卷末にある「地球と算数」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

### ★ 算数のまど

ページ	学習内容	指導時数
105~123	・各单元の補充・発展問題など	時間配当なし

※卷末にある「算数のまど」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。

すべての児童が一律に学習する必要はありません。

## 評価の観点と評価規準 1年

単 元	観 点 别 学 習 状 況 の 評 価 規 準				
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
1 かずと すうじ	A	身のまわりの具体的な場面から、進んでいろいろなものの個数を数で表そうとしている。	数えるものの集まりを明確にとらえて、ものと数詞を対応させて、個数や順番を数えることができる。	10までの数について、並び方などに着目し、正確によんだり、かいたり、大小を比べることができる。	10までの数についてのよみ方やかき方、大小比較を通して、10までの数の意味や表し方を十分理解している。
	B	身の回りの具体的な場面から、ものの個数を数で表そうとしている。	数えるものの集まりをとらえて、ものと数詞を対応させて数えることができる。	10までの数について、よんだり、かいたり大小を比べることができる。	10までの数についてのよみ方やかき方、大小比較を通して、10までの数の意味や表し方を概ね理解している。
2 なんばんめ	A	身のまわりの具体的な場面から、ものの順序を、進んで数で表そうとしている。	集合数と順序数の違いを意識し、前後、上下、左右の基準を明確にし、数詞を順番に1対1対応させて、ものの順序を考えることができる。	前後、上下、左右の基準を明確にし、手際よく数詞を順番に1対1対応させて数え、ものの順序を数で表すことができる。	集合数と順序数の違いと前後、上下、左右を基にしたものの順序の表し方について十分理解している。
	B	身のまわりの具体的な場面から、ものの順序を、数で表そうとしている。	前後、上下、左右などの基準を基に数詞を順番に1対1対応させて、ものの順序を考えることができる。	前後、上下、左右の基準を基に数詞を順番に1対1対応させて数え、ものの順序を数で表すことができる。	集合数と順序数の違いと前後、上下、左右を基にしたものの順序の表し方について理解している。
3 いくつと いくつ	A	1つの数を、進んで他の数の合成や分解により、構成的にみようとしている。	1つの数を他の数と関係づけて考え、合成・分解を通して、数を多面的にみることができる。	10までの数の合成・分解や10の補数について、正確に求めることができる。	数の合成・分解を通して、10までの数の構成を十分理解している。
	B	1つの数を、他の数の合成とみたり、分解により構成的にみたりしようとしている。	10までの数の合成・分解を通して、数を多面的にみることができる。	10までの数の合成・分解や10の補数を求めることができる。	数の合成・分解を通して、10までの数の構成を理解している。
4 いろいろな かたち	A	積み木遊び等を通して、身近にある立体に関心をもち、進んでその立体の特徴や構成要素の面の特徴を調べようとしている。	立体の形状に着目し、積みやすい、転がりやすいなどの特徴に着目したり、構成要素のまる、さんかく、しかくを見付けて、かどの個数に着目したりすることができる。	積み木やかんなどの立体を使って身の回りの具体物をいろいろ作ったり、まる、さんかく、しかくの特徴を生かして絵をかいたりすることができる。	身近にある立体の形を観察し、その特徴やまる、さんかく、しかくの特徴を十分理解している。
	B	身近にある立体に関心を持ち、積み木遊び等を通して立体の特徴やその構成要素の面の特徴を調べようとしている。	立体の形状に着目し、積みやすい、転がりやすいなどの特徴に着目し、構成要素のまる、さんかく、しかくを見付けることができる。	積み木やかんなどの立体を使って身の回りの具体物を作ったり、まる、さんかく、しかくの特徴を生かして絵をかいたりすることができる。	身近にある立体の形を観察し、その特徴やまる、さんかく、しかくの特徴を理解している。

単元	観点別学習状況の評価規準				
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
5 ふえたり へったり	A	数量がふえたり、へったりする事象に関心をもち、ブロックを使って進んで数量の増減を調べようとしている。	具体的な操作を通して、増えたり減ったりする数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」という増減を表すことばで説明したりすることができる。	数量の増減を手際よくブロックで表すことができる。	数量が増減する事象について、具体的な操作と結びつけて、その意味を理解している。
	B	数量がふえたり、へったりする事象に関心をもち、数量の増減を調べようとしている。	具体的な操作を通して、増える、減るといった数量の増減に着目することができる。	数量の増減をブロックで表すことができる。	数量が増減する事象について、具体的な操作を通して、その意味を理解している。
6 たしざん(1)	A	身近な場面において、進んで、たし算が適用できる場面を見つけ、用いようとしている。	増加と合併の場面を区別して、たし算を適用することを考えることができる。	たし算の式に表し、(1桁)+(1桁)≤10 の計算が速く、確実にできる。	増加と合併の場面について、操作とたし算の式を結びつけて、その意味を十分理解している。
	B	身近な場面において、たし算を見つけ、用いようとしている。	増加と合併の場面に着目して、たし算を適用することを考えることができる。	たし算の式に表し、正しく(1桁)+(1桁)≤10 の計算ができる。	増加と合併の場面について、操作とたし算の式を結びつけて、その意味を理解している。
7 ひきざん(1)	A	身近な場面において、進んで、ひき算が適用できる場面を見つけ、用いようとしている。	求残と求差の場面を区別して、ひき算を適用することを考えることができる。	ひき算の式に表し、速く、確実に(10以下の数)-(1桁)の計算をすることができる。	求残と求差の場面について、操作とひき算の式を結びつけて、ひき算の意味を十分理解している。
	B	身近な場面においてひき算が適用できる場面を見つけ、用いようとしている。	求残と求差の場面に着目して、ひき算を適用することを考えることができる。	ひき算の式に表し、正しく(10以下の数)-(1桁)の計算ができる。	求残と求差の場面について、操作とひき算の式を結びつけて、ひき算の意味を理解している。
8 20までの かず	A	20までの個数や順序を、進んで数字を用いて表したり、数直線上に表そうしたりしている。	20までの数を10のまとまりと1のまとまりに着目し、きちんと「10といくつ」と見ることができる。	20までの数を的確に数字で表したり、大小を比べたり、数直線上に表したりすることができる。	20までの数の表し方、大小比較の仕方、数系列を十分理解している。
	B	具体的な場面を通して、20までの個数や順序を、数字を用いて表そうしたり、数直線上に表そうしたりしている。	20までの数を10のまとまりと1のまとまりに着目し、「10といくつ」と見ることができる。	20までの数を数字で表したり、大小を比べたり、数直線上に表したりすることができる。	20までの数の表し方、大小比較の仕方、数系列を理解している。
● よみとるさんすう(1) あさがお	A	日常の長い文章の中から必要な情報を読み取り、進んで問題を解決しようとしている。	問題解決に必要な情報を選択し、問題解決に必要な情報を活用して問題解決の仕方を考えることができる。	問題解決に必要な情報を選択し、手際よく問題解決に必要な情報を活用して問題解決することができる。	問題を解決する情報を適切に読み取ることができる。
	B	日常の長い文章の中から情報を読み取り、問題を解決しようとしている。	問題解決に必要な情報を選択し、情報を活用して問題解決の仕方を考えることができる。	問題解決に必要な情報を選択し、問題解決に必要な情報を活用して問題解決することができる。	問題を解決する情報を読み取ることができる。

単元	観点別学習状況の評価規準				
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
9 おおきさくらべ(1) ながさ みずのかさ とけい	A	長さ、面積などの大きさに关心をもち、比べ方を工夫しようとしている。また、時計に关心をもち、何時・何時半の時刻を進んでよもうとしている。	長さ、面積について直接比較、間接比較の仕方を考えることができる。また、時計の長針、短針の指す目盛りに着目することができる。	長さ、面積について直接比較、間接比較することができる。また、何時・何時半の時刻をよんだりつくつたりできる。	長さや面積の大きさ比べの仕方を十分理解している。また、何時・何時半の時刻のよみ方を十分理解している。
	B	長さ、面積などの大きさに关心を持ち、比較しようとしている。また、時計に关心をもち、何時・何時半の時刻をよもうとしている。	長さ、面積の比べ方を考えることができる。また、時計の長針、短針の指す目盛りに着目することができる。	直接・間接比較や任意単位による測定によって、長さ、面積を比較することができます。また、何時・何時半の時刻をよむことができる。	長さや面積の大きさ比べの仕方を十分理解している。また、何時・何時半の時刻のよみ方やつくり方を理解している。
10 3つのかずのけいさん	A	3口になっても、たし算ひき算の計算を進んで用いようとしている。	3口の計算の仕方を順々に考えることができる。	具体的な場面に即して、3口の計算が速く、確実にできる。	3口になっても、たし算ひき算を用いる場面を十分理解している。
	B	3口になっても、たし算ひき算の計算を用いようとしている。	3口の計算の仕方を、数図ブロックを使って順々に考えることができます。	具体的な場面に即して、3口の計算ができる。	3口になっても、たし算ひき算を用いる場面を理解している。
11 たしざん(2)	A	繰り上がりのあるたし算を進んで身近な問題に用いようとしている。	「10とあといくつ」と考えて、繰り上がりのある計算の仕方を考え、説明することができる。	(1桁)+(1桁)で繰り上がりのあるたし算が速く、確実にできる。	(1桁)+(1桁)で繰り上がりのあるたし算の意味や計算の仕方を十分理解している。
	B	繰り上がりのあるたし算を身近な問題に用いようとしている。	数図ブロックを使って「10とあといくつ」と考えて、繰り上がりのあるたし算の仕方を考え説明することができる。	(1桁)+(1桁)で繰り上がりのあるたし算ができる。	(1桁)+(1桁)で繰り上がりのあるたし算の計算の意味や仕方を理解している。
11 たしざん(2) ステップ	A	加数分解による繰り上がりのあるたし算に進んで取り組もうとしている。	繰り上がりのあるたし算を加数分解で考え、説明することができる。	繰り上がりのあるたし算が速く、確実にできる。	繰り上がりのあるたし算の仕方を十分理解している。
	B	加数分解による繰り上がりのあるたし算に取り組もうとしている。	繰り上がりのあるたし算を加数分解で考えることができる。	繰り上がりのあるたし算が正しく、確実に計算できる。	繰り上がりのあるたし算の仕方を理解している。
11 たしざん(2) ジャンプ	A	たし算の計算を使って進んで楽しい手紙を作ろうとしている。	たし算の計算を使って工夫した手紙文を考えることができる。	たし算の計算を使って複雑な手紙を読んだり、書いたりすることができる。	たし算の計算を使って手紙文を書いたり読んだりする仕方を十分理解している。
	B	たし算の計算を使って手紙を作ろうとしている。	たし算の計算を使って手紙文を考えることができる。	たし算の計算を使って手紙を読んだり、書いたりすることができる。	たし算の計算式を使って手紙文を書いたり読んだりする仕方を理解している。

単元	観点別学習状況の評価規準			
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
12 かたちづくり	A	色板や棒を並べたり、点を線でつないだりして、進んでいろいろな形をつくろうとしている。	色板や棒を使って身の回りの形をつくる活動を通して、図形の構成要素に着目し、ずらす、回す、裏返すなどの見方ができる。	色板や棒を並べる、点を線でつなぐなどして、いろいろな形をつくったり、分解したりすることができる。
	B	色板や棒を並べたり、点を線でつないだりして、いろいろな形をつくろうとしている。	色板や棒を使って身の回りの形をつくる活動を通して、ずらす、回す、裏返すなどの見方ができる。	色板や棒を並べる、点を線でつなぐなどして、形をつくったり、分解したりすることができる。
13 ひきざん(2)	A	繰り下がりのあるひき算を進んで身近な問題に用いようとしている。	繰り下がりのあるひき算の仕方を減加法や減減法で考え、説明することができる。	(十何) - (1 衍) の繰り下がりのあるひき算を速く、確実に計算できる。
	B	繰り下がりのあるひき算を身近な問題に用いようとしている。	繰り下がりのあるひき算の仕方を減加法で考え、説明することができる。	(十何) - (1 衍) で繰り下がりのあるひき算を確実に計算できる。
13 ひきざん(2) ステップ	A	繰り下がりのあるひき算に進んで取り組もうとしている。	繰り下がりのあるひき算で減数に伴った被減数の分解の理由を考えることができる。	繰り下がりのあるひき算の仕方を十分理解している。
	B	繰り下がりのあるひき算に取り組もうとしている。	繰り下がりのあるひき算で減数に伴った被減数の分解を考えることができる。	繰り下がりのあるひき算の仕方を理解している。
13 ひきざん(2) ジャンプ	A	ひき算の計算を使って進んで楽しいクイズ文を作ろうとしている。	ひき算の計算を使って工夫したクイズ文を考えることができる。	ひき算の計算を使って複雑なクイズ文を読んだり、書いたりする仕方を十分理解している。
	B	ひき算の計算を使ってクイズ文を作ろうとしている。	ひき算の計算を使ってクイズ文を考えることができる。	ひき算の計算式を使ってクイズ文を書いたり読んだりする仕方を理解している。
● たすのかな ひくのかな	A	たし算や引き算の問題場面を適切に判断し、式を立ててその根拠を明確に述べようとしている。	問題を読んで、たし算やひき算の式を立て、その根拠を論理的に考え、説明することができる。	問題を的確にたし算やひき算の式で表し、解決することができる。
	B	たし算や引き算の問題場面を判断し、式を立ててその根拠を述べようとしている。	問題を読んで、たし算やひき算の式を立て、その根拠を考え、説明することができる。	たし算の問題場面かひき算の問題場面であるかを判断する根拠を十分に理解している。

単元	観点別学習状況の評価規準				
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
14 0のたしざんとひきざん	A	0を含む計算場面にも、進んで、たし算やひき算を用いようとしている。	たし算、ひき算が用いられる場面を、数量が0になんでも適用し、筋道立て考えることができる。	0のたし算とひき算が正しく、確実に計算することができる。	0のたし算、ひき算の意味と計算の仕方を十分理解している。
	B	0を含む計算場面にも、たし算やひき算を用いようとしている。	たし算、ひき算が用いられる場面を、数量が0になんでも適用して考えることができる。	0のたし算とひき算を計算することができる。	0のたし算、ひき算の意味と計算の仕方を理解している。
15 ものとひとのかず	A	異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算を進んでしようとしている。	1対1対応により、異種の量の加減計算を考えることができる。	異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算が手早くできる。	異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算の仕方を十分理解している。
	B	異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算をしようとしている。	1対1対応により、異種の量を同種の量に置き換えて考えることができる。	操作活動を通じて、異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算ができる。	異種の量の加減や順序数を含む数の加減計算の仕方を理解している。
16 大きいかず	A	120程度までの数について、進んで調べようとしている。	十進位取り記数法を基に100までの数のかき方を筋道立てて考え、10を単位とした数の見方ができる。また、120程度までの数について「100といくつ」という見方ができる。	120までの数について、よんだり、かいたり、大小を比べたり、10を単位とした数の合成、分解が速く、確実にできる。	100までの数について、表し方、大小・系列を十分理解している。また、100をこえる数の表し方も確実に知っている。
	B	120程度までの数について調べようとしている。	十進位取り記数法を基に100までの数のかき方を考え、10を単位とした数の見方ができる。また、120程度までの数について「100といくつ」という見方ができる。	120までの数について、よんだり、かいたり、大小を比べたり、10を単位と数の合成・分解ができる。	100までの数について、表し方、大小・系列を理解している。また、100をこえる数の表し方を知っている。
16 大きいかず ステップ	A	100までの数について、十進位取り記数法を用いて進んで表そうとしている。	十進位取り記数法のしくみを基に決められた数やある数よりもいくつ小さい数などを筋道立てて考えることができる。	100までの数について、十進位取り記数法を用いて確実に表したり、大小比較したりすることができる。	100までの数について、十進位取り記数法を用いた数の表し方や大小比較の仕方を十分理解している。
	B	100までの数について、十進位取り記数法を用いて表そうとしている。	十進位取り記数法のしくみを基に決められた数やある数よりもいくつ小さい数などを考えることができる。	100までの数について、十進位取り記数法を用いて表したり、大小比較したりすることができる。	100までの数について、十進位取り記数法を用いた数の表し方や大小比較の仕方を理解している。
16 大きいかず ジャンプ	A	いろいろなお金の出し方を考えるお買い物ごっこに進んで参加している。	数の多面的な見方を基に、適切なお金の計算の仕方や出し方を考えることができる。	お買い物ごっこで、速く、確実にお金の計算し、出すことができる。	いろいろなお金の出し方やお金の計算の仕方を十分理解している。
	B	いろいろなお金の出し方を考えるお買い物ごっこに楽しく参加している。	数の多面的な見方を基に、お金の計算の仕方や出し方を考えることができる。	お買い物ごっこで、確実にお金の計算をし、出すことができる。	いろいろなお金の出し方やお金の計算の仕方を理解している。

単元	観点別学習状況の評価規準			
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
● かえますか？ かえませんか？	A	買い物場面の中で、買えるか買えないかを、進んで見当をつけようとしている。	買えるか買えないかを、ある数の大きさを基準にして見当付けたり、判断し、説明したりすることができる。	買えるか買えないかを、ある数の大きさを基準にして、速く、適切に判断、処理することができる。
	B	買い物場面の中で、買えるか買えないかを、見当をつけようとしている。	買えるか買えないかを、ある数の大きさを基準にして見当付けたり、判断したりすることができる。	買えるか買えないかを、ある数の大きさを基準にして見当付けする仕方を理解している。
17 100までの かずの けいさん	A	簡単な場合について、2位数のたし算やひき算の仕方を、進んで考えようとしている。	10を単位とする見方や数構成に基づいて、簡単な場合の2位数のたし算、ひき算の仕方を考え、説明できる。	簡単な2位数についてのたし算やひき算を速く、確実にできる。
	B	簡単な場合について、2位数のたし算やひき算の仕方を考えようとしている。	10を単位とする見方や数構成に基づいて、簡単な場合の2位数のたし算やひき算の仕方を考えることができる。	簡単な2位数についてのたし算やひき算ができる。
18 おなじ かずずつ	A	具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを進んで整理して表そうとしている。	自分で適当な大きさのまとまりをつくりて数えたり等分したりして乗法や除法の素地的な見方ができる。	乗法や除法の基礎となるブロック操作が的確にでき、それを絵や式にかけて整理し、確かめることができる。
	B	具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表そうとしている。	具体物をまとめて数えたり等分したりして乗法や除法の素地的な見方ができる。	乗法や除法の基礎となるブロック操作ができる、それを絵、式にかけて確かめることができる。
19 おおい ほう すくな い ほう	A	一方の数量と差がわかつたときの他方の数量を進んで調べようとしている。	数図ブロックを使って数量の大小関係を考え、演算決定し、それを説明することができる。	一方の数量と差から演算を決定し、速く、正しく他方の数量を求めることができる。
	B	一方の数量と差がわかつたときの他方の数量を調べようとしている。	数図ブロックを使って数量の大小関係を考え、演算決定することができる。	一方の数量と差から演算決定し、正しく他方の数量を求めることができる。
● ものの いち	A	方向や位置を実感的にとらえて、ものの位置を進んで表そうとしている。	基準を決めて、前後、上下、左右などの用語を用いて、ものの位置の表し方を考え、説明することができる。	前後、上下、左右などの用語を適切に用いて、ものの位置を表すことができる。
	B	方向や位置をとらえて、ものの位置を表そうとしている。	基準を決め、前後、上下、左右などの用語を用いて、位置の表し方を考え、説明することができる。	前後、上下、左右などの用語を使った方向や位置の表し方について理解している。

単元	観点別学習状況の評価規準				
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
20 大きさくらべ(2) ひろさ, かさ, とけい	A	身近なものの長さ, 面積, 体積に关心をもち, 進んで比べようとしている。日常の生活の中で進んで時刻を進んでよもうとしている。	状況に応じて, 適切な比較や具体物を使った測定の方法を考えることができる。 時計の目盛に着目して, 時刻のよみ方を考え, 説明できる。	ものの長さ, 面積, 体積を適切に直接比べたり, 他のものを用いて比べたりすることができる。 何時何分の時刻をよんだり, 時計の文字盤で表したりできる。	ものの長さ, 面積, 体積の比べ方や任意単位の測定の仕方を十分理解している。 時計の目盛りのしくみを知り, 何時何分の時刻のよみ方を十分理解している。
	B	身近なものの長さ, 面積, 体積に关心をもち, 比べようとしている。日常の生活の中で時刻をよもうとしている。	直接比較や具体物を使った測定の方法を考えることができる。 時計の目盛りに着目して, 何時何分の時刻のよみ方を考えることができる。	ものの長さ, 面積, 体積を直接比べたり, 他のものを用いて比べたりすることができる。 簡単な時刻(何時何分)をよんだり, 時計の文字盤で表したりできる。	ものの長さ, 面積, 体積の比べ方や任意単位の測定の仕方を理解している。 時計の目盛りのしくみを知り, 何時何分の時刻のよみ方を理解している。
● よみとるさんすう(2) にこにこぼくじょうに いって	A	絵図を用いた様々な情報の中から必要な情報を読み取り, 進んで問題を解決しようとしている。	問題解決に必要な情報を的確に収集・選択して考えることができる。	絵図を用いた様々な情報の中から必要な情報を読み取り, 適切に情報を活用して問題を解決することができる。	絵図を用いた様々な情報の中から必要な情報を読み取る仕方や既習の計算の活用の仕方を十分理解している。
	B	絵図を用いた様々な情報の中から必要な情報を読み取り, 問題を解決しようとしている。	問題解決に必要な情報を収集・選択して考えることができる。	絵図を用いた様々な情報の中から必要な情報を読み取り, 情報を活用して問題を解決することができる。	絵図を用いた様々な情報の中から必要な情報を読み取る仕方や既習の計算の活用の仕方を理解している。

## 評価の観点と評価規準 2年上

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1 ひょう・グラフと時計	①あそびしらべ	A 身の回りの数量を分類・整理し、分かりやすい表やグラフに表そうとしている。	1つの観点から分類・整理し、表やグラフから特徴を考えることができる。	身の回りの数量について分類・整理し、正確に見やすく表や●のグラフで表すことができる。	表やグラフに表すよさに気付き、簡単な表やグラフの読み方、かき方を理解している。
		B 身の回りの数量を分類・整理し、表やグラフに表そうとしている。	1つの観点から分類・整理し、簡単な表やグラフから特徴を考えることができる。	身の回りの数量について分類・整理し、表や●のグラフで表すことができる。	表やグラフの読み方、かき方を理解している。
	②1日の生活	A 時刻・時間に関心を持ち、生活と関連付けながら、進んで時刻・時間を調べようとしている。	時刻と時間を区別し、時計の模型を使って、長針がどれだけ動いたかに着目して、時間を考えることができる。	時刻の読み方及び1日と時間の関係を理解し、時間やある時間だけ前後の時刻を確実に求めることができる。	時刻と時間の違い及び1日と時間、時間と分の関係を確実に理解している。
		B 時刻・時間に関心を持ち、生活と関連付けながら、時刻・時間に調べようとしている。	時刻と時間を区別し、時計の模型を使って、長針がどれだけ動いたかで時間を考えることができる。	時刻の読み方及び1日と時間の関係を理解し、時間やある時間だけ前後の時刻を求めることができる。	時刻と時間の違い及び1日と時間、時間と分の関係を理解している。
●みんなで話しゃいましょう	A みんなで話し合うことに関心をもち、話し合いの心構えを読んで、進んで発表し、話し合おうとしている。	式を、図を使って分かりやすく説明する仕方、自分の考えと比べながら聞くなど、話し合いの仕方を考えることができる。	みんなで話し合うために大切な5つ以上の事柄を取り上げることができる。	みんなで話し合いを進める「進んで発表する」などの6つの大切な事柄を十分理解している。	
		B 話し合うことに関心を示し、話し合いの心構えを読んで、算数を楽しく学ぼうとしている。	式になるわけを図を使って分かりやすく説明するなど、話し合いの仕方を考えることができる。	みんなで話し合うために大切なことを3つ程度取り上げることができる。	みんなで話し合いを進める6つの大切な事柄を理解している。
	①たし算	A 簡単なたし算は、暗算で処理し、進んで生活の中で活用しようとしている。	(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)で、被加数を分解しない暗算の仕方を考えることができる。	(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)の計算を暗算で確實にできる。	(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)の暗算の仕方は、数のしくみに基づいていることを理解している。
		B 簡単なたし算は、暗算で処理しようとしている。	(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)で、被加数を分解しない暗算の仕方を計算棒を使って考えることができる。	(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)の計算を暗算でできる。	(2桁)+(1桁), (2桁)+(何十)の暗算の仕方を理解している。
	②ひき算	A 簡単なひき算は、暗算で処理し、進んで生活の中で活用しようとしている。	(2桁)-(1桁), (2桁)-(何十)で、被減数を何十と何に分け、何十からひく暗算の仕方を考えることができる。	(2桁)-(1桁), (2桁)-(何十)の計算を暗算で確實にできる。	(2桁)-(1桁), (2桁)-(何十)の暗算の仕方は、数のしくみに基づいていることを理解している。
		B 簡単なひき算は、暗算で処理しようとしている。	(2桁)-(1桁), (2桁)-(何十)で、被減数を何十と何に分け、何十からひく暗算の仕方を計算棒を使って考えることができる。	(2桁)-(1桁), (2桁)-(何十)の計算を暗算でできる。	(2桁)-(1桁), (2桁)-(何十)の暗算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
3 長さ	A	長さの測定に興味をもち、測定結果をもとに予想を立てながら、いろいろなものの長さを測定しようとしている。	普遍単位の必要性に気づき、普遍単位の幾つ分と考え、ものの長さを数値化することを考えることができる。	測定の対象の大きさによって、cm, mmなどの単位を選択し、ののさしを使って測定したり、長さを計算したりできる。	長さについての感覚を身につけ、長さの単位と測定の意味、普遍単位の必要性を理解している。
		B	長さの測定に興味をもち、進んでいろいろなものの長さを測定しようとしている。	普遍単位の必要性に気づき、普遍単位の幾つ分と考え、ものの長さを表すことを考えることができる。	長さについての感覚を身につけ、長さの単位と測定の意味を理解している。
4 たし算とひき算のひ	①たし算	A	たし算の筆算について関心を持ち、筆算で処理するよさを感じながら、身近な問題解決に生かそうとしている。	(2桁)+(2桁)<100の筆算の仕方を、十進位取り記数法に基づいて考え、説明することができる。	(2桁)+(2桁)<100の筆算が確実にでき、加法の交換法則を使って答えの確かめができる。
		B	たし算の筆算について関心を持ち、身近な問題解決に生かそうとしている。	(2桁)+(2桁)<100の筆算の仕方を、十進位取り記数法に基づいて考えることができる。	(2桁)+(2桁)<100の筆算ができ、加法の交換法則を使って答えの確かめができる。
つ算(1)	②ひき算	A	ひき算の筆算について関心を持ち、筆算で処理するよさを感じながら、身近な問題解決に生かそうとしている。	(2桁)-(2桁)の筆算の仕方を、十進位取り記数法に基づいて考え、説明することができる。	(2桁)-(2桁)の筆算が確実にでき、加減の相互関係をもとに答えの確かめができる。また、加減の問題をテープ図にかくことができる。
		B	ひき算の筆算について関心を持ち、身近な問題解決に生かそうとしている。	(2桁)-(2桁)の筆算の仕方を、十進位取り記数法に基づいて考えることができる。	(2桁)-(2桁)の筆算ができる、加法と減法の相互関係をもとに答えを確かめることができる。また、加減の問題をテープ図にかくことができる。
◎ かくれた数はいくつ	A	加減の2要素1段階で逆思考の問題を、テープ図などを使って進んで解決しようとしている。	加減の2要素1段階で逆思考の問題を、テープ図を使って、筋道立てて考えることができる。	加減の2要素1段階で逆思考の問題を、テープ図を使って、筋道立てて考えることができる。	加法と減法の相互の関係を、テープ図を基に構造的に理解している。
		B	加減の2要素1段階で逆思考の問題を、テープ図などを使って解決しようとしている。	加減の2要素1段階で逆思考の問題を、テープ図を使って考えることができる。	加法と減法の相互の関係を、テープ図を基に理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
● どんな計算になるのかな(1)		A 問題をよみ、進んで問題に取り組み何算になるか判断をしようとしている。	加減計算の意味を基に演算決定し、その根拠を場面に即して、ことばや図を用いて的確に考え方説明することができる。	場面に即して適切に加減の演算決定をし、確実に計算することができる。	加減の用いられる場面を理解し、その区別が明確にできる。
		B 問題をよみ、何算になるか判断をしようとしている。	加減計算の意味を基に演算決定し、その根拠を場面に即して説明することができる。	場面に即して適切に加減の演算決定をし、計算することができる。	加減の用いられる場を理解している。
5 1000までの数	①100をこえる数	A 身の回りのものの個数を10や100のまとまりにして数え、進んでよんだり、かいたりしようとしている。	既習の十進位取り記数法を基に1000までの数の構成を考えたり、10を単位にして数を相対的にとらえたりすることができる。	1000までの数を十進位取り記数法に基づいて、確実によんだりかいたりできる。また、数の大小を>、<を使って表すことができる。	1000までの数の十進位取り記数法による数の表し方、系列、数の大小などを確実に理解している。
		B 身の回りのものの個数を10や100のまとまりにして数え、よんだり、かいたりしようとしている。	十進位取り記数法を基に1000までの数の構成を考えたり、10を単位にして数を相対的にとらえたりすることができる。	1000までの数を十進位取り記数法に基づいてよんだりかいたりできる。また、数の大小を>、<を使って表すことができる。	1000までの数の十進位取り記数法による表し方、系列、数の大小などを理解している。
	②たし算とひき算	A 10や100を単位とした数の相対的な見方を用いた加減計算に進んで取り組み、身の回りの生活に活用しようとしている。	何十、何百の加減計算を、10や100を単位にして、既習の基数の加減計算に帰着させて考えることができる。	10や100を単位とする数の相対的な見方に基づく加減計算が確実にできる。	10や100を単位とする数の相対的な見方を活用する加減計算の仕方を確実に理解している。
		B 10や100を単位とした数の相対的な見方を用いた加減計算を生活に活用しようとしている。	何十、何百の加減計算を、お金の模型を使って、既習の基数の加減計算に帰着させて考えることができる。	10や100を単位とする数の相対的な見方に基づく加減計算ができる。	10や100を単位とする数の相対的な見方を活用する加減計算の仕方を理解している。
● 買えますか？買えませんか？		A 買えるかどうかを判断する問題場面に関心をもち、進んで問題に取り組もうとしている。	98, 105のような数を100と見て、買うことできるかどうかを考え、判断し、そのわけを説明することができる。	買うことができるかどうかを素早く判断できる。	98, 105のような数を100とみて、これを活用して判断する方法を的確に理解している。
		B 買えるかどうかを判断する問題場面に関心をもち、問題に取り組もうとしている。	98, 105のような数を100と見て、買うことできるかどうかを考え、説明することができる。	買うことができるかどうかを判断できる。	98, 105のような数を100とみて、これを活用して判断する方法を理解している。
● よみとる算数(1)		A 身近な話題と算数との関わりに関心を持ち、既習事項を使って、問題を解決したり、進んで問題作りをしたりしようとしている。	解決に必要な情報を選択し、適切な演算決定を行い、有効な数理的処理を考えることができる。	身近な問題について、解決に必要な情報を選択し、既習事項を使って的確に問題解決することができる。	解決に必要な情報を的確に選択し、問題解決したり問題を作ったりする仕方を理解している。
		B 身近な話題と算数との関わりに関心を持ち、既習事項を使って、問題を解決しようとしている。	解決に必要な情報を選択し、有効な数理的処理を考えることができる。	身近な問題について、情報選択を行い、問題解決することができる。	身近な問題について、情報選択を行い、問題解決する仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
6 か さ	A	進んで身のまわりのもののかさを測定し、1L, 1dL, 1mLの量感を豊かにしようとしている。	もののかさを比べると、普遍単位を使って筋道立てて考えることができる。	かさの普遍単位L, dL, mLを知り、用途に応じて手際よく測定することができる。	かさの普遍単位の必要性とその単位L, dL, mLを十分に理解している。
		B	普遍単位の必要性やさに気づき、進んで身のまわりのもののかさを測定しようとしている。	異なる容器で測った不自然さから、かさの普遍単位の必要性を考えることができる。	かさの普遍単位L, dL, mLを知り、それらを使って測定することができる。
● 算数のじゅうけんきゅう	A	自由研究に関心を持ち、線路づくりに興味を示し、線路の構成に意欲的に取り組もうとしている。	連続して線路がつながっていくように、見通しを持ちながら、図形の構成の仕方を考えることができる。	線路のつながり方に目をつけ、線路の模様を多様につくることができる。	一定のルールに基づいて、線路をつなげて図形を構成する多様な方法を理解している。
		B	線路づくりに関心を示し、線路の構成に取り組もうとしている。	線路のつながり方に目をつけ、図形の構成の仕方を考えることができる。	線路のつながり方に目をつけ、線路の模様をつくることができる。
7 たし算とひき算のひつ算(2)	①たし算	A	加法の筆算のよさを感じ取り、既習の筆算を活用して、日常生活の問題を加法の筆算を使って解決しようとしている。	既習の計算方法から類推して、筋道立てて、計算方法を考えることができる。	(2桁)+(2桁)≥100の筆算や3口のたし算が確実にでき、これらの問題を作ることができる。
		B	加法の筆算のよさを感じ取り、既習の筆算を活用して、計算しようとしている。	(2桁)+(2桁)≥100の筆算の仕方を、計算棒を操作したり、既習の計算を基にして考えることができる。	(2桁)+(2桁)≥100の筆算や3口のたし算が確実にできる。
	②ひき算	A	減法の筆算のよさを感じ取り、既習の筆算を活用して、日常生活の問題を減法の筆算を使って解決しようとしている。	既習の計算方法から類推して、筋道立てて計算方法を考えることができる。	筆算による(3位数)-(2位数)=(2位数)の筆算の仕方が、数の相対的なしくみに基づいていることを理解している。
		B	減法の筆算のよさを感じ取り、既習の筆算を活用して、計算しようとしている。	減法の筆算の仕方を、計算棒を操作したり、既習の計算を基にして考えることができる。	筆算による(3位数)-(2位数)=(2位数)の筆算の仕方を理解している。
	③3けたの数のひつ算	A	3位数を含む加減の筆算の仕方を、2位数の場合を基にして、進んで考えようとしている。	2位数の場合に基づき、3位数を含む加減の筆算の仕方を見いだし、自らつくることができる。	筆算による(3位数)+(2,1位数), (3位数)-(2,1位数)=(2位数)の筆算の仕方を確実に理解している。
		B	3位数を含む加減の筆算に関心をもち、その仕方を進んで考えようとしている。	2位数の場合に基づき、3位数を含む加減の筆算の仕方を見いだすことができる。	筆算による(3位数)+(2,1位数), (3位数)-(2,1位数)=(2位数)の筆算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
7 たし算とひき算のひつ算(2)	④文と図としき	A 文をもとにして、問題文を作ったり、式や図に表したりすることに関心をもち意欲的に取り組もうとしている。	問題文と式と図の三者のそれぞれの特徴をとらえ相互の関連について考えることができる。	問題文を作ったり、式や図に表したりすることができる。	文をもとにして、問題文を作ったり、式や図に表したりする仕方を明確に理解している。
		B 文をもとにして、問題文を作ったり、式や図に表したりすることに取り組もうとしている。	問題文、式、図の相互の関連について考えることができる。	問題文を作ったり、式や図に表したりすることができる。	文をもとにして、問題文を作ったり、式や図に表したりする仕方を理解している。
◎ ふえたりへつたり		A 日常の事象について、オペレーター(変量)に着目して考えることのできる場面を進んでみつけようとしている。	加減の3要素2段階の問題を、オペレーター(変量)について筋道立てて考えることができる。	加減の3要素2段階の問題をオペレーター(変量)に着目して確実に解くことができる。	図や数図ブロックを利用して、オペレーター(変量)に着目することで、簡潔に処理することができる理解している。
		B 日常の事象について、オペレーター(変量)に着目して考えようとしている。	加減の3要素2段階の問題をオペレーター(変量)に着目して考えることができる。	加減の3要素2段階の問題を図や数図ブロックなどを用いて解くことができる。	数図ブロックを利用して、オペレーター(変量)に着目することを理解している。
8 計算のじゅんじょ		A 日常生活において、( )を用いた加法の計算を積極的に生かそうとしている。	( )を使って1つの式に表し、まとめてたとしてもよい理由を、既習事項と関連づけて考えたり、等号や不等号の使い方について考えたりできる。	( )の意味と加法の結合法則を理解し、手際よく計算したり、>, <, =を使って大小の関係を簡潔な式に表したりできる。	( )の意味とその使い方を知り、加法の結合法則を理解するとともに、等号や不等号の使い方を十分に理解している。
		B 日常生活において、( )を用いた加法の計算の場面を見つけようとしている。	( )を使って1つの式に表し、まとめてたとしてもよい理由を考えたり、等号、不等号の式について考えたりすることができる。	( )の意味と加法の結合法則を理解し、( )を含む式を計算したり、>, <, =を使って式に表したりできる。	( )の意味と加法の結合法則及び等号、不等号を使った式の使い方について理解している。
★ 算数のまど	1 ひょう・グラフと時計ステップ	A 表やグラフに表すことや時計を読むことを生活場面で進んで用いようとしている。	資料を分類・整理するよさを理解できる。また、長針と短針の関係を説明できる。	絵の数を、表や●のグラフに正確に見やすく表したり、時刻を確実に読んだりすることができる。	表やグラフの表し方や短針と長針の関係を意識した時計の読み方を理解している。
		B 表やグラフに表すことや時計をよむことに進んで取り組もうとしている。	資料を分類・整理するよさを理解できる。また、長針と短針の関係を理解している。	絵の数を、表や●のグラフに表したり、時刻を読んだりすることができる。	表やグラフの表し方、時計の読み方を理解している。
	1 ひょう・グラフと時計ジャンプ	A 動物園での1日の挿絵をみて、時刻や時間を求める問題に関心を抱き、問題を、進んで作ってみようとしている。	時刻や時間を求める問題の作り方をいろいろと考えることができる。	動物園での1日の挿絵をみて、時刻や時間を求める問題をいろいろと作ったり解いたりできる。	時刻や時間の意味をとらえ、時刻や時間を求める問題の作り方を的確に理解している。
		B 動物園での1日の挿絵をみて、時刻や時間を求める問題に関心を抱き、問題を、作ってみようとしている。	時刻や時間を求める問題の作り方を考えることができる。	動物園での1日の挿絵をみて、時刻や時間を求める問題を作ったり解いたりできる。	時刻や時間を求める問題の作り方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	2 たし算とひき算ステップ	A (2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算に楽しみながら、進んで取り組もうとしている。	(2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算が1桁同じ計算を基にすればできることを理解し、説明できる。	(2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算が暗算で確実にできる。	(2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の暗算の仕方が数のしくみに基づいていることを理解している。
		B (2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算に進んで取り組もうとしている。	(2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算が1桁同じ計算を基にすればできることを理解できる。	(2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の計算が暗算でできる。	(2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の暗算の仕方を理解している。
	2 たし算とひき算ジャンプ	A 簡単な計算についての暗算に関心をもち、進んで取り組もうとしているだけでなく、自分で作ってみようとしている。	答えに合う3回の加減の式を考えることができる。	3回の加減の計算が暗算で確実にできる。	(2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の暗算の仕方が数のしくみに基づいていることを理解している。
		B 簡単な計算についての暗算に関心をもち、進んで取り組もうとしている。	3回の加減の計算を考えることができる。	3回の加減の計算が暗算でできる。	(2桁)±(1桁), (2桁)±(何十)の暗算の仕方を理解している。
3 長さステップ	A 長さくらべに関心を持ち、長さの感覚を生かして予想を立てながら長さを測定しようとしている。	長さくらべを通して、もののさしのしくみをとらえながら、測定の仕方について考えることができる。	量感を生かしながら効果的に、cm, mmを単位として、確実に長さを測定することができる。	長さについての感覚を身につけ、長さの単位と測定の意味を理解し適切な使い方ができる。	
		B 長さくらべに関心を持ち、進んで長さを測定しようとしている。	長さくらべを通して、測定の仕方について考えることができる。	cm, mmを単位として、長さを測定することができる。	長さについての感覚を身につけ、長さの単位と測定の意味を理解している。
3 長さジャンプ	A 「たからさがし」に関心を持ち、長さの感覚を生かして予想を立てながら長さを測定しようとしている。	どの経路が短いか、長さの加法をもとに、予想を立てて考えることができる。	点と点の結び方、折れ線の測定がものさしを使って確実にできるとともに、長さの加法の計算ができる。	長さについての感覚を身につけ、測定の仕方や加法計算の仕方を十分に理解している。	
		B 「たからさがし」に関心を持ち、進んで長さを測定しようとしている。	どの経路が短いか予想を立てて考えることができる。	点と点の結び方、折れ線の測定がものさしを使ってできるとともに、長さの加法の計算ができる。	長さについての感覚を身につけ、測定の仕方や加法計算の仕方を理解している。
4 たし算とひき算のひつ算(1)ステップ	A たし算やひき算の筆算に関心をもち、筆算で処理するよさを感じながら、進んで取り組もうとしている。	(2桁)+(2桁)<100, (2桁)-(2桁)の筆算は十進位取り記数法に基づいていることを説明することができる。	(2桁)+(2桁)<100, (2桁)-(2桁)の筆算が確実にできる。	(2桁)+(2桁)<100, (2桁)-(2桁)の筆算は、十進数位取り記数法に基づいていることを理解している。	
		B たし算やひき算の筆算に関心をもち、進んで取り組もうとしている。	(2桁)+(2桁)<100, (2桁)-(2桁)の筆算の仕方を十進位取り記数法に基づいて考えることができる。	(2桁)+(2桁)<100, (2桁)-(2桁)の筆算ができる。	(2桁)+(2桁)<100, (2桁)-(2桁)の筆算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	4 たし算とひき算のひつ算(1) ジャンプ	A	積極的にかくされた数のひみつを見つけようとしている。	たし算とひき算の相互関係に着目して筋道立てて考えることができる。	たし算, ひき算の相互関係をもとに確実に計算することができる。
		B	かくされた数をみつけることに関心を持って, 取り組もうとしている。	たし算とひき算の相互関係に着目して考えることができる。	たし算, ひき算の相互関係をもとに計算することができる。
5 1000までの数ステップ		A	100, 10, 1 のまとまりに着目して点数を考え, より速く勝敗の判断をしようとしている。	十進位取り記数法のしくみに基づいて, 大小比較の仕方を考え, 大きい位から比較することで結果を見積もりながら考えることができる。	100, 10, 1 のまとまりに着目して数を構成し, より手際よく大小比較ができる。
		B	100, 10, 1 のまとまりに着目して, 点数を考えようとしている。	十進位取り記数法のしくみに基づいて, 大小比較の仕方を考えることができる。	100, 10, 1 のまとまりに着目して数を構成したり, 大小比較ができる。
5 1000までの数ジャンプ		A	3桁の数の大小関係の問題に 관심を示し, □にあてはまる数を進んで求めようとしている。	同じ位の数字の大小に着目しながら, 大小比較の仕方を考えることができる。	3桁の数の大小関係について調べ, 同じ位の数字に着目し, □にあてはまる数を順序よく求めることができる。
		B	3桁の数の大小関係の問題に 관심を示し, □にあてはまる数をで求めようとしている。	3桁の数の大小比較の仕方を考えることができる。	3桁の数の大小関係について, □にあてはまる数を求めることができる。
6 かさステップ		A	普遍単位の関係を使って進んで取り組もうとしている。	普遍単位の関係を使って, それぞれのかさを考えることができる。	普遍単位の関係を使って同じかさ同士をみつけることができる。
		B	普遍単位の関係を使って, 単位を換算しようとしている。	1目盛りの量を考えることができる。	単位の換算をすることができる。
6 かさジャンプ		A	身の回りの飲み物のかさの大きさくらべに 관심を示し, 大小比べに進んで取り組もうとしている。	同じかさの単位にそろえて計算し, かさの大小をくらべる仕方を考えることができる。	二つかさについて, それぞれの大きさを計算して求め, 大小を比べることができる。
		B	身の回りの飲み物のかさの大きさくらべに取り組もうとしている。	かさの大小をくべる仕方を考えることができる。	二つかさについて, それらの大小を比べることができる。
7 たし算とひき算のひつ算(2) ステップ		A	たし算やひき算の筆算に 관심をもち, 筆算で処理するよさを感じながら, 進んで取り組もうとしている。	$(2\text{桁}) + (2\text{桁})$ , $(3\text{桁}) - (2, 1\text{桁}) = (2\text{桁})$ の筆算は十進位取り記数法に基づいていることを説明することができる。	$(2\text{桁}) + (2\text{桁})$ , $(3\text{桁}) - (2, 1\text{桁}) = (2\text{桁})$ の筆算が確実にできる。
		B	たし算やひき算の筆算に 관심をもち, 取り組もうとしている。	$(2\text{桁}) + (2\text{桁})$ , $(3\text{桁}) - (2, 1\text{桁}) = (2\text{桁})$ の筆算の仕方を, 十進位取り記数法に基づいて考えることができる。	$(2\text{桁}) + (2\text{桁})$ , $(3\text{桁}) - (2, 1\text{桁}) = (2\text{桁})$ の筆算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	7 たし算とひき算のひつ算(2)ジャンプ	A	勝つための置き方を考えながら、(2位数)+(2位数)、(3位数)-(2位数)の筆算に進んで取り組もうとしている。	答えを大きくするにはどこにどんな数字をあてはめればよいかを筋道立てて考えられ、説明することができる。	答えが大きくなるような加法・減法それぞれの式を考えることができる。(2位数)+(2位数)、(3位数)-(2位数)の筆算の仕方が数の相対的なしくみに基づいていることを理解している。
		B	(2位数)+(2位数)、(3位数)-(2位数)の筆算に关心を持ち、取り組もうとしている。	答えを大きくするにはどこにどんな数字をあてはめればよいかを筋道立てて考えることができる。	答えが大きくなるような加法・減法それぞれの式をみつけることができる。(2位数)+(2位数)、(3位数)-(2位数)の筆算の仕方を理解している。

## 評価の観点と評価規準 2年下

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
9 かけ算(1)	①かけ算のしき	A 均等と不均等の違いに気づき、「同じ数のいくつ分」の具体例を生活からいろいろ見つけ、かけ算を用いようとしている。	同じ数に着目し、そのいくつ分と考えたり、その何倍とみたりすることができる。	かけ算が用いられる場面をかけ算の式で的確に表すことができる。	かけ算が用いられる場面を知り、「いくつ分」「何倍」の意味を十分理解している。
		B 均等と不均等の違いに気づき、「同じ数のいくつ分」の具体例を生活から見つけ、かけ算を用いようとしている。	ブロックを使って、「同じ数のいくつ分」「1つの大きさの何倍」と考えることができる。	かけ算が用いられる場面をかけ算の式で表すことができる。	かけ算が用いられる場面を知り、「いくつ分」「何倍」の意味を理解している。
	②かけ算の九九	A 5, 2, 3, 4 の段の九九づくりに関心を持ち、進んで性質やきまりを使って九九をつくり、覚えようとしている。	答えがいくつずつ増えるかに着目し、乗法のきまりや性質を使って九九の構成の仕方を考えることができる。	5, 2, 3, 4 の段の九九をすらすら唱え、それを活用してかけ算の適用問題を解決することができる。	乗数が1増えると積は被除数だけ増えるという性質を理解し、これを活用した九九の構成の仕方を十分に理解している。
		B 5, 2, 3, 4 の段の九九づくりに関心を持ち、九九をつくって覚えようとしている。	答えがいくつずつ増えるかに着目し、このきまりをつかって九九の構成の仕方を考えることができる。	5, 2, 3, 4 の段の九九を唱え、それを活用してかけ算の適用問題を解決できる。	乗数が1増えると積は被除数だけ増えるという性質を理解し、これを活用した九九の構成の仕方を理解している。
	10 かけ算(2)	A 6, 7, 8, 9, 1 の段の九九づくりに関心を持ち、自分で性質やきまりを使って九九をつくり、覚えようとしている。	乗法のきまりや性質を使って6, 7, 8, 9の段の九九の構成の仕方を考え、説明することができる。	6, 7, 8, 9, 1 の段の九九をすらすら唱え、それを活用してかけ算の適用問題を解決することができる。	アレイ図を使った九九の構成の仕方を十分に理解している。
		B アレイ図を使った6, 7, 8, 9, 1 の段の九九づくりに関心をもち、九九をつくって覚えようとしている。	乗法のきまりや性質を使って6, 7, 8, 9, 1 の段の九九の構成の仕方を考えることができる。	6, 7, 8, 9, 1 の段の九九を唱え、活用してかけ算の問題を解決することができる。	アレイ図を使った九九の構成の仕方を理解している。
10 かけ算(2)	②かけ算をつかったもんだい	A 生活場面でのかけ算を使った問題に関心をもち、進んで解決しようとしている。	3つ数量の関係を的確にとらえ、乗法と加法・減法を組み合わせた計算を筋道立てて考えることができる。	乗法と加法・減法を組み合わせた問題を式に表し、速く、確実に解決できる。	乗法と加法・減法を組み合わせた問題であることを十分に理解している。
		B かけ算を使った問題を解決しようとしている。	問題場面をとらえ、乗法と加法・減法を組み合わせた計算を筋道立てて考えることができる。	乗法と加法・減法を組み合わせた問題を式に表し、確実に解くことができる。	乗法と加法・減法を組み合わせた問題であることを理解している。
	③さがしてみよう	A 生活場面を想起して、進んでいろいろにかけ算で求められるものを見つけようとしている。	身の回りから、いろいろな「同じ数のいくつ分」や「同じ数の何倍」に着目することができる。	身の回りの生活において乗法を用いる場面を的確に式にすことができる。	身の回りからかけ算で求められるいろいろな場面を理解している。
		B 生活場面を想起して、いろいろかけ算で求められるものを見つけようとしている。	身の回りから、「同じ数のいくつ分」や「同じ数の何倍」に着目することができる。	身の回りの生活において乗法を用いる場面を式に表すことができる。	身の回りからかけ算で求められる場面を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
●よみとる算数(2)		A 日記に見られる数量に关心を持ち、必要な情報を取り出して算数の問題に進んで取り組もうとしている。	問題の解決に必要な数量の情報を自分で収集・選択して問題解決の仕方を考えることができる。	文章から必要な数量を的確に見出し、問題を解決することができる。	必要な条件を文中より的確によみとり、問題を解決する仕方を理解している。
		B 日記を読んで必要な情報を取り出し、算数の問題に取り組もうとしている。	問題の解決に必要な数量の情報を取り出して、考えることができる。	文章から必要な数量を見出し、問題を解決することができる。	必要な条件を文中よりよみとり、問題を解決する仕方を理解している。
11 三角形と四角形	①三角形と四角形	A 身のまわりから三角形、四角形をとらえ、いろいろな三角形、四角形をつけようとしている。	直線の数、頂点の数、かどの形に直目して、三角形や四角形の特徴を考え、説明することができる。	直線で囲む、点を直線でつなぐ、紙を切って三角形や四角形を的確につくることができる。	三角形、四角形の意味を十分に理解している。
		B 身のまわりから三角形や四角形を見つけようとしている。	直線の数、頂点の数、かどの形に直目して、三角形や四角形の特徴を考えることができる。	直線で囲む、点を直線でつなぐ、紙を切って三角形や四角形をつくることができる。	三角形、四角形の意味を理解している。
	②長方形と正方形	A 長方形、正方形、直角三角形に関心をもち、いろいろな模様を作ったり、もようからいろいろな形をつけたりしようとしている。	直角や辺の相等に着目して、正方形や長方形と直角三角形の意味や性質を見いだすことができる。	方眼紙を使っていろいろな正方形、長方形、直角三角形をつくることができる。	直角、正方形、長方形、直角三角形の意味や性質を十分理解している。
		B 長方形、正方形、直角三角形に関心をもち、いろいろな模様を作ろうとしている。	直角や辺の相等に着目して、正方形や長方形と直角三角形の意味や性質を考えることができる。	方眼紙を使って正方形、長方形、直角三角形をつくることができる。	直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解している。
12 九九のきまり	①九九のひょうときまり	A 九九表のおもしろさに気づき、九九表のきまりや乗法に関する性質を進んで見つけようとしている。	九九表をもとに、乗数と積の関係や交換法則などのきまりを見付け、上手に説明することができる。	九九表を使って、乗数と積のきまりや交換法則などのきまりを素早く見つけることができる。	乗数が1増えると積は被乗数だけ増えることや交換法則など、乗法に関する性質を十分に理解している。
		B 九九表のおもしろさに気づき、九九表から進んできまりを見つけようとしている。	九九表をもとに、乗数と積の関係や交換法則などのきまりを見付け、説明することができる。	九九表を使って、乗数と積のきまりや交換法則などのきまりを見つけることができる。	乗数が1増えると積は被乗数だけ増えることや交換法則など、乗法に関する性質を理解している。
	②九九を広げて	A 九九を広げて、簡単な場合の未習のかけ算の答えを進んで求めようとしている。	かける数やかけられる数が10より大きいかけ算の仕方を、既習のかけ算の性質をもとに工夫し考えることができる。	簡単な2位数を用いたかけ算の立式ができ、既習のかけ算のきまりを使って計算できる。	既習のかけ算のきまりの活用の仕方を十分に理解している。
		B 九九を広げて、未習のかけ算の答えを求めようとしている。	かける数やかけられる数が10より大きいかけ算の仕方を、考えることができる。	簡単な2位数を用いたかけ算を、既習のかけ算のきまりを使って計算できる。	既習のかけ算のきまりの活用の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
13 100cmをこえる長さ	A	常に1mの量感を基にものの長さを予想してから、実際に測定しようとしている。	長さの普遍単位mの必要性に気づき、1mのいくつ分かを考えることができる。	1mの長さをいろいろつぶったり、適切に予想してから1mのさしを使って測定したりすることができる。	長さの普遍単位mと既習内容のmm, cmとの関係や測定の意味を実感的に理解している。	
		B	1mの量感を基にものの長さを予想してから、実際に測定しようとしている。	長さの普遍単位mの必要性に気づき、1mのいくつ分かを考えることができる。	1mの長さをつくったり、予想してから1mのさしを使って測定したりすることができる。	長さの普遍単位mと測定の意味を理解している。
◎ ちがいを見て	A	日常の問題を解決するのに、進んで図を使って数量のちがいに着目し、加法や減法を用いて解決しようとしている。	自分で2つのテープ図をかいて数量の違いに着目して考えることができる。	求大、求小の逆思考の場面で、違いに着目して適切に演算を決定し、問題を解決することができる。	求大、求小の逆思考の場面をテープ図にかいて確実に理解している。	
		B	日常の問題を解決するのに、図を使って違いに着目し、加法や減法を用いようとしている。	2本テープ図を見て数量の違いに着目して考えることができる。	求大、求小の逆思考の場面で、適切に演算を決定し、問題を解決することができる。	求大、求小の逆思考の場面をテープ図を見て理解している。
● どんな計算になるのかな(2)	A	日常生活の場面に見られる何算になるかを判断する問題に、進んで取り組もうとしている。	問題を読み、数量関係が「何の幾つ分」「何の何倍」になっているかを筋道を立てて考え、表現することができる。	かけ算になる問題について演算決定ができ、式に表し、問題を解決することができる。	いくつ分や「何倍」の大きさを求めるかけ算の問題場面を十分に理解している。	
		B	日常生活の場面に見られる何算になるかを判断する問題に、取り組もうとしている。	問題を読み、数量関係が「何の幾つ分」「何の何倍」になっているかを考え、表現することができる。	かけ算になる問題について演算決定して式に表し、問題を解決することができる。	いくつ分や何倍の大きさを求めるかけ算の問題場面を理解している。
14 10000までの数	A	10000までの数について、自分で十進位取り記数法を基に表し方やしくみを進んで調べようとしている。	自分で十進位取り記数法に基づいて考えたり、十や百を単位にして相対的に数をとらえたりすることができる。	10000までの数を確実に数直線上に表したり、数の大小を<, >を使って表したりすることができる。	10000までの数の十進位取り記数法に基づく表し方、大小、順序を十分に理解している。	
		B	10000までの数について、十進位取り記数法を基に表し方やしくみを調べようとしている。	十進位取り記数法に基づいて考えたり、十や百を単位にして相対的に数をとらえたりすることができる。	10000までの数を数直線上に表したり、数の大小を<, >を使って表したりすることができる。	10000までの数について表し方、大小、順序を理解している。
15 はこの形	A	①はこの形 はこの形	進んで箱の形を観察・分解して、面の形、辺や頂点の個数など箱の形を調べようとしている。	箱の形の頂点、辺、面などの構成要素に着目し、個数や箱の面の特徴を見つけることができる。	頂点、辺、面などの構成要素を速く、正しく調べることができる。	箱の形の頂点、辺、面などの構成要素の個数や面の特徴を十分理解している。
		B	箱の形を観察・分解して、面の形、辺や頂点の個数など箱の形を調べようとしている。	箱の形の頂点、辺、面の構成要素に着目し、個数や箱の面の特徴に気付くことができる。	箱の形を観察・分解して、頂点、辺、面の構成要素などを調べることができます。	箱の形の頂点、辺、面などの構成要素の個数や同じ面の個数を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
②はこづくり	A	箱づくりに関心をもち、進んで工作用紙やひごを使って箱の形をつくろうとしている。	箱の形の面や辺のつながりを考えることができるとする。	面と面、辺と辺をじょうずにつないで箱の形をつくることができる。	箱の形の構成要素である面、辺のつながりを十分理解している。
	B	工作用紙やひごを使って箱の形をつくろうとしている。	工作用紙の面やひごを使って、試行錯誤しながら面や辺のつながりを考えることができる。	面と面、辺と辺をつないで箱の形をつくることができる。	箱の形の構成要素である面、辺のつながりを理解している。
◎ 何番目	A	身のまわりにあるものの順序を見付けて、進んで数を使って表そうとしている。	図にかいて、基準を基にしてものの順序を筋道立てて考えることができるとする。	図にかいて、前後、左右などの用語を用いて、ものの順序を適切に表すことができる。	集合数と順序数の違いと図を使った順序の調べ方や前後、左右など基準の大切さを十分に理解している。
	B	身の回りにある具体的なものの順序を、数を使って表そうとしている。	図みて、基準を基にしてものの順序を考えることができるとする。	図を使って、前後、左右などの用語を用いて、ものの順序を表すことができる。	集合数と順序数の違いと図を使った順序の調べ方を理解している。
16 分数	A	具体物の半分、半分の半分などに関心をもち、進んで数を用いて表そうとしている。	操作を通して、半分を2等分した大きさ、半分の半分を4つに等分した大きさと発展的に考えることができる。	具体物を用いて、素早く正確に $1/2$ , $1/4$ の大さをつくり、数で表すことができる。	具体的な操作を通して、「半分」「半分の半分」とつないで $1/2$ や $1/4$ の意味を実感的に理解している。
	B	具体物の半分に関心をもち、数を用いて表そうとしている。	操作を通して、半分を2等分した大きさというように考えることができるとする。	具体物を用いて $1/2$ , $1/4$ の大きさをつくり、数で表すことができる。	具体的な操作を通して、 $1/2$ や $1/4$ の意味を理解している。
★ 算数のまど	A	「九九の花ばたけ」に進んで取り組み、さらに、周りの数の並びを変えてやってみようとしている。	かける数とかけられる数を見て、どの積が一番大きくなるかなどを論理的に考えながら、かけ算ができる。	5, 2, 3, 4 の段の九九を任意の順序すらすらと唱えて計算できる。	5, 2, 3, 4 の段の九九を確實に覚えている。
	B	「九九の花ばたけ」に関心を持ち、5, 2, 3, 4 の段の九九を進んで覚えようとしている。	周りの数の1から順々に考えて計算すれば簡単と考えることができるとする。	5, 2, 3, 4 の段の九九を唱えながら計算できる。	5, 2, 3, 4 の段の九九を覚えている。
9かけ算(1)ジャンプ	A	5, 2, 3, 4 の段の九九を使って色ぬりに進んで取り組もうとしているだけではなく、自分でも問題を進んで作ろうとしている。	かける数とかけられる数に着目して、積が20より大きくなるかを筋道立てて考え、説明することができる。	5, 2, 3, 4 の段の九九を適切に用いて九九の色塗りができる。	5, 2, 3, 4 の段の九九を確實に覚えている。
	B	5, 2, 3, 4 の段の九九を使って色ぬりに進んで取り組もうとしている。	かける数とかけられる数に着目して、積が20より大きくなるかを筋道立てて考えられる。	5, 2, 3, 4 の段の九九を用いて九九の色塗りができる。	5, 2, 3, 4 の段の九九を覚えている。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
算数のまど	★ 10かけ算(2) ステップ	A 「九九のすごろく」に関心を持ち、進んで九九を用いようとし、自分ですごろくを作ろうとしている。	九九の計算において、どの目がでれば進めるのかを適切に判断できる。	九九の計算が速く、確実にできる。	九九を確実に覚えている。
		B 「九九のすごろく」に関心を持ち、進んで九九を用いようとされている。	九九の計算において、答えと照らし合わせ、でた目に対して進めるのかどうかを判断できる。	九九の計算が確実にできる。	九九を覚えている。
	10かけ算(2) ジャンプ	A 「九九さがし」に関心をもち、進んで取り組み、他にもやってみようとしている。	かけ算の式のアレイ図を使った多様な表し方を工夫して考えることができる。	かけ算の式をアレイ図を使って多様に表すことができる。	式と図を結びつけてかけ算の意味を十分に理解している。
		B 「九九さがし」に関心をもち、かけ算の式になる図をいろいろ見つけようとしている。	かけ算の式のアレイ図を使った表し方をいろいろ考えることができる。	かけ算の式をアレイ図を使って表すことができる。	式と図を結びつけて、かけ算の意味を理解している。
	11三角形と四角形 ステップ	A 「色塗り」に関心をもち、どんな絵になるか進んで取り組み、似たような問題をつくってみようとしている。	正方形、長方形、直角三角形の意味を基に弁別する方法を考えることができる。	正方形、長方形、直角三角形を素早く弁別し、色分けしてぬることができ。	正方形、長方形、直角三角形の意味を確実に理解している。
		B 「色塗り」に関心をもち、どんな絵になるか進んで取り組もうとしている。	正方形、長方形、直角三角形を弁別する方法を考えることができる。	正方形、長方形、直角三角形を弁別し、色分けしてぬることができる。	正方形、長方形、直角三角形の意味を理解している。
	11三角形と四角形 ジャンプ	A 「形めいろ」に関心をもち、進んで取り組み、他にも新しいルールを作つて「形めいろ」を楽しもうとしている。	三角形、四角形の意味を基に弁別し、そのわけを説明することができる。	三角形、四角形の弁別を素早く行うことができる。	三角形、四角形の意味を十分に理解している。
		B 「形めいろ」に関心をもち、進んで取り組もうとしている。	三角形、四角形に弁別し、そのわけを説明することができる。	三角形や四角形の弁別を行なうことができる。	三角形、四角形の意味を理解している。
	12九九のきまり ステップ	A 九九の色塗りの問題に関心を示し、答えが同じになるかけ算を進んで見つけようとしている。	答えが同じになるいろいろなかけ算の式を見つけ、1つの数を他の数の積と多面的にとらえることができる。	答えが同じになるいろいろなかけ算の式を素早く見つけることができる。	1つの数を他の数の積とみるなど、数の乗法的な構成を十分に理解している。
		B 九九の色塗りの問題に関心を示し、答えが同じになるかけ算を見つけようとしている。	答えが同じになるかけ算の式を見つけ、1つの数他の数の積とみることができる。	答えが同じになるいろいろなかけ算の式を見つけることができる。	1つの数を他の数の積とみるなど、数の乗法的な構成を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
★ 算数のまど	12 九九の きまりジャンプ	A	九九表に関心をもち、九九の範囲を超えたかけ算の答えを進んで見つけようとしている。	既習のかけ算の構成の仕方やかけ算の性質を用いて、九九の範囲を超えるかけ算の求め方を見いだすことができる。	九九の範囲を超える表を速く、確実に完成できる。	既習のかけ算の構成の仕方や性質の活用の仕方を十分理解している。
		B	九九表に関心をもち、九九の範囲を超えたかけ算の答えを見つけようとしている。	既習のかけ算の構成の仕方やかけ算の性質を用いて、九九の範囲を超えるかけ算の求め方を考えることができる。	九九の範囲を超える表を確実に完成できる。	既習のかけ算の構成の仕方や性質の活用の仕方を理解している。
	13 100 cmを こえる長さステップ	A	1 mを越える長さのいろいろな説明に関心をもち、進んで正しかどうかを調べようとしている。	長さ計算を根拠に、正しかどうかを判断し、そのわけを説明することができる。	確実に長さの計算をし、適切に正しかどうかを判断処理することができる。	長さの計算の仕方を十分理解している。
		B	1 mを越える長さについての説明に関心をもち、正しかどうかを調べようとしている。	物差しを使って長さの計算をして、それを根拠にして正しかどうかを判断し、説明することができる。	長さの計算をして、正しかどうかを判断処理しすることができる。	長さの計算の仕方を理解している。
	13 100 cmを こえる長さジャンプ	A	身のまわりから 5 m未満のものの長さについて、長さの見当を付けて、いろいろな長さを 5 mものさしで測定しようとしている。	1 mの量感を基に、何 m ぐらいかを適切に見当付けることができる。	手作りの 5mものさしを使って、身のまわりのいろいろな長さを確実に測定することができる。	見当をつけてから測定する方法を確実に理解している。
		B	身のまわりから 5 m未満のものの長さについて、長さの見当を付けて、 5 mものさしで測定しようとしている。	1 mの量感を基に、何 m ぐらいかを見当付けることができる。	手作りの 5mものさしを使って、身のまわりのいろいろな長さを測定することができる。	見当付けてから測定する方法を理解している。
	14 10000までの 数ステップ	A	進んで点取りルーレットに取り組み、数を 1000, 100, 10, 1 のまとまりで数をとらえ、点数を表そうとしている。	得点を 1000, 100, 10, 1 の幾つ分と数構成的に考えたり、十進位取り記数法の仕組みを基に数の大小を判断し、説明することができる。	頭の位の数に着目して、確実に数の大小比較ができる。	十進位取り記数法のしくみを活用する数の大小比較の仕方を十分に理解している。
		B	点取りルーレットに関心をもち 1000, 100, 10, 1 のまとまりで数をとらえ、点数を表そうとしている。	得点を 1000, 100, 10, 1 の幾つ分と数構成的に考えたり、十進位取り記数法の仕組みを基に数の大小を判断したりできる。	頭の位の数に着目して、数の大小比較ができる。	十進位取り記数法のしくみを活用する数の大小比較の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
算数のまど	★ 14 10000までの数ジャンプ	A	カードならべに進んで取り組み、他にもこのようなカード並べの問題をつくろうとする。	十進位取り記数法の仕組みを基に、条件に合った数を考えることができる。	頭の位から、大きい数や小さい数など与えられた数字カードをもちいて手際よく4けたの数をつくることができる。
		B	カードならべに関心をもち、位取り板と数字カードを用いて、数を作る問題に取り組もうとしている。	十進位取り記数法の仕組みを基に、頭の位の数から順に並べることを考えることができる。	位取り板を用いて、大きい数や小さい数など与えられた数をつくることができる。
	15 はこの形ステップ	A	箱作りに関心を示し、箱の構成に必要な面をかき出す活動に進んで取り組もうとしている。	箱の形の構成要素である面に着目して、たりない面を考えることができる。	箱の形を見て、たりない面の形をすらすらとかくことができる。
		B	箱の構成に必要な面をかき出す活動に取り組もうとしている。	箱の形の構成要素である面について、同じ形の面とその個数を考えることができる。	箱の形を見て、たりない面をかくことができる。
	15 はこの形ジャンプ	A	同じ目のあるさいころづくりに関心をもち、他にもいろいろつくってみようとしている。	さいころの表と裏の目をたすと7になることを見いだし、これを活用して考えることができる。	さいころの目の数の関係に着目して、素早くさいころを作ることができる。
		B	同じ目のあるさいころづくりに取り組もうとしている。	さいころの表と裏の目をたすと7になることに着目し、これを活用して考えることができる。	さいころの目の数の関係に着目して、さいころを作ることができる。

## 評価の観点と評価規準 3年上

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1 九九の表とかけ算	A	さらに九九表から進んできまりを見つけ、活用しようとしている。	乗数や被乗数と積の関係からかけ算のきまりを見つけ、活用して10のかけ算の仕方を考えることができる。	10や0のかけ算ができる、手際よくかけ算のきまりを使って乗数や被乗数を求めることができる。	かけ算のきまりや10や0のかけ算の意味を十分理解している。
		B	九九表に関心を持ち、進んできまりを見つけ、活用しようとしている。	乗数が増減するのに伴う積の変化のきまりを見つけ、これを活用して10のかけ算の仕方を考えることができる。	10や0のかけ算ができる、かけ算のきまりを使って乗数や被乗数を求めることができる。
2 わり算	①分け方とわり算	A	同じずつ分ける計算を、かけ算と関連づけて調べていこうとしている。	除法の計算の仕方を、乗法の計算を基にして筋道立てて考えることができる。	わり算が用いられる場面を立式し、すらすらとわり算の答えを求めることができる。
		B	同じずつ分ける計算について、数図ブロックを使って調べていこうとしている。	除法の計算の仕方を、乗法の計算を基にして考えることができる。	除法の立式とともに九九を使って確実にわり算の答えを求めることができる。
	②わり算を使って	A	わり算の活用に関心を持ち、問題づくりやわり算を使った問題に進んで取り組もうとしている。	倍とわり算を関係づけて考えたり、わり算を活用してわり算を使った問題を考えたりすることができる。	除法と加減を組み合わせた問題を手際よく解くことができる。
③答えが九九にないわり算	B	問題づくりやわり算を使った問題に取り組もうとしている。	倍とわり算を関係づけて考えたり、わり算を使った問題を考えたりすることができる。	除法と加減を組み合わせた問題を解くことができる。	わり算の意味を基に作問し、何倍を求めるときもわり算を用いることを確実に理解している。
		A	答えが九九にないわり算の計算の仕方を工夫して考えようとしている。	被除数を数構成的に分解し、10を単位にして九九を活用して計算の仕方を考えることができる。	答えが九九にない簡単なわり算の計算が確実にできる。
	B	答えが九九にないわり算の計算の仕方を具体物の操作をして考えようとしている。	お金の模型を使って、10を単位にして九九を活用して計算の仕方を考えることができる。	答えが九九にない簡単なわり算の計算ができる。	答えが九九にない簡単なわり算の計算の仕方を理解している。
● どんな計算になるのかな	A	具体的な事象における問題について、かけ算になるか、わり算になるかを判断して式に表し、説明しようとしている。	かけ算やわり算の意味に基づいて判断し、式のわけを、図や言葉を使って説明できる。	かけ算になるか、わり算になるか、手際よく演算決定し、式にかくことができる。	式と言葉、図を結びつけて、乗除の意味をわかりやすく説明できる。
		B	かけ算になるか、わり算になるかの判断をし、説明しようとしている。	かけ算やわり算の意味に基づいて判断し、式のわけを、図を使って説明できる。	かけ算になるか、わり算になるか、演算決定し、式にかくことができる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
3 円と球	A 円や球に関心を持ち、身の回りからそれらの特徴を生かしているものを進んで調べようとしている。	円や球に関心を持ち、身の回りからそれらの特徴を生かしているものを進んで調べようとしている。	直径と半径の関係、円と球に共通する性質などについて考えることができる。	コンパスで正確に円や円を使つた模様をかいたり、長さを写し取つたりすることができる。	円や球の意味や性質を中心、半径、直径を確実に理解している。
		B 円や球に関心を持ち、それらについて調べようとしている。	直径と半径の関係、円と球に共通する性質について考えることができる。	コンパスを使って円や円を使つた模様をかいたり、長さを写し取つたりすることができる。	円や球の意味や性質を中心、半径、直径を理解している。
● みんなで話しあいましょう	A 積極的に説明したり、質問やつけたしをして、自分の考えを深化・発展させようとしている。	積極的に説明したり、質問やつけたしをして、自分の考えを深化・発展させようとしている。	図やわかりやすい言葉などを的確に用いて説明したり、質問したりするなど話し合いの仕方を考えることができる。	みんなで話し合うために大切な5つ以上の事柄を取り上げることができる。	話し合い活動の6つの大切なことを実感的に理解している。
		B 話し合いの仕方に関心を持ち、図やわかりやすい言葉などを用いて説明したり質問したりしようとしている。	話し合いの仕方に関心を持ち、図やわかりやすい言葉などを用いて説明したり質問したりするなど話し合いのしかたを考えることができる。	みんなで話し合うために大切なことを3つ程度取り上げることができる。	話し合い活動の6つの大切なことを理解している。
◎ かくれた数はいくつ(1)	A 関係図などを使って問題をとらえ、乗法や除法の手順を活用して問題を解決しようとしている。	関係図などを使って問題をとらえ、乗法や除法の手順を活用して問題を解決しようとしている。	関係図を使って、問題の数量関係をとらえたり、解決の仕方を説明したりすることができる。	問題を関係図に表し、かくれた数を手際よく求めることができる。	関係図の意味や乗除の関係をよく理解している。
		B 関係図などを使って問題の数量の関係をとらえようとしている。	関係図を使って、問題の数量関係をとらえ、問題解決の仕方を考えることができる。	線分図を基に関係図をかき、かくれた数を求めることができる。	関係図の意味や乗除の関係を理解している。
4 たし算とひき算の筆算	①何百のたし算とひき算 A (何百)±(何百)の計算の仕方を、進んで既習の基数計算を基にして考えようとしている。	(何百)±(何百)の計算の仕方を、進んで既習の基数計算を基にして考えようとしている。	(何百)±(何百)の計算を100を単位にして考えることができる。	(何百)±(何百)の立式をして答えを確実に求めることができる。	(何百)±(何百)の計算は100を単位として考えればよいことを十分に理解している。
		B (何百)±(何百)の計算の仕方を既習の基数計算を基にして考えようとしている。	(何百)±(何百)の計算の仕方をお金の模型を使って100を単位として考えることができる。	(何百)±(何百)の計算の答えを求めることができる。	(何百)±(何百)の計算は100を単位として考えればよいことを理解している。
	②たし算の筆算 A (3桁)+(3桁)の筆算の仕方を既習の筆算を基に考え、説明しようとしている。	(3桁)+(3桁)の筆算の仕方を既習の筆算を基に考え、説明しようとしている。	既習の(2桁)+(2桁)の筆算の仕方を基に、筋道立てて考えることができる。	(3桁)+(3桁)の計算について、筆算で確実に答えを求めることができる。	(3桁)+(3桁)の筆算の仕方を十分に理解している。
		B (3桁)+(3桁)の筆算の仕方を既習の筆算を基にして考えようとしている。	計算棒を使って、既習の(2桁)+(2桁)の筆算の仕方を基にして、考えることができる。	(3桁)+(3桁)の計算について、筆算で答えを求めることができる。	(3桁)+(3桁)の筆算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
● 買えますか？買えませんか？	③ひき算の筆算	A  (3桁) - (3桁)の筆算の仕方を既習の筆算を基に考え、説明しようとしている。	(3桁) - (3桁)の筆算を既習の(2・3桁) - (2桁)の筆算の仕方を基に、筋道立てで考えることができる。	(3桁) - (3桁)の計算について、筆算で確実に答えを求めることができる。	(3桁) - (3桁)の筆算の仕方を十分に理解している。
		B  (3桁) - (3桁)の筆算の仕方を既習の筆算を基にして考えようとしている。	(3桁) - (3桁)の筆算を計算棒を使って、既習の(2・3桁) - (2桁)の筆算の仕方を基にして、考えることができる。	(3桁) - (3桁)の計算について、筆算で答えを求めることができる。	(3桁) - (3桁)の筆算の仕方を理解している。
	④4けたの数の筆算	A  4桁同士の加減筆算に 관심を持ち、既習の筆算を基にして、進んで取り組もうとしている。	桁数の少ない場合を基にして、4桁同士の加減計算の仕方を考え、説明することができる。	桁数の少ない場合を基にして、4桁同士の加減計算が確実にできる。	4桁同士の加減計算も桁数の少ない場合の計算と同様にすればできることを理解している。
		B  4桁同士の加減筆算に進んで取り組もうとしている。	桁数の少ない場合を基にして、4桁同士の加減計算の仕方を考えることができる。	桁数の少ない場合を基にして、4桁同士の加減計算ができる。	4桁同士の加減計算の仕方を理解している。
5 一億までの数	①万の位	A  買い物の場面において、買えるか、買えないかの判断をし、進んで説明しようとしている。	買えるか、買えないかの判断のわけを、値段の見積もりを根拠にして言葉や図などを用いて的確に説明することができる。	ものの値段をおよそ何百円と見て、買えるか、買えないかを的確に判断できる。	買えるか、買えないかの判断の拠り所となる値段の見積りの仕方を確実に理解している。
		B  買い物の場面において、買えるか、買えないかの判断をし、説明しようとしている。	買えるか、買えないかの判断のわけを、値段の見積もりを根拠にして、言葉や図などを用いて説明することができる。	ものの値段をおよそ何百円と見て、買えるか、買えないかを判断できる。	買えるか、買えないかの判断の拠り所となる見積りの仕方を理解している。
	②10倍した数、10でわった数	A  万をこえる数の、数の表し方、仕組み、数系列などを進んで調べようとしている。	既習の十進位取り記数法を基に数の表し方や仕組みを考え、万を単位にした相対的な見方ができる。	一億までの数を数直線上に表したり、数直線上の数をよんだりすることができる。	一億までの数の仕組みや表し方を十進位取り記数法に基づいて十分理解している。
		B  万をこえる数の、数の表し方、仕組み、系列などを調べようとしている。	既習の十進位取り記数法を基に数の表し方や仕組みを考え、万を単位にした相対的な見方ができる。	一億までの数の表し方を知り、よんだり、かいたり、大小判断をしたりすることができる。	一億までの数の仕組みや表し方を十進位取り記数法に基づいて理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
6 たし算とひき算	A	日常生活の事柄を暗算で行おうとしている。	被加数や被減数を分解しない(2桁)±(2桁)の暗算の仕方を考えることができる。	100-(2桁)や(2桁)±(2桁)の計算が確実に暗算ができる。	100-(2桁),(2桁)±(2桁)の暗算の仕方を十分に理解している。	
		B	簡単な(2桁)±(2桁)の計算は暗算で行おうとしている。	被加数や被減数を分解しない(2桁)±(2桁)の暗算の仕方を考えることができる。	100-(2桁)や(2桁)±(2桁)の計算が暗算でできる。	100-(2桁),(2桁)±(2桁)の暗算の仕方を理解している。
● 算数の自由研究	A	迷路づくりに興味や関心を持ち、他にも興味を持った自由研究をやってみようとしている。	見通しをもって、迷路を通ることができる。	迷路を通ったり、いろいろな迷路を作ったりすることができる。	迷路遊びのきまりや迷路の作り方がわかる。	
		B	迷路づくりに興味や関心を持ち、取り組もうとしている。	試行錯誤しながら迷路を通ることができる。	迷路を通ったり、作ったりすることができる。	迷路の遊び方や楽しががわかる。
7 時間と長さ	①時こくと時間	A	日常生活の中で時刻や時間の計算のよさや時間の単位に関心を持ち、進んで時間を守ろうとしている。	時計や数直線を使って、必要な時刻や時間の計算の仕方を考えることができる。	手際よく必要な時刻や時間を求めたり、秒の単位を用いて測定したりすることができる。	時刻と時間の違い、日、時、分、秒の関係を十分理解している。
		B	日常生活の中で必要な時刻や時間を進んで求めようとしている。	時計や数直線を使って、必要な時刻や時間を考えることができる。	時刻や時間を求めることができます。	時刻と時間の違い、日、時、分、秒の関係を理解している。
8 あまりのあるわり算のしかた	②長さ調べ	A	大きな長さの単位に関心を持ち、工夫して調べようとしている。	目的に応じて巻き尺で測ることを考え、的確に道のりやかかる時間を探し出すことができる。	巻き尺を使って手際よく測定したり、長さの計算をしたりすることができる。	kmとmの相互の関係や巻き尺で道のりを測定する方法を十分理解している。
		B	道のりの見当をつけたり、巻き尺で測ろうとしたりしている。	目的に応じて巻き尺で測ることを考え、道のりやかかる時間を探し出すことができる。	巻き尺を使って測定したり、長さの計算をしたりすることができる。	長さの単位kmを知り、巻き尺で道のりを測定する方法を理解している。
8 あまりのあるわり算	①あまりのあるわり算のしかた	A	進んで、余りのあるわり算の計算の仕方をかけ算との関連でとらえようとしている。	乗法を基に余りのあるわり算の仕方を考えたり、余りの大きさを帰納的に考えたりすることができる。	余りのあるわり算の計算がすらすらと確実にできる。	余りのあるわり算の意味、余りの大きさ、答えの確かめ方をよく理解している。
		B	余りのあるわり算の計算の仕方をかけ算との関連でとらえようとしている。	乗法を基に余りのあるわり算の仕方を考えることができます。	余りのあるわり算の計算が確実にできる。	余りのあるわり算の意味、余りの大きさ、答えの確かめ方を理解している。
	②あまりを考えて	A	日常生活の中でも適切に余りを処理しようとしている。	場面に応じた適切な余りの処理の仕方を考えることができます。	問題場面に応じて手際よく、適切に余りを処理することができる。	場面に応じた適切な余りの処理の仕方を十分に理解している。
		B	問題解決の場面に応じて適切に余りを処理しようとしている。	場面に応じた適切な余りの処理の仕方を考えることができます。	問題場面に応じて、適切に余りを処理することができる。	場面に応じた適切な余りの処理の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
◎ 何倍でしよう	A	変量に着目し、まとめて考えるよに気づき、進んでまとめて考えようとしている。	関係図をかいて変量に着目し、3倍の2倍は6倍とまとめて考えることができる。	手際よく何倍になるかを考えて、問題を解決できる。	$a$ 倍の $b$ 倍が $(a \times b)$ 倍になることを十分理解している。	
	B	変量に着目し、まとめて考えようとしている。	関係図を使って変量に着目し、3倍の2倍は6倍と考えることができる。	変量に着目し、何倍になるかを考えて問題を解くことができる。	$a$ 倍の $b$ 倍が $(a \times b)$ 倍になることを図と結びつけて理解している。	
9 計算のじゅんじょ	A	乗法の結合法則を問題解決の場で進んで活用しようとしている。	多くの数をかけるとき、計算の順序をかえても答えは同じことを見いだすことができる。	問題解決の場で、乗法の結合法則を有効に使って解くことができる。	乗法の結合法則について十分に理解している。	
	B	乗法の結合法則を問題解決の場で活用しようとしている。	多くの数をかけるとき、計算の順序をかえても答えは同じことに気づくことができる。	乗法の結合法則を使って、問題を解くことができる。	乗法の結合法則について理解している。	
● よみとる算数(1)	A	レポートから必要な情報を収集・選択し、進んで問題を解決しようとしている。	解決に必要な時間や道のりに関する情報を収集、選択して、自分で考えることができる。	レポートの情報を適切に活用して、問題を解決することができる。	文章と地図とを結びつけて、正しく情報を理解している。	
	B	レポートから必要な情報を収集・選択し、問題を解決しようとしている。	解決に必要な時間や道のりに関する情報を収集、選択して考えることができる。	レポートの情報を活用して問題を解決することができる	文章と地図とを結びつけて、情報を理解している。	
◎ 間の数	A	「間の数」の問題を図にかいて、きまりを見つけて考えようとしている。	線分図や図などを使ってきまりを見つけ、そのきまりを使って考えることができる。	順序や植木算の問題を手際よく解くことができる。	木の数-1=間の数というきまりを知っている。	
	B	「間の数」の問題を図にかいて考えようとしている。	○や線の図にかいて考えることができる。	順序や植木算の問題を図にかいて解くことができる。	図にかいて考える方法を理解している。	
★ 算数のまど	1 九九の表とかけ算ステップ	A	問題を作り変えて、いろいろなかけ算に取り組もうとしている。	いくつ分、何倍と筋道立て考えることができ。	かけ算の式で表現し、手際よく計算できる。	0や10を含むかけ算の計算の仕方を十分に理解している。
		B	かけ算に進んで取り組もうとしている。	いくつ分、何倍と考えることができる。	かけ算の式で表現し、計算できる。	0や10を含むかけ算の計算の仕方を理解している。
	1 九九の表とかけ算ジャンプ	A	昔の九九の表と今の九九の表を比べて、相違点を見つけようとしている。	昔の九九の表のきまりを考え、筋道立てで説明することができる。	昔の九九の表を今の九九と対応して、適切に読むことができる。	昔の九九の表に書いてない九九がどうしてあるのかを理解している。
		B	昔の九九の表の構成を見つけようとしている。	昔の九九の表のきまりを考え、説明することができる。	昔の九九の表を今の九九と対応して読むことができる。	昔の九九と今の九九の違いを理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
★ 算数のまど	2わり算ステップ	A	わり算カードを作って練習に進んで友達と一緒に取り組もうとしている。	九九の表を見て、いろいろなわり算カードの作り方を考えることができる。	わり算カードを使っていろいろな練習をして、確実に覚えている。	わり算の答えを知識として確実に覚えている。
		B	わり算カードを作つてわり算練習をしようとしている。	九九の表を見て、答えが2になるわり算カードの作り方を考えることができる。	わり算カードを使っていろいろな練習をして、覚えている。	わり算の答えを知識として覚えている。
	2わり算ジャンプ	A	わり算のカード並べの問題に取り組み、自分でもいろいろ作つてみようとしている。	わり算とかけ算を関連づけ、1つの数を2つの数の積と見て、いろいろな問題を考えることができる。	除数と商の組について順序よく考えたり、かけ算の交換法則を用いたりして手際よく処理できる。	わり算とかけ算の関連や交換法則を十分理解している。
		B	わり算のカード並べの問題に取り組み、自分でも作つてみようとしている。	わり算とかけ算を関連づけ、1つの数を2つの数の積と見ることができる。	除数とその商の組を見つけて、処理できる。	わり算とかけ算の関連や交換法則を理解している。
	3円と球ステップ	A	コンパスを使って楽しんで5cmの長さを写し取ろうとしている。	円は一点から等しい距離にある点の集まりであることから筋道立てを考えることができる。	コンパスを使って5cmの長さを写し取つて、ボールをゴールに入れることができる。	円は一点から等しい距離にある点の集まりであることを十分理解している。
		B	コンパスを使って5cmの長さを写し取ろうとしている。	円は一点から等しい距離にある点の集まりであることから考えることができる。	コンパスを使って半径5cmの円をかき、ゴールに入れることができる。	円は一点から等しい距離にある点の集まりであることを理解している。
	3円と球ジャンプ	A	円を用いて宝のありかを見つけ、似た問題を作ろうとしている。	円は一点から等しい距離にある点の集まりであることから筋道立てを考えることができる。	条件に応じた円を手際よくかき、「宝さがし」ができる。	円は一点から等しい距離にある点の集まりであることを十分理解している。
		B	円をかいて、宝のありかを見つけようとしている。	円は一点から等しい距離にある点の集まりであることから考えることができる。	条件に応じた円をかき、「宝さがし」ができる。	円は一点から等しい距離にある点の集まりであることを理解している。
	4たし算とひき算の筆算ステップ	A	進んで数当てゲームに取り組み、似た問題をいろいろ作ろうとしている。	答えとたす数の関係に着目してかくれた数を筋道立てで考えることができる。	(3桁)±(3桁)の筆算のかくれた数を手際よく見つけることができる。	「たされる数、たす数、答え」「ひかれる数、ひく数、答え」の関係をよく理解している。
		B	進んで数当てゲームに取り組み、似た問題を作ろうとしている。	答えとたす数の関係に着目してかくれた数を考えることができる。	(3桁)±(3桁)の筆算のかくれた数をみつけることができる。	「たされる数、たす数、答え」「ひかれる数、ひく数、答え」の関係を理解している。
	4たし算とひき算の筆算ジャンプ	A	進んでカード並べに取り組み、似た問題をいろいろ作ろうとしている。	1桁+1桁の和の一の位の数に着目し、あてはまるカードを考えることができる。	たし算の筆算の空いた数を手際よく求めることができる。	たし算の筆算の仕組みを確実に理解している。
		B	進んでカード並べに取り組み、似た問題を作ろうとしている。	試行錯誤的に考えることができる。	たし算の筆算の空いた数に数字カードを試行錯誤的にあてはめて見つけることができる。	たし算の筆算の仕組みを理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
★算数のまど	7 時間と長さ ステップ	A	日常生活に当てはめて時刻や時間を求めようとしている。	必要な時刻や時間の求め方を考えることができ	手際よく時刻や時間を求めたり、長さの計算をしたりすることができる。	午前と午後の区別をして、時計を使った時刻や時間の求め方を理解している。
		B	時刻や時間を進んで求めようとしている。	時計を使って、必要な時刻や時間の求め方を考え	時刻や時間を求めたり、長さの計算をしたりすることができる。	時計を使った時刻や時間の求め方を理解している。
	7 時間と長さ ジャンプ	A	進んで1分や10mの量感をつかもうとしている。	見当をつけてから、効率的に活動することを考え	1分間にできること、10mのひもを使ってできる活動をいろいろ調べるこ	1分、10mの量感を実感的に理解している。
		B	1分や10mの量感を身につけようとしている。	見当をつけてから、活動することを考え	1分間にできること、10mのひもを使ってできる活動を調べることができる。	1分、10mの量感を活動を通して理解している。
	8 あまりのあるわり算 ステップ	A	余りを小さくする方法を考えようとしている。	わる数を基に余りが小さくなるように2つの数字を組み合わせてわられる数を考え	わる数を基に、手際よく余りが小さい式を作ることができる。	わる数と余りの大きさの関係をよく理解している。
		B	関心を持ち、進んで取り組もうとしている。	余りが小さくなるように2つの数字を組み合わせてわられる数を考え	わる数を基に、余りが小さい式を作ることができる。	わる数と余りの大きさの関係を理解している。
	8 あまりのあるわり算 ジャンプ	A	わる数を変えて色ぬりしたカード同士でわる数とそれぞれのカードとのきまりを見つけようとしている。	数表のもようから、論理的に除数と余りの規則性を考え	あまりのあるわり算の計算が確実にできる。	除数と余りには規則があることをもようと結びつけて十分に理解している。
		B	色の並び方についてのきまりを見つけようとしている。	数表の色のもようから除数と余りの規則性を考え	あまりのあるわり算の計算ができる。	除数と余りには規則があることをもようと結びつけて理解している。

## 評価の観点と評価規準 3年下

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
10 三角形	①二等辺三角形と正三角形	A	二等辺三角形や正三角形に関心を持ち、それについて自ら進んで調べようとしている。	辺の相等に着目して三角形を弁別・整理して考え、そのわけを論理的に説明することができる。	コンパスを使って、二等辺三角形や正三角形を正確に作図することができる。	二等辺三角形や正三角形の意味や性質を確実に理解している。
		B	二等辺三角形や正三角形に関心を持ち、それらの性質を調べようとしている。	辺の相等に着目して三角形を弁別・整理して考え、説明することができる。	コンパスを使って、二等辺三角形や正三角形を作図することができる。	二等辺三角形や正三角形の意味や性質を理解している。
	②角	A	角の大きさに着目して、二等辺三角形や正三角形の性質を進んで調べようとしている。	二等辺三角形や正三角形の角の大きさの大小・相等関係を筋道立てて考えることができる。	二等辺三角形や正三角形の角の大きさの大小や相等を手際よく調べることができる。	二等辺三角形や正三角形の角の相等関係について確実に理解している。
		B	角の大きさに着目して、二等辺三角形や正三角形の性質を調べようとしている。	二等辺三角形や正三角形の角の大きさの大小・相等関係について考えることができる。	二等辺三角形や正三角形の角の大きさの大小や相等を調べることができます。	二等辺三角形や正三角形の角の相等関係について理解している。
	11 1けたをかけるかけ算の筆算	A	10や100を単位として、(何十、何百)×(1桁)の計算を進んでしようとしている。	(何十、何百)×(1桁)の計算を10や100を単位として考え、その仕方を説明することができる。	10や100を単位として、(何十、何百)×(1桁)の計算が手際よくできる。	(何十、何百)×(1桁)の計算の仕方を確実に理解している。
		B	10や100を単位として、(何十、何百)×(1桁)の計算をしようとしている。	(何十、何百)×(1桁)の計算を10や100を単位として考えることができます。	10や100を単位として、(何十、何百)×(1桁)の計算ができる。	(何十、何百)×(1桁)の計算の仕方を理解している。
		A	(2桁)×(1桁)の計算を進んで筆算を用いて計算しようとしている。	(2桁)×(1桁)の筆算の仕方を九九と(何十)×(1桁)の計算を基にして考え、説明することができる。	(2桁)×(1桁)の計算が確実に筆算ができる。	(2桁)×(1桁)の筆算の仕方を十分に理解している。
		B	(2桁)×(1桁)の計算の仕方を具体物の操作を通して考えようとしている。	(2桁)×(1桁)の筆算の仕方を九九と(何十)×(1桁)の計算を基にして考えることができます。	(2桁)×(1桁)の計算が筆算ができる。	(2桁)×(1桁)の筆算の仕方を理解している。
	③(3けた)×(1けた)の筆算	A	(3桁)×(1桁)の計算を進んで筆算を用いて計算しようとしている。	既習の(2桁)×(1桁)の仕方と同じように考え、説明することができる。	(3桁)×(1桁)の計算が確実に筆算ができる。	(3桁)×(1桁)の筆算について、計算の仕方を十分に理解している。
		B	(3桁)×(1桁)の計算の仕方を具体物の操作を通して考えようとしている。	既習の(2桁)×(1桁)の仕方と同じように考えることができます。	(3桁)×(1桁)の計算が筆算ができる。	(3桁)×(1桁)の筆算について、計算の仕方を理解している。
	④暗算	A	暗算のよさに気づき、進んで生活に生かそうとしている。	(2桁)×(1桁)の暗算の仕方を考え、説明することができる。	(2桁)×(1桁)の計算が確実に暗算ができる。	(2桁)×(1桁)の暗算の仕方を十分に理解している。
		B	(2桁)×(1桁)の計算を進んで暗算で行おうとしている。	(2桁)×(1桁)の暗算の仕方を考えることができます。	(2桁)×(1桁)の計算が位を考えて暗算ができる。	(2桁)×(1桁)の暗算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
12 重さ	A	重さについて関心を持ち、進んで身近な物の重さを測定しようとしている。	重さについても普遍単位の必要性を考え、重さを $g$ , $kg$ , $t$ を使って数値で表すことを考えることができる。	適切に重さの単位や計器を選択して手際よく測定したり、重さの計算をしたりすることができる。	重さの量感を身につけ、重さの測定方法を理解している。また、 $g$ , $kg$ , $t$ の関係を理解している。
		B	重さについて関心を持ち、身近な物の重さを測定しようとしている。	重さを $g$ , $kg$ , $t$ を使って数値で表すことを考えることができる。	重さの単位や計器を選択して測定したり、重さの計算をしたりすることができる。 1kg の重さを作るなどの活動を通して、重さの量感を身につけている。また、 $g$ , $kg$ と $t$ の関係を理解している。
13 分数	A	はしたの大きさや等分した大きさを、進んで分数を用いて表そうとしている。	単位分数のいくつ分と考えて、分数の大きさをとらえたり、同分母分数の加減計算の仕方を筋道立てて考えたりすることができる。	手際よく分数で表し、同分母分数の大小比較や加減計算が確実にできる。	分数の意味や表し方、分数の加減計算の意味を確実に理解している。
		B	はしたの大きさや等分した大きさを、分数を用いて表そうとしている。	単位分数のいくつ分と考えて、分数の大きさをとらえたり、同分母分数の加減計算の仕方を考えたりすることができる。	はしたの大きさを分数で表し、同分母分数の大小比較や加減計算ができる。 分数の意味や表し方、分数の加減計算の意味を理解している。
◎ べつべつに、 いっしょに	A	進んで組になる数量を見つけて、まとまりを考えて問題を解決しようとしている。	組になる数量に着目し、まとまりを考えることができる。	加減と乗法の混じった問題をまとまりを作つて手際よく解くことができる。	まとまりを考えて問題を解くよさを実感的に理解している。
		B	組になる数量を見つけて、まとまりを考えて問題を解決しようとしている。	図を使って組になる数量に着目し、まとまりを考えることができる。	加減と乗法の混じった問題を、まとまりを考えて解くことができる。 まとまりを考えて問題を解くことを理解している。
14 計算の きまり	A	分配法則を既習の計算のきまりを基に考えようとしている。	2つの考えを1つの式に表すことを考え、分配法則を作ることができる。	分配法則の右辺と左辺を自由に往復させることができる。	分配法則の意味を理解している。
		B	分配法則に関心を持ち、進んで計算しようとしている。	2つの考えを1つの式で表すことを考え、分配法則が成り立つことに気づく。	分配法則の右辺を左辺に展開したり、左辺を右辺に展開したりすることができる。 分配法則の意味を理解している。
15 表とグラフ	①表づくり	A	落ちや重なりがなく調べて、見やすい表を進んで作ろうとしている。	表を使って、わかりやすく整理する仕方を工夫して考えることができる。	正の字を書いて調べ、手際よく表に整理することができる。 表に整理する仕方を確実に理解している。
		B	落ちや重なりがなく調べて、表に整理しようとしている。	表を使って、わかりやすく整理する仕方を考えることができる。	正の字を書いて調べ、表に整理することができる。 表に整理する仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
16 小数	②ぼうグラフ	A 資料の傾向がわかりやすい棒グラフに整理し、生活に活用しようとしている。	棒グラフを使って、項目間の関係や全体的な特徴を見いたすことができる。	棒グラフを見て、正しく資料をよみ取り、目的に応じた棒グラフを手際よくかくことができる。	棒グラフの読み方、かき方を十分理解している。
		B 棒グラフに関心を持ち、進んで棒グラフに表そうとしている。	棒グラフを使って、項目間の関係や全体的な特徴を考えることができる。	棒グラフをよんだり、目的に応じた棒グラフをかいたりすることができる。	棒グラフの読み方、かき方を理解している。
	③くふうした表	A 2つの観点から分類整理して2次元の表や棒グラフに表そうとしている。	2つの観点から調べたことを2次元表や棒グラフに整理して考えることができる。	手際よく2次元表に整理したり、棒グラフに表したりして、資料の特徴を読むことができる。	2次元表の作り方と読み方をよく理解している。
		B 2次元表への整理の仕方を調べ、棒グラフに表そうとしている。	2つの観点から調べたことを2次元表に整理して考えることができる。	2次元表や棒グラフから資料の特徴を読むことができる。	2次元表の読み方を理解している。
17 2 けたを かける かけ算の 筆算	①はしたの大きさと 小数	A 身の回りで小数がどんなところで使われているか、見つけようとしている。	端数部分の大きさを、基の単位を10等分して表すことを筋道立てで考えることができる。	いろいろな量を小数第1位までの小数で確実に表すことができる。	小数、小数点、小数第1位、整数の意味をきちんと理解している。
		B 端数部分の大きさを表す小数に気づき、進んで生活に生かそうとしている。	端数部分の大きさを、基の単位を10等分して表すことを考えることができる。	いろいろな量を小数第1位までの小数で表すことができる。	小数、小数点、小数第1位、整数の意味を理解している。
	②小数の大きさ	A 進んで小数を数直線上に表し、整数、分数と関連づけて数系列、大小を調べようとしている。	0.1, 1を単位にした数構成的な見方や0.1を単位とした相対的な見方ができる。	数直線に小数を表し、小数と1/10を単位とした分数の大小比較をして不等号で確実に表すことができる。	整数と関連づけて小数の数構成、系列、大小をきちんと理解している。
		B 小数を数直線上に表し、整数、分数と関連づけて数系列、大小を調べようとしている。	数直線を用いて、0.1, 1を単位にした数構成的な見方や0.1を単位とした相対的な見方ができる。	数直線に小数を表し、小数と1/10を単位とした分数の大小比較をして不等号で表すことができる。	小数の数構成、系列、大小を理解している。
	③小数のたし算・ひき算	A 小数の加減の計算を、整数の場合と同じように考えようとしている。	0.1のいくつ分になるかを考え、整数の加減と同じように考えることができる。	小数第1位までの小数の加減計算がすらすらと確実にできる。	小数の加減の意味と計算の仕方をよく理解している。
		B 小数の加減の計算に興味を持ち、進んで計算に取り組もうとしている。	図を使って、0.1のいくつ分になるかを考えることができる。	小数第1位までの小数の加減計算ができる。	小数の加減計算の意味と仕方を理解している。
	①何十をかけるかけ算	A (2桁)×(何十)の計算の仕方を既習の知識を使って考えようとしている。	23×30の計算の仕方を、23×3を10倍すると考えることができる。	(2桁)×(何十)の計算が確実にできる。	(2桁)×(何十)の計算が乗法の結合法則を基にしていることを理解している。
		B (2桁)×(何十)の計算に関心を持ち、進んで計算しようとしている。	図を使って、23×30の計算の仕方を、23×3を10倍すると考えることができる。	(2桁)×(何十)の計算ができる。	(2桁)×(何十)の計算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
17 2けたをかけるかけ算の筆算	②(2けた)×(2けた)の筆算	A	(2桁)×(2桁)の計算の仕方を既習の知識や技能を基に考えようとしている。	(2桁)×(2桁)の筆算の仕方を分配法則の考えを基にして考えることができる。	(2桁)×(2桁)の計算を確実に筆算で求めることができます。
		B	(2桁)×(2桁)の計算の関心を持ち、進んで計算しようとしている。	23×34の計算の仕方を、34を30と4に分け、既習の計算を基に考えることができる。	(2桁)×(2桁)の計算を筆算で求めることができます。
	③(3けた)×(2けた)の筆算	A	(3桁)×(2桁)の計算の仕方を既習の知識や技能を用いて考えようとしている。	(3桁)×(2桁)の筆算の仕方を、既習の(2桁)×(2桁)と同じように考えることができる。	(3桁)×(2桁)になっても筆算構造は同じことを理解している。
		B	(3桁)×(2桁)の計算の仕方に関心を持ち、進んで計算しようとしている。	(3桁)×(2桁)の筆算の仕方を、既習の(2桁)×(2桁)の筆算と同じように考えることができる。	(3桁)×(2桁)の筆算の仕方を理解している。
● よみとる算数(2)		A	問われたことについて、表やグラフを選択し、必要な数量の情報を読み取るとともに、作問しようとしている。	表やグラフから必要な数量の情報を収集・選択するとともに、表とグラフを的確に関連づけて情報を読み取ることができます。	手際よく表やグラフを選択して読み取り、問題を解決することができます。
		B	問われたことについて、表やグラフを選択し、必要な数量の情報を読みとろうとしている。	表やグラフから必要な数量の情報を収集・選択するとともに、表とグラフを関連づけて情報を読み取ることができます。	問われたことについて表している表やグラフの選択の仕方や読み方がわかる。
	◎ かくれた数はいくつ(2)	A	線分図にかいて、かくれた数を考え、問題を解決するときは線分図にかいて考えようとしている。	順思考と逆思考を組み合わせた問題を、線分図にかいて論理的に考えることができる。	手際よく線分図にかいて立式して問題を解くことができる。
		B	線分図にかいて、かくれた数を考え、問題を線分図にかいて考えようとしている。	順思考と逆思考を組み合わせた問題を、線分図にかいて考えることができる。	線分図にかいて立式して問題を解くことができる。
18 □を使った式		A	□を使った式に関心を持ち、□を使ったいろいろな式や□にあてはまる数を調べようとしている。	□を使って式に表すことや□にあてはまる数の求め方をいろいろ考え、説明できる。	□を使った式に表したり□にあてはまる数を求めたりすることが確実にできる。
		B	□を使った式の、□にあてはまる数の求め方を考えようとしている。	□を使って式に表すことや□にあてはまる数の求め方を考えることができる。	□を使った式の表し方や□にあてはまる数の求め方がわかる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
19 そろばん	A	そろばんを用いて、いろいろな計算をしてみようとしている。	繰り上がりの加法では、そろばんと暗算では数の分解の仕方が異なることに気づく。	五珠の合成分解の起こる加法、減法が確実にできる。	五珠の合成分解の起こる加法、減法等で正しい指の使い方を理解している。
		B	そろばんによる簡単な加法や減法の仕方を進んで身につけようとしている。	繰り上がり繰り下がりのともなう加減の仕方を考えることができる。	そろばんを用いて簡単な加法、減法の計算ができる。
★ 算数のまど	A	「三角形の色塗り」に関心を持ち、どんな絵ができるか楽しんで取り組もうとしている。	正三角形や二等辺三角形の意味を基に、論理的に考え弁別することができる。	手際よくコンパスを使って正三角形や二等辺三角形を見つけて、色塗りができる。	正三角形や二等辺三角形の意味を確実に理解している。
		B	「三角形の色塗り」に関心を持ち、取り組もうとしている。	正三角形や二等辺三角形の意味を基に、弁別することができる。	コンパスを使って正三角形や二等辺三角形の形を見つけて、色塗りができる。
10 三角形ジャンプ	A	進んで正三角形の折り紙を折って、楽しんで折り紙遊びをしようとしている。	折り紙遊びを通して、正三角形や正六角形の性質素地にとなる見方に気づくことができる。	手際よく正三角形の折り紙を折って、星やチューリップの形を作ることができる。	正三角形の意味や性質をよく理解している。
		B	正三角形の折り紙を折つて形を作ることに興味を持って取り組んでいる。	折り紙遊びを通して、正三角形の性質に気づくことができる。	正三角形の折り紙を折つて、星やチューリップの形を作ることができる。
11 1けたをかけるかけ算の筆算ステップ	A	ルーレットゲームに関心を持ち、(2桁)×(1桁)の計算の答えが大きくなる方法を考えて、何回もやってみようとしている。	積の大きさに着目し、数字をどこに入れるとよいか論理的に考えることができる。	(2桁)×(1桁)を手際よく、確実に計算することができます。	(2桁)×(1桁)の筆算の仕方を確実に理解している。
		B	ルーレットゲームに関心を持ち、(2桁)×(1桁)の計算に取り組もうとしている。	積の大きさに着目し、数字をどこに入れるとよいか見当をつけて考えることができる。	(2桁)×(1桁)の計算ができる。
11 1けたをかけるかけ算の筆算ジャンプ	A	(4桁)×(1桁)の計算を進んでしようとしている。	簡単な場合の(4桁)×(1桁)の計算の仕方を、1000を単位にして考えることができる。	簡単な場合の(4桁)×(1桁)の計算を手際よく計算できる。	単位のいくつ分という計算の仕方を確実に身につけている。
		B	1000を単位として、(何千)×(1桁)の計算をしようとしている。	(何千)×(1桁)の計算の仕方を1000を単位にして考えることができる。	(何千)×(1桁)の計算ができる。
12 重さステップ	A	身近なものの重さ比べをしようとしている。	秤の目盛りに着目して重さを考えることができる。	手際よく測定し、g, kgを用いて表して、重さを比べることができる。	秤の読み方や重さの表し方をよく理解している。
		B	重さ比べに関心を持ち、一番重い物を見つけようとしている。	秤の1目盛りの大きさに着目して重さを考えることができる。	目盛りを正しく読んで普遍単位g, kgを用いて表し、重さ比べをすることができる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
★ 算数のまど	12 重さジャンプ	A	3つの分銅を使っていろいろな重さを積極的に作り出そうとしている。	3つの分銅を使っていろいろな重さを的確に考えることができる。	手際よくいろいろな重さを作ることができる。	重さの加減計算の仕方をよく理解している。
		B	3つの分銅を使って、いろいろ重さを量れることに興味を持つ。	3つの分銅を使っていろいろな重さを考えることができる。	いろいろな重さを作ることができる。	重さの加減計算の仕方を理解している。
	13 分数ステップ	A	分数の大小比較の問題に関心を持ち、進んで取り組もうとしている。	分数の意味を基に、大小判断することができる。	手際よく分数の大小比較が正確にできる。	分数の意味をよく理解している。
		B	分数の大小比較の問題に進んで取り組もうとしている。	分子に着目して、大小判断することができる。	いろいろな分数の大小比較ができる。	分数の意味を理解している。
	13 分数ジャンプ	A	分母のちがう分数の大きさを数直線以外のやり方でも進んで比べようとしている。	分母のちがう分数の大きさを、いろいろに考え、説明することができる。	分母のちがう分数の大きさを、いろいろな方法で比べることができる。	数直線上の分数の大きさや分数の数構成をよく理解している。
		B	分母のちがう分数の大きさを、数直線を使って進んで比べようとしている。	分母のちがう分数の大きさを、いろいろに考えることができる。	分母のちがう分数の大きさを比べることができる。	数直線上の分数の大きさや分数の数構成をよく理解している。
	15 表とグラフステップ	A	進んで棒グラフを読んだり、かいたりしようとしている。	棒グラフから数量的な特徴を考え、説明することができる。	棒グラフから特徴を読み、けがの様子を棒グラフに手際よくかくことができる。	棒グラフの読み方、かき方を理解している。
		B	棒グラフを読んだり、かいたりしようとしている。	棒グラフから数量的な特徴を考えることができる。	棒グラフから特徴を読み、けがの様子を棒グラフにかくことができる。	基本的な棒グラフの読み方、かき方を理解している。
	15 表とグラフジャンプ	A	自分で調べたことを進んで棒グラフに表したり、友達と比べようしたりする。	棒グラフから全体的な特徴を考えたり、調べたことをわかりやすく表したりすることができる。	自分で調べたことを手際よく棒グラフに表すことができる。	目的に適したわかりやすい棒グラフをかく方法をよく理解している
		B	調べたことを進んで棒グラフに表そうとしている。	棒グラフから全体的な特徴を考えたり、調べたことを表したりすることができる。	自分で調べたことを表や棒グラフに表すことができる。	棒グラフの表し方を理解している。
	16 小数ステップ	A	「小数ランド」に関心を持ち、進んで取り組もうとしている。	小数の意味や小数のたし算を基に、筋道を立てて考えることができる。	小数の色塗りや小数まほうじんを手際よく完成させることができる。	小数の意味や小数の加減計算の仕方を十分に理解している。
		B	「小数ランド」に関心を持ち、取り組もうとしている。	小数の意味や小数のたし算を基にして考えることができる。	小数の色塗りや小数まほうじんを完成させることができる。	小数の意味や小数の加減計算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	16 小数ジャンプ	A 進んで大小2つのコップを使って、きめられた水の量を量りとろうとしている。	大小2つのコップの水量の差や和を考えて、きめられた量の水の量り方を筋道立てて考えることができる。	大小2つのコップを使って、手際よくいろいろな水の量を量りとることができる。	小数の加減の仕方をよく理解している。
		B 大小2つのコップを使って、きめられた水の量を量りとろうとしている。	大小2つのコップの水量の差や和を考えて、2つのコップを使って、きめられた量の水の量り方を考えることができる。	大小2つのコップを使って、きめられた水の量を量りとることができる。	小数の加減の仕方をよく理解している。

## 評価の観点と評価規準 4年上

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1 角とその大きさ	①角のはかり方と かき方	A	角の大きさを回転の大 きさとしてとらえ、そ の大きさを進んで測定 しようとしている。	角の大きさの見当をつけ て、 $180^\circ$ より大きな角の 測り方をいろいろ工夫し ている。	手際よく分度器を使って 測定したり、必要な大き さの角をかいたりするこ とができる。
		B	角の大きさを回転の大 きさとしてとらえ、そ の大きさを測定しよう としている。	角の大きさの見当をつけ て、 $180^\circ$ より大きな角の 測り方を考えている。	角の大きさを測定したり 必要な角の大きさをかいた りすることができる。
	②三角形の角	A	二等辺三角形、正三角 形の角の大きさに関心 をもち、進んで角の大 きさを分度器で調べよ うとしている。	2つ以上の二等辺三角形、 正三角形を基に、帰納的に 角の大きさを調べること を考えることができる。	分度器で正三角形や二等 辺三角形の角を手際よく 調べることができる。
		B	二等辺三角形、正三角 形の角の大きさに関心 をもち、分度器で調べ ようとしている。	二等辺三角形正三角形を 基に、類推的に角の大きさ を調べることを考えるこ とができる。	分度器で正三角形や二等 辺三角形の角を正しく調 べることができる。
	③三角じょうぎの 角	A	三角定規の角について 関心をもち、一組の三 角定規でいろいろな大 きさの角を工夫して作 ろうとしている。	一組の三角定規の角を使 っていろいろな大きさの 角を考え、説明できる。	手際よく一組の三角定規 でできるいろいろな角の大 きさを作り加減計算が できる。
		B	三角定規の角について 関心をもち、一組の三 角定規でいろいろな大 きさの角を作ろうとし ている。	一組の三角定規の角を使 っていろいろな大きさの 角を考えることができる。	一組の三角定規でできる いろいろな角の大きさを 作ることができる。
2 1 け た で わ る わ り 算 の 筆 算	①答えが何十・何百 になる計算	A	答えが何十・何百にな る計算の仕方を考えよ うとしている。	10, 100を単位にして答 えが何十・何百になる計算 の仕方を考えることができる。	手際よく(何十)÷(1 桁)、(何百何十)÷(1 桁)の意味と計算の仕方を 説明できる。
		B	お金の模型を操作し て、答えが何十・何百 になる計算の仕方を考 えようとしている。	お金の模型を使って、10, 100を単位にして答えが何 十・何百になる計算の仕方 を考えることができる。	(何十)÷(1桁)、(何百何 十)÷(1桁)で、商が1桁 のわり算ができる。
	②(2けた)÷(1け た)の筆算	A	(2桁)÷(1桁)の筆算の 仕方を考え、それを説 明しようとしている。	立てて、ひいて、おろすと いう筆算の手順にそって 筋道を立てて筆算の仕方 を考えることができる。	手際よく(2桁)÷(1桁) のわり算の筆算と答えの 確かめができる。
		B	(2桁)÷(1桁)の筆算の 仕方を考えようとして いる。	立てて、ひいて、おろすと いう筆算の手順にそって 筆算の仕方を考えること ができる。	(2桁)÷(1桁)のわり算 の筆算ができる、(わる数) ×(商)+(余り)=(わら れる数)という式を見て 答えの確かめができる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
2 1 け た で わ る わ り 算 の 筆 算	③(3けた)÷(1けた)の筆算	A 自分の力で(3桁)÷(1桁)の筆算の仕方を考え、用いようとしている。	既習の筆算の仕方と同じように(3桁)÷(1桁)の筆算の仕方を考えることができる。	(3桁)÷(1桁)のわり算の筆算が確実にでき、答えの確かめもできる。	(3桁)÷(1桁)の計算の意味と筆算の仕方を理解し、説明できる。
		B 色紙や既習の計算を使って筆算の仕方を考えようとしている。	色紙を配る操作をして、既習の筆算の仕方と同じように(3桁)÷(1桁)の筆算の仕方を考えることができる。	(3桁)÷(1桁)のわり算の筆算ができる。	(3桁)÷(1桁)の筆算の仕方を色紙の操作を通して説明できる。
	④暗算	A 簡単なわり算を進んで暗算で行い、生活に生きようとしている。	乗法九九を使ってわり算の暗算の仕方を筋道立てて考えることができる。	(2桁)÷(1桁)の商が2桁になる暗算がすらすらと確実にできる。	わり算の暗算の仕方を理解し、説明できる。
		B 簡単なわり算は、暗算で行おうとしている。	お金の模型を使ってわり算の暗算の仕方を考えることができる。	(2桁)÷(1桁)の商が2桁になる暗算ができる。	わり算の暗算の仕方を説明できる。
	● 学びをいかそう みんなで話しゃいましょう	A 算数の話し合い活動に関心をもち、話し合い活動の進め方を進んで確かめようとしている。	算数の話し合い活動に振り返って、話し合い活動で大切なことを考えることができる。	算数の話し合い活動で、自分の考えを説明したり、質問、意見を述べたりするとともに、友達の考えを取り入れて利用することができる。	算数の話し合い活動のねらいや進め方をしっかりと理解している。
		B 算数の話し合い活動に関心をもち、話し合い活動の進め方を身につけようとしている。	算数の話し合いで大切なことを考えることができる。	算数の話し合い活動で、自分の考えを説明したり、質問や意見を述べたりすることができる。	算数の話し合い活動のねらいや進め方を理解している。
◎ 何倍 で し ょ う		A 関係図にかいて、変量(オペレーター)に着目し、何倍になるかを進んで考えようとしている。	3要素2段階の逆思考の数量の関係を、関係図にかき、何倍になるかをまとめ考えて考えることができる。	問題を関係図にかき、何倍になるかを考えて、手際よく解くことができる。	倍々の関係は積になることを理解している。
		B 関係図をみて変量に着目し、何倍になるかを考えようとしている。	3要素2段階の逆思考の数量の関係を、関係図を見て、何倍になるかをまとめ考えて考えることができる。	問題を関係図に整理した図を見て、何倍になるかを考えて解くことができる。	倍々の関係が積になることを関係図を通して理解している。
3 一 億 を こ え る 数	①億と兆	A 一億をこえる数に関心を持ち、表し方や数のしくみを既習の数と関連づけて進んで調べようとしている。	既習の十進位取り記数法を、億や兆を単位とする数に拡張して数の表し方や仕組みを考えることができる。	どんな大きな数でも10種類の数字で表し、読むことができる。	億や兆の単位と数が十進位取り記数法に基づいていることを十分理解している。
		B 一億をこえる数に関心を持ち、数の表し方やしくみを調べようとしている。	既習の十進位取り記数法を基に、億や兆を単位とする数の表し方や仕組みを考えることができる。	大きな数でも10種類の数字で表し、読むことができる。	億や兆の単位と数が十進位取り記数法に基づいていることを理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
②大きな数のかけ算	A	大きな数のかけ算を既習のかけ算や数のしくみと関連づけ、工夫して計算しようとしている。	大きなかけ算の仕方を工夫し、既習のかけ算や数の相対的な見方を活用して考えることができる。	大きな数のかけ算の計算を工夫して手際よく計算できる。	100の100倍=1万、1万の1万倍=1億の関係をよく知っている。	
	B	大きな数のかけ算を既習のかけ算や数のしくみを使って計算しようとしている。	大きなかけ算の仕方を工夫し、既習のかけ算を使つて考えることができる。	大きな数のかけ算を工夫して計算できる。	100の100倍=1万、1万の1万倍=1億の関係を知っている。	
4式と計算の順じよ	①式とその計算の順じよ	A	四則の混合した式や( )を用いた1つの式に表し、進んで計算の順序を調べようとしている。	ことばの式をもとに( )を用いた1つの式に表すことやその計算順序を考え、説明することができる。	いろいろな計算の混じつた式を計算の順序に従つて手際よく計算することができる。	( )の意味や四則計算の混じつた計算の順序を十分理解している。
		B	いくつかの計算を1つの式に表し、計算の順序を調べようとしている。	ことばの式をもとに( )を用いた1つの式に表すことやその計算順序を考えることができる。	計算の順序に従つて正しく計算することができる。	( )の意味や計算の順序を理解している。
	②計算のきまり	A	計算のきまりに関心をもち、進んで計算のきまりを使って、工夫して計算しようとしている。	計算のきまりを用いて、工夫をして簡単に処理する方法を考えることができる。	計算のきまりを用いて、手際よく計算することができる。	交換法則、結合法則、分配法則等の計算のきまりをまとめ、理解している。
		B	計算のきまりに関心をもち、計算のきまりを使って、工夫して計算しようとしている。	計算のきまりを用いて、なるべく簡単な計算方法を考えることができる。	計算のきまりを用いて、計算することができる。	交換法則、結合法則、分配法則等の計算のきまりを理解している。
	③計算の間の関係	A	加法と減法及び乗法と除法の相互の関係に関心をもち、進んで相互の関係を考えようとしている。	□を使った式を用いて、加法と減法、乗法と除法の相互の関係が逆算関係にあることを考え、説明することができる。	□×4=32、□+4=12の□にあてはまる数を、逆算関係を用いて手際よく求めることができる。	加法と減法及び乗法と除法の相互の関係を理解している。
		B	加法と減法及び乗法と除法の相互の関係に関心をもち、相互の関係を考えようとしている。	□を使った式を用いて、加法と減法、乗法と除法の相互の関係が逆算関係にあることに気づくことができる。	□×4=32、□+4=12の□にあてはまる数を、逆算関係を用いて求めることができる。	加法と減法及び乗法と除法の相互の関係を具体的場面に即して理解している。
	④式のよみ方	A	進んで式と図を結びつけて、式が表す数量関係を視覚的にとらえようとしている。	式の表す数量関係を、式と図を結びつけ考え、筋道を立てて説明することができる。	式が表す数量関係を的確によみとることができる。	式の図的表現を十分理解している。
		B	式と図を結びつけて、式が表す数量関係を視覚的に考えることができる。	式の表す数量関係を、式と図を結びつけて考え、説明することができる。	式が表す数量関係をよみとることができる。	式の図的表現を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
5 折 れ 線 グ ラ フ	①変わり方を表す グラフ	A 折れ線グラフから変化の特徴や傾向を進んで読みとろうとしている。	線の傾きに着目し、変化の特徴や傾向を見いだすことができる。	折れ線グラフの線の傾きによって手際よく変化の傾向や特徴をとらえ、説明することができる。	折れ線グラフの機能や傾きの意味をよく理解している。
		B 折れ線グラフから変化の特徴や傾向を読みとろうとしている。	線の傾きに着目し、変化の特徴や傾向を考えることができる。	折れ線グラフの線の傾きによって変化の特徴や傾向をとらえることができる。	折れ線グラフの機能や傾きの意味を理解している。
	②折れ線グラフのかき方	A 変化の特徴や傾向を視覚的にわかりやすく折れ線グラフに表し、変化の特徴を説明しようとしている。	変化の様子をわかりやすくするため、折れ線グラフの目盛りの大きさや途中省略を工夫して考えることができる。	表の数値を的確に読みとり、点と点をつないで手際よく折れ線グラフをかくことができる。	折れ線グラフのかき方を十分理解し、変化がわかりにくいときは、途中を省いて表すことを知っている。
		B 変化の特徴や傾向を分かりやすく折れ線グラフに表そうとしている。	変化の様子に着目して、折れ線グラフの目盛りの大きさや途中省略を工夫して考えることができる。	表の数値を読みとり、点と点を丁寧につないで折れ線グラフにかくことができる。	折れ線グラフのかき方を理解し、変化がわかりにくいときは、途中を省いて表すことを知っている。
6 小 数	①小数の表し方	A 0.1のはしたの大きさに关心をもち、進んで小数で表そうとしている。	0.1のはしたの大きさを、さらに10等分して表すことを考えることができる。	はしたや等分した大きさを、手際よく小数で確実に表すことができる。	小数点の範囲を小数第3位まで広げて、小数の意味や表し方を確実に理解している。
		B 0.1のはしたの大きさに关心をもち、小数で表そうとしている。	0.1のはしたの大きさを、さらに10等分して表すことを考えることができる。	はしたや等分した大きさを、小数で表すことができる。	小数点の範囲を小数第3位まで広げ、小数の意味や表し方を理解している。
	②小数のしくみ	A 小数のしくみに关心をもち、小数のしくみや数の構成を整数と関連づけてとらえようとしている。	整数と関連づけ、小数が整数と同じように十進数のしくみになっていることを考えることができる。	小数を数直線に表したり、10倍した数、10でわった数を手際よく求めたりすることができる。	小数が整数と同じ十進数の構造になっていることがよくわかっている。
		B 小数のしくみに关心をもち、小数のしくみや数の構成をとらえようとしている。	小数のしくみが整数と同じように十進数のしくみになっていることに着目することができる。	小数を数直線に表したり、10倍した数、10でわった数を手際よく求めたりすることができる。	小数が十進数になっていることがわかっている。
	③小数のたし算・ひき算	A 小数の加減の計算を整数の場合と同じように考えて計算しようとしている。	小数の加減計算の仕方を整数の場合と関連づけて多様に考えることができる。	小数の加減の筆算を手際よく計算できる。	小数の加減計算の仕方を整数の場合と関連づけて理解し、説明できる。
		B 小数の加減の計算に興味をもち、計算の仕方を考えようとしている。	小数の加減計算の仕方を0.1のいくつ分と考えたり、位毎に分けて考えたりすることができる。	小数の加減の筆算を確実に計算できる。	小数の加減計算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
● 算数の自由研究	ふしぎな輪	A ふしぎな輪に関心をもち、進んで輪のつなぎ方等をいろいろ工夫してやってみようとしている。	輪のつなぎ方をいろいろ工夫し、どんな形ができるか予想し、そのわけを説明することができる。	手際よくいろいろに輪をつないで切り、どんな不思議な形ができるかを確かめることができる。	いろいろな輪を使ってできる不思議な輪の作り方とそれぞれのできあがる形について理解している。
		B ふしぎな輪に関心をもち、輪のつなぎ方を変えてやってみようとしている。	つなないだ輪を切ると、どんな形ができるか予想することができる。	輪をつないで切り、どんな形ができるかを調べることができる。	2つの同じ大きさの輪を使ってできる不思議な輪の作り方とできあがる形について理解している。
7 面積	①面積	A 長方形、正方形の面積に関心をもち、進んで測定し、長方形や正方形の面積を計算で求めようとしている。	1 cm <sup>2</sup> 、1 m <sup>2</sup> のいくつ分になるかを考え、長方形や正方形の面積を計算で求められる方法を考えることができる。	長方形、正方形の面積の公式を用いて、手際よく面積を求めることができる。	面積の単位と測定の意味、長方形や正方形の面積の公式を十分理解している。
		B 長方形、正方形の面積を測定し、長方形や正方形の面積の求め方を考えようとしている。	長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考えることができる。	長方形、正方形の面積の公式を用いて、面積を求めることができる。	面積の単位と測定の意味、長方形や正方形の面積の公式を理解している。
	②面積の求め方のくふう	A 長方形や正方形を組み合わせた面積の求め方をいろいろ工夫しようとしている。	既習の長方形の面積の公式を使って、いろいろな求め方を考えることができる。	手際よくいろいろな方法でL字型等の面積を求めることができる。	長方形、正方形の面積の公式の活用の仕方を十分理解している。
		B 長方形や正方形を組み合わせた面積の求め方を工夫して考えようとしている。	既習の長方形の面積の公式を使って、求め方を工夫して考えることができる。	L字型の面積の求めることができる。	長方形の面積の公式の活用の仕方を理解している。
	③大きな面積	A 大きな面積に関心をもち、その表し方を調べて、身の回りの大きな面積を進んで表そうとするとしている。	km <sup>2</sup> 、a, haなどの単位を基に、そのいくつ分になるかを考えたり、単位の相互の関係を考えたりすることができる。	大きな面積をkm <sup>2</sup> 、a, haの単位を基にして、手際よく長方形の面積の公式を使って求めることができる。	km <sup>2</sup> 、a, haの単位を知り、面積の単位の相互の関係を理解している。
		B 身の回りの大きな面積に関心をもち、その面積の表し方を調べようとしている。	km <sup>2</sup> 、a, haなどの単位を基に、そのいくつ分かを考えることができる。	大きな面積をkm <sup>2</sup> 、a, haの単位を基にして大きな面積を求めることができる。	m <sup>2</sup> 、km <sup>2</sup> 、a, haの単位と面積の単位の相互の関係を図的に理解している。
8 2けたでわるわり算の筆算	①何十でわるわり算	A 何十でわるわり算の仕方を考え、答えの確かめをしようとしている。	10を単位にして、商の見当をつけ、既習のかけ算を使って(何十)÷(何十)の計算の仕方を考えることができる。	(何十)÷(何十)、(何百何十)÷(何十)で、商が1桁のわり算の計算が手際よく、確実にできる。	何十でわるわり算の意味と計算の仕方を十分理解している。
		B 10円玉の模型を使って、何十でわるわり算の仕方を考えようとしている。	10円玉の模型を使って商の見当をつけ、既習のかけ算を使って(何十)÷(何十)の計算の仕方を考えることができる。	(何十)÷(何十)、(何百何十)÷(何十)で、商が1桁のわり算の計算ができる。	何十でわるわり算の意味と計算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
8 2 け た で わ る わ り 算 の 筆 算	②商が1けたになる筆算	A	進んで商の見当をつけて、商が一桁になる筆算の計算の仕方を考えようとしている。	商の見当をつけて、既習のわり算の筆算の手順通りに筋道を立てて考えることができる。	$(2\text{桁}) \div (2\text{桁})$ や $(3\text{桁}) \div (2\text{桁})$ で商が1桁になる筆算が確実にできる。	商が1桁になる筆算の仕方と仮商の修正の仕方を十分理解している。
		B	商の見当をつけて、商が一桁になる筆算の計算の仕方を考えようとしている。	商の見当をつけて、既習のわり算の筆算の手順通りに考えることができる。	$(2\text{桁}) \div (2\text{桁})$ や $(3\text{桁}) \div (2\text{桁})$ で商が1桁になる筆算ができる。	商が1桁になる筆算の仕方と仮商の修正の仕方を理解している。
	③商が2けた、3けたになる筆算	A	商が2桁、3桁になる筆算について、商がどの位から立つかを見当付けて計算しようとしている。	商の見当をつけてから、商が1桁になる場合と同じように計算の仕方を筋道を立てて考えることができる。	商の見当をつけて、手際よく商が2・3桁になる筆算を計算することができる。	商の見当づけの方法や商が2・3桁になる筆算の仕方を十分理解している。
		B	商が2桁、3桁になる筆算について、商がどの位から立つかを見当づけようとしている。	商の見当をつけてから、商が1桁になる場合と同じように計算の仕方を考えることができる。	手隠し法で商の見当を立てながら、商が2・3桁になる筆算ができる。	商の見当づけの方法や商が2・3桁になる筆算の仕方を理解している。
	④わり算のせいし つ	A	わり算の性質に気づき、進んで活用しようとしている。	$6 \div 2, 60 \div 20, 600 \div 200$ の答えが同じになるわけを考え、大きなわり算の仕方に活用できる。	わり算の性質を使って、大きな数のわり算の答えを手際よく求めることができる。	わり算の性質とその活用の仕方を十分理解している。
		B	わり算の性質に気づき、活用しようとしている。	わり算の性質を使って、大きな数のわり算を考えることができる。	わり算の性質を使って、大きな数のわり算の答えを求めることができる。	わり算の性質とその活用の仕方を理解している。
	● 水をたいせつに よ み と る 算 数 (1)	A	水の使われ方に関心をもち、資料からの必要な数量の情報をよみとり、問題を解決したり、問題をつくろうしたりしている。	資料から必要な数量の情報を集め、正しいか、正しくないかを、拠り所をもつて考え、判断し、説明できる。	資料を概観してから必要な情報を手際よく集め、既習のかけ算等を活用して問題を解決することができる。	目的に応じて資料を選択肢、必要な数量の情報を収集している。
		B	水の使われ方に関心をもち、資料を用いて問題を解決しようとしている。	資料から必要な数量の情報を集め、正しいか、正しくないかを、拠り所をもつて考えることができる。	資料から必要な情報を集めて、問題解決することができる。	資料から必要な数量の情報を収集している。
9 そ ろ ば ん		A	そろばんを用いた小数や大きな数の計算を進んでしようとしている。	小数や大きな数の計算を定位点をずらして、既習の仕方と同じように考えたり、仕方を説明したりすることができる。	そろばんを用いた小数や大きな数の計算が確実にできる。	そろばんを用いた小数や大きな数の計算の仕方を十分理解している。
		B	そろばんを用いた小数や大きな数の計算をしようとしている。	小数や大きな数の計算を定位点をずらして、既習の仕方と同じように考えることができる。	そろばんを用いた小数や大きな数の計算ができる。	そろばんを用いた小数や大きな数の計算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	1 角とその大きさステップ	A 見当をつけてから、角の大きさを測ろうとしている。	2 つの直線の開き具合から見当をつけて、測ることを考えることができる。	角の大きさを手際よく測定して同じ子どもを探すことができる。	分度器を使って角度を測る方法を十分理解している。
		B 角の大きさを正確に分度器で測ろうとしている。	どの目盛りを読めばよいかを考えることができる。	角の大きさを測定して同じ子どもを探すことができる。	分度器を使って角度を測る方法を理解している。
1 角とその大きさジャンプ	A 針が回転してできる角に関心をもち、1回転以上回転してできる角の大きさを進んで調べようとしている。	針が1回転以上回転した場合の角の大きさを、 $360^\circ$ を基にして筋道立てで考えることができる。	針が1回転以上回転した場合の角の大きさを手際よく読んだり、作ったりすることができる。	針が1回転以上回転した場合の角の大きさを手際よく読んだり、作ったりすることができる。	$360^\circ$ 以上の回転の角がいろいろあることを理解している。
		B 1回転以上回転してできる角の大きさを表したり、作ったりしようとしている。	針が1回転以上回転した場合の角の大きさを、 $360^\circ$ を基にして考えることができる。	針が1回転以上回転した場合の角の大きさを手際よく読んだり、作ったりすることができる。	$360^\circ$ 以上の角があるとということを理解している。
4 式と計算の順じょステップ	A おはじきの数の求め方を表すいろいろな式を、おはじきの並んだ図を使って、説明しようとしている。	おはじきの図をどのように見ればその式になるか、図と式を結びつけて考えることができる。	それぞれの式を、図を使って簡潔に説明することができます。	式の表す意味を、図と結びつけて理解している。	
		B おはじきの数の求め方を表す式を、おはじきの並んだ図を使って、説明しようとしている。	おはじきの図をどのように見ればその式になるかを考えることができる。	それぞれの式を、図を使って説明することができます。	式が、図をどのように見たものかを理解している。
4 式と計算の順じょジャンプ	A 4, 3, 2, 1 の数字カードを使って答えが0から9になるまでの式を作り、他の作り方にもチャレンジしようとしている。	既習の計算のきまりを用いて、見通しをもって考えることができる。	4, 3, 2, 1 の数字カードを使って、答えが0から9になるまでの式をいろいろ作ることができます。	計算のきまりの理解を深め、そのよさを実感している。	
		B 4, 3, 2, 1 の数字カードを使って、答えが0から9になるまでの式づくりに進んで取り組もうとしている。	既習の計算のきまりを用いて、試行錯誤的に考えることができる。	4, 3, 2, 1 の数字カードを使って、答えが0から9になるまでの式を作ることができます。	計算のきまりの活用の仕方がわかる。
5 折れ線グラフステップ	A ひまわりの高さ調べに進んで取り組もうとしている。	既習の省略の印を用いて変化のようすをわかりやすく表すことを考えることができる。	省略の印を用いて変化の大きい折れ線グラフを手際よくかくことができる。	省略の印を用いて変化を大きくする表現方法を十分理解している。	
		B ひまわりの高さ調べに取り組もうとしている。	既習の省略の印を用いて変化のようすを表すことを考えることができる。	省略の印を用いて変化の大きい折れ線グラフをかくことができる。	省略の印を用いて変化を大きくする表現方法を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★算数のまど	5 折れ線グラフジャンプ	A 進んで折れ線グラフと棒グラフに表された数量をよみとろうとしている。	折れ線グラフと棒グラフを関係づけて考え、表された数量の特徴を見いだすことができる。	折れ線グラフと棒グラフを関係づけて見ることの大切さを十分理解している。	棒グラフと折れ線グラフを関係づけて見ることの大切さを十分理解している。
		B 折れ線グラフと棒グラフに表された数量をよみとろうとしている。	折れ線グラフと棒グラフを関係づけて、表された数量の特徴を考えることができる。	折れ線グラフと棒グラフに表された数量をよみとることができる。	棒グラフと折れ線グラフを関係づけて見ることの大切さを理解している。
6 小数ステップ	A 進んで小数アスレチックに取り組もうとしている。	小数のしくみを活用して、いろいろな進み方を考えることができる。	小数のしくみを活用して、手際よくいろいろな進み方ができる。	小数のしくみの活用の仕方を十分理解している。	小数のしくみの活用の仕方を十分理解している。
		B 小数アスレチックに取り組もうとしている。	小数のしくみを活用して進み方を考えることができる。	小数のしくみを活用して進むことができる。	小数のしくみの活用の仕方を理解している。
6 小数ジャンプ	A 進んで小数まほうじんに取り組み、作ろうとしている。	整数のまほうじんを基にして、整数と小数のしくみを上手に利用して小数まほうじんの作り方を考えることができる。	小数まほうじんを手際よく作ることができる。	まほうじんのしくみと小数のしくみを十分理解している。	まほうじんのしくみと小数のしくみを十分理解している。
		B 小数まほうじんに取り組もうとしている。	整数のまほうじんを基にして、小数まほうじんの作り方を考えることができる。	小数まほうじんを作ることができる。	まほうじんのしくみと小数のしくみを理解している。
7 面積ステップ	A 面積を進んで求め、はやく面積めいろを進もうとしている。	方眼の数や長方形や正方形の面積の公式を活用して、面積の比べ方を考え、説明することができる。	面積を手際よく正確に求めることができる。	測定の意味や長方形、正方形の面積の公式の活用の仕方を十分理解している。	測定の意味や長方形、正方形の面積の公式の活用の仕方を十分理解している。
		B 面積を求め、面積めいろを進もうとしている。	方眼の数や長方形や正方形の面積の公式を活用して、面積の比べ方を考えることができる。	面積を正確に求めることができる。	測定の意味や長方形、正方形の面積の公式の活用の仕方を理解している。
7 面積ジャンプ	A 面積づくりに進んで取り組み、面積が $2\text{cm}^2$ となるいろいろな形を作ろうとしている。	面積が $1\text{cm}^2$ となる形を組み合わせて、面積が $2\text{cm}^2$ になる形をいろいろ考えることができる。	手際よく面積が $2\text{cm}^2$ の形を作ることができる。	面積について十分理解している。	面積について十分理解している。
		B 面積が $2\text{cm}^2$ となる形を作ろうとしている。	面積が $1\text{cm}^2$ となる形を組み合わせて、面積が $2\text{cm}^2$ になる形を考えることができる。	面積が $2\text{cm}^2$ の形を作ることができる。	面積について理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★算数のまど	8 2 けたでわるわり算の筆算ステップ	A	自分の力に応じた計算コースを選んで、進んで計算しようとしている。	「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の筆算の手順にそって、筋道を立てて考えることができる。	÷(2桁)の筆算が手際よく、確実にできる。
		B	自分の力に応じた計算コースに進み、計算しようとしている。	「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の筆算の手順にそって、考えることができる。	÷(2桁)の筆算ができる。
	8 2 けたでわるわり算の筆算ジャンプ	A	外国のわり算の筆算の仕方を調べ、日本の筆算と比べてその特徴を捉えようとしている。	日本のわり算の筆算の仕方を比べて、その違いを考え、説明することができる。	外国の筆算の仕方と日本の筆算の仕方との違いを素早く見つけることができる。
		B	外国のわり算の筆算の仕方と日本の筆算と比べようとしている。	日本のわり算の筆算の仕方を比べて、その違いを考えることができる。	外国の筆算の仕方と日本の筆算の仕方との違い見つけることができる。

## 評価の観点と評価規準 4年下

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
10 がい 数 と そ の 計 算	①がい数の表し方	A 概数の表し方に関心を持ち、進んでどんなところに概数が使われているか見つけようとしている。	数直線などを用いて、概数や概数の表す範囲を筋道立てて考えることができる。	収穫量などの大きな数量を四捨五入によって概数処理し、棒グラフに表すことができる。	概数の意味と四捨五入の意味を十分に理解している。
		B 概数に関心を持ち、身の回りで概数を見つけようとしている。	数直線などを用いて、概数や概数の表す範囲を考えることができる。	大きな数量を四捨五入によって概数処理し、棒グラフに表すことができる。	概数の意味と四捨五入の意味を理解している。
	②がい数の計算	A 目的をもち、大きな数の計算を進んで概数で使って計算しようとしている。	目的に応じて、見積もりの位を適切に考えることができる。	目的に応じて、必要な位で概数にしてから手際よく計算することができる。	目的に応じて、複雑な計算の和、差、積、商を見積もるには、概数にしてから計算することを理解している。
		B 目的をもち、大きな数の計算を概数で使って計算しようとしている。	見積もりの位を適切に考えることができる。	必要な位で概数にしてから計算することができる。	複雑な計算の和、差、積、商を見積もるには、概数にしてから計算することを理解している。
	● 見 積 も り を 使 つ て	A まとまりを作った概数の仕方に関心をもち、進んでこの見積もりを生活に用いようとしている。	数量を概観し、およそ100, 1000のまとまりを考えて見積もり、説明することができる。	およそ100, 1000のまとまりを作って、手際よく見積もることができる。	まとまりを作る見積もりの仕方を十分理解している。
		B まとまりを作った概数の仕方に関心をもち、この見積もりを生活に用いようとしている。	数量を概観し、およそ100, 1000のまとまりを考えて見積もることができる。	およそ100, 1000のまとまりを作って、見積もることができる。	まとまりを作る見積もりの仕方を理解している。
	● ど ん な 計 算 に な る の か な	A どんな計算になるかに関心をもち、進んで式に表したり、その式のわけを考えたりしようとしている。	既習の計算の意味を根拠に式に表すことを考え、図やことばでその式になる理由を説明することができる。	問題を読んで、手際よく式に表し、そのわけをかくことができる。	四則計算の意味の理解を一層深めている。
		B どんな計算になるかに関心をもち、式に表したり、その式のわけを考えたりしようとしている。	既習の計算の意味を根拠に式に表すことを考え、図を使ってその式になる理由を説明することができる。	問題を読んで、式に表し、わけをかくことができる。	四則計算の意味の理解を深めている。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
11 整数の計算のまとめ	A	既習の整数の計算を振り返り、計算の力を身につけ、進んで伸ばそうとしている。	四則計算は、いずれも10のいくつ分と考えたり、位毎に分けたりして計算することを統合的に考え、まとめることができる。	整数の四則計算について手際よく計算することができる。	四則計算は10のいくつ分と考えたり、位毎に分けたりして計算することを確実に理解している。
		B	既習の整数の計算を振り返り、計算の力を身につけ、伸ばそうとしている。	四則計算は、いずれも10のいくつ分と考えたり、位毎に分けたりして計算することに気づくことができる。	整数の四則計算について確実に計算することができる。
12 垂直・平行と四角形	①垂直と平行	A	2直線の交わり方に関心をもち、身の回りの事象から、進んで垂直や平行を見つけようとしている。	2つの直線の交わってできる角や1つの直線に垂直に交わる2つの直線に着目し、筋道立てて考えることができる。	紙を折って、垂直や平行な直線をいろいろと作ることができる。
			B	2直線の交わり方に関心をもち、垂直や平行を見付けようとしている。	紙を折って、垂直や平行な直線を作ることができる。
	②垂直や平行な直線のかき方	A	垂直や平行な直線のかき方に関心をもち、進んで垂直や平行な直線のかき方を使って長方形をかこうとしている。	1組の三角定規や方眼紙を使って、垂直や平行な直線のかき方を考え、説明することができる。	1組の三角定規を使つて、任意の用紙に垂直や平行な2直線を的確にかくことができる。
			B	垂直や平行な直線のかき方に関心をもち、垂直や平行な直線のかき方を使って長方形をかこうとしている。	1組の三角定規や方眼紙を使って、垂直や平行な直線のかき方を考えることができる。
	③四角形	A	平行・垂直関係に着目して四角形を考察し、進んで身の回りから台形、平行四辺形、ひし形を見つけようとしている。	向かい合った辺の平行、対角線の交わり方等に着目して、様々な四角形の意味や性質を考え、筋道立てて説明することができる。	指定された平行四辺形をいろいろな方法で作図することができる。
			B	平行・垂直関係に着目して四角形を考察し、身の回りから台形、平行四辺形、ひし形を見つけようとしている。	指定された平行四辺形を作図することができる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
13 小数×整数、小数÷整数	①小数のかけ算	A	既習のかけ算の意味や小数の意味に基づいて、進んで $(\text{小数}) \times (\text{整数})$ のかけ算の仕方を考えようとしている。	0.1がいくつと考えて、整数のかけ算と同じように考えて計算し、その計算の仕方を論理的に説明できる。	簡単な $(\text{小数}) \times (\text{整数})$ 計算や小数のかけ算の筆算を手際よく確実に計算ができる。	$(\text{小数}) \times (\text{整数})$ の計算の仕方を整数の場合と関連つけて理解している。
		B	既習のかけ算の意味や小数の意味に基づいて $(\text{小数}) \times (\text{整数})$ の仕方を考えようとしている。	0.1がいくつと考えて、整数のかけ算と同じように考えて計算し、その計算の仕方を説明できる。	簡単な $(\text{小数}) \times (\text{整数})$ 計算や小数のかけ算の筆算を確実に計算ができる。	$(\text{小数}) \times (\text{整数})$ の計算の仕方を理解している。
	②小数のわり算	A	既習のわり算の意味や小数の意味に基づいて、進んで小数のわり算の仕方を考えようとしている。	0.1がいくつと考えて、整数のわり算と同じように考えて計算し、その計算の仕方を論理的に説明できる。	簡単な $(\text{小数}) \div (\text{整数})$ 計算や小数のわり算の筆算を手際よく確実に計算ができる。	$(\text{小数}) \div (\text{整数})$ の計算の仕方を整数のわり算の場合と関連つけて理解している。
		B	既習のわり算の意味や小数の意味に基づいて、小数のわり算の仕方を考えようとしている。	0.1がいくつと考えて、整数のわり算と同じように考えて計算し、その計算の仕方を説明できる。	簡単な $(\text{小数}) \div (\text{整数})$ 計算や小数のわり算の筆算を確実に計算ができる。	$(\text{小数}) \div (\text{整数})$ の計算の仕方を理解している。
◎もとの数はいくつ		A	順に戻して考えることのよさに気づき、進んで問題に取り組もうとしている。	問題を時系列で図に整理し、順に戻して筋道立てて考えることができる。	問題を図に整理し、図を見て、順に戻してもとの数を手際よく求めることができる。	順に戻して考えて解く方法を十分に理解している。
		B	順に戻して考えることに関心を持ち、進んで問題に取り組もうとしている。	問題を時系列で図に整理し、順に戻して考えることができる。	問題を図に整理し、図を使って順に戻してもとの数を求めることができる。	順に戻して考えて解く方法を理解している。
14 調べ方と整理の仕方		A	身近な事象を2つの観点から整理するよさに気づき、2次元の表を進んで生活に生かそうとしている。	目的にあわせて資料を2次元表に整理して、筋道立てて考えることができる。	資料を落ちや重なりがないように2次元の表に手際よく分類・整理できる。	2次元の表の意味、見方、表し方、よさを実感的に理解している。
		B	身近な事象を2つの観点から整理することに関心を持ち、2次元の表を生活に生かそうとしている。	目的にあわせて資料を2次元表に整理して考えることができる。	資料を落ちや重なりがないように2次元の表に分類・整理できる。	2次元の表の意味、見方、表し方、よさを理解している。
15 分数	①より大きい分数の表し方	A	1をこえる分数に関心をもち、その表し方やしくみを進んで調べようとしている。	数直線を使って、「単位分数のいくつ分」になるかを考えることができる。	1をこえる分数を、仮分数や帶分数で確実に表すことができる。	真分数、仮分数、帶分数の意味を十分理解している。
		B	1をこえる分数に関心をもち、その表し方やしくみを調べようとしている。	数直線を使って、1をこえる分数の大きさを考えることができる。	1をこえる分数を、仮分数や帶分数で表すことができる。	真分数、仮分数、帶分数の意味を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
15 分数	②分数のたし算とひき算	A	分数の加減計算に関心をもち、進んで帯分数の入った計算も計算しようとしている。	既習の分数の加減計算と同じように、単位とする分数のいくつ分と考え、筋道立てて説明することができる。	1をこえる分数の加減計算が確実に計算できる。	1をこえる分数の加減計算の仕方を十分理解している。
		B	分数の加減計算に関心をもち、計算しようとしている。	既習の分数の加減計算と同じように、単位とする分数のいくつ分と考え、説明することができる。	1をこえる分数の加減の計算ができる。	1をこえる分数の加減計算の仕方を理解している。
	③等しい分数	A	表し方が違うけれども、大きさが同じ分数に関心をもち、進んで数直線で調べようとしている。	数直線を使って、等しい分数かどうかを判断し、説明することができる。	数直線を使って、手際よく大きさの等しい分数を見つけることができる。	数直線を使って、等しい分数の意味を実感的に理解している。
		B	表し方が違うけれども、大きさが同じ分数に関心をもち、進んで数直線で調べようとしている。	数直線を使って、等しい分数かどうかを判断することができる。	数直線を使って、大きさの等しい分数を見つけることができる。	数直線を使って、等しい分数の意味を理解している。
	16 変わり方	A	伴って変わる2つの数量について、進んで、表、式、グラフに表して調べようとしている。	伴って変わる2つの数量を、表、□を使った式、グラフに適切に表して考えることができる。	数量の関係を調べて、表、□を使った式、折れ線グラフに表して変化の様子を手際よく調べることができる。	伴って変わる2つの数量の関係を調べる表、□を使った式、折れ線グラフのそれぞれの特徴を十分理解している。
		B	伴って変わる2つの数量について、表、式、グラフに表して調べようとしている。	伴って変わる2つの数量を表、□を使った式、グラフに表して考えることができる。	数量の関係を調べて、表、□を使った式、折れ線グラフに表して変化の様子を調べることができる。	伴って変わる2つの数量の関係を調べる表、□を使った式、折れ線グラフのそれぞれの特徴を理解している。
17 直方体と立方体	①直方体と立方体	A	観察や構成などを通して、直方体や立方体に関心をもち、自分から進んで調べようとしている。	構成要素の面、辺、頂点の個数やつながりなどの観点から直方体や立方体の特徴を筋道立てて考えることができる。	直方体や立方体の見取り図や展開図を手際よくかくことができる。	直方体や立方体の意味やそれらの見取り図や展開図のかき方を確実に理解している。
		B	直方体や立方体を観察したり構成したりして、その特徴をとらえようとしている。	構成要素の面、辺、頂点の個数やつながりなどの観点から直方体や立方体の特徴を考えることができる。	直方体や立方体の見取り図や展開図をかくことができる。	直方体や立方体の意味やそれらの見取り図や展開図のかき方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
17 直方体と立方体	②面や辺の平行と垂直	A	直方体や立方体について、進んで面や辺の平行・垂直を調べようとしている。	面や辺の平行、垂直関係の観点から直方体や立方体の特徴を考え、説明することができる。	直方体や立方体について、手際よく平行や垂直になっている辺や面を見つけることができる。
		B	直方体や立方体について、面や辺の平行・垂直を調べようとしている。	面や辺の平行、垂直関係の観点から、直方体や立方体の特徴を考えることができる。	直方体や立方体について、手際よく平行や垂直になっている辺や面を見つけることができる。
	③位置の表し方	A	ものの位置の表し方に関心をもち、進んで表そうとしている。	平面の位置を2つの数の組で表すことを基に、空間にあるものの位置の表し方を筋道立てて考えることができる。	平面や空間にあるものの位置を2つの数や3つの数の組で表すことができる。
		B	ものの位置の表し方に関心をもち、進んで表そうとしている。	平面の位置を2つの数の組で表すことを基に、空間にあるものの位置の表し方を考えることができる。	平面や空間にあるものの位置の表し方を理解している。
	◎ だれでしょ	A	論理の問題に関心をもち、2次元表を用いて、進んで考えようとしている。	2次元表に情報を基に×や○をつけながら、筋道立てて考えることができる。	2次元表を使って、手際よく問題を解決することができる。
		B	論理の問題に関心をもち、2次元表を用いて、考えようとしている。	2次元表に情報を基に、×や○を使って順々に考えることができる。	2次元表を使って問題を解決することができる。
● よみとる算数(2)		A	清掃工場見学の新聞を読み、進んで必要な情報を収集して問題解決しようとしている。	必要な情報を収集し、既習の概数、乗除等の知識、技能を活用することができる。	新聞から必要な情報を収集し、既習の概数、乗除等の知識、技能を活用して問題を解決することができる。
		B	清掃工場見学の新聞を読み、必要な情報を収集して問題を解決しようとしている。	必要な情報を収集し、既習の概数、乗除等の知識、技能を活用することができる。	新聞から問題解決に必要な情報を収集している。
★ 算数のまど	10 がい数とその計算ステップ	A	概数の色塗り問題に関心をもち、進んでやってみようとしている。	千の位までの概数にするために、百の位に着目して、四捨五入の処理の仕方を考えることができる。	百の位の数を手際よく四捨五入によって確実に千の位までの概数に処理し、色塗りをすることができる。
		B	概数の色塗り問題に関心をもち、やってみようとしている。	百の位に着目して、四捨五入の処理の仕方を考えることができる。	概数と四捨五入の処理の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	10 がい数とその計算 ジャンプ	A	概数新聞作りに関心を持ち、進んで身近な事象を数理的に概数処理して、新聞記事を書こうとしている。	数量の大きさをわかりやすくするために、上手に概数を用いることができる。	概数を使って、数量の大きさを大局的に表し、説明する記事を書くことができる。
		B	概数新聞作りに関心を持ち、身近な事象を数理的に概数処理して、新聞記事を書こうとしている。	数量の大きさをわかりやすくするために、概数処理することを考えることができる。	概数を使って、説明する記事を書くことができる。
	12 垂直・平行と四角形 ステップ	A	図の中の線を延ばして、進んで垂直、平行を調べようとしている。	直線の交わり方に着目して平行、垂直な直線の組を見いだすことができる。	方眼を使って垂直と平行な直線を手際よくかくことができる。
		B	図の中から興味をもって垂直、平行を探そうとしている。	直線の交わり方に着目して、平行、垂直な直線の組を考えることができる。	方眼を使って垂直と平行の直線をかくことができる。
	12 垂直・平行と四角形 ジャンプ	A	形作りに関心をもち、進んで台形、平行四辺形直角三角形、長方形を作ろうとしている。	直角に直目して、見当をつけて並べ変えたり、1枚動かして並べ変える方法を考えたりすることができる。	できた形を手際よく並べ変えて、台形、平行四辺形、直角三角形、長方形を作ることができる。
		B	形作りに関心をもち、台形、平行四辺形直角三角形、長方形を作ろうとしている。	直角に直目して、見当をつけて並べ変えることができる。	できた形を、試行錯誤しながら並べ変えて、台形、平行四辺形、直角三角形、長方形を作ることができる。
	13 小数×整数、小数÷整数 ステップ	A	結果を予想しながら楽しく小数の計算に取り組もうとしている。	既習の小数の意味や計算の仕方を基にして論理的に考えることができる。	小数×整数、小数÷整数の計算が確実にできる。
		B	計算コースを楽しみながら取り組もうとしている。	既習の小数の意味や計算の仕方を基にして考えることができる。	小数×整数、小数÷整数の計算ができる。
	13 小数×整数、小数÷整数 ジャンプ	A	小数計算ランドに進んで取り組み、同じような問題を作つてさらにやってみようとしている。	かけ算、わり算の関係を考え、計算の結果を予想することができる。	小数×整数、小数÷整数の計算が素早く、確実にできる。
		B	小数計算ランドを楽しみながら取り組むことができる。	かけ算、わり算の関係を考え、計算の結果を予想する。	小数×整数、小数÷整数の計算が確実にできる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
★ 算数のまど	17 直方体と立方体 ステップ	A	立方体の展開図を基に新しい展開図を作るこ <sup>と</sup> に関心をもち、面をいろいろ動かせて考えようとしている。	見通しを立てて、面の動かし方を考えるとともに、発展的に2面を動かすとどうかと考えることができる。	面を移動させて手際よくいろいろな新しい展開図を作ることができる。	立方体の展開図で面のつながり方を十分に理解している。
		B	立方体の展開図を基に新しい展開図を作るこ <sup>と</sup> に関心をもち、やつてみようとしている。	試行錯誤的に面を動かして考えることができる。	面を移動させて新しい展開図を作ることができる。	立方体の展開図で面のつながり方を理解している。
	17 直方体と立方体 ジャンプ	A	2色に塗り分けた立方体の展開図に関心をもち、全部色のついた正方形の面を変えていろいろに考えてみようとしている。	見取図と展開図から立方体の面の状態を把握し、面と面のつながりから展開図での面の色のつき方を論理的に考えることができる。	2色に塗り分けた立方体の展開図を、手際よくいろいろに完成させることができる。	立方体にはいろいろな展開図があることを理解している。
		B	2色に塗り分けた立方体の展開図に関心をもち、いろいろに考えてみようとしている。	見取図と展開図から立方体の面の状態を把握し、面と面のつながりから展開図での面の色のつき方を考えることができる。	2色に塗り分けた立方体の展開図を、いろいろに完成させることができる。	立方体の展開図を理解している。

## 評価の観点と評価規準 5年上

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1 整数と小数	A	整数と小数を関連づけて、小数のしくみが十進位取り記数法に基づいていることをまとめようとしている。	小数が十進位取り記数法に基づいていることを、整数と関連づけて統合的に考えることができる。	十進位取り記数法を基に、整数や小数を10倍、100倍、10分の1、100分の1した数を手際よく求めることができる。	小数と整数のしくみを統合的に見て理解している。
		B	小数が十進位取り記数法に基づいていることに関心をもち、そのしくみについて調べようとしている。	小数も、整数と同じように十進位取り記数法のしくみに基づいていることに気づくことができる。	十進位取り記数法を基に、整数や小数を10倍、100倍、10分の1、100分の1した数を求めることができる。
● みんなで話しゃいましょう	A	算数の話し合い活動に関心をもち、算数の話し合いの仕方を知り、算数の話し合い活動に進んで生かそうとしている。	わかりやすい発表、質問や意見の仕方を考えるとともに、自分の考えを深めたり、拡げたりする話し合いの仕方を考えることができる。	正三角形の個数の数え方を事例にして、6つの算数の話し合い活動で大切なことを確認することができる。	算数の話し合い活動の目的や仕方を十分理解している。
		B	算数の話し合いの仕方を知り、算数の話し合い活動に生かそうとしている。	わかりやすい発表や説明の仕方、質問や意見による算数の伝え合いの仕方を考えることができる。	正三角形の個数の数え方を事例にして、6つの算数の話し合い活動で大切なことをまとめることができる。
2 体積	①直方体・立方体の体積	A	面積と同じように、体積の大きさも、単位の大きさを決めると数値化し、直方体や立方体の体積を進んで公式で求めようとしている。	1cm <sup>3</sup> のいくつ分あるかを考え、直方体や立方体の体積の公式を筋道立てて作ることができる。	普遍単位cm <sup>3</sup> を知り、直方体や立方体の体積の公式を活用して、手際よく求めることができる。
		B	体積の大きさも、単位の大きさを決めて数値化して表し、直方体や立方体の体積を公式で求めようとしている。	1cm <sup>3</sup> のいくつ分あるかを考え、直方体や立方体の体積の公式を作ることができる。	体積の普遍単位cm <sup>3</sup> を知り、直方体や立方体の体積を、公式を使って求めることができる。
	②大きな体積	A	自分から進んで、身の回りにある大きな体積を調べようとしている。	面積と同様に、体積についても大きな体積を考え出し、1m <sup>3</sup> と1cm <sup>3</sup> の相互の関係を筋道立てて考えることができる。	普遍単位m <sup>3</sup> を知り、大きな直方体や立方体の体積を、公式を活用して、手際よく求めることができる。
		B	身の回りにある大きな体積を調べようとしている。	面積と同様に、体積についても大きな体積を考え出し、1m <sup>3</sup> と1cm <sup>3</sup> の相互の関係を考えることができる。	普遍単位m <sup>3</sup> を知り、大きな直方体や立方体の体積を、公式を活用して求めることができる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
2 体積	③体積と比例	A	直方体の高さと体積の関係に関心をもち、伴って変わる2つの数量の関係を表にかいてきまりをつけようとしている。	直方体の高さが2倍、3倍になると、体積も2倍、3倍になることに気づくことができる。	直方体の高さと体積の関係を調べることができること。	直方体の高さと体積は比例の関係があることを十分理解している。
		B	伴って変わる直方体の高さと体積の関係を表にかいて、きまりを見つけようとしている。	表を使って、直方体の高さが2倍、3倍になると、体積も2倍、3倍になることに気づくことができる。	直方体の高さが2倍、3倍になると、体積はどのように変わるかを表にかいて調べることができること。	直方体の高さと体積は比例の関係にあることを理解している。
	④体積の求め方のくふう	A	直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を、既習の面積の求め方と関連づけて求めようとしている。	既習のL字型の面積の求め方と関連づけ、多様な考え方ができる。	直方体を組み合わせた図形の体積を多様な考え方で、手際よく求め、その求め方を図を使って説明できる。	直方体の体積の公式の使い方を十分理解している。
		B	直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を工夫して求めようとしている。	「2つの直方体に分ける」「継ぎ足す」など、直方体の体積の公式を使うことを考えることができる。	直方体を組み合わせた図形の体積を工夫して求め、図を使って説明できる。	直方体の体積の公式の使い方を理解している。
	①小数をかける計算	A	進んで、(小数)×(小数)の意味や計算の仕方を調べていこうとしている。	乗法の意味や計算の仕方を整数の場合と同じように筋道立てて考え、説明することができる。	(小数)×(小数)の式に表し、手際よく計算することができます。	小数をかける場面や計算の仕方を十分理解している。
		B	(小数)×(小数)の意味や計算の仕方を調べていこうとしている。	乗法の意味をことばの式を使って、計算の仕方は図を使って、整数の場合と同じように考え、説明することができる。	(小数)×(小数)の式に表して計算することができます。	小数をかける場面や計算の仕方について理解している。
3 小数 × 小数	②小数のかけ算を使って	A	面積や体積のような求積公式を数値が小数になっても使おうとしている。	0.01, 0.001のような面積の単位や体積の単位を見つけ、数値が小数であっても面積や体積を求める公式が使えることを考え、説明できる。	辺の長さが小数であっても、手際よく面積や体積の公式を使って計算できる。	辺の長さが小数であっても、面積や体積の公式を使って計算できることを十分理解している。
		B	面積や体積のような求積公式を数値が小数の場合も使えるかどうかを調べようとしている。	面積や体積の小数の単位を見つけ、小数であっても面積や体積を求める公式が使えることを考えることができる。	辺の長さが小数であっても面積や体積の公式を使って計算できる。	辺の長さが小数であっても、面積や体積の公式を使って計算できることを理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
4 小数 ÷ 小数	A	進んで(小数)÷(小数)の計算の意味や計算の仕方を調べていこうとしている。	小数の除法の意味や計算の仕方を、整数の場合を基に、ことば、数、式、図を用いて考え、説明することができる。	(小数)×(小数)の式に表し、手際よく計算することができます。	小数でわる場面や計算の仕方、商と余りの関係を十分に理解している。
		(小数)÷(小数)の計算の意味や計算の仕方を調べようとしている。	小数の除法の意味をことばの式を使って、計算の仕方は図を使って、整数の場合と同じように考え、説明できる。	(小数)×(小数)の式に表して計算することができます。	小数でわる場面や計算の仕方、商と余りの関係を理解している。
5 式 と 計算	A	計算のきまりが小数でも成り立つかどうかを調べ、進んで式の表し方・読み方を調べようとしている。	計算法則を活用して計算を工夫したり、式の表す意味を具体に即して考えたりすることができる。	手際よく計算法則を活用して工夫して計算したり、式を読んだりすることができる。	計算法則を理解し、それを活用した計算の仕方を理解している。
		計算のきまりが小数でも成り立つかどうかを調べ、式の表し方・読み方を調べようとしている	計算法則を小数の場合に拡張して考えたり、式の表す意味を具体に即して考えたりすることができる。	計算法則を活用して計算したり、式を読んだりすることができる。	小数を含めた計算法則を理解している。
◎ 同じ もの に 目 を つ け て	A	同じものに目をつけて、考えようとしている。	同じものに着目し、差し引いて考えたり、置き換えて考えたりすることができる。	手際よく同じものを差し引いたり、置き換えたりして問題を解決することができます。	相殺、置換の問題解決方法を十分理解している。
		図を使って、同じものに目をつけて考えようとしている。	図を使って、同じものに着目し、差し引いて考えたり、置き換えて考えたりすることができる。	同じものを差し引いたり、置き換えたりして問題を解決することができます。	相殺、置換の問題解決方法を理解している。
6 合 同 な 図 形	①合同な図形 A	合同な図形に関心をもち、意味や性質を進んで調べようとしている。	ずらす、回す、裏返すの動的な操作をして、対応する頂点、辺、角を考え説明することができる。	手際よく対応する頂点、辺、角を見つけたり、合同な三角形を見つけたりすることができる。	合同な図形の意味や性質を十分理解している。
		合同な図形について、意味や性質を調べようとしている。	ずらす、回す、裏返すの動的な操作をして、対応する頂点、辺、角を考えることができる。	対応する頂点、辺、角をみつけたり、合同な三角形をみつけたりすることができます。	合同な図形の意味や性質を理解している。
	②合同な図形のかき方 A	合同な図形のかき方を自ら進んで考えようとしている。	合同な三角形のかき方をいろいろ工夫して考え、説明することができる。	手際よく合同な三角形をかき、確かめることができます。	3通りの合同な三角形のかき方を理解している。
		合同な図形のかき方を考えようとしている。	合同な三角形のかき方を工夫して考えることができる。	合同な三角形をかくことができる。	合同な三角形のかき方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
	③三角形・四角形の角	A 合同な三角形をテープのような形に並べた形に関心を持ち、三角形の3つの角の大きさを調べようとしている。	図を使って三角形の内角の和や、四角形の内角の和を演繹的に考え、筋道を立てて説明することができる。	三角形、四角形の内角の和を手際よく求めることができる。	三角形の内角の和とその活用の仕方を理解している。
		B 合同な三角形をテープのような形に並べた形を見て、三角形の3つの角の大きさを調べようとしている。	図を使って三角形の内角の和や、四角形の内角の和を演繹的に考え、説明することができる。	三角形、四角形の内角の和を求めることができる。	三角形、四角形の内角の和について理解している。
● どんな計算になるのかな		A 小数の乗除の混じった場面で、演算を決定し、その根拠を図や言葉の式を使って説明しようとしている。	小数の乗除計算の意味を基に立式し、その根拠を言葉の式や図を用いて考え、筋道を立てて説明することができる。	手際よく、小数のかけ算やわり算の式で立式し、その根拠をノートに書くことができる。	小数の乗除の意味を十分理解している。
		B 小数の乗除の混じった場面で、演算を決定し、その根拠を考えようとしている。	小数の乗除計算を基に立式し、その根拠を考え、説明することができる。	小数のかけ算やわり算の式で立式し、そのかけをノートに書くことができる。	小数の乗除の意味を理解している。
● 算数の自由研究		A 数字並べの問題に関心を持ち、和が 10, 11, 12 になる場合も発展的に取り組もうとしている。	1 から 6 までの和と 1 辺上にある 3 つの数の 3 倍の数とのズレに着目して考え、図を使って求め方を説明できる。	和が 9 になる場合を基にして、手際よく 10, 11, 12 の場合を発展的に調べることができる。	数字の見つけ方を理解し、条件を変えても数字の並べ方を理解している。
		B 数字並べの問題に関心を持ち、取り組もうとしている。	1 から 6 までの和と 1 边上にある 3 つの数の 3 倍の数とのズレに着目して考えることができる。	和が 9 になる場合を基にして、10, 11 の場合を調べることができる。	数字の見つけ方を理解している。
7 整数	①偶数・奇数	A 整数の性質に関心を持ち、偶数と奇数に類別し、生活の中で使われている場面をさがしたり、生活に生かそうとしたりしている。	2 で割り切れるかどうかで、整数を 2 つに類別することを考えることができる。	偶数と奇数の意味を基に、どんな整数も偶数と奇数に手際よく類別することができる。	偶数と奇数の意味を知り、どんな大きな整数も偶数と奇数に類別する方法がわかる。
		B 整数に関心を持ち、偶数と奇数に類別し、生活の中で見つけようとしている。	数直線を使って 2 で割り切れるかどうかで、整数を 2 つに類別することを考えることができる。	偶数と奇数の意味を基に、整数を偶数と奇数に類別することができる。	偶数と奇数の意味を理解している。
	②倍数と公倍数	A 2 つの数の倍数と倍数を関連づけて公倍数を捉え、公倍数を問題解決に活用し、そのよさを調べようとしている。	公倍数を活用して、身の回りの問題を解決することを考えることができる。	手際よく倍数、公倍数、最小公倍数を求めることができる。	倍数、公倍数、最小公倍数の意味を知り、公倍数の活用の仕方を理解している。
		B 2 つの数の倍数と倍数を関連づけて公倍数を捉え、公倍数を問題解決に活用しようとしている。	公倍数を使って、身の回りの問題を解決することを考えることができる。	倍数、公倍数、最小公倍数を求めることができる。	倍数、公倍数、最小公倍数の意味を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
8 分数	③約数と公約数	A 2つの数の約数と約数を関連づけて公約数を捉え、公約数を問題解決に活用し、そのよさを調べようとしている。	公約数を活用して、身の回りの問題を解決することを考えることができる。	手際よく約数、公約数、最大公約数を求めることができる。	約数、公約数、最大公約数及び素数の意味を知り、公約数の活用の仕方を理解している。
		B 2つの数の約数と約数を関連づけて公約数を捉え、公約数を問題解決に活用しようとしている。	公約数を使って、身の回りの問題を解決することを考えることができる。	約数、公約数、最大公約数を求めることができる。	約数、公約数、最大公約数及び素数の意味を理解している。
①等しい分数	A 分数の大小に关心を持ち、進んで異分母分数の大小の比べ方を考えようとしている。	等しい分数、公倍数を活用して、通分の仕方を考え、説明することができる。	手際よく等しい分数をつくったり、約分、通分したりすることができる。	等しい分数、約分、通分の意味を十分理解している。	
		B 分数の大小に关心を持ち、異分母分数の大小の比べ方を考えようとしている。	等しい分数、公倍数を活用して、通分の仕方を考えることができる。	等しい分数をつくったり、約分、通分をしたりすることができる。	等しい分数、約分、通分の意味を理解している。
	②分数のたし算・ひき算 A 異分母分数の加減計算に关心を持ち、既習事項を活用して計算の仕方を考えようとしている。	通分を活用して異分母分数の加減計算の仕方を考え、説明することができる。	異分母分数の加減計算が手際よくできる。	異分母分数の加減計算の意味や計算の仕方を十分に理解している。	
		B 異分母分数の加減計算に关心を持ち、計算の仕方を考えようとしている。	通分を活用して異分母分数の加減計算の仕方を考えることができる。	異分母分数の加減計算ができる。	異分母分数の加減計算の意味や計算の仕方を理解している。
③分数のかけ算・わり算	A 分数に整数をかけたりわったりする場面に关心を持ち、進んで計算の意味や仕方を調べようとしている。	図を使って、単位のいくつ分になるかに着目して分数のかけ算、わり算の仕方を考えることができる。	分数に整数をかけたりわったりする計算を手際よく計算することができる。	分数に整数をかけたりわったりする計算の意味と計算の仕方を十分に理解している。	
		B 分数に整数をかけたりわったりする場面に关心を持ち、計算の意味や仕方を調べようとしている。	図を使って、分数のかけ算、わり算の仕方を考えることができる。	分数に整数をかけたりわったりする計算を求めることができる。	分数に整数をかけたりわったりする計算の意味と計算の仕方を理解している。
	④分数と小数・整数の関係 A 進んで整数の除法の結果を分数で表したり、分数を小数に小数を分数に表したりしようとしている。	既習の分数の意味や液量図を活用して、除法の結果を分数で表すことを考えることができる。	手際よく商分数を使って分数を小数で表したり、小数を10, 100を分母にした分数で表したりすることができる。	商分数の意味や分数と小数・整数の相互の関係を十分に理解している。	
		B 整数の除法の結果を分数で表したり、分数を小数に小数を分数に表したりしようとしている。	既習の分数の意味や液量図を使って整数の除法の結果を分数で表すことを考えることができる。	商分数を使って分数を小数で表したり、小数を10, 100を分母にした分数で表したりすることができる。	商分数や分数と小数・整数の相互の関係を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
◎ 人文字	A	人文字の問題に関心を持ち、問題を単純化して解こうとしている。	形を単純にし、人の数と間の数の関係に着目してきまりを見つけて考えることができる。	複雑な形を、直線や長方形などの形に置き換えて考えることができる。	単純な形で考えたことが複雑な形でも使えることを十分に理解している。
		人文字の問題に関心を持ち、解こうとしている。	形を単純にし、人の数と間の数の関係に着目して考えることができる。	複雑な形を単純な形に直すことができる。	単純な形で考えたことが複雑な形でも使えることを理解している。
● よみとる算数(1)	A	目的に照らして資料から必要な情報を読み取り、問題解決をし、説明が正しいかどうかを判断しようとしている。	資料から根拠を見つけて問題解決の方法を考え、筋道を立てて説明することができる。	手際よく資料から必要な情報を収集し、問題解決することができる。	目的に応じた情報処理の仕方を十分理解している。
		資料から必要な情報を読み取り、問題解決をし、説明が正しいかどうかを判断しようとしている。	資料から根拠を見つけて問題解決の方法を考え、説明することができる。	資料から必要な情報を収集し、問題解決することができる。	目的に応じた情報処理の仕方を理解している。
★ 算数のまど	A	進んで、展開図の長さを測って方眼紙にかき、直方体を作って体積を求めようとしている。	公式を使って直方体や立方体の体積の求め方を考え、説明することができる。	手際よく直方体を作り、その体積を求めることができる。	直方体、立方体の体積の求め方を十分に理解している。
		展開図の長さを測って方眼紙にかき、直方体を作って体積を求めようとしている。	公式を使って直方体や立方体の体積の求め方を考えることができる。	直方体を作りその体積を求めることができる。	直方体、立方体の体積の求め方を理解している。
2 体積ジャンプ	A	不規則な形の石の体積の求め方に関心を持ち、工夫して体積を求めようとしている。	石を水槽に入れ、増えた水の体積と石の体積が等しいことに着目して考え、筋道を立てて説明したりすることができる。	手際よく石などの体積や壺に入る水の体積を求めることができる。	石などの体積を水に置き換えて求める方法などを十分に理解している。
		不規則な形の石の体積を求めようとしている。	石を水槽に入れ、増えた水の体積と石の体積が等しいことに着目して考えることができる。	石などの体積や壺に入る水の体積を求めることができる。	石などの体積を水に置き換えて求める方法を理解している。
6 合同な図形ステップ	A	合同な形に関心を持ち、進んで合同な形を見つけたりかいたりしようとしている。	合同の意味や性質を基に合同な三角形を弁別し、説明したり、作図の仕方を考えたりすることができる。	手際よく合同な形を見つけたりかいたりすることができる。	合同な形の見つけ方やかき方を通して、合同な図形の意味を確実に理解している。
		合同な形に関心を持ち、合同な形を見つけたりかいたりしようとしている。	合同の意味や性質を基に合同な三角形を弁別したり、作図の仕方を考えたりすることができる。	合同な形を見つけたりかいたりすることができる。	合同な形の見つけ方やかき方を通して、合同な図形の意味を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	6 合同な図形ジャンプ	A	合同な四角形敷き詰めに関心を持ち、楽しんで四角形での敷き詰めをしようとしている。	合同な三角形の敷き詰めを基に、どんな四角形でも敷き詰められることを見いだすことができる。	手際よくいろいろな四角形を敷き詰めることができる。
		B	三角形の敷き詰めに関心を持ち、敷き詰めをしようとしている。	合同な三角形の敷き詰めを基に、四角形を敷き詰める考えることができる。	いろいろな四角形を敷き詰めることができる。
	7 整数ステップ	A	最小公倍数や最大公約数に関心を持ち、自分で表を作ろうとしている。	表作りを通して、いろいろな公倍数や公約数のきまり見つけることができる。	手際よく最小公倍数や最大公約数を表の中に書き込むことができる。
		B	最小公倍数や最大公約数に関心を持ち、表を作ろうとしている。	表作りを通して、公倍数や公約数のきまりを見つけることができる。	最小公倍数や最大公約数を表の中に書き込むことができる。
7 整数ジャンプ	A	倍数の見分け方に関心を持ち、見分け方を調べようとしている。	2や5の倍数などの簡単な見分け方を考え、説明できる。	手際よく倍数を見分けることができる。	倍数の見分け方を理解し、説明できる。
		B	2, 4, 5の倍数の見分け方を考えようとしている。	2や5の倍数などの簡単な見分け方を考えることができる。	2, 4, 5の倍数を見分けることができる。

## 評価の観点と評価規準 5年下

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
9 面積	①三角形の面積	A	三角形の面積を既習の長方形に帰着させていろいろ考え, 三角形の求積公式を四角形の求積に活用しようとしている。	三角形の面積の求め方を長方形の求積公式を基に多様に考え, 筋道を立てて説明することができる。	手際よく三角形や四角形の面積を求めることができる。	三角形の求積公式とその活用の仕方を十分理解している。
		B	三角形の面積を既習の長方形に帰着して考え, 三角形の求積公式を四角形の求積に活用しようとしている。	三角形の面積の求め方を長方形の求積公式を基に考え, 説明することができる。	三角形や四角形の面積を求めることができる。	三角形の求積公式を理解している。
	②平行四辺形の面積	A	平行四辺形の面積を既習の図形に帰着させていろいろ考え, 図を使って説明しようとしている。	平行四辺形の面積の求め方を三角形や長方形の面積の求積公式を基に多様に考え, 筋道を立てて説明することができる。	平行四辺形の面積を求めるのに必要な長さを手際よく見つけ, 面積を求めることができる。	平行四辺形の求積公式を十分理解している。
		B	平行四辺形の面積を既習の図形に帰着させて考え, 図を使って説明しようとしている。	平行四辺形の面積の求め方を三角形や長方形の面積の求積公式を基に考え, 筋道を立てて説明することができる。	公式を活用して平行四辺形の面積を求めることができる。	平行四辺形の求積公式を理解している。
	③いろいろな三角形・四角形の面積	A	既習の求積公式を活用して, 台形やひし形の面積の求め方を進んで考え, 公式を作ろうとしている。	既習の求積公式を活用して, 台形やひし形の面積の求め方を多様に考え, 筋道立てて説明することができる。	手際よく高さが底辺の外にある三角形や平行四辺形の面積を求めたり, 台形やひし形の面積を求めたりすることができる。	三角形や平行四辺形の底辺の外にある高さを知り, 台形やひし形の面積の公式を確実に理解している。
		B	既習の求積公式を活用して, 台形やひし形の面積の求め方を考え, 公式を作ろうとしている。	既習の求積公式を活用して, 台形やひし形の面積の求め方を考え, 筋道立てて説明することができる。	高さが底辺の外にある三角形や平行四辺形の面積を求めたり, 台形やひし形の面積を求めたりすることができる。	三角形や平行四辺形の底辺の外にある高さを知り, 台形やひし形の面積の公式を理解している。
	④面積の問題	A	進んで底辺が一定のときの三角形の高さと面積の関係を調べたり, 式から三角形の面積の工夫した求め方を読もうとしている。	高さが2倍, 3倍になると面積はどうなるかを考えたり, 図から式の意味を考えたりすることができる。	手際よく比例の関係を調べたり, 面積の求積の仕方を表す式と図を対応させて表したりすることができる。	底辺が一定のとき, 高さと面積は比例するがわかり, 式を読むことを通して三角形の面積の求め方を多面的に理解している。
		B	底辺が一定のときの三角形の高さと面積の関係を調べたり, 式から三角形の面積の工夫した求め方を読もうとしたりする。	高さが2倍, 3倍になると面積はどうなるかを考えたり, 図と対応させて( )の式の意味を考えたりすることができる。	比例の関係を調べたり, 面積の求積の仕方を表す式と図を対応させて表したりすることができる。	底辺が一定のとき, 高さと面積は比例するがわかり, 式を読むことを通して三角形の面積の求め方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
10 平均とその利用	①平均	A 大きさの違ういくつかの数量をならすことに関心を持ち, 進んで調べていこうとしている。	問題に即して平均の求め方を工夫して考えることができる。	手際よく計算して, 平均を求めることができる。	平均の意味や平均の求め方を十分に理解している。
		B 大きさの違ういくつかの数量をならすことに関心を持ち, 調べていこうとしている。	平均の求め方を考えることができる。	計算によって平均を求めることができる。	平均の意味や平均の求め方を理解している。
	②平均を使って	A 歩幅の平均を使った道のりを調べ方や簡単な平均の求め方を工夫しようとしている。	平均を活用した道のりを求め方や簡単な平均の求め方を工夫して考えることができる。	手際よく平均を使って長さを概測したり, 仮平均を利用して平均を求めたりすることができる。	いろいろな仮平均を利用した平均の求め方を理解している。
		B 歩幅の平均を使った道のりを調べ方や簡単な平均の求め方を調べたりしようとしている。	平均を活用した道のりを求め方や簡単な平均の求め方を考えることができる。	平均を使って長さを概測したり, 仮平均を利用して平均を求めたりすることができる。	仮平均を利用した平均の求め方を理解している。
	11 単位量あたりの大きさ	A 混みぐあいの比べ方に関心を持ち, 進んで単位量当たりの考えを用いて比べようとしている。	混みぐあいや燃費などを, 単位量当たりで比べることを考え, 筋道立てて説明することができる。	単位量当たりの考えを用いて, 混みぐあい, とれ高, 密度などを手際よく比べることができる。	異種の2つの量の割合で表される量について, 比べ方や表し方を十分に理解している。
		B 混みぐあいの比べ方に関心を持ち, 単位量当たりの考えを用いて比べようとしている。	混みぐあいや燃費などを, 単位量当たりで比べることを考え, 説明することができる。	単位量当たりの考えを用いて, 混みぐあい, とれ高, 密度などを比べることができる。	異種の2つの量の割合で表される量について, 比べ方や表し方を理解している。
● 見積もりを使って		A 見積もりに関心を持ち, 場に応じた見積もりの仕方を工夫して処理しようとしている。	差し引いたり, 切り上げや切り捨てを使ったりして見積もることを考え, 見積もりの仕方を説明することができる。	手際よく場に即した最適な見積もり方法を選択し, 処理できる。	場に即した最適な見積もり方法を理解している。
		B 見積もりに関心を持ち, 見積もりを使って処理しようとしている。	差し引いたり, 切り上げや切り捨てを使ったりして見積もることを考え, 見積もりの仕方を説明できる。	場に即した最適な見積もり方法を選択し, 処理できる。	場に即した見積もりの仕方を理解している。
◎ 順々に調べて		A 進んで少ない場合から順に表に整理して調べ, きまりを見つけて解こうとしている。	少ない場合から順に表にかいてきまりを見つけ, それを活用して考えることができる。	手際よくきまりを見つけて, 問題を解決することができます。	少ない場合から順に調べる問題解決の方法のよさを理解している。
		B 少ない場合から順に表にかいて調べ, きまりを見つけて解こうとしている。	少ない場合から順に表にかき, きまりを見つけることができる。	きまりを見つけて, 問題を解決することができます。	少ない場合から順に調べる問題解決の方法を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
12 割合	①割合	A	基準とする量が違うため, 差では比べられない量について, 他の比べ方を進んで調べようとしている。	関係図をかいて, 基準とする量を1として, その何倍になるかを考えることができる。	手際よく関係図をかき, 割合, 比べる量, もとにする量を計算で求めることができる。	割合の意味を理解し, 割合, 比べる量, もとにする量を求める公式とそれらの関係を理解している。
		B	基準とする量が違うため, 差では比べられない量について, 他の比べ方を調べようとしている。	図を使って基準とする量を1として, その何倍になるかを考えることができる。	関係図を使って, 割合, 比べる量, もとにする量を計算で求めることができる。	割合の意味を理解し, 割合, 比べる量, もとにする量を求める公式を理解している。
	②百分率	A	割合を整数化して表すことのよさに気づき, 進んで身の回りから百分率が使われているところを見つけようとしている。	百分率を使ついろいろな問題を考えることができる。	手際よく割合を百分率で表したり, 百分率を使った問題を解いたりすることができる。	割合と関連づけて百分率や歩合の意味を理解し, 説明できる。
		B	割合を整数化して表し, 身の回りから百分率が使われているところを見つけようとしている。	百分率を使った問題を考えることができる。	割合を百分率で表したり, 百分率を使った問題を解いたりすることができる。	割合と関連づけて百分率, 歩合の意味を理解している。
	③割合のグラフ	A	身の回りから帯グラフや円グラフに関心を持ち, よんだり, 表したりしようとしている。	帯グラフ, 円グラフを見て, 全体と部分, 部分と部分の割合を考え, 説明することができる。	手際よく帯グラフや円グラフをかき, 割合の特徴をよむことができる。	帯グラフや円グラフを知り, そのよみ方, かき方を十分に理解している。
		B	身の回りから帯グラフや円グラフを見つけ, よもうとしている。	帯グラフ, 円グラフを見て, 全体と部分, 部分と部分の割合を考えることができる。	帯グラフや円グラフをかき, 割合の特徴をよむことができる。	帯グラフや円グラフを知り, よみ方, かき方を理解している。
	④割合を使って	A	基準とする量の何倍になるかを進んで考え, 問題解決しようとしている。	関係図にかいて割合の和や積に着目して何倍になるかを筋道立てて考えることができる。	手際よく関係図をかいて割合の和や積に着目し, 問題を解くことができる。	割合の和や積を使った問題解決の方法を十分に理解している。
		B	関係図を使って基準とする量の何倍になるかを考え, 問題解決しようとしている。	関係図をかいて割合の和や積に着目して何倍になるかを考えることができる。	関係図を見て割合の和や積に着目し, 問題を解くことができる。	割合の和や積を使った問題解決の方法を理解している。
	⑤グラフづくり	A	注意深く棒グラフと円グラフを関係づけてよもうしたり, 割合を調べてグラフに表そうとしたりしている。	棒グラフと円グラフを関連づけ, みらいさんの考えの正否を判断し, 根拠をもって説明することができます。	身の回りの資料や自分で調べたことを, 割合を使ってグラフに表すことができる。	円グラフと帯グラフの特徴を理解し, 使い方を区別できる。
		B	棒グラフと円グラフを関係づけよんだり, 割合を調べてグラフに表そうとしたりしている。	棒グラフと円グラフを関連づけ, みらいさんの考えの正否を判断し, そのわけを説明することができます。	身の回りの資料を, 割合を使ってグラフに表すことができる。	円グラフと帯グラフの特徴を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
13 円と正多角形	①正多角形	A 正多角形に関心を持ち、その性質を自ら進んで調べ、身の回りで正多角形を見つけようとしている。	多角形の作図において円の中心の周りの角 $360^\circ$ を何等分すればよいかを筋道立てて考えることができる。	手際よく円を使って正多角形をかいたり、模様づくりをしたりすることができる。	正多角形の意味と性質を十分理解している。
		B 正多角形に関心を持ち、その性質を調べようとしている。	多角形の作図において円の中心の周りの角 $360^\circ$ を何等分すればよいかを考えることができる。	円を使って正多角形をかいたり、模様づくりをしたりすることができる。	正多角形の意味と性質を理解している。
	②円周と直径	A 円周と直径が依存関係にあることに関心を持ち、見通しをもってその関係を調べようとしている。	直径と円周の関係を逐次近似的に調べたり、帰納的に考えたりすることができる。	必要な部分の長さを使い、円周や直径を求めることができる。	円周率の意味とその求め方の公式を理解し、目的に応じた使い方を理解している。
		B 円周と直径が依存関係にあることに関心を持ち、調べようとしている。	直径と円周の関係を、見通しを持って帰納的に考えることができる。	円の直径の値から円周を求めたり、円周の値から直径を求めたりすることができる。	円周率の意味とその求め方の公式を理解している。
	①角柱と円柱	A 身の回りにある角柱や円柱を観察したり分類したりして、その特徴をとらえようとしている。	角柱や円柱の面、辺、頂点に着目して、分析的に特徴を考え、説明することができる。	手際よく円柱や角柱の面、辺、頂点の数などの特徴を調べることができる。	角柱、円柱の意味を知り、その特徴を具体的に説明できる。
		B 角柱や円柱を観察したり分類したりして、その特徴をとらえようとしている。	角柱や円柱の面、辺、頂点に着目して、分析的に特徴を考えることができる。	円柱や角柱の面、辺、頂点の数などの特徴を調べることができる。	角柱、円柱の意味を知り、その特徴を理解している。
		A 三角柱や円柱などの見取図や展開図に関心を持ち、かこうとしている。	予想してから展開図のかき方をいろいろ考えたり、その面の特徴を分析的に考察したりすることができる。	手際よく三角柱や円柱などの見取図や展開図をかくことができる。	三角柱や円柱とこれらとの見取図や展開図を関連づけて理解している。
		B 三角柱と円柱の見取図や展開図に関心を持ち、かこうとしている。	展開図のかき方や展開図の面の特徴を考えることができる。	三角柱や円柱などの見取図や展開図をかくことができる。	三角柱、円柱の見取図や展開図を理解している。
15 ○や△を使った式	伴って変わる2つの数量を見つけ、進んで○や△を使った式に表し、変化の特徴を調べようとしている。	A 伴って変わる2つの数量を見つけ、進んで○や△を使った式に表し、変化の特徴を調べようとしている。	○や△を使った式に表し、○が変わると△がどのように変わるかを調べ、比例するかどうかを判断し、その根拠を説明することができる。	○や△を使った式に表し、○が変わると△がどのように変わるかを手際よく調べることができる。	○や△を使った式の変化の調べ方と比例の意味を十分理解している。
		B 伴って変わる2つの数量の関係を見つけ、○や△を使った式に表し、変化の特徴を調べようとしている。	○や△を使った式で表し、○が変わると△がどのように変わるかを調べ、比例するかどうかを判断し、説明することができる。	○や△を使った式に表し、○が変わると△がどのように変わるかを調べることができる。	○や△を使った式の変化の調べ方と比例の意味を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
◎ 輪投げ		A 問題場面に関心を持ち、与えられた条件を整理して、問題を解決しようとしている。	自分の力で仮説を立てて、条件に照らし合わせて矛盾がないかどうか、筋道を立てて考えることができる。	条件に照らし合わせて、仮説を手際よく調べていくことができる。	仮説を条件に照らして筋道を立てて考えを進める方法を理解している。
		B 条件を整理して、問題を解決しようとしている。	仮説を立てて、条件に照らし合わせて矛盾がないかどうか、筋道を立てて考えることができる。	条件に照らし合わせて、仮説を調べていくことができる。	仮説を条件に照らして考えを進める方法を理解している。
● よみとる算数(2)		A 資料から必要な情報を読み取り、問題解決をしたり、説明が正しいかどうかを判断したりしようとしている。	根拠となる情報を読み取って問題解決の方法を考え、その解決方法を筋道を立てて説明することができる。	手際よく円グラフや帯グラフから必要な情報を読み、問題解決することができる。	円グラフや帯グラフの情報を十分に理解している。
		B 資料から必要な情報を読み取り、問題を解決しようとしている。	根拠となる情報を読み取って問題解決の方法を考え、説明することができる。	円グラフや帯グラフから必要な情報を読み、問題解決することができる。	円グラフや帯グラフの情報を理解している。
★ 算数のまど	9 面積ステップ	A 半分づくりコースや面積の公式コースに進んで取り組もうとしている。	既習の図形の求積公式を活用して考えることができる。	手際よく面積の半分づくりや指定された面積の色塗りができる。	三角形や平行四辺形の面積の公式を確実に理解している。
		B 半分づくりコースや面積の公式コースに取り組もうとしている。	既習の図形の求積公式を活用して考えることができる。	面積の半分づくりや指定された面積の色塗りができる。	三角形や平行四辺形の面積の公式を理解している。
	9 面積ジャンプ	A 長方形の辺や中心に点Oを取ってできるいろいろな三角形と長方形の面積を比べようとしている。	長方形を対角線で分けると面積の等しい合同な三角形に分けられることから考え、説明することができる。	手際よく長方形に補助線をかいて合同な三角形を作ることができる。	長方形や平行四辺形を対角線で分けると面積の等しい合同な三角形ができるることを理解している。
		B 長方形の辺や中心に点Oを取ってできる三角形と長方形の面積を比べようとしている。	長方形を対角線で分けると面積の等しい合同な三角形に分けられることから考えることができる。	長方形に補助線をかいて合同な三角形を作ることができる。	長方形を対角線で分けると面積の等しい合同な三角形ができるることを理解している。
	12 割合ステップ	A 割合を使って、進んで日常的な問題を解決しようとしている。	割合を求める公式を活用して考え、筋道立てて説明することができる。	手際よく割合を求める公式を活用して処理することができる。	割合の意味と割合を求める公式を確実に理解している。
		B 割合を使って、日常的な問題を解決しようとしている。	割合を求める公式を活用して考えることができる。	割合を求める公式を活用して処理することができる。	割合の意味と割合を求める公式を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
★ 算数のまど	12 割合ジャンプ	A	90%の80%は、まとめて何倍になるかを整数の場合と関連づけて考えようとしている。	整数の場合と同様に関係図にかいて、0.9倍の0.8倍は、まとめて0.9×0.8倍であると考えることができる。	手際よく倍関係を関係図に表し、問題を解決することができる。	$a$ 倍の $b$ 倍は、 $a \times b$ 倍が小数にも当てはまることを十分理解している。
		B	90%の80%は、まとめて何倍になるかを考えようとしている。	関係図を見て、0.9倍の0.8倍は、まとめて0.9×0.8倍であると考えることができる。	関係図を使って、問題を解決することができる。	$a$ 倍の $b$ 倍は、 $a \times b$ 倍が小数にも当てはまることを理解している。
	13 円と正多角形ステップ	A	正多角形の周りの長さと円周との関係に興味を持ち、進んで調べようとしている。	正多角形の周りの長さと円周を関連づけて、角数が増すにつれて円周に近づくことに気づくことができる。	正多角形の周りの長さを手際よく調べて円周と比べることができる。	円周を正多角形の周りの長さと関連づけて理解している。
		B	正六角形や正十二角形の周りの長さと円周を比べようとしている。	正六角形、正十二角形の周りの長さと円周を関連づけ、角数が増すにつれて円周に近づくことに気づくことができる。	六角形、正十二角形の周りの長さを調べて円周と比べることができる。	円周を正六角形、正十二角形の周りの長さと関連づけて理解している。
	13 円と正多角形ジャンプ	A	長方形などの辺から1m離れて1周した長さを、積極的に考えようとしている。	長方形などの図形の角を回る長さが半径1mの円周の長さだけ長くなることに着目して考え、求め方を説明することができる。	手際よく長方形などの辺から1m離れて1周した長さを求めることができる。	円周の長さを求める公式を十分に理解している。
		B	長方形の辺から1m離れて1周した長さを考えようとしている。	長方形の角を回る長さが半径1mの円周の長さだけ長くなることに着目して考えることができる。	長方形の辺から1m離れて1周した長さを求めることができる。	円周の長さを求める公式を理解している。
	14 角柱と円柱ステップ	A	いろいろな立体の展開図や組み立てができる立体から、進んでその構成要素を調べようとしている。	展開図を組み立ててできる立体を分析的に考察し、底面の形や、側面、頂点、辺の数を調べることができる。	手際よくいろいろな立体の構成要素である底面の形、側面、辺、頂点数を調べることができる。	展開図と立体を関連づけて立体の名前や底面の形、側面、頂点、辺の数を理解している。
		B	いろいろな立体の展開図を用いて、立体の構成要素を調べようとしている。	立体の構成要素に着目し、底面の形、側面、頂点、辺の数を考察することができる。	いろいろな立体の構成要素である底面の形、側面、辺、頂点数を調べることができる。	立体の名前や底面の形、側面、頂点、辺の数を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
★ 算数のまど	14 角柱と円柱ジャンプ	A	平行四辺形を丸めてできる円柱の形に関心を持ち、いろいろな平行四辺形で確かめようとしている。	丸める前に、平行四辺形の辺のつながり方を考えて、できる立体の見当をつけることができる。	手際よく平行四辺形を丸めてできる立体をいろいろ調べることができること。	長方形だけでなく、どんな平行四辺形でも、丸めると円柱の側面になることを理解している。
		B	平行四辺形を丸めてできる立体の形を調べようとしている。	平行四辺形の辺のつながり方を考えて、丸めてできる立体の見当をつけることができる。	平行四辺形を丸めてできる立体を調べることができること。	平行四辺形を丸めると円柱の側面になることを理解している。

## 評価の観点と評価規準 6年上

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1 対称な图形	①線対称	A 折ってぴったり重なる形に関心を持ち、進んで調べたり、身の回りから見つけたりしようとしている。	線対称な图形で、折り重ねたときに重なる点や直線について考え、説明することができる。	手際よく線対称な图形の性質を使って、線対称な图形を白紙上にかくことができる。	線対称の意味や線対称な图形の性質を十分理解している。
		B 折ってぴったり重なる形に関心を持ち、調べたり、身の回りから見つけたりしようとしている。	線対称な图形で、折り重ねたときに重なる点や直線について考えるこができる。	線対称な图形の性質を使って、線対称な图形を方眼紙上にかくことができる。	線対称の意味や線対称な图形の性質を理解している。
	②点対称	A 回してぴったり重なる形に関心を持ち、進んで調べたり、身の回りから見つけたりしようとしている。	点対称な图形で、 $180^\circ$ 回したときに重なる点や直線について考え、説明することができる。	手際よく点対称な图形の性質を使って、点対称な图形を白紙上にかくことができる。	点対称の意味や点対称な图形の性質を十分理解している。
		B 回してぴったり重なる形に関心を持ち、調べたり、身の回りから見つけたりしようとしている。	点対称な图形で、 $180^\circ$ 回したときに重なる点や直線について考えるこができる。	点対称な图形の性質を使って、点対称な图形を方眼紙上にかくことができる。	点対称の意味や点対称な图形の性質を理解している。
	③鏡を使って	A 鏡を使って、進んで点対称な图形を作ろうとしている。	線対称な图形の性質を基に、鏡を立てる位置を考えることができる。	鏡を使って、手際よく線対称な形を作ることができる。	鏡を使った線対称の形作りを十分理解している。
		B 鏡を使って、点対称な图形を作ろうとしている。	試行錯誤しながら、線対称な图形の性質を基に、鏡を立てる位置を考えることができる。	鏡を使って、線対称な形を作ることができる。	鏡を使った線対称の形作りを理解している。
	④正多角形と対称な图形	A 正多角形や円が、線対称や点対称であるかどうかを進んで調べようとしている。	正多角形や円について、対称性の観点から考察し、その特徴を説明することができる。	正多角形や円が、線対称や点対称であるかどうかなどを、手際よく調べ、きまりを見つけることができる。	対称性の観点から円や正多角形の特徴を十分理解している。
		B 正多角形や円が、線対称や点対称であるかどうかを調べようとしている。	正多角形や円について、対称性の観点から考察し、その特徴を捉えるこができる。	正多角形や円が、線対称や点対称であるかどうかなどを調べることができる。	対称性の観点から円や正多角形の特徴を理解している。
● みんなで話しあいましょう		A ひもの長さの求め方にについて話し合う活動に関心を持ち、話し合い活動の仕方を改善しようとしている。	算数的な表現を用いた説明の仕方や話し合い活動の仕方の改善点を考えることができる。	手際よく算数の説明の仕方や話し合いの仕方の改善点をつかむことができる。	算数の説明の仕方や話し合い活動を充実させる方法を理解している。
		B ひもの長さの求め方にについて話し合う活動に関心を持ち、話し合い活動の仕方を調べようとしている。	算数的な表現を用いた説明の仕方や話し合い活動の仕方を考えることができる。	算数の説明の仕方や話し合いの仕方のポイントをつかむことができる。	算数の説明の仕方や話し合いの進め方を理解している。
2 分数×分数	①分数をかける計算	A 分数になってもかけ算を用いることに気づき、進んで分数のかけ算の計算の仕方を考えようとしている。	分数の乗法の計算の仕方を、図を使って単位分数のいくつ分になるかを考え、筋道を立てて考えることができる。	分数の乗法の式で表し、手際よく計算することができます。	分数の乗法の意味や計算の仕方を十分に理解している。
		B 分数になってもかけ算を用いることに気づき、かけ算の計算の仕方を考えようとしている。	分数の乗法の計算の仕方を、図を使って単位分数のいくつ分になるかを考えることができる。	分数の乗法の式で表し、正しく計算することができます。	分数の乗法の意味や計算の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
	②分数のかけ算を使って	A 割合を表す分数やいろいろな量を表す分数に関心を持ち, 進んで活用しようとしている。	割合を表す分数やいろいろな量を表す分数を活用して問題の解き方を考え, 説明することができる。	手際よくいろいろな量や割合を表す分数を使つて, 問題を解決することができる。	いろいろな量や割合を表す分数の意味や積の大きさについて十分に理解している。
		B 割合を表す分数やいろいろな量を表す分数に関心を持ち, 活用しようとしている。	割合を表す分数やいろいろな量を表す分数を活用して問題の解き方を考えることができる。	いろいろな量や割合を表す分数を使って, 問題を解決することができる。	いろいろな量や割合を表す分数の意味や積の大きさについて理解している。
3 分数÷分数	①分数でわる計算	A 分数になってもわり算を用いることに気づき, 進んでわり算の計算の仕方を考えようとしている。	分数のわり算の計算を図やわり算の性質を使って考え, 筋道を立てて考え, 説明することができる。	分数のわり算の式で表し, 手際よく計算することができる。	分数の除法の意味や計算の仕方について, 十分理解している。
		B 分数になってもわり算を用いることに気づき, わり算の計算の仕方を考えようとしている。	分数のわり算の計算を図やわり算の性質を使って考え, 筋道を立てて考え, 考えることができる。	分数のわり算の式で表し, 正しく計算することができる。	分数の除法の意味や計算の仕方を理解している。
	②分数のわり算を使って	A 割合や時間などを表す分数を進んで活用しようとしている。	逆数を使って, わり算をかけ算で表すことを考え, 説明することができる。	計算のきまりが分数でも使えることを確かめ, 計算のきまりを使って手際よく計算できる。	分数の計算のきまりや商の大きさを十分理解している。
		B 割合や時間などを表す分数を活用しようとしている。	逆数を使って, わり算をかけ算で表すことを考え, 考えることができる。	計算のきまりが分数でも使えることを確かめ, 計算のきまりを使って計算できる。	分数の計算のきまりや商の大きさを理解している。
4 文字と式	①文字を使った式	A 数量の関係を○や△のかわりに文字を使って簡潔な式に表そうとしている。	数量を表す○や△と同じように捉えて, 数量の関係を文字式で表すことを考え, 説明することができる。	手際よく文字を使って数量の関係を式に表したり, $x$ の値に対応する $y$ の値を求めたりすることができる。	文字の役割を知り, 文字を使った式のよさを理解している。
		B 数量の関係を○や△のかわりに文字を使って式に表そうとしている。	数量を表す○や△と同じように捉えて, 数量の関係を文字式で表すことを考え, 考えることができる。	文字を使って数量の関係を式に表したり, $x$ の値に対応する $y$ の値を求めたりすることができる。	文字の役割を知り, 文字を使って式に表す仕方を理解している。
	②式の読み方	A 自ら進んで文字を使った式から具体的な数量の関係をよもうとしている。	式の意味を具体的な数量と対応して考え, 図を使って筋道を立てて説明することができる。	手際よく式が表す意味を図と結びつけてよむことができる。	式と図を結びつけて確実に数量関係を理解している。
		B 文字を使った式から具体的な数量の関係をよもうとしている。	式の意味を具体的な数量と対応して考え, 図を使って説明することができる。	式が表す意味を図と結びつけてよむことができる。	式と図を結びつけて数量関係を理解している。
5 比とその利用	①比と比の値	A 2つの量の大きさの割合, 2つの数で表す仕方を, 進んで調べようとしている。	比と比の値を関連づけて考え, 説明することができる。	手際よく2つの数量の大きさを比で表したり, 比の値を求めたりすることができる。	比と比の値の意味を十分理解している。
		B 2つの量の大きさの割合, 2つの数で表す仕方を調べようとしている。	比と比の値を関連づけて考えることができる。	2つの数量の大きさを比で表したり, 比の値を求めたりすることができる。	比と比の値の意味を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
5 比と割合	②等しい比	A	等しい比があることに気づき、進んで簡単な整数の比で表そうとしている。	等しい比の意味を比の値を根拠に考えたり、等しい2つの比の性質を見つけたりすることができる。	手際よく等しい比を見つけたり、比を簡単にしたりすることができる。
		B	等しい比があることに気づき、できるだけ簡単な整数の比で表そうとしている。	等しい比の意味や等しい2つの比の性質を考えることができる。	等しい比を見つけたり、比を簡単にしたりすることができる。
	③比を使った問題	A	比を使って身近な問題を解決しようとしている。	比の一方の数量の求め方や全体の決まった比の分け方を、何倍になるかを考えて解き、解き方を説明することができる。	手際よく、比の一方の数量を求めたり、全体を決まった数量に分けたりすることができる。
		B	比を使って問題を解決しようとしている。	比の一方の数量の求め方や全体の決まった比の分け方を、何倍になるかを考えて解くことができる。	比の一方の数量を求めたり、全体を決まった数量に分けたりすることができる。
6 図形の拡大と縮小	①拡大図と縮図	A	拡大した図形や縮小した図形に 관심を持ち、進んで調べようとしている。	拡大図や縮図になっているか、対応する辺の長さの比や角の大きさに着目して考え、説明することができる。	手際よく対応する辺の長さや角の大きさを調べて、拡大図や縮図の性質を調べ、まとめることができる。
		B	拡大した図形や縮小した図形に 관심を持ち、調べようとしている。	拡大図や縮図になっているか、対応する辺の長さの比や角の大きさに着目して考えることができる。	対応する辺の長さや角の大きさを調べて、拡大図や縮図の性質を調べることができる。
	②拡大図と縮図のかき方	A	辺の長さの比や角の大きさに着目して、拡大図や縮図のかき方を進んで考えようとしている。	合同な図形のかき方を活用して拡大図や縮図のかき方を考え、それを説明することができる。	手際よく拡大図や縮図をかき、確かめることができる。
		B	辺の長さの比や角の大きさに着目して、拡大図や縮図のかき方を考えようとしている。	合同な図形のかき方を活用して拡大図や縮図のかき方を考えることができる。	拡大図や縮図をかき、確かめることができる。
	③縮図の利用	A	具体的な場面で縮図が活用できることに気づき、進んで縮図を活用しようとしている。	実際に測定が難しい長さを縮図を利用して求めることを考え、それを説明することができる。	縮図をかいて、実際に測定が難しい長さなどを正確に測ることができる。
		B	具体的な場面で縮図が活用できることに気づき、縮図を活用しようとしている。	実際に測定が難しい長さを縮図を利用して求めることを考えることができる。	縮図を使って、実際に測定が難しい長さなどを測ることができる。
	● どんな計算になるのか	A	どんな計算になるのか、式をかき、そのわけを考えて説明しようとしている。	表した式のわけを、線分図や既習の言葉の式を使って考え、説明することができる。	手際よく式に表すことができる。
		B	どんな計算になるのか、式に表し、そのわけを考えようとしている。	表した式のわけを、線分図や既習の言葉の式を使って考えることができる。	どんな計算になるのか、式に表すことができる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
◎ 場合をあげて調べて	A	順序よく調べ、ちょうどよい場合を進んで見つけようとしている。	表を使って順序よく調べ、ちょうどよい場合を筋道立てて考え、説明することができる。	表を使って順序よく調べ、ちょうどよい場合を手際よく見つけることができる。	順序よく調べ、ちょうどよい場合を見つける思考方法を十分に理解している。
		B	順序よく調べ、ちょうどよい場合を見つけようとしている。	表を使って順序よく調べ、ちょうどよい場合を考えることができる。	表を使って順序よく調べ、ちょうどよい場合を見つけることができる。
● 算数の自由研究	A	不思議なひき算に関心を持ち、いくつかの数で進んで調べようとしている。	不思議なひき算のきまりを、他の桁数でも発展的に考えることができる。	手際よく計算の手順に従って不思議なひき算を調べることができる。	カプレカ数の意味を確實に理解している。
		B	不思議なひき算に関心を持ち、いくつかの数で調べようとしている。	不思議なひき算の性質を、他の3桁の数でも調べることを考えることができる。	計算の手順通り、不思議なひき算を調べることができる。
7 速さ	A	速さについて関心を持ち、進んで速さの比べ方を考えようとしている。	既習の単位量当たりの考え方を基に速さの比べ方を考え、説明することができる。	手際よく速さを求める公式を使って、道のりや時間を求めることができる。	速さの意味や表し方、速さを求める公式を十分に理解している。
		B	速さについて関心を持ち、速さの比べ方を考えようとしている。	単位量当たりの考え方を基に速さの比べ方を考えることができる。	速さを求める公式を使って、道のりや時間を求めることができる。
◎ 変わり方を調べて(1)	A	出会ったり、追いついたりする問題を、表にかいて変わり方のきまりを見つけて解こうとしている。	時間がたつにつれて距離がどのように変わるかを表にかいてきまりを見つけて解き、説明することができる。	2人が、何分後に出会ったり、追いついたりするか手際よく求めることができる。	変わり方のきまりを見つけて解く思考の方法を十分理解している。
		B	出会ったり、追いついたりする問題を、変わり方のきまりを見つけて解こうとしている。	時間がたつにつれて距離がどのように変わるか、表にかいてきまりを見つけて解くことができる。	変わり方のきまりを見つけて解く思考の方法を理解している。
8 比例と反比例	①比例	A	伴って変わる2つの量について、進んで表、式、グラフに表して調べていこうとしている。	比例する2つの量について、変化や対応の見方から特徴を考え、説明することができる。	比例する2つの数量を手際よく表に表したり、式に表したり、グラフに表したりすることができる。
		B	伴って変わる2つの量について、表、式、グラフに表して調べていこうとしている。	比例する2つの量について、変化や対応の見方から特徴を考えることができる。	比例の意味や性質、比例の式、比例のグラフを十分に理解している。
	②比例を使って	A	身の回りの問題を、進んで比例を使って解決しようとしている。	比例する2つの数量に着目し、変化や対応の見方を活用して、問題解決の仕方を考え、説明することができる。	比例を使って、手際よく身の回りの問題を解決することができる。
		B	身の回りの問題を、比例を使って解決しようとしている。	比例する2つの数量に着目し、変化や対応の見方を活用して、問題解決の仕方を考えることができる。	比例の活用の仕方を理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	③反比例	A	自ら比例と同じように、伴って変わる2つの量について、進んで表、式、グラフに表して調べていこうとしている。	反比例する2つの量について、変化や対応の見方から特徴を考え、説明することができる。	反比例する2つの数量を手際よく表に表したり、式に表したり、グラフに表したりすることができる。
		B	伴って変わる2つの量について、表、式、グラフに表して調べていこうとしている。	反比例する2つの量について、変化や対応の見方から特徴を考えることができる。	反比例する2つの数量を表に表したり、式に表したり、グラフに表したりすることができる。
★ 算数のまど	1 対称な图形ステップ	A	基本的な三角形や四角形の対称性に関心を持ち、進んで調べようとしている。	基本的な三角形や四角形を対称性から考察してその特徴を整理し、説明できる。	基本的な三角形や四角形が、線対称や点対称になっているかどうかを手際よく調べることができる。
		B	基本的な三角形や四角形の対称性に関心を持ち調べようとしている。	基本的な三角形や四角形を対称性から考察し、表に整理できる。	基本的な三角形や四角形が、線対称や点対称になっているかどうかを調べることができる。
★ 算数のまど	1 対称な图形ジャンプ	A	回してぴったり重なる形に 관심を持ち、進んで何度も回して重なるかを調べようとしている。	回してぴったり重なる形に着目して調べ、点対称は回転图形の特殊な場合であることに気づく。	何度も回してぴったり重なるかを手際よく調べることができる。
		B	回してぴったり重なる形に 관심を持ち、調べようとしている。	180°以外に回してぴったり重なる形の対称性に着目し、何度も重なるかを考えることができる。	何度も回してぴったり重なるかを調べることができる。
★ 算数のまど	3 分数÷分数ステップ	A	数字カードを使った分数計算ゲームに 관심を持ち、進んでゲームに取り組もうとしている。	分数の乗除の計算の仕方を、既習事項を活用して考え、説明することができる。	分数の乗除計算を手際よくできる。
		B	数字カードを使った分数計算ゲームに 관심を持ち、ゲームに取り組もうとしている。	分数の乗除の計算の仕方を、既習事項を活用して考えることができる。	分数の乗除計算ができる。
★ 算数のまど	3 分数÷分数ジャンプ	A	わってもひいても答えが同じになる分数に 관심を持ち、進んで見つけようとしている。	わってもひいても答えが同じになる分数のきまりを見つけて考えることができる。	手際よくわってもひいても答えが同じになる分数を手際よく作ることができる。
		B	わってもひいても答えが同じになる分数に 관심を持ち見つけようとしている。	試行錯誤的にわってもひいても答えが同じになる分数を考えることができる。	わってもひいても答えが同じになる分数を作ることができる。
★ 算数のまど	5 比とその利用ステップ	A	玉の箱つめコースや長方形作りのコースの問題に進んで取り組もうとしている。	箱つめ問題を部分と全体の比を考えたり、長方形作りの問題を等しい比を活用して考えたりすることができる。	手際よく玉の箱つめコースや長方形作りのコースの問題を解決できる。
		B	玉の箱つめコースや長方形作りのコースの問題に取り組もうとしている。	図を使って箱つめ問題を部分と全体の比を考え、長方形作りの問題を等しい比を活用して考えることができる。	玉の箱つめコースや長方形作りのコースの問題を解決できる。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
★ 算数のまど	5 比とその利用ジャンプ	A	3つの数の比の問題に関心を持ち、進んで全体を3つに分けようとしている。	全体を決まった2つの比に分けた考え方基に、発展的に全体を決まった3つの比に分けることを考えることができる。	3つの数の比を基にして、手際よく全体を3つに分けようとする。	3つの数の比の意味を確実に理解している。
		B	3つの数の比の問題に関心を持ち、全体を3つに分けようとしている。	図を使って、全体を決まった2つの比に分けた考え方基に、発展的に全体を決まった3つの比に分けることを考えることができる。	3つの数の比を基にして、全体を3つに分けようとする。	3つの数の比の意味を理解している。
	6 図形の拡大と縮小ステップ	A	くもの巣になるような形をきっかけにして、図形の中の1点を中心にして縮図や拡大図をかこうとしている。	図形の内部の1点から同じ倍率で直線を伸ばして縮図や拡大図をかくことを考え、説明することができる。	図形の内部の1点から同じ倍率で直線を伸ばして指定された縮図や拡大図を手際よくかくことができる。	図形の内部の1点を中心にして縮図や拡大図のかき方を理解している。
		B	図形の中の1点を中心にして縮図や拡大図をかこうとしている。	中心から同じ倍率で直線を伸ばして縮図や拡大図をかくことを考えることができる。	中心から同じ倍率で直線を伸ばして指定された縮図や拡大図をかくことができる。	六角形の中心を基にした縮図や拡大図のかき方を理解している。
	6 図形の拡大と縮小ジャンプ	A	身の回りの用紙の比に関心をもち、進んで何倍になるかを調べようとしている。	既習の比を使って、いろいろなサイズの紙の大きさの倍率を調べることができる。	A判用紙やB判用紙の紙の倍率を手際よく調べることができる。	紙の大きさであるA判やB判の意味を十分理解している。
		B	身の回りの用紙の比に関心をもち、何倍になるかを調べようとしている。	既習の比を使って、B4の紙は、B5の用紙の何倍になるかを考えることができる。	A判用紙やB判用紙の紙の倍率を調べることができる。	紙の大きさであるA判やB判の意味を理解している。
	7 速さステップ	A	日本旅行の問題を進んで考えようとしている。	出発地と目的地を決め、速さを求める公式を使って、道のりや時間の求め方を考え、説明することができる。	日本旅行にまつわる問題を手際よく速さを求める公式を使って、解決することができる。	速さを求める公式の活用方法を十分理解している。
		B	日本旅行の問題を考えようとしている。	出発地と目的地を決め、速さを求める公式を使って、道のりや時間の求め方を考えることができる。	日本旅行にまつわる問題を、速さを求める公式を使って解決することができる。	速さを求める公式を理解している。
	7 速さジャンプ	A	地球から月までの時間に関心を持ち、月旅行の問題を進んで調べようとしている。	地球から月までの時間を、時間を求める公式を使って考え、説明することができる。	地球から月までの時間を、いろいろな方法で手際よく調べることができる。	時間を求める公式や秒速と時速の関係を十分理解している。
		B	地球から月までの時間に関心を持ち、月旅行の問題を調べようとしている。	地球から月までの時間を、時間を求める公式を使って考えることができる。	地球から月までの時間を、いろいろな方法で調べることができる。	時間を求める公式や秒速と時速の関係を理解している。
	8 比例と反比例ステップ	A	乗り物の走った時間と道のりの関係を進んで調べようとしている。	速さとグラフの傾きの関係を考え、説明することができる。	手際よく乗り物の走った時間と道のりの関係を表やグラフに表すことができる。	時間・道のりは比例関係にあることを十分に理解している。
		B	乗り物の走った時間と道のりの関係を調べようとしている。	速さとグラフの傾きの関係を考えることができる。	乗り物の走った時間と道のりの関係を表やグラフに表すことができる。	時間・道のりは比例関係にあることを理解している。

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	8 比例と反比例 ジャンプ	A	時間と道のりの関係を表すグラフに関心を持ち, グラフを進んで読もうとしている。	目的に応じてグラフを読み, グラフの傾きや交点に着目して問題解決の仕方を考え, 説明することができる。	目的に応じて手際よくグラフを読み, 問題を解決することができる。
		B	時間と道のりの関係を表すグラフに関心を持ち, グラフを読もうとしている。	目的に応じてグラフを読み, グラフの傾きや交点に着目して問題の解決の仕方を考えることができる。	目的に応じたグラフの読みを理解している。

## 評価の観点と評価規準 6年下

単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
9 円の面積	A 円の面積を見当づけ、既習の図形に直して面積を求め、円の面積の公式を作ろうとしている。	円の面積を見当づけ、既習の図形に直して面積を求め、円の面積の公式を作ろうとしている。	逐次近似的に考えて円の面積を見当づけ、既習の図形に帰着させて面積の求め方を考え、説明することができる。	面積の公式を使って手際よくいろいろな円の面積を求めることができる。	円の面積の公式を確實に理解している。
		B 円の面積を見当づけ、既習の図形に直して面積を求めようとしている。	逐次近似的に考えて円の面積を見当づけ、既習の図形に帰着させて面積の求め方を考えることができる。	円の面積の公式を使って面積を求めることができる。	円の面積の公式を理解している。
10 小数や分数の計算のまとめ	A 自ら今まで学んだ小数や分数の計算を振り返ってまとめようとしている。	自ら今まで学んだ小数や分数の計算を振り返ってまとめようとしている。	小数や分数の計算の仕方を、整数の計算と関連づけて筋道立てて説明することができる。	小数や分数の計算の仕方を手際よくまとめることができる。	小数や分数の計算の仕方を整数の場合と関連づけて統合的に理解している。
		B 今まで学んだ小数や分数の計算を振り返ってまとめようとしている。	小数や分数の計算の仕方を、整数の計算と関連づけて説明することができる。	小数や分数の計算の仕方をまとめることができる。	小数や分数の計算の仕方を整数と関連づけて理解している。
11 立体の体積	A 角柱や円柱の体積を進んで求めようとしている。	角柱や円柱の体積を進んで求めようとしている。	四角柱と同じように、底面積×高さを活用して、三角柱や円柱の体積の求め方を演繹的に考えることができる。	角柱や円柱の体積を手際よく求めることができる。	角柱や円柱の体積の求め方を確実に理解している。
		B 角柱や円柱の体積を求めようとしている。	四角柱と同じように、底面積×高さを活用して、三角柱や円柱の体積の求め方を考えることができる。	角柱や円柱の体積を求めることができる。	角柱や円柱の体積の求め方を理解している。
12 およその形と大きさ	A 身の回りのおよその形を考えて、進んでおよその面積や体積を求めようとしている。	身の回りのおよその形を考えて、進んでおよその面積や体積を求めようとしている。	既習の面積や体積の公式を使えるおよその形と見て、面積や体積の求め方を考え、説明できる。	身の回りのおよその形を考えて、その面積や体積を手際よく求めることができる。	面積や体積の概測の仕方を十分理解している。
		B 身の回りのおよその形を考えて、およその面積や体積を求めようとしている。	既習の面積や体積の公式を使えるおよその形と見て、面積や体積の求め方を考えることができる。	身の回りのおよその形を考えて、その面積や体積を求めることができる。	面積や体積の概測の仕方を理解している。
◎ 変わり方を調べて(2)	A 見当をつけて変化の様子を表に表して、きまりを見つけ、問題解決しようとしている。	見当をつけて変化の様子を表に表して、きまりを見つけ、問題解決しようとしている。	見当をつけて表に表し、変化のきまりを見つけて考えることができる。	適当なところから2つの量を変化させ、差に着目して問題を解決することができる。	表にかいてきまりを見つけて問題を解決する方法を十分に理解している。
		B 変化の様子を表に表して、きまりを見つけて問題解決しようとしている。	表に表し、変化のきまりを見つけて考えることができる。	2つの量を変化させ、その和や差に着目して問題を解決することができる。	表にかいてきまりを見つけて問題を解決する方法を理解している。

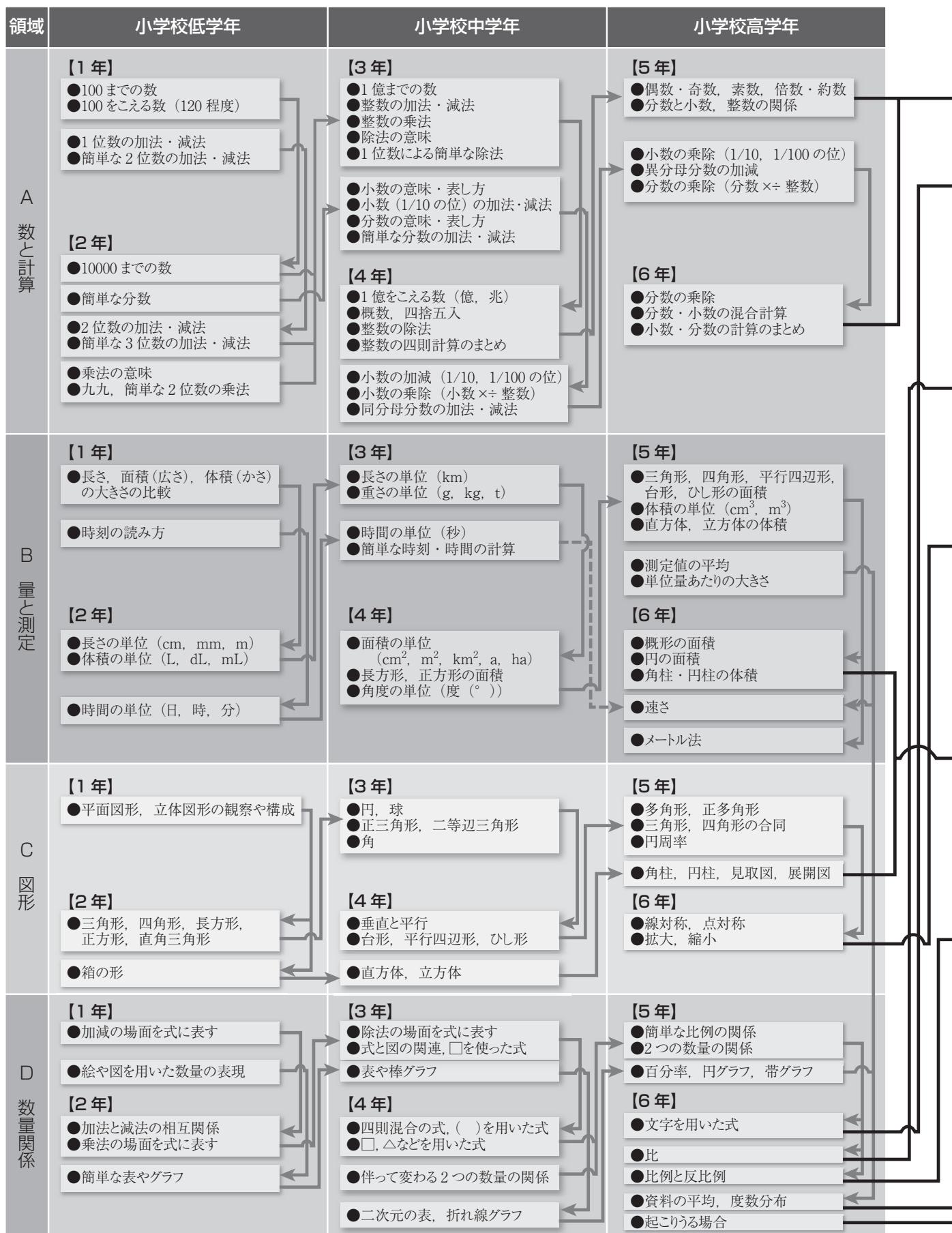
単元	小単元	観点別学習状況の評価規準				
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	
13 場合を順序よく整理して	①場合の数の調べ方	A	いろいろな場合を調べるのに、図や表を工夫して、順序よく整理して調べようとしている。	記号化し、観点を決めて表や図にかいて順序よく整理して、落ちや重なりがないように工夫して考えることができる。	組み合わせや並べ方を手際よく図や表にかいて的確に調べることができる。	組み合わせや場合の数の調べる方法を十分理解している。
		B	いろいろな場合を調べるのに、図や表を使って、順序よく整理して調べようとしている。	記号化し、観点を決めて表や図にかいて順序よく考えることができる。	組み合わせや並べ方を図や表にかいて順序よく調べることができる。	組み合わせや場合の数の調べる方法を理解している。
	②いろいろな場合を考えて	A	起こり得る場合を順序よく分類・整理し、目的に合うものを進んで調べようとしている。	図にかいて順序よく分類・整理し、目的に照らして考え、考え方を説明することができる。	手際よく目的に合った行き方を選んだり、仲間分けしたりすることができる。	全部調べてあてはまる場合を調べるときの図の活用の仕方を確実に理解している。
		B	起こり得る場合を順序よく分類・整理し、目的に合うものを調べようとしている。	図にかいて順序よく分類整・理整し、目的に照らして考えることができる。	目的に合った行き方を選んだり、仲間分けしたりすることができる。	全部調べてあてはまる場合を調べるときの図の活用の仕方を理解している。
● 見積もりを使って		A	見積もりを生かして、進んで身の回りの生活の問題を大局的に解決しようとしている。	目的に応じて、適切に切り上げ、切り捨て、1桁の概数等の見積もり方法を選択・判断し、説明できる。	適切に目的に応じた見積もりを活用して大局的に処理することができる。	目的に応じた見積もりの使い方を十分理解している。
		B	見積もりを生かして、身の回りの生活の問題を大局的に解決しようとしている。	目的に応じて、切り上げ、切り捨て、1桁の概数等の見積もり方法を選択・判断することができる。	目的に応じた見積もりを活用して大局的に処理することができる。	目的に応じた見積もりの使い方を理解している。
14 資料の調べ方	①資料の整理	A	ちらばりの様子がわかる資料の整理の仕方に関心を持ち、進んで表やグラフに表そうとしている。	数直線に表した記録からちらばりの様子がわかる区間の取り方を考え、説明することができる。	ちらばりの様子のわかる表や柱状グラフに手際よく表すことができる。	表や柱状グラフを使った資料の整理の仕方を十分理解している。
		B	ちらばりの様子がわかる資料の整理の仕方に関心を持ち、表や柱状グラフを生かそうとしている。	数直線に表した記録からちらばりの様子がわかる区間の取り方を考え、判断することができる。	ちらばりの様子のわかる表や柱状グラフに表すことができる。	表や柱状グラフを使った資料の整理の仕方を理解している。
	②くふうされたグラフ	A	男女別、年齢別人口の割合に関心を持ち、進んで柱状グラフを読みとろうとしている。	グラフを見て、特徴的なちらばりの様子を見いだし、説明することができる。	男女別、年齢別人口の割合を表した柱状グラフからちらばりの様子を適切に読みとることができる。	工夫された柱状グラフを確実に理解している。
		B	男女別、年齢別人口の割合に関心をもち、柱状グラフを読みとろうとしている。	グラフを見て、特徴的なちらばりの様子を見つけ、説明することができる。	男女別、年齢別人口の割合を表した柱状グラフからちらばりの様子を読みとることができる。	工夫された柱状グラフを理解している。
● よみとる算数(1)		A	日本の米の生産量や消費量にまつわる資料に関心を持ち、問題を解いたり、問題作ったりしようとしている。	資料から読みとったことが正しいかどうかを判断し、その根拠を説明することができる。	資料を確実に読んで、問題を解いたり、問題作ったりをすることができる。	表やグラフを確実に理解し、読むことができる。
		B	日本の米の生産量や消費量にまつわる資料見て、問題を解こうとしている。	資料からよみとったことが正しいかどうかを判断し、説明することができる。	資料を読んで、問題を解くことができる。	表やグラフを理解し、読むことができる。

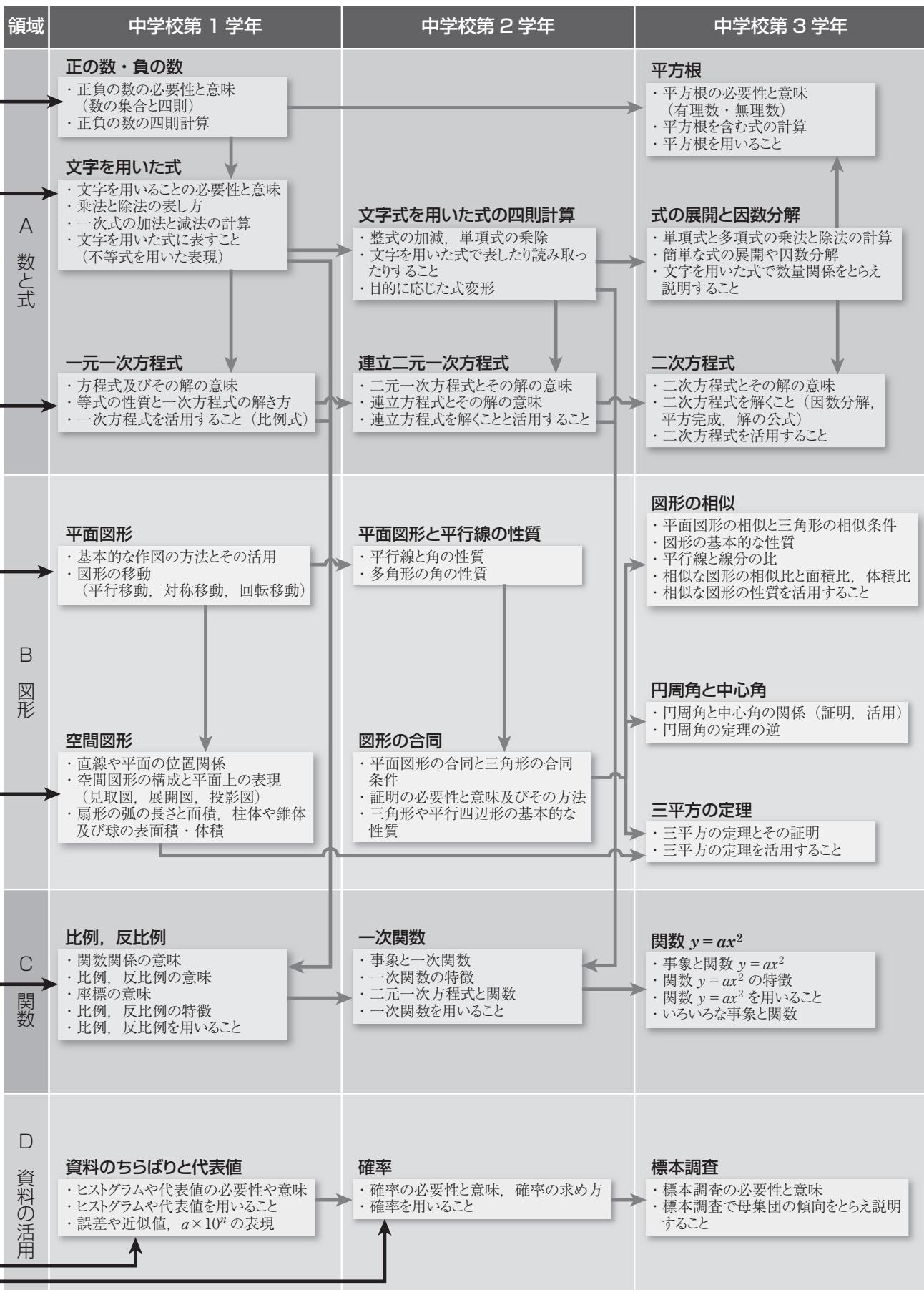
単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
15 量の単位	A	いろいろな量の単位に関心を持ち、進んでメートル法の単位の仕組みを調べてまとめようとしている。	量の単位に共通するミリ、キロの意味を考えたり、面積や体積の単位は長さの単位を基にしていることをまとめたりすることができる。	身の回りで使われている単位を見つけ、それらがどんな関係にあるのかを手際よく調べることができる。	メートル法の単位の仕組みを確実に理解している。
		B	いろいろな量の単位に関心を持ち、メートル法の単位の仕組みを調べようとしている。	量の単位に共通するミリ、キロの意味を考え、説明することができる。	身の回りで使われている単位を見つけ、それらがどんな関係にあるのかを調べることができる。
◎ 割合を使つて	A	全体を1と見て、割合を用いて進んで問題を解決しようとしている。	全体を1として部分の割合を考えて問題解決し、説明できる。	全体を1として、割合の和や差や積を考えて解く問題を、手際よく解決することができる。	全体を1として考えるこの意味を十分に理解している。
		B	全体を1と見て、割合を用いて問題を解決しようとしている。	全体を1として部分の割合を考えて問題解決することができる。	全体を1として、割合の和や差や積を考えて解く問題を解決することができる。
● よみとる 算数(2)	A	しおりから必要な情報を読みとり、進んで問題を解決しようとしている。	必要な数量の情報を読みとり、それを根拠にして考え、判断し、説明することができる。	資料から必要な情報を手際よく収集し、それを活用して適切に問題を解くことができる。	必要な情報を確実に理解している。
		B	しおりから必要な情報を読みとり、問題を解決しようとしている。	必要な情報を読みとり、それを根拠にして考えたり、正しいかどうかを判断したりすることができる。	資料から必要な情報を手際よく収集し、それを活用して問題を解くことができる。
★ 算数のまど	A	ピザの大きさ比べに関心を持ち、進んで調べようとしている。	既習の円の求積公式を活用して考え、どの場合でも面積が同じになる理由を説明できる。	正方形と円の関係や円の面積を求める公式を使って、手際よく面積を比べることができる。	円の面積の公式を十分に理解している。
		B	ピザの大きさ比べに関心を持ち、調べようとしている。	既習の円の求積公式を活用して、どの場合でも面積が同じになることを考えることができる。	円の面積を求める公式を使って、面積を比べることができる。
9 円の面積 ジャンプ	A	多角形と円の面積に関心を持ち、進んでその面積を求めようとしている。	多角形の内角の和は、円の中心角 $360^\circ$ のいくつ分になるかを考えて面積を求め、説明できる。	手際よく面積を求めることができる。	多角形の内角の和と円の面積の関係を十分理解している。
		B	多角形と円の面積に関心を持ち、その面積を求めようとしている。	多角形の内角の和は、円の中心角 $360^\circ$ のいくつ分になるかを考えることができる。	図形を切り取って並べるなどして、面積を求めることができる。
11 立体の体積 ステップ	A	いろいろな立体の体積の求め方に関心を持ち、進んでその体積を求めようとしている。	いろいろな立体の体積の求め方を工夫して考え、説明することができる。	いろいろな立体の体積を手際よく求めることができる。	立体の体積の公式の使い方を十分理解している。
		B	いろいろな立体の体積の求め方に関心を持ち、その体積を求めようとしている。	いろいろな立体の体積の求め方を工夫して考えることができる。	いろいろな立体の体積を求めることができる。

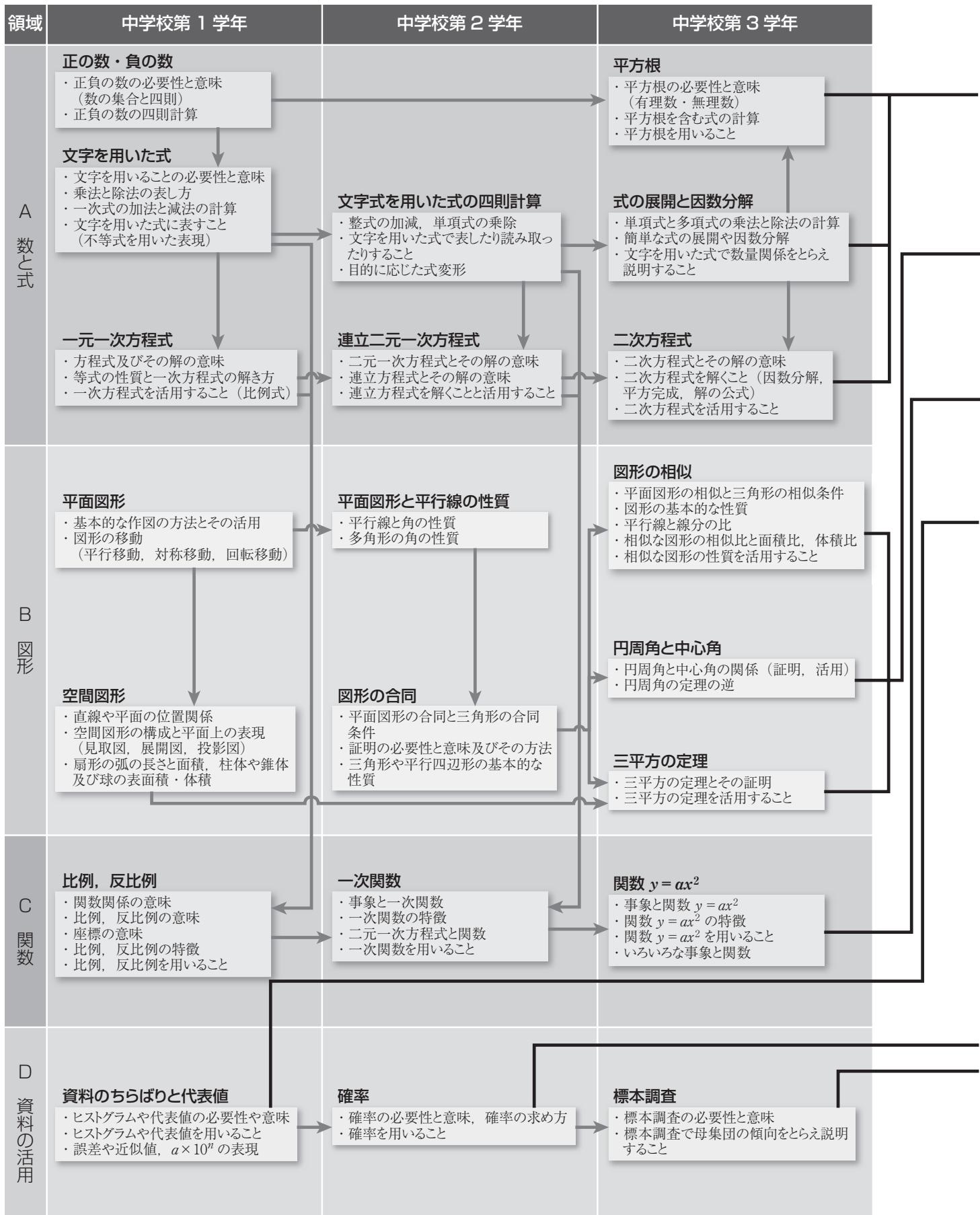
単元	小単元	観点別学習状況の評価規準			
		関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
★ 算数のまど	11 立体の体積 ジャンプ	A 四角すいの体積を、砂や水を使って進んで求めようとしている。	四角すいの体積を見当づけることができる。	四角すいの体積を、砂や水を使って手際よく測定することができる。	四角すいの体積は、同じ底面と高さの四角柱の体積の1/3であることを実感的に理解している。
		B 四角すいの体積を、砂や水を使って求めようとしている。	具体物を使って、四角すいの体積を見当づけることができる。	四角すいの体積を、砂や水を使って測定することができる。	四角すいの体積は、同じ底面と高さの四角柱の体積の1/3であることを理解している。
14 資料の調べ方 ステップ	A 都道府県別の人口のちらばりに関心を持ち、進んで表やグラフに表そうとしている。	都道府県別の人口のちらばりを的確に表す区間の取り方を工夫して考えることができる。	都道府県別の人口のちらばりを、手際よく度数分布表や柱状グラフに表すことができる。	ちらばりを表す表やグラフを十分理解している。	
		B 都道府県別の人口のちらばりに関心を持ち、表やグラフに表そうとしている。	都道府県別の人口のちらばりを表す区間の取り方を考えることができる。	都道府県別の人口のちらばりを、表や柱状グラフに表すことができる。	ちらばりを表す表やグラフを理解している。
14 資料の調べ方 ジャンプ	A 睡眠についての3つ柱状グラフを積極的に関連づけて読みとろうとしている。	睡眠についての3つ柱状グラフを関連づけて推測し、説明することができる。	睡眠についての3つの柱状グラフを適切に関連づけて読みとることができ。	睡眠についての3つの柱状グラフを十分理解している。	
		B 睡眠についての3つの柱状グラフを関連づけて読みとろうとしている。	睡眠についての3つの柱状グラフを関連づけて推測することができる。	睡眠についての3つの柱状グラフを関連づけて読みとることができる。	柱状グラフを理解している。
15 量の単位 ステップ	A 長さ、面積、体積、水の重さの単位の関係を進んでまとめようとしている。	単位と単位の相互の関係を考えて、判断することができる。	長さ、面積、体積、水の重さの単位の関係を的確にまとめることができる。	長さ、面積、体積、水の重さの単位の関係を十分理解している。	
		B 長さ、面積、体積、水の重さの単位の関係をまとめようとしている。	単位と単位の相互の関係を考えることができる。	長さ、面積、体積、水の重さの単位の関係をまとめることができる。	長さ、面積、体積、水の重さの単位の関係を理解している。
15 量の単位 ジャンプ	A 非常に大きな量の単位や非常に小さな量の単位に関心を持ち、生活中での使われ方を調べようとしている。	単位の大きさを、既習の基本単位をもとに10進数の構造によって考えることができる。	大きな単位、小さな単位を生活の中で見つけ、学んだ単位と関係づけて相対的にとらえることができる。	大きな単位、小さな単位も、学んできた単位と同様に10進数になっていくことに気づくことができる。	
		B 非常に大きな量の単位や非常に小さな量の単位の使われ方を生活中で調べようとしている。	単位の大きさを、既習の基本単位をもとに10進数の構造によって考えることができる。	非常に大きな量の単位や非常に小さな量の単位を、学んだ単位と関係づけて相対的にとらえることができる。	大きな単位、小さな単位も、10進数になっていることを理解している。

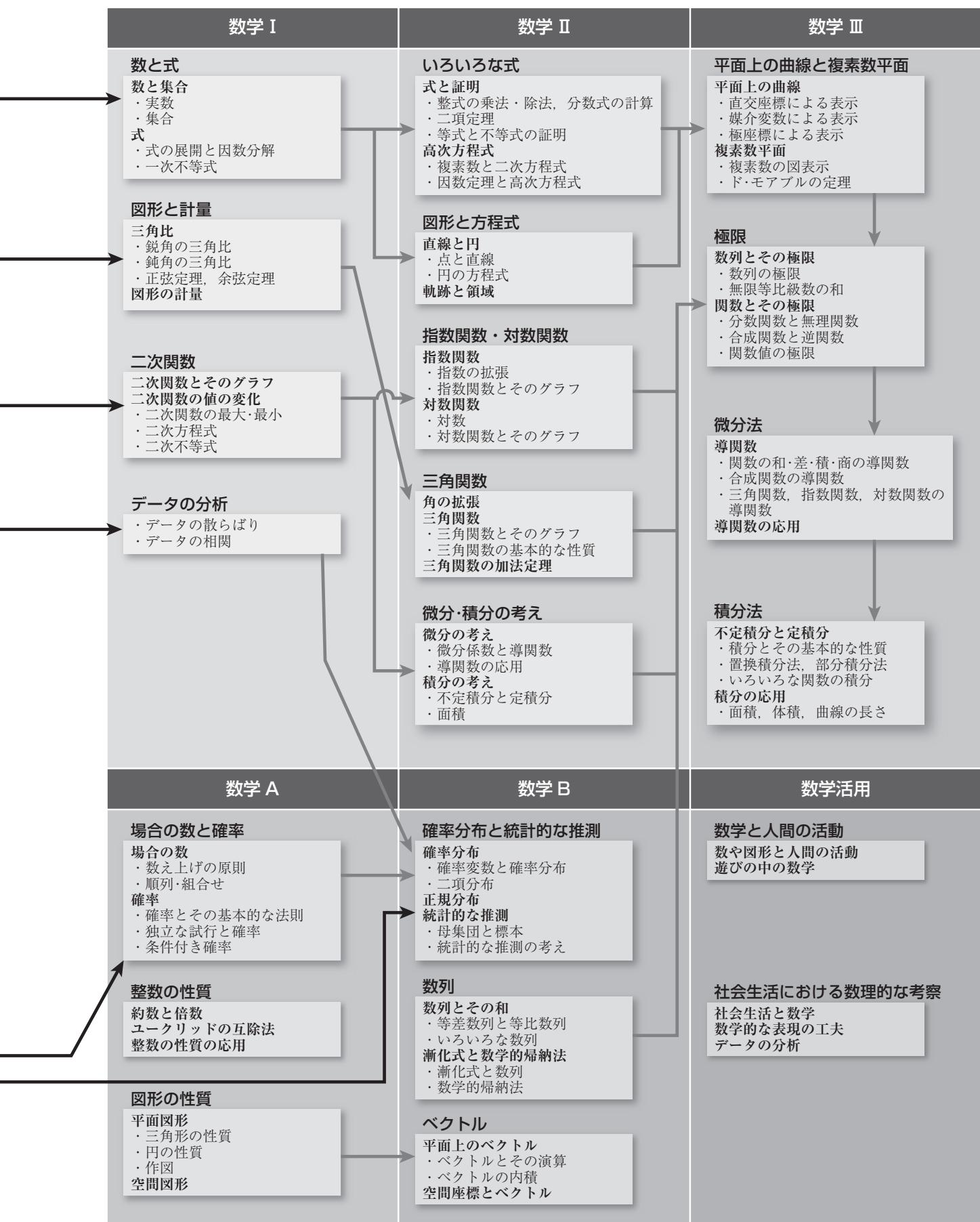


## MEMO











理数教育の未来へ

## 啓林館

本 社 〒543-0052 大阪市天王寺区大道4丁目3-25 Tel.06-6779-1531  
札幌支社 〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条2丁目6-1 Tel.011-842-8595  
東京支社 〒113-0023 東京都文京区向丘2丁目3-10 Tel.03-3814-2151  
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1丁目4-34 双栄ビル2F Tel.052-935-2585  
広島支社 〒732-0052 広島市東区光町1丁目7-11 広島CDビル5F Tel.082-261-7246  
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院1丁目5-6 ハイヒルズビル5F Tel.092-725-6677